

障害福祉に関するアンケート調査

報告書

稲 沢 市

令和5年2月

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方.....	2
II 調査の結果（障害者）	3
1 あなた（宛名の方）の年齢・性別・家族などについて	3
1-1 調査の回答者	3
1-2 対象者の年齢	4
1-3 対象者の性別	5
1-4 居住地区	5
1-5 主な介助者	6
1-6 主な介助者の状況.....	8
1-7 主な介助者の健康状態	9
1-8 介助する上での悩みや問題	10
2 あなたの障害の状況について.....	12
2-1 障害者手帳の有無.....	12
2-5 難病の認定	14
2-6 発達障害の診断.....	14
2-7 高次脳機能障害の診断	15
2-8 受けている医療的ケア	15
3 住まいや暮らしについて	16
3-1 稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさ.....	16
3-2 現在の生活の場.....	17
3-3 将来の生活の場の希望	18
3-4 暮らしたいと思う理由	19
3-5 将来の生活の場の希望	21
4 日中活動や就労について	23
4-1 主な収入源	23
4-2 1年間の収入	25
4-3 外出頻度	27
4-4 外出方法	29
4-5 外出する際の主な同伴者	30
4-6 外出する時に困ること	31
4-7 日中の過ごし方.....	33
4-8 学校生活などにおける課題	35
4-9 今後の進路	37

4-10	勤務形態	40
4-11	一般就労の意向	41
4-12	障害者の就労支援に必要なこと	42
4-13	情報収集の方法	44
4-14	情報を得られない理由	45
4-15	余暇活動の有無と今後の希望	46
4-16	余暇活動ができない理由	47
5	障害福祉サービスなどの利用について	48
5-1	障害福祉サービスなどの利用状況	48
5-2	障害福祉サービスなどを利用していない理由	49
5-3	障害支援区分認定の状況	51
5-4	サービスの利用で困っていること	52
5-5	サービスの利用状況、利用意向	54
5-6	利用したいが利用できていない理由	58
6	相談支援について	59
6-1	悩みや困ったことの相談相手	59
6-2	障害や福祉のサービスなどに関する情報源	61
7	権利擁護について	63
7-1	障害がある人に対する社会の理解	63
7-2	差別や嫌な思いをした場所や場面	65
7-3	障害者差別解消法の認知度	66
7-4	合理的配慮の認知度	68
7-5	障害のある人に対する差別や偏見の改善	70
7-6	障害者虐待防止法の認知度	72
7-7	虐待を受けたと思われる場合の通報義務	74
7-8	成年後見制度の認知度	76
7-9	成年後見センターの認知度	78
7-10	共生社会の認知度と共生社会のあり方	80
8	災害時の避難などについて	82
8-1	災害時の一人での避難	82
8-2	家族が不在の場合に助けてくれる人	83
8-3	災害時に困ること	84
8-4	災害時や緊急時に障害のある人に必要な支援	86
9	障害福祉全般について	88
9-1	障害者福祉施策の満足度と今後の重要度	88
9-2	市民の理解を深めるために必要だと思うこと	90
9-3	障害のある人が地域社会に積極的に参加するために大切なこと	92
9-4	地域生活支援拠点事業の取り組みで必要なこと	94
9-5	児童発達支援センターの認知度	96
9-6	児童発達センターの取り組みで必要だと思うこと	98

9-7	共生型サービスの利用意向	100
Ⅲ	調査の結果（一般）	102
1	あなた（宛名の方）のことに	102
1-1	年齢	102
1-2	性別	102
1-3	親族に障害のある人の有無	103
1-4	居住地区	103
1-5	職業	105
1-6	周囲で障害のある人と関わる機会	106
2	障害のある人に対する意識について	107
2-1	障害のある人や障害者福祉への関心度	107
2-2	障害のある人に対する支援	108
2-3	障害のある人に対する社会の理解	110
2-4	障害のある人が社会から理解されていないと感じる理由	111
2-5	障害のある人への理解を深めるために必要なこと	112
2-6	障害のある人が地域社会に参加するために大切なこと	113
2-7	障害のある人に関わるボランティア活動への参加状況	115
2-8	障害のある人に関わるボランティア活動に参加しない理由	116
3	就労について	117
3-1	障害のある人と働くこと	117
3-2	障害のある人と働くことに不安を感じる理由	118
3-3	障害のある人の就労促進のために必要な支援	119
4	権利擁護について	120
4-1	共生社会の認知度と共生社会のあり方	120
4-2	障害者差別解消法の認知度	121
4-3	合理的配慮の認知度	122
4-4	障害のある人に対する差別や偏見の改善	123
4-5	障害者虐待防止法の認知度	124
4-6	虐待を受けたと思われる場合の通報義務	125
4-7	成年後見制度の認知度	126
4-8	成年後見センターの認知度	127
5	広報・啓発について	128
5-1	ヘルプマークの認知度	128
5-2	広報などで障害に関する情報の発信について思うこと	129
5-3	稲沢市手話言語条例の認知度	130
6	地域生活について	131
6-1	稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさ	131
6-2	災害時に障害のある人への支援について	132
6-3	災害時に障害のある人にできる支援	133
6-4	災害時に障害のある人に支援できない理由	134

6-5	障害福祉に関する相談先の認知度.....	135
6-6	障害福祉の相談先.....	136
6-7	障害のある人に対して特に充実してほしい施策.....	137
IV	調査の結果（事業所）.....	138
1-1	従業員と利用者の受け入れ状況.....	138
1-2	今後のサービス利用希望者数の見込み.....	138
1-3	今後の事業展開.....	139
1-4	拡大または縮小する予定の事業について.....	139
1-5	共生型サービスの認知度と参入意向.....	140
1-6	共生型サービスへの参入意向がない理由.....	140
1-7	経営課題.....	141
1-8	直近1年間であった従業員の離職理由.....	142
1-9	非常災害対策の実施状況.....	142
1-10	虐待防止に関する取り組み.....	143
1-11	身体拘束適正化に関する取り組み.....	145
1-12	障害のある人に対する社会の理解.....	147
1-13	障害のある人が社会から理解されていないと感じること.....	147
1-14	障害のある人に対する社会の理解を深めるために必要なこと.....	148
1-15	稲沢市地域生活支援拠点事業の認知度.....	149
1-16	稲沢市地域生活支援拠点事業所の登録状況.....	150
1-17	稲沢市地域生活支援拠点事業所に登録していない理由.....	150
1-18	緊急時の利用希望の件数と断った件数.....	151
1-19	緊急時の利用を断った理由.....	151
1-20	緊急時の対応における課題.....	152
1-21	体験利用の希望件数と断った件数.....	152
1-22	体験利用を断った理由.....	153
1-23	地域移行の体験利用についての相談.....	153
1-24	体験利用の対応における課題.....	154
1-25	従業員に対する研修内容.....	154
1-26	他の事業所や一般市民の参加が可能な研修の開催状況.....	155
1-27	他の事業所や一般市民が参加した研修の内容.....	156
1-28	専門的人材の確保・養成における課題.....	156
1-29	研修の受講や資格取得を評価する仕組み.....	157
1-30	稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会への出席状況.....	157
1-31	稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会の課題.....	158
1-32	稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会での取り組み.....	158
1-33	障害福祉の向上のために取り組んでほしいこと.....	159

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年度を初年度とする第4期稲沢市障害者計画・第7期稲沢市障害福祉計画・第3期稲沢市障害児福祉計画を策定するにあたって、障害者手帳所持者及び障害福祉サービス利用者、18歳以上の一般市民、サービス事業者を対象に障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握することを目的に実施しました。

2 調査設計

調査地域：稲沢市全域

調査対象：①障害のある人の調査

身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び障害福祉サービス・障害児通所支援を利用されている方

②一般市民調査

18歳以上の市民

③サービス事業所

標本サイズ：①障害者 1,500人 ②一般 1,500人 ③サービス事業所 57件

抽出方法：無作為抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収及びWEB回収

調査時期：障害者・一般 令和4年9月1日～9月26日

サービス事業所 令和4年10月11日～10月28日

3 回収結果

	配布数	回収数		有効	無効
		郵送回収	WEB回収		
①障害者	1,500 100.0%	594 39.6%	138 9.2%	732 48.8%	1 0.1%
②一般	1,500 100.0%	518 34.5%	170 11.3%	688 45.9%	0 0.0%
③サービス 事業所	57 100.0%	42 73.7%	- -	42 73.7%	0 0.0%

4 報告書の見方

- (1)比率は〇パーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2)回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3)基数となるべき実数は、件数またはnとして掲載しました。比率は、この件数を100%として算出しています。
- (4)複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選び〇印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は100%を超える場合もあります。
- (5)本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- (6)身体障害者手帳所持者は「身体障害」、療育手帳所持者は「知的障害」、精神障害者保健福祉手帳所持者は「精神障害」としています。また、障害者手帳を2つ以上所持している場合は、「重複障害」としています。
- (7)基数(件数・n)が30以下のものについては、少数意見でも比率が拡大され有意差が生じやすいため、分析結果では基本的にふれないものとししました。

II 調査の結果（障害者）

1 あなた（宛名の方）の年齢・性別・家族などについて

1-1 調査の回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。（〇は1つだけ）

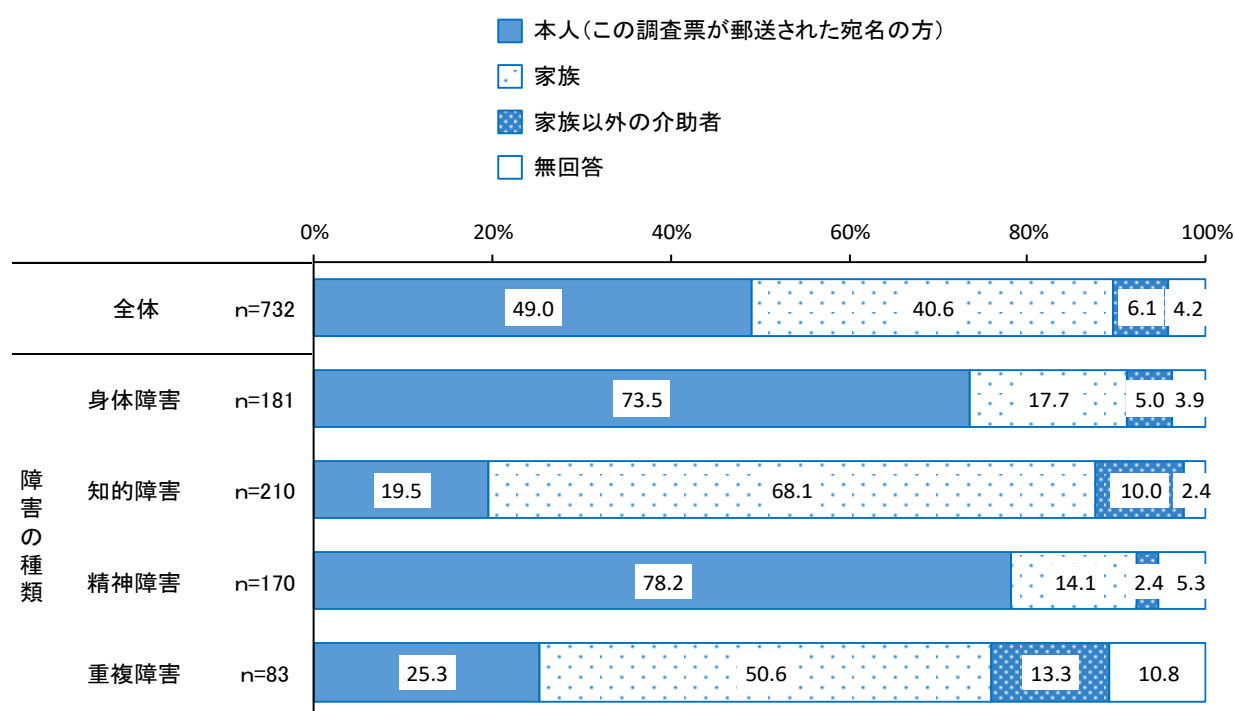
調査の回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」が49.0%、「家族」が40.6%となっています。

身体障害者手帳（以下、身体障害）では「本人」が73.5%で最も高くなっています。

療育手帳（以下、知的障害）では「家族」が68.1%で最も高くなっています。

精神障害者保健福祉手帳（以下、精神障害）では「本人」が78.2%で最も高くなっています。

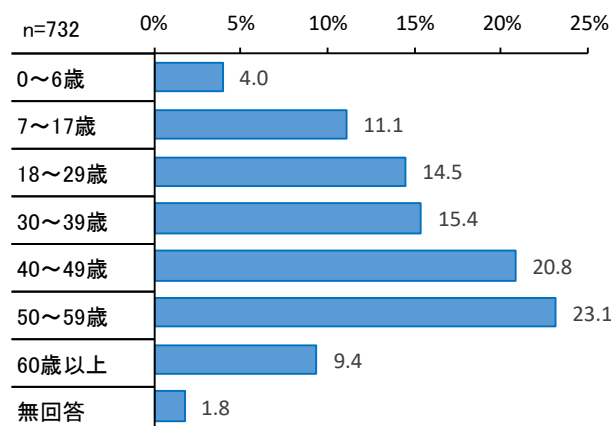
障害者手帳を2つ以上所持している重複障害（以下、重複障害）では「家族」が50.6%で最も高くなっています。



1-2 対象者の年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和4年4月1日現在)

対象者の年齢は、「50～59歳」(23.1%)、「40～49歳」(20.8%)で高くなっています。



身体障害では、「50～59歳」が35.4%で最も高く、次いで「60歳以上」が22.7%となっています。これらをあわせると50歳以上が58.1%を占めています。

知的障害では、「18～29歳」が23.3%で最も高く、次いで「40～49歳」が21.0%となっています。

精神障害では、「50～59歳」が30.6%で最も高く、次いで「40～49歳」が26.5%となっています。

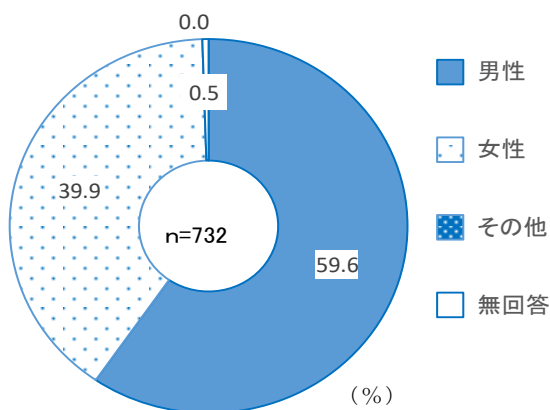
重複障害では、「40～49歳」「50～59歳」がそれぞれ27.7%で最も高く、次いで「18～29歳」が20.5%となっています。

	全 体	0 ～ 6 歳	7 ～ 7 歳	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 9 歳	6 0 歳 以上	無 回 答
(%)									
全 体	732	4.0	11.1	14.5	15.4	20.8	23.1	9.4	1.8
身体障害	181	0.6	4.4	6.6	11.0	18.8	35.4	22.7	0.6
知的障害	210	1.4	16.2	23.3	20.0	21.0	9.5	5.7	2.9
精神障害	170	-	2.4	12.4	21.8	26.5	30.6	5.9	0.6
重複障害	83	3.6	8.4	20.5	9.6	27.7	27.7	1.2	1.2

1-3 対象者の性別

問3 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

対象者の性別は、「男性」が59.6%、「女性」が39.9%となっています。

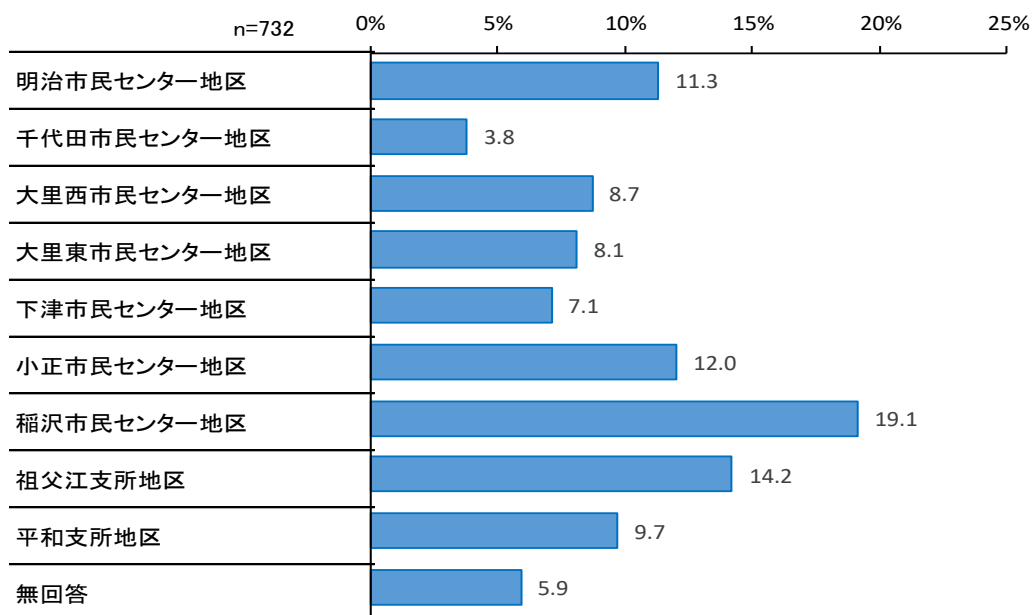


	全 体	男 性	女 性	そ の 他	無 回 答
(%)					
全 体	732	59.6	39.9	-	0.5
身体障害	181	54.7	44.2	-	1.1
知的障害	210	65.2	34.8	-	-
精神障害	170	60.0	38.8	-	1.2
重複障害	83	50.6	49.4	-	-

1-4 居住地区

問4 あなたのお住まいの地区はどちらですか。(〇は1つだけ)

居住地区は、「稲沢市民センター地区」が19.1%で最も高く、次いで「祖父江支所地区」が14.2%、「小正市民センター地区」が12.0%、「明治市民センター地区」が11.3%となっています。



身体障害では、「稲沢市民センター地区」が19.3%で最も高く、次いで「小正市民センター地区」が14.4%、「祖父江支所地区」が12.7%となっています。

知的障害では、「稲沢市民センター地区」が21.9%で最も高く、次いで「祖父江支所地区」が17.6%、「明治市民センター地区」が10.5%となっています。

精神障害では、「稲沢市民センター地区」が17.6%で最も高く、次いで「大里西市民センター地区」「小正市民センター地区」「祖父江支所地区」がそれぞれ12.4%となっています。

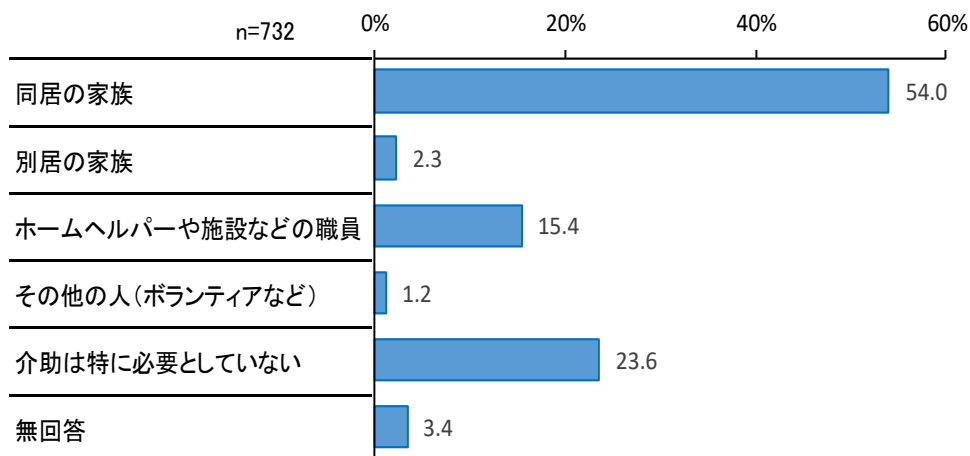
重複障害では、「稲沢市民センター地区」が16.9%で最も高く、次いで「祖父江支所地区」が15.7%、「明治市民センター地区」が13.3%となっています。

(%)	全 体	明 治 市 民 セ ン タ ー 地 区	千 代 田 市 民 セ ン タ ー 地 区	大 里 西 市 民 セ ン タ ー 地 区	大 里 東 市 民 セ ン タ ー 地 区	下 津 市 民 セ ン タ ー 地 区	小 正 市 民 セ ン タ ー 地 区	稲 沢 市 民 セ ン タ ー 地 区	祖 父 江 支 所 地 区	平 和 支 所 地 区	無 回 答
全 体	732	11.3	3.8	8.7	8.1	7.1	12.0	19.1	14.2	9.7	5.9
身体障害	181	12.2	4.4	9.4	8.3	4.4	14.4	19.3	12.7	11.6	3.3
知的障害	210	10.5	3.8	6.7	7.6	7.1	8.1	21.9	17.6	9.0	7.6
精神障害	170	11.8	4.7	12.4	5.9	7.1	12.4	17.6	12.4	11.2	4.7
重複障害	83	13.3	2.4	4.8	6.0	9.6	12.0	16.9	15.7	6.0	13.3

1-5 主な介助者

問5 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(〇は1つだけ)

主な介助者は、「同居の家族」が54.0%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設などの職員」が15.4%となっています。



身体障害では、「同居の家族」が45.9%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設などの職員」が10.5%となっています。

知的障害では、「同居の家族」が65.7%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設などの職員」が21.9%となっています。

精神障害では、「同居の家族」が40.6%で最も高くなっています。

重複障害では、「同居の家族」が54.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設などの職員」が24.1%となっています。

(%)	全 体	同 居 の 家 族	別 居 の 家 族	ホ ー ム ヘ ル パ ー や 施 設 な ど の 職 員	そ の 他 の 人 (ボ ラ ン テ イ ア な ど)	介 助 は 特 に 必 要 と し て い な い	無 回 答
全 体	732	54.0	2.3	15.4	1.2	23.6	3.4
身体障害	181	45.9	3.9	10.5	1.1	33.7	5.0
知的障害	210	65.7	1.4	21.9	1.0	9.5	0.5
精神障害	170	40.6	2.9	15.9	2.4	34.1	4.1
重複障害	83	54.2	2.4	24.1	1.2	10.8	7.2

1-6 主な介助者の状況

問6は、問5で「1. 同居の家族」「2. 別居の家族」と答えた方にお聞きします。

問6 あなたの家族の中で、主な介助者となっている方の年齢、性別、健康状態、悩みなどをお答えください。

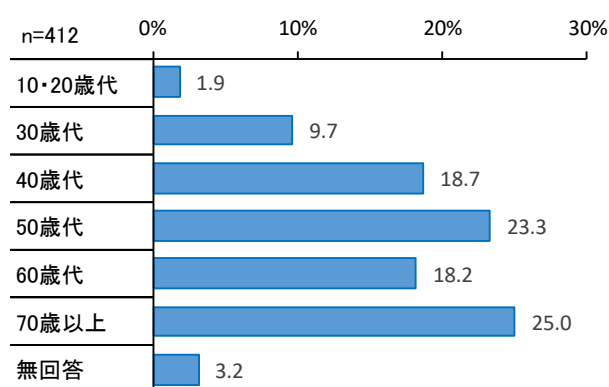
主な介助者の年齢は、「70歳以上」が25.0%で最も高く、次いで「50歳代」が23.3%となっています。

主な介護者の性別は、「女性」が76.0%、「男性」が20.6%となっています。

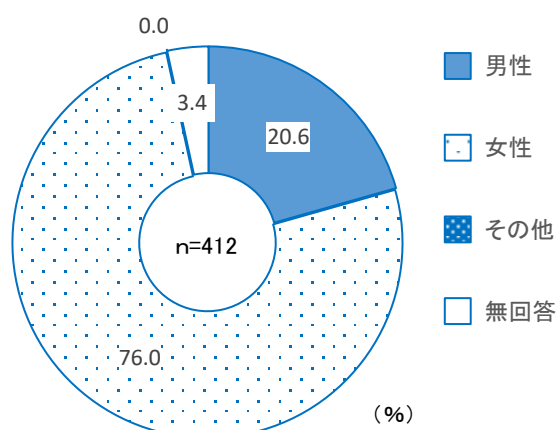
主な介助者の続柄は、「母親」が65.0%で最も高くなっています。

①主な介助者の年齢（令和4年4月1日現在）、性別とあなたからみた続柄

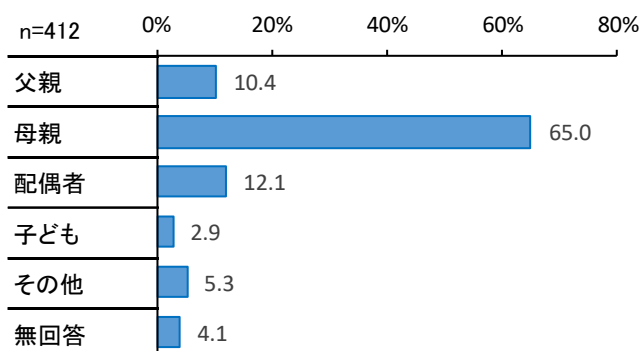
【年齢】



【性別】



【続柄】



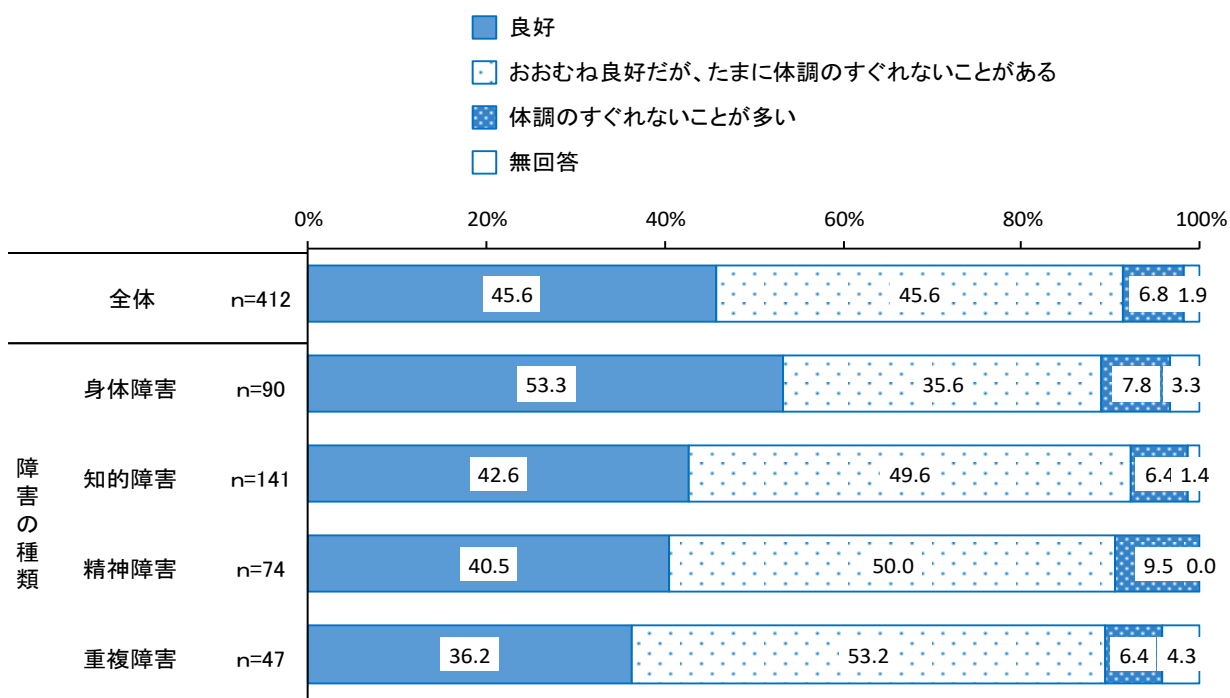
1-7 主な介助者の健康状態

問6 ②主な介助者の健康状態はいかがですか。(〇は1つだけ)

主な介助者の健康状態は、「良好」(45.6%)、「おおむね良好だが、たまに体調のすぐれないことがある」(45.6%)がともに4割台で高くなっています。

身体障害では、「良好」が最も高くなっています。

知的障害、精神障害、重複障害では、「おおむね良好だが、たまに体調のすぐれないことがある」が最も高くなっています。

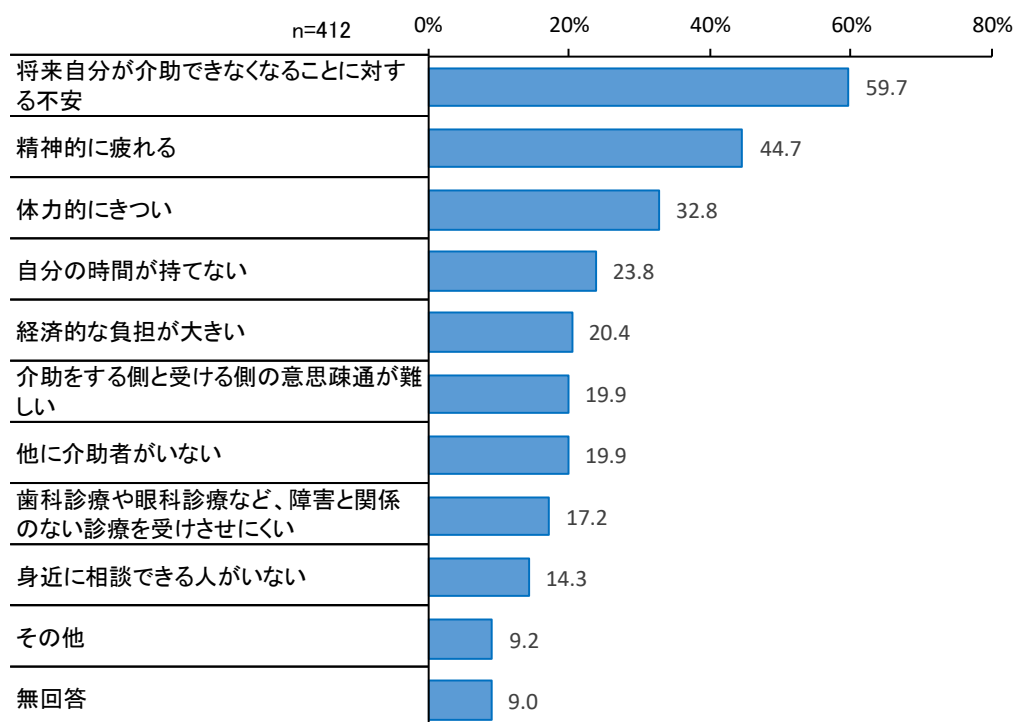


1-8 介助する上での悩みや問題

問6 ③主な介助者が介助する上での悩みや問題は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

介助する上での悩みや問題は、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が59.7%で最も高く、次いで「精神的に疲れる」が44.7%、「体力的にきつい」が32.8%となっています。



身体障害では、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が48.9%で最も高く、次いで「体力的にきつい」が34.4%、「精神的に疲れる」が27.8%となっています。

知的障害では、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が80.9%で最も高く、次いで「精神的に疲れる」が44.0%、「自分の時間が持てない」「体力的にきつい」「歯科診療や眼科診療など、障害と関係のない診療を受けさせにくい」がそれぞれ28.4%となっています。

精神障害では、「精神的に疲れる」が56.8%で最も高く、次いで「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が45.9%、「体力的にきつい」「経済的な負担が大きい」がそれぞれ31.1%となっています。

重複障害では、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が72.3%で最も高く、次いで「体力的にきつい」が51.1%、「精神的に疲れる」が48.9%となっています。

(%)	全 体	自 分 の 時 間 が 持 て な い	体 力 的 に き つ い	精 神 的 に 疲 れ る	他 に 介 助 者 が い な い	経 済 的 な 負 担 が 大 き い	身 近 に 相 談 で き る 人 が い な い	側 の 意 思 疎 通 が 難 し い	介 助 を す る 側 と 受 け い る	診 療 を 受 け さ せ に く い な い	ど 、 歯 科 診 療 や 眼 科 診 療 な い	安 く 将 来 自 分 が 介 助 す る こ と が 不 可 能 な	其 他	無 回 答
全 体	412	23.8	32.8	44.7	19.9	20.4	14.3	19.9	17.2	59.7	9.2	9.0		
身 体 障 害	90	22.2	34.4	27.8	21.1	18.9	12.2	14.4	10.0	48.9	14.4	15.6		
知 的 障 害	141	28.4	28.4	44.0	20.6	14.2	11.3	25.5	28.4	80.9	8.5	7.1		
精 神 障 害	74	14.9	31.1	56.8	23.0	31.1	24.3	20.3	6.8	45.9	5.4	4.1		
重 複 障 害	47	17.0	51.1	48.9	14.9	23.4	12.8	17.0	17.0	72.3	10.6	6.4		

年齢別でみると、7～49歳までの各年齢層では、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」が最も高く、中でも18～29歳(78.1%)、30～39歳(70.0%)では7割以上となっています。

(%)	全 体	自 分 の 時 間 が 持 て な い	体 力 的 に き つ い	精 神 的 に 疲 れ る	他 に 介 助 者 が い な い	経 済 的 な 負 担 が 大 き い	身 近 に 相 談 で き る 人 が い な い	側 の 意 思 疎 通 が 難 し い	介 助 を す る 側 と 受 け い る	診 療 を 受 け さ せ に く い な い	ど 、 歯 科 診 療 や 眼 科 診 療 な い	安 く 将 来 自 分 が 介 助 す る こ と が 不 可 能 な	其 他	無 回 答
全 体	412	23.8	32.8	44.7	19.9	20.4	14.3	19.9	17.2	59.7	9.2	9.0		
0～6歳	26	34.6	46.2	53.8	7.7	7.7	11.5	19.2	11.5	42.3	3.8	15.4		
7～17歳	69	29.0	26.1	52.2	13.0	20.3	14.5	15.9	21.7	58.0	14.5	10.1		
18～29歳	73	26.0	28.8	47.9	17.8	13.7	17.8	31.5	28.8	78.1	5.5	2.7		
30～39歳	60	20.0	33.3	41.7	20.0	23.3	11.7	13.3	20.0	70.0	8.3	8.3		
40～49歳	85	20.0	35.3	37.6	30.6	16.5	11.8	17.6	12.9	58.8	8.2	9.4		
50～59歳	64	21.9	39.1	50.0	23.4	32.8	20.3	18.8	7.8	48.4	12.5	4.7		
60歳以上	24	16.7	29.2	29.2	16.7	20.8	8.3	20.8	12.5	29.2	12.5	29.2		

2 あなたの障害の状況について

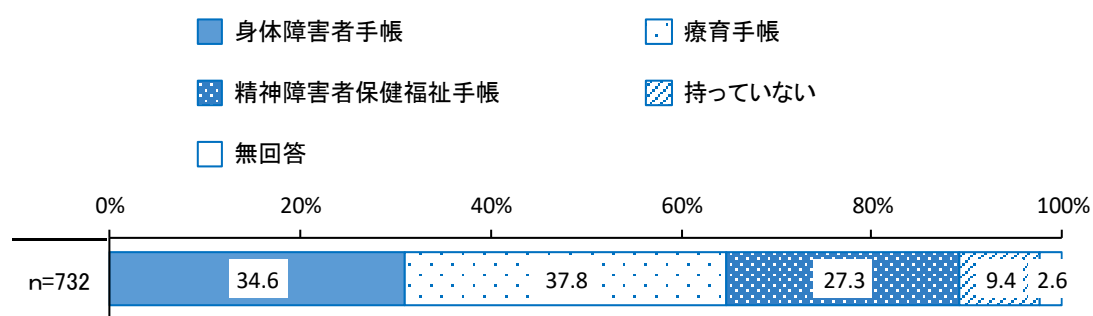
2-1 障害者手帳の有無

問7 あなたは障害者手帳をお持ちですか。（あてはまるものすべてに○）

<手帳の種類>

障害者手帳の所持は、『持っている※』が99.7%で、そのうち、療育手帳が37.8%で最も高くなっています。

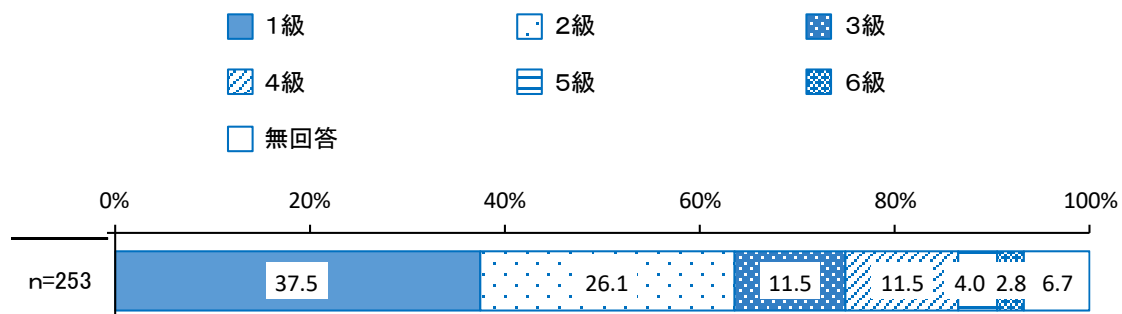
※「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の計



<等級>

【身体障害者手帳】

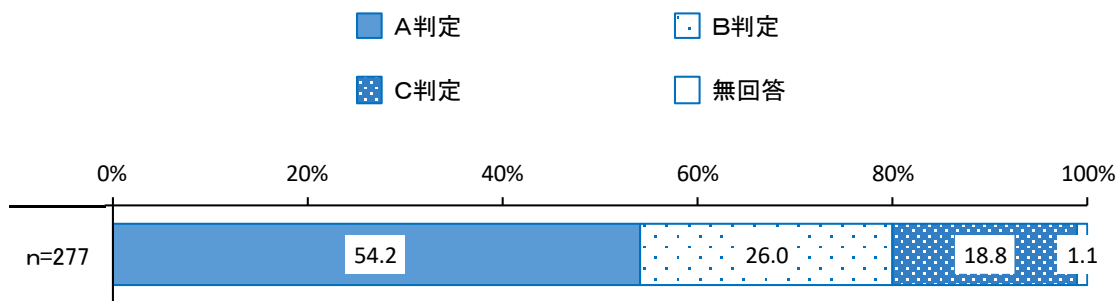
身体障害者手帳の等級は、「1級」が37.5%で最も高く、次いで「2級」が26.1%、「3級」「4級」がそれぞれ11.5%となっています。



<等級>

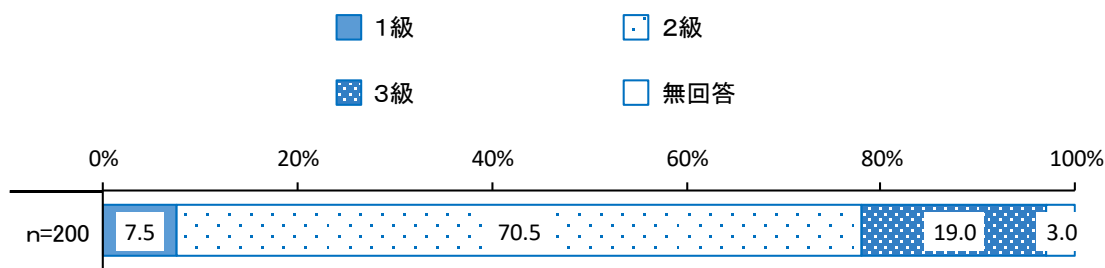
【療育手帳】

療育手帳の等級は、「A判定」が54.2%で最も高く、次いで「B判定」が26.0%、「C判定」が18.8%となっています。



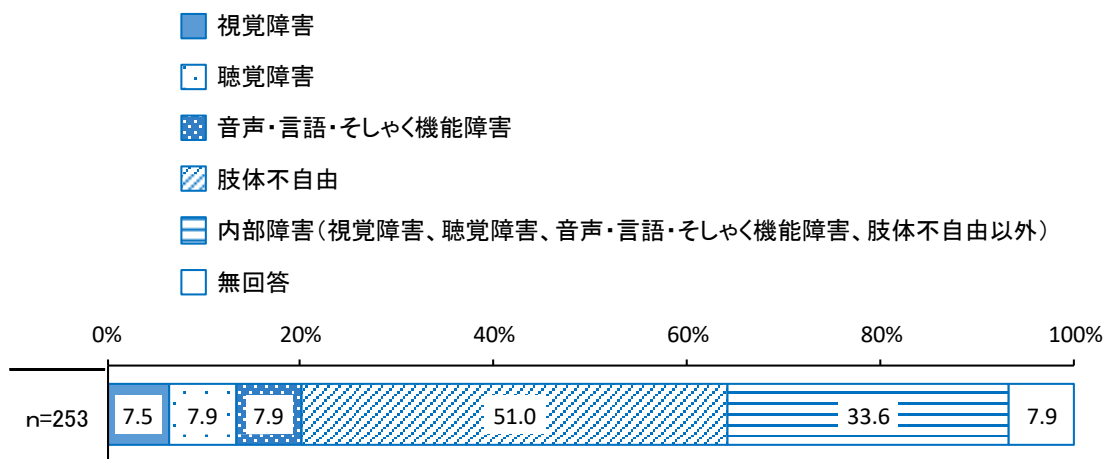
【精神障害者保健福祉手帳】

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が70.5%で最も高く、次いで「3級」が19.0%、「1級」が7.5%となっています。



<障害の種類>

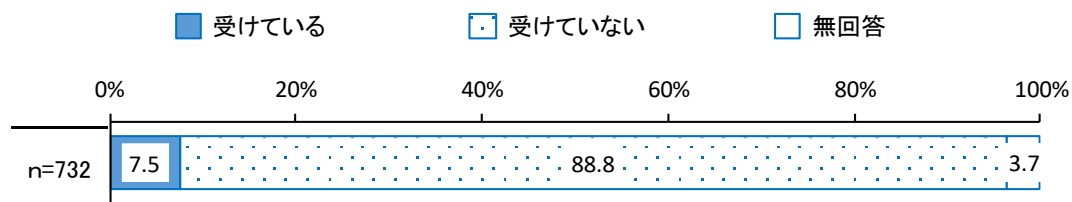
障害の種類は、「肢体不自由」が51.0%で最も高く、次いで「内部障害」が33.6%となっています。



2-5 難病の認定

問8 あなたは難病の認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

難病の認定は、「受けている」が7.5%となっています。

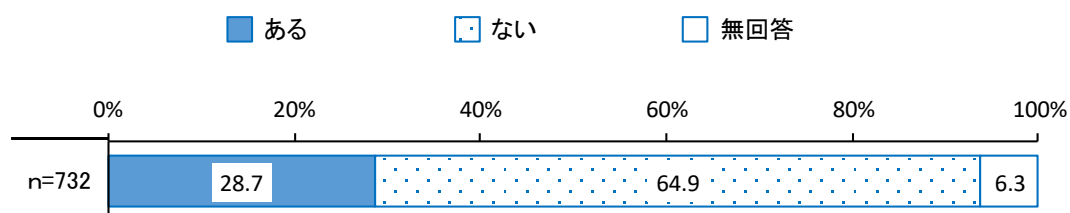


※難病（特定疾患）とは、関節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病や、その他の特殊な疾病をいいます。

2-6 発達障害の診断

問9 あなたは発達障害と診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)

発達障害の診断は、「ある」が28.7%となっています。

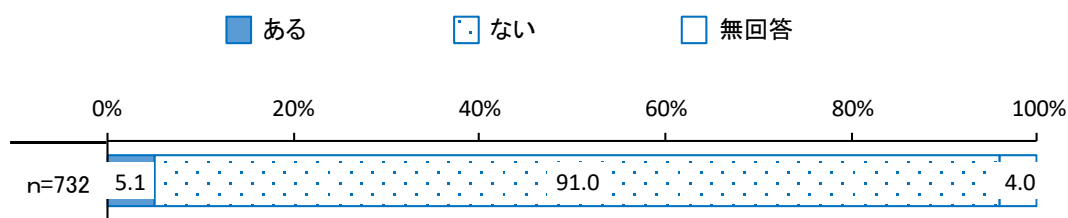


※発達障害とは、自閉症、自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）などをいいます。

2-7 高次脳機能障害の診断

問10 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)

高次脳機能障害の診断は、「ある」が5.1%となっています。



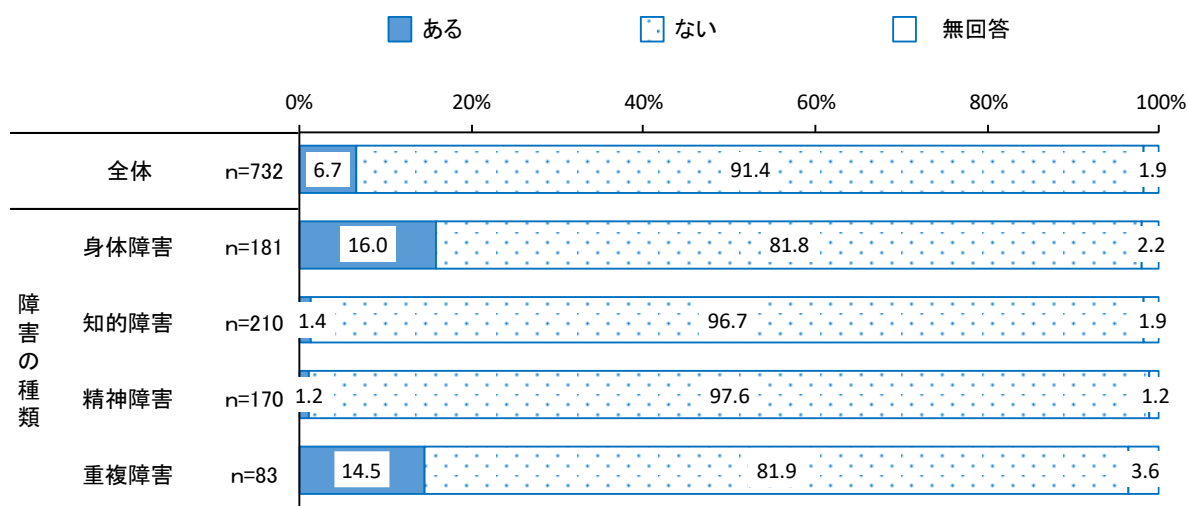
※高次脳機能障害とは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害を指すものとされており、具体的には「会話と行動がうまくかみ合わない」等の症状があります。

2-8 受けている医療的ケア

問11 現在あなたは、医療的ケアを受けていますか。(あてはまるものすべてに〇)

医療的ケアは、「ある」が6.7%となっています。

身体障害、重複障害では、「ある」が1割以上となっています。



※医療的ケアとは、人工呼吸器レスピレーター) 管理、気管切開、鼻咽頭エアウェイ、酸素吸入、たんの吸引ネブライザー、中心静脈栄養 (I V H)、経管栄養 (胃ろうなど)、腹膜透析、導尿、人工肛門などを指します。

3 住まいや暮らしについて

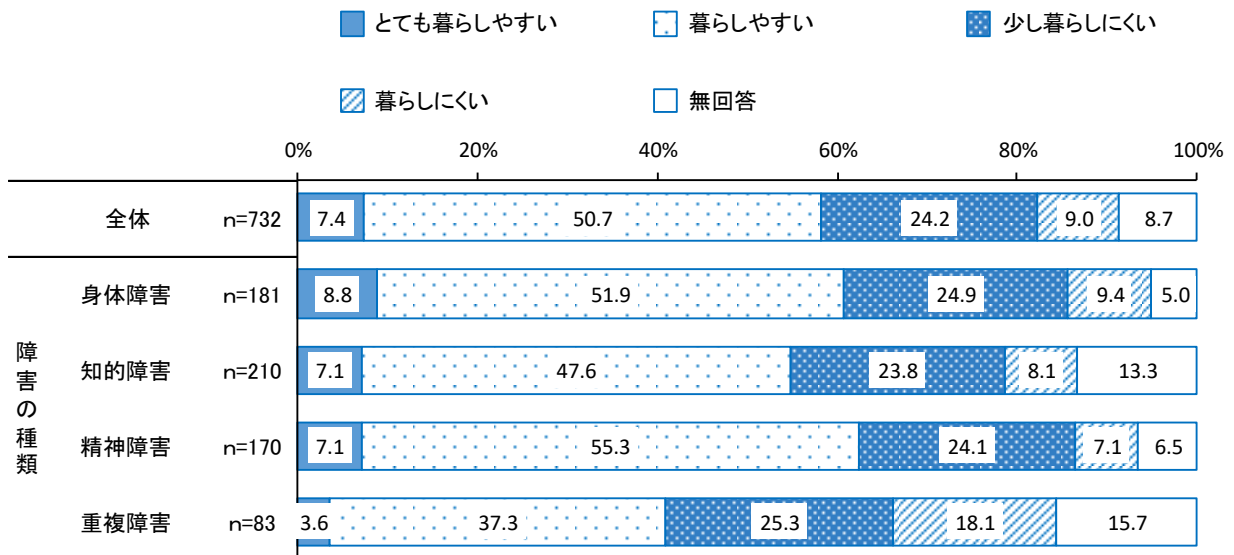
3-1 稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさ

問12 障害のある人にとって暮らしやすいですか、暮らしにくいですか。
(〇は1つだけ)

稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさは、「とても暮らしやすい」が7.4%、「暮らしやすい」が50.7%で最も高く、これらをあわせた『暮らしやすい』は58.1%となっています。一方、『暮らしにくい※』は33.2%となっています。

『暮らしやすい』の割合は、身体障害では60.7%、知的障害では54.7%、精神障害では62.4%、重複障害では40.9%となっています。

※ 「少し暮らしにくい」「暮らしにくい」の計



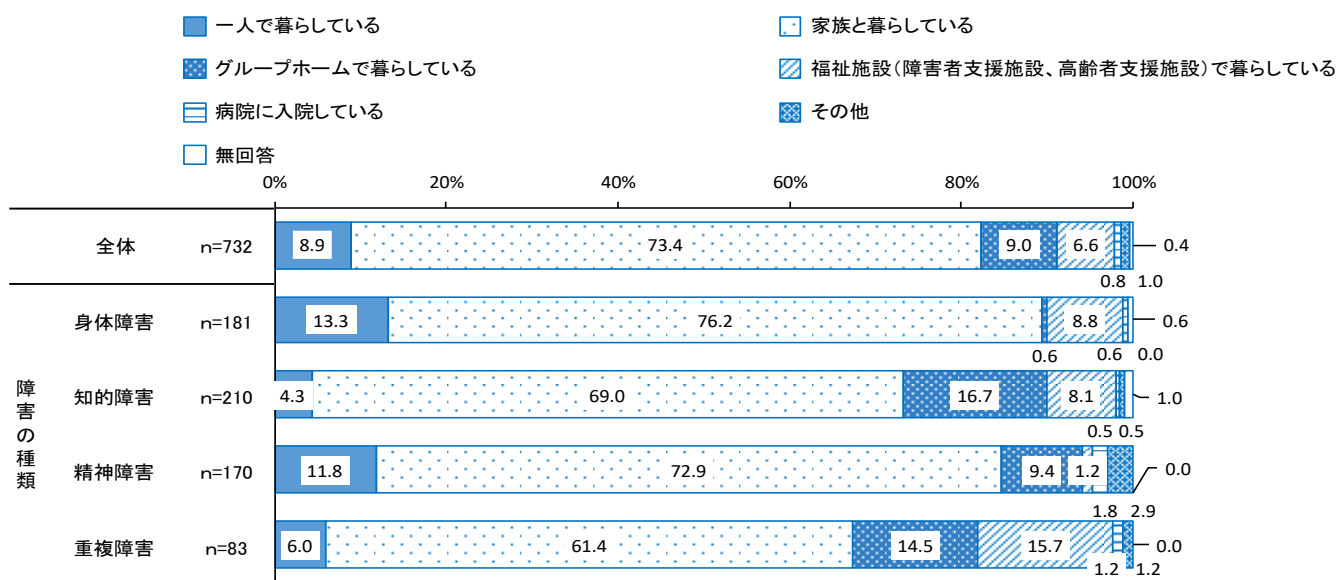
No.	住みやすいまちだと思わない理由	件数
1	交通が不便	43
2	福祉サービス・施設が不便	41
3	地域住民に障害について理解してもらえない	18
4	バリアフリーの充実度が低い	16
5	医療施設が少ない、遠い	13

3-2 現在の生活の場

問13 現在、あなたはどのように暮らしていますか。(〇は1つだけ)

現在の生活の場は、「家族と暮らしている」が73.4%で最も高く、次いで「グループホームで暮らしている」が9.0%、「一人で暮らしている」が8.9%となっています。

重複障害では、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」(15.7%)が1割以上となっています。



3-3 将来の生活の場の希望

問14 将来住みたい、暮らしたいと思う生活の場はどこですか。(〇は1つだけ)

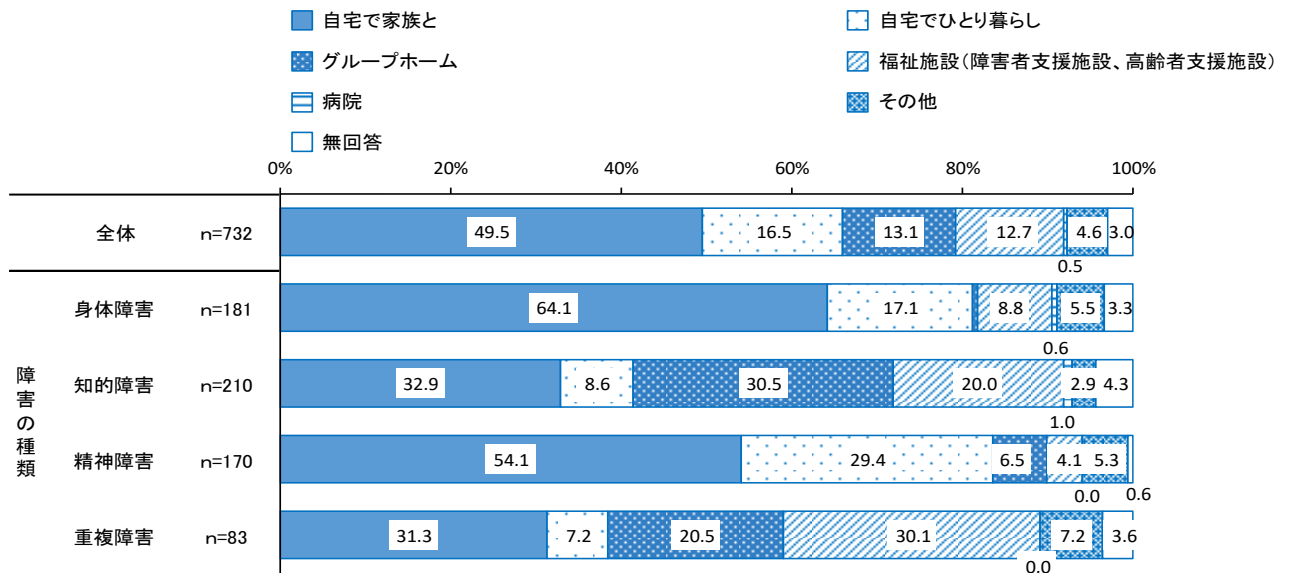
将来の生活の場の希望は、「自宅で家族と」が49.5%で最も高く、次いで「自宅でひとり暮らし」が16.5%、「グループホーム」が13.1%となっています。

身体障害では、「自宅で家族と」が64.1%で最も高く、次いで「自宅でひとり暮らし」が17.1%となっています。

知的障害では、「自宅で家族と」が32.9%で最も高く、次いで「グループホーム」が30.5%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）」が20.0%となっています。

精神障害では、「自宅で家族と」が54.1%で最も高く、次いで「自宅でひとり暮らし」が29.4%となっています。

重複障害では、「自宅で家族と」が31.3%で最も高く、次いで「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）」が30.1%となっています。



年齢別でみると、「自宅でひとり暮らし」は50歳以上の各年齢層で2割以上となっています。

(%)	全 体	自 宅 で 家 族 と	自 宅 で ひ と り 暮 ら し	グ ル ー プ ホ ー ム	設 施 福 祉 施 設 、 高 齢 者 支 援 施 施 	病 院	そ の 他	無 回 答
全 体	732	49.5	16.5	13.1	12.7	0.5	4.6	3.0
0～6歳	29	86.2	6.9	-	-	-	6.9	-
7～17歳	81	69.1	7.4	8.6	6.2	-	3.7	4.9
18～29歳	106	52.8	13.2	17.9	11.3	0.9	2.8	0.9
30～39歳	113	44.2	15.9	18.6	12.4	0.9	6.2	1.8
40～49歳	152	36.8	18.4	19.7	17.8	-	4.6	2.6
50～59歳	169	46.2	22.5	8.3	13.0	1.2	5.3	3.6
60歳以上	69	47.8	20.3	7.2	15.9	-	4.3	4.3

3-4 暮らしたいと思う理由

問15 問14で答えた生活の場で暮らしたいと思う理由は何ですか。（自由回答）

【自宅で家族と】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	安心する、落ち着く、気楽	40
2	家族と居たいから、好きだから	29
3	住み慣れているので	21
4	今のまま家族と過ごしたい	12
5	1人暮らしは不安、寂しい	10

【自宅でひとり暮らし】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	自由	15
2	自立したい、してほしい	11
3	いずれそうなるため	4
4	静かにのんびり暮らしたい	3
5	なれている場所・家だから	3

【グループホーム】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	親等の高齢化等で家庭で支援困難、親なき後で1人暮らしが難しいため	21
2	1人暮らしは不安、難しい	8
3	少人数で家庭的な環境で暮らしたい	8
4	グループホームの生活に慣れてきたから	4
5	ある程度の自由を享受しつつも介護を要するため	3

【福祉施設】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	親等の高齢化等で家庭で支援困難、親なき後で1人暮らしが難しいため	17
2	1人での生活は困難	13
3	1人、将来的に1人なので	3
4	今の生活を続けたい。	3
5	障害者支援施設に入所中	3

【病院】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	死亡時に親族にかける迷惑が少なくてすみそうだから	1
2	てんかんを持っているので。これから体力に不安。一人では何も出来ない	1
3	社会復帰が難しいため	1
4	受け入れ先がないからしょうがない	1

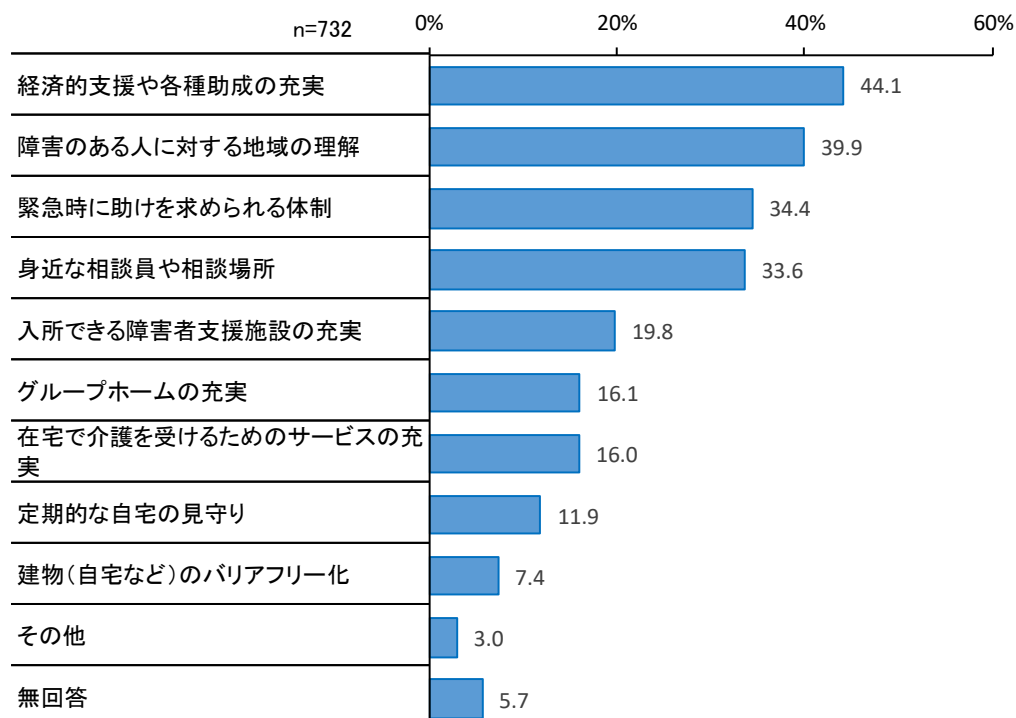
【その他】

No.	暮らしたいと思う理由	件数
1	稲沢は、野焼き容認の街であるため、体を、こわす前に、引っ越したいため。	1
2	家なら、慣れ親しんだ家族と過ごせる。施設なら、設備が整っている。	1
3	終活を考え行動中。	1
4	子どもがいないので	1
5	自宅で家族と過ごして、いずれはグループホームなどになるのが現実的だと思う。	1

3-5 将来の生活の場の希望

問16 問14の暮らし方を実現するためには、こういった条件・支援が必要ですか。
(〇は3つまで)

将来の生活の場の希望は、「経済的支援や各種助成の充実」が44.1%で最も高く、次いで「障害のある人に対する地域の理解」が39.9%、「緊急時に助けを求められる体制」が34.4%となっています。



身体障害では、「経済的支援や各種助成の充実」が47.5%で最も高く、次いで「緊急時に助けを求められる体制」が34.3%、「障害のある人に対する地域の理解」が31.5%となっています。

知的障害では、「障害のある人に対する地域の理解」「グループホームの充実」「緊急時に助けを求められる体制」がそれぞれ38.1%で最も高く、次いで「経済的支援や各種助成の充実」が35.2%となっています。

精神障害では、「経済的支援や各種助成の充実」が60.6%で最も高く、次いで「障害のある人に対する地域の理解」が54.1%、「身近な相談員や相談場所」が45.3%となっています。

重複障害では、「身近な相談員や相談場所」が37.3%で最も高く、次いで「入所できる障害者支援施設の充実」が36.1%、「経済的支援や各種助成の充実」が32.5%となっています。

(%)	全 体	地 域 の 理 解	障 害 の あ る 人 に 対 す る	定 期 的 な 自 宅 の 見 守 り	め 在 宅 で サ ー ビ ス の 受 け る た	施 入 所 で き る 障 害 者 支 援 施 設 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム の 充 実	リ 建 物 （ 自 宅 な ど ） の バ リ ア フ リ ー 化	所 身 近 な 相 談 員 や 相 談 場	緊 急 時 に 助 け を 求 め ら れる 体 制	の 経 済 的 支 援 や 各 種 助 成 の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体	732	39.9	11.9	16.0	19.8	16.1	7.4	33.6	34.4	44.1	3.0	5.7	
身体障害	181	31.5	9.9	26.5	12.7	2.2	18.2	20.4	34.3	47.5	2.2	8.3	
知的障害	210	38.1	9.0	12.4	32.9	38.1	2.4	30.0	38.1	35.2	1.9	7.1	
精神障害	170	54.1	15.9	13.5	8.8	7.1	5.3	45.3	31.2	60.6	2.9	1.8	
重複障害	83	31.3	13.3	18.1	36.1	19.3	4.8	37.3	28.9	32.5	4.8	3.6	

年齢別でみると、「緊急時に助けを求められる体制」は18～29歳（45.3%）、30～39歳（43.4%）で4割以上となっています。

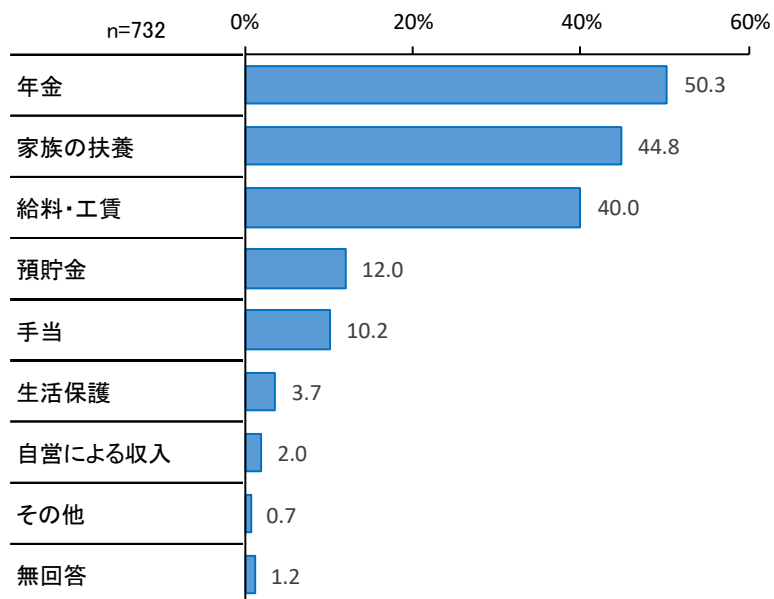
(%)	全 体	地 域 の 理 解	障 害 の あ る 人 に 対 す る	定 期 的 な 自 宅 の 見 守 り	め 在 宅 で サ ー ビ ス の 受 け る た	施 入 所 で き る 障 害 者 支 援 施 設 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム の 充 実	リ 建 物 （ 自 宅 な ど ） の バ リ ア フ リ ー 化	所 身 近 な 相 談 員 や 相 談 場	緊 急 時 に 助 け を 求 め ら れる 体 制	の 経 済 的 支 援 や 各 種 助 成 の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体	732	39.9	11.9	16.0	19.8	16.1	7.4	33.6	34.4	44.1	3.0	5.7	
0～6歳	29	72.4	17.2	13.8	10.3	3.4	10.3	48.3	31.0	41.4	3.4	-	
7～17歳	81	45.7	8.6	7.4	22.2	17.3	2.5	44.4	37.0	45.7	3.7	6.2	
18～29歳	106	37.7	10.4	15.1	29.2	23.6	2.8	39.6	45.3	38.7	0.9	2.8	
30～39歳	113	35.4	9.7	16.8	19.5	22.1	8.8	34.5	43.4	43.4	-	3.5	
40～49歳	152	43.4	15.1	12.5	19.7	19.7	4.6	36.2	29.6	47.4	3.9	3.9	
50～59歳	169	39.1	8.9	21.3	16.6	9.5	11.2	27.2	31.4	45.0	5.3	7.7	
60歳以上	69	21.7	17.4	21.7	14.5	7.2	14.5	17.4	21.7	46.4	2.9	11.6	

4 日中活動や就労について

4-1 主な収入源

問17 あなたは、生活費を何から得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

主な収入源は、「年金」が50.3%で最も高く、次いで「家族の扶養」が44.8%、「給料・工賃」が40.0%となっています。



身体障害では、「年金」が42.5%で最も高く、次いで「給料・工賃」が40.3%、「家族の扶養」が34.3%となっています。

知的障害では、「年金」が61.0%で最も高く、次いで「家族の扶養」が51.0%「給料・工賃」が43.8%となっています。

精神障害では、「年金」が55.9%で最も高く、次いで「給料・工賃」が50.0%、「家族の扶養」が33.5%となっています。

重複障害では、「年金」が63.9%で最も高く、次いで「家族の扶養」が50.6%、「給料・工賃」が33.7%となっています。

(%)	全 体	給 料 ・ 工 賃	自 営 に よ る 収 入	年 金	手 当	家 族 の 扶 養	生 活 保 護	預 貯 金	そ の 他	無 回 答
全 体	732	40.0	2.0	50.3	10.2	44.8	3.7	12.0	0.7	1.2
身体障害	181	40.3	2.8	42.5	13.3	34.3	1.1	12.2	0.6	1.1
知的障害	210	43.8	0.5	61.0	6.7	51.0	1.0	6.2	0.5	2.4
精神障害	170	50.0	3.5	55.9	12.4	33.5	8.2	16.5	0.6	1.2
重複障害	83	33.7	1.2	63.9	13.3	50.6	6.0	10.8	1.2	-

年齢別でみると、「年金」は30～39歳（65.5%）、40～49歳（64.5%）で6割以上となっています。

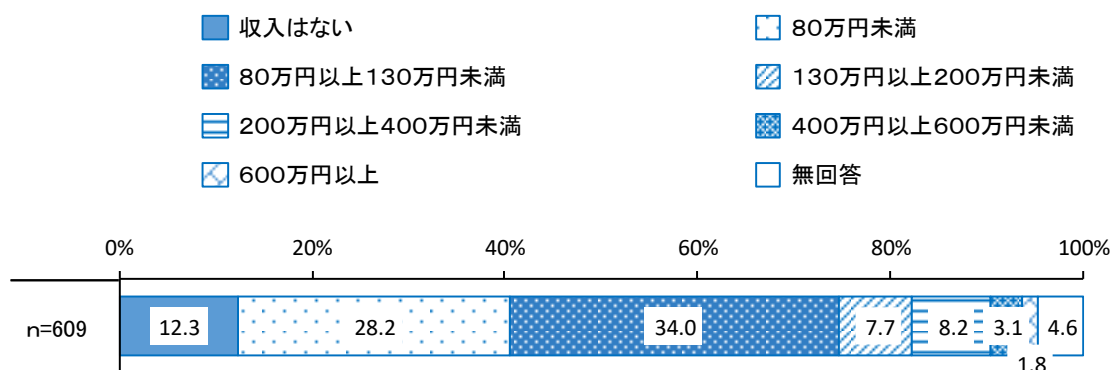
(%)	全 体	給 料 ・ 工 賃	自 営 に よ る 収 入	年 金	手 当	家 族 の 扶 養	生 活 保 護	預 貯 金	そ の 他	無 回 答
全 体	732	40.0	2.0	50.3	10.2	44.8	3.7	12.0	0.7	1.2
0～6歳	29	10.3	-	3.4	13.8	86.2	-	3.4	-	-
7～17歳	81	2.5	-	-	9.9	93.8	-	1.2	-	3.7
18～29歳	106	47.2	0.9	46.2	10.4	58.5	0.9	6.6	0.9	0.9
30～39歳	113	54.9	2.7	65.5	9.7	44.2	2.7	12.4	-	-
40～49歳	152	47.4	0.7	64.5	13.2	32.9	3.3	11.8	-	1.3
50～59歳	169	46.2	1.8	58.0	8.9	25.4	7.1	14.8	1.8	1.2
60歳以上	69	33.3	8.7	58.0	7.2	24.6	5.8	27.5	1.4	-

4-2 1年間の収入

問18 18歳以上の方にお聞きします。

あなたの1年間の収入はどのくらいですか。(仕事によるもの、年金、手当などの合計)
(〇は1つだけ)

1年間の収入は、「80万円以上130万円未満」が34.0%で最も高く、次いで「80万円未満」が28.2%となっています。一方、「収入はない」は12.3%となっています。



身体障害では、「80万円以上130万円未満」が22.8%で最も高く、次いで「80万未満」「200万円以上400万円未満」がそれぞれ18.7%となっています。一方、「収入はない」は13.5%となっています。

知的障害では、「80万円以上130万円未満」が43.1%で最も高く、次いで「80万円未満」が34.7%となっています。一方、「収入がない」は7.8%となっています。

精神障害では、「80万円未満」が33.3%で最も高く、次いで「80万円以上130万円未満」が30.9%となっています。一方、「収入はない」は14.5%となっています。

重複障害では、「80万円以上130万円未満」が48.6%で最も高く、次いで「80万円未満」が22.2%となっています。一方、「収入はない」は11.1%となっています。

	全 体	収 入 は な い	8 0 万 円 未 満	8 0 万 円 未 満 以 上	1 0 万 円 未 満 以 上	2 0 万 円 未 満 以 上	4 0 万 円 未 満 以 上	6 0 万 円 未 満 以 上	無 回 答
(%)									
全 体	609	12.3	28.2	34.0	7.7	8.2	3.1	1.8	4.6
身体障害	171	13.5	18.7	22.8	7.6	18.7	8.8	4.7	5.3
知的障害	167	7.8	34.7	43.1	7.2	1.2	-	-	6.0
精神障害	165	14.5	33.3	30.9	9.7	6.7	1.8	1.2	1.8
重複障害	72	11.1	22.2	48.6	6.9	5.6	-	-	5.6

年齢別で見ると、「80万円以上130万円未満」は18～29歳（42.5%）で最も高くなっています。

(%)	全 体	収 入 は な い	8 0 万 円 未 満	8 0 万 円 未 満 以 上 1 3 0 万 円 未 満	1 3 0 万 円 未 満 以 上 2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満 以 上 4 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満 以 上 6 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満 以 上	無 回 答
全 体	609	12.3	28.2	34.0	7.7	8.2	3.1	1.8	4.6
0～6歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-
7～17歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-
18～29歳	106	8.5	31.1	42.5	10.4	4.7	0.9	-	1.9
30～39歳	113	15.9	35.4	29.2	6.2	6.2	4.4	0.9	1.8
40～49歳	152	11.2	25.7	39.5	5.9	8.6	1.3	2.6	5.3
50～59歳	169	12.4	27.2	30.8	7.7	8.9	3.6	3.0	6.5
60歳以上	69	14.5	20.3	24.6	10.1	14.5	7.2	1.4	7.2

4-3 外出頻度

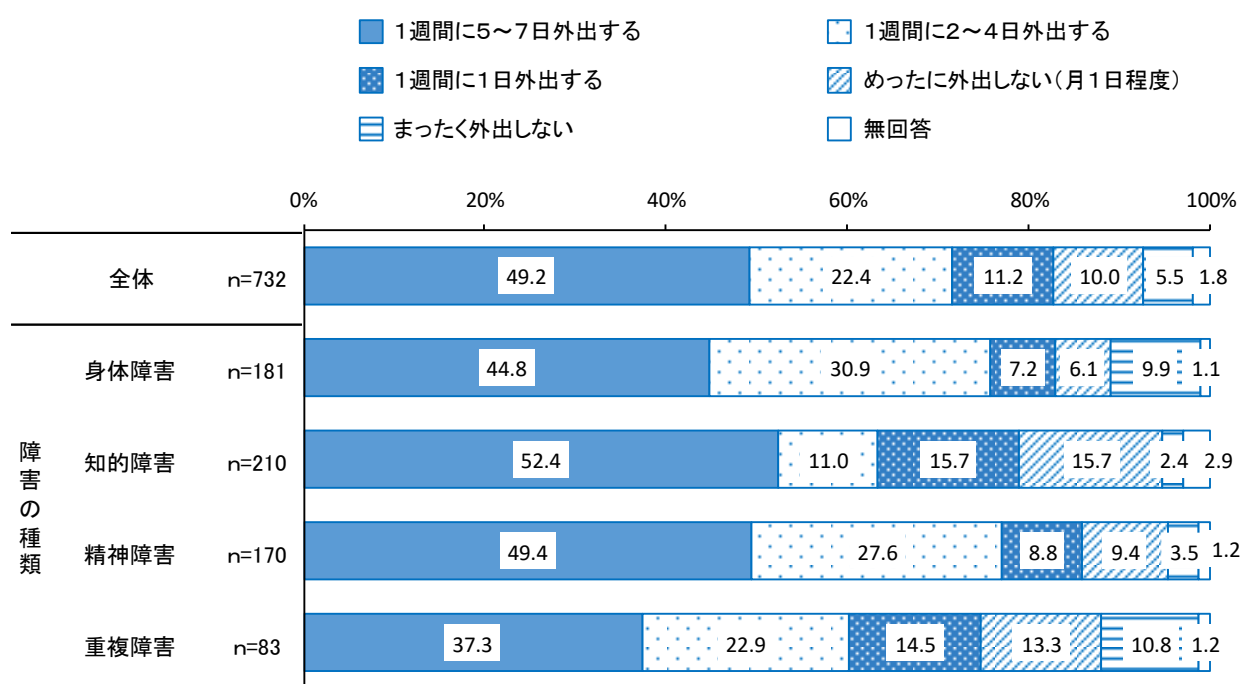
問19 あなたはどれくらい外出しますか。(〇は1つだけ)

外出頻度は、「1週間に5~7日外出する」が49.2%で最も高くなっています。また、『週に1日以上外出する※1』は82.8%となっています。一方、『週に1日未満※2』は15.5%となっています。

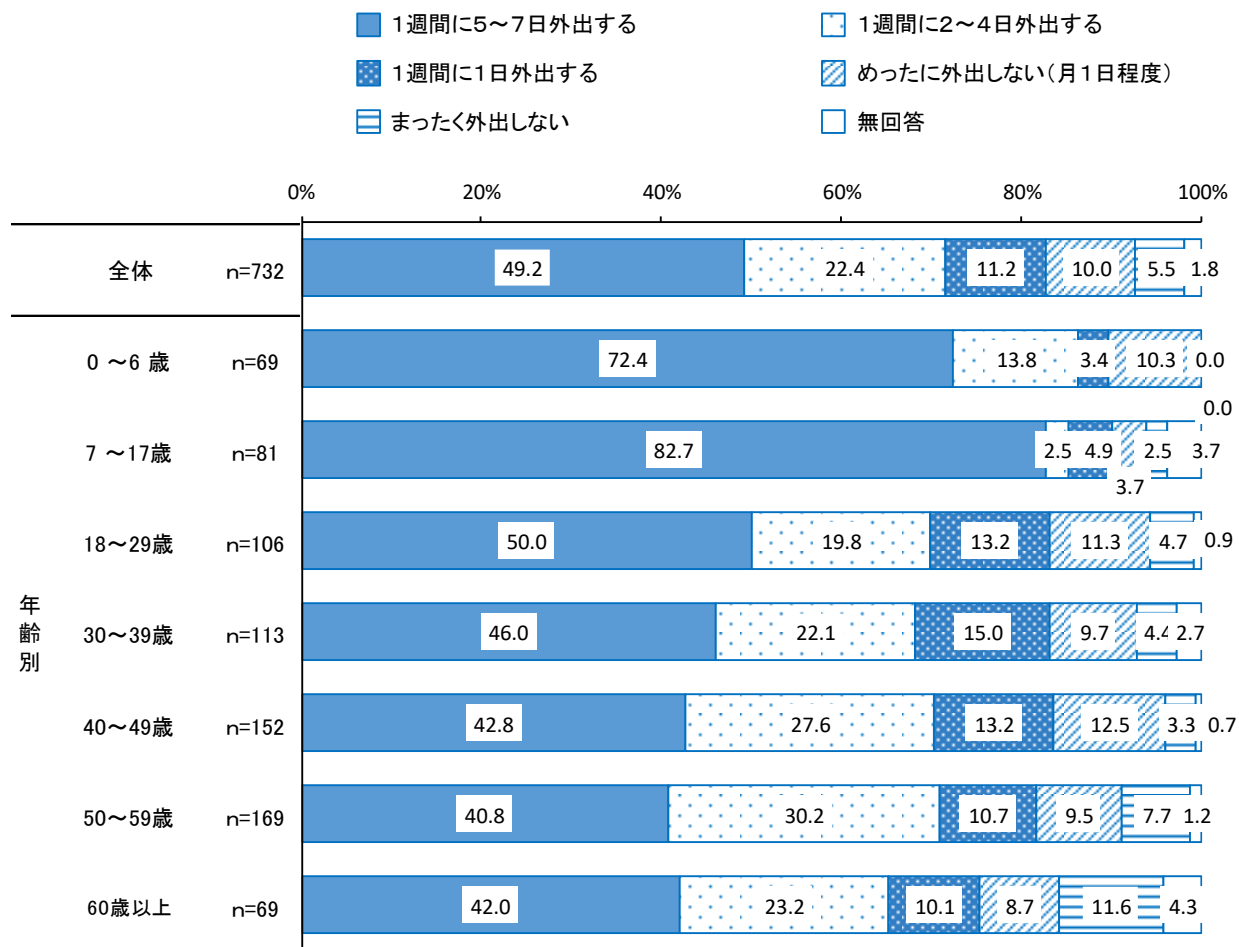
『週に1日以上外出する』の割合は、身体障害では82.9%、知的障害では79.1%、精神障害では85.8%、重複障害では74.7%となっています。一方、『週に1日未満』の割合は、重複障害では24.1%と他の障害に比べ高くなっています。

※1 「1週間に5~7日外出する」「1週間に2~4日外出する」「1週間に1日外出する」の計

※2 「めったに外出しない(月1日程度)」「まったく外出しない」の計



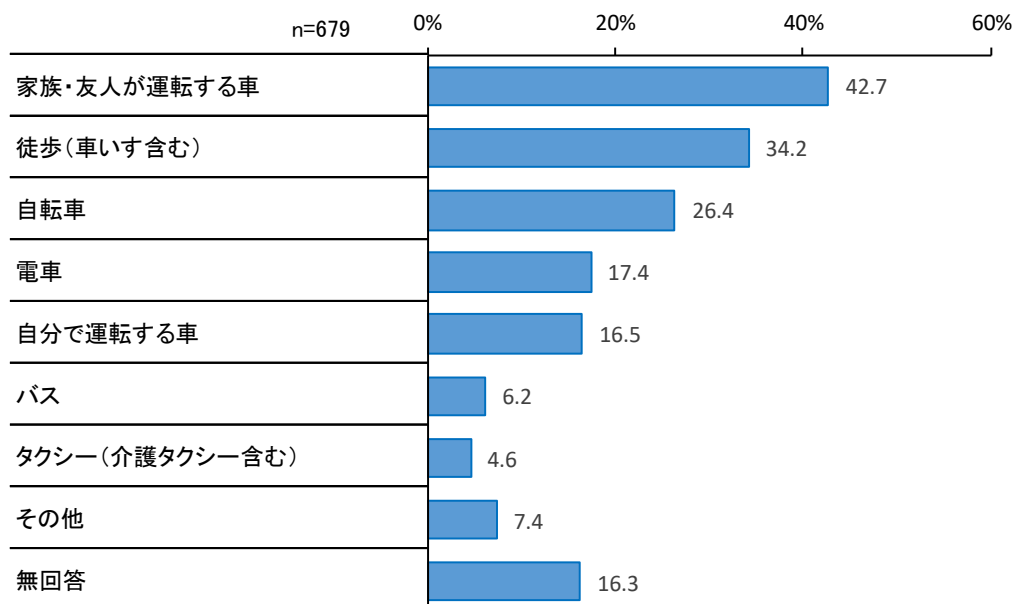
年齢別で見ると、『週に1日以上外出する』は7～17歳（90.1%）で割合が高くなっています。



4-4 外出方法

問20～問22は、問19で「5. まったく外出しない」以外を答えた方にお聞きします。
 問20 あなたは、どのような方法で外出することが多いですか。（〇は3つまで）

外出方法は、「家族・友人が運転する車」が42.7%で最も高く、次いで「徒歩（車いす含む）」が34.2%、「自転車」が26.4%となっています。



身体障害では、「自分で運転する車」が39.1%で最も高く、次いで「家族・友人が運転する車」が34.8%、「徒歩（車いす含む）」が31.7%となっています。

知的障害では、「家族・友人が運転する車」が51.3%で最も高く、次いで「徒歩（車いす含む）」が31.7%、「自転車」が24.1%となっています。

精神障害では、「徒歩（車いす含む）」が39.5%で最も高く、次いで「自転車」が38.9%、「家族・友人が運転する車」が32.7%となっています。

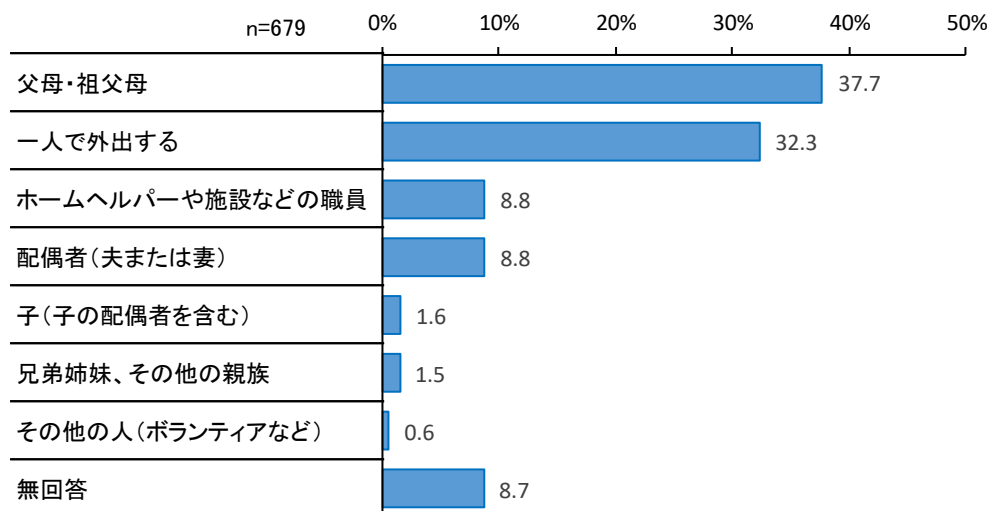
重複障害では、「家族・友人が運転する車」が45.2%で最も高く、次いで「自転車」が26.0%、「徒歩（車いす含む）」が23.3%となっています。

	全 体	徒 歩 (車 い す 含 む)	自 転 車	自 分 で 運 転 す る 車	家 族 ・ 友 人 が 運 転 す る 車	バ ス	電 車	シ タ ク シ ー (介 護 タ ク シ ー 含 む)	そ の 他	無 回 答
(%)										
全 体	679	34.2	26.4	16.5	42.7	6.2	17.4	4.6	7.4	16.3
身体障害	161	31.7	17.4	39.1	34.8	5.0	18.6	6.2	3.1	13.0
知的障害	199	31.7	24.1	0.5	51.3	5.0	13.6	2.0	15.1	16.6
精神障害	162	39.5	38.9	21.0	32.7	9.9	27.2	7.4	4.3	16.7
重複障害	73	23.3	26.0	4.1	45.2	6.8	12.3	2.7	9.6	16.4

4-5 外出する際の主な同伴者

問21 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。（〇は1つだけ）

外出する際の主な同伴者は、「父母・祖父母」が37.7%で最も高く、次いで「一人で外出する」が32.3%となっています。



身体障害では、「一人で外出する」が46.6%で最も高く、次いで「父母・祖父母」「配偶者（夫または妻）」がそれぞれ18.6%となっています。

知的障害では、「父母・祖父母」が54.8%で最も高く、次いで「一人で外出する」が17.6%となっています。

精神障害では、「一人で外出する」が48.1%で最も高く、次いで「父母・祖父母」が24.1%となっています。

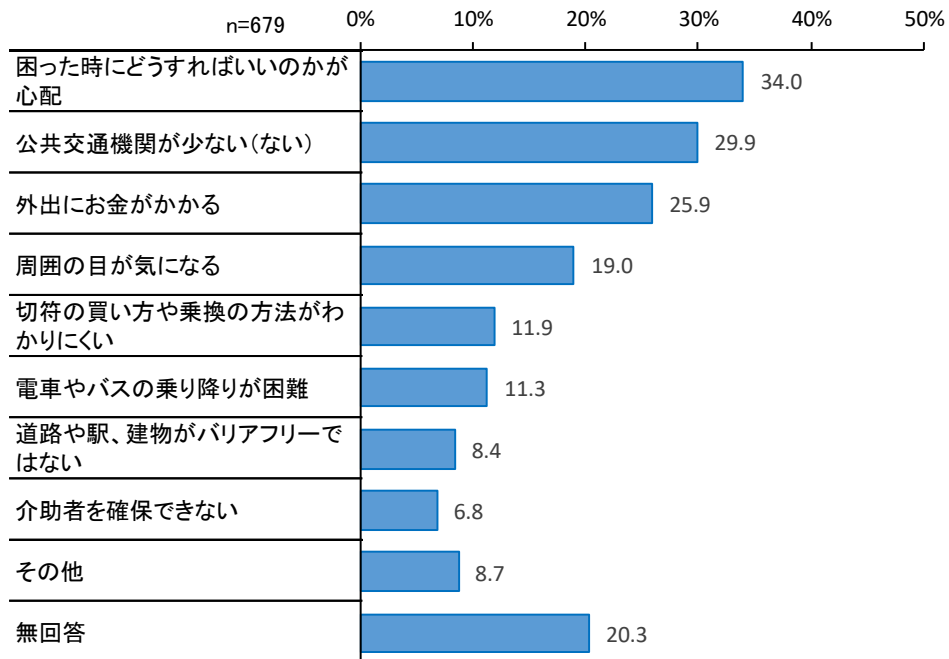
重複障害では、「父母・祖父母」が47.9%で最も高く、次いで「一人で外出する」が21.9%となっています。

	全 体	父 母 ・ 祖 父 母	配 偶 者 （ 夫 ま た は 妻 ）	子 （ 子 の 配 偶 者 を 含 む ）	兄 弟 姉 妹 、 そ の 他 の 親 族	ホ ー ム ヘ ル パ ー や 施 設 な ど の 職 員	そ の 他 の 人 （ ボ ラ ン テ ィ ア な ど ）	一 人 で 外 出 す る	無 回 答
(%)									
全 体	679	37.7	8.8	1.6	1.5	8.8	0.6	32.3	8.7
身体障害	161	18.6	18.6	3.1	1.2	4.3	0.6	46.6	6.8
知的障害	199	54.8	1.0	0.5	1.0	16.1	0.5	17.6	8.5
精神障害	162	24.1	9.3	2.5	1.9	6.2	0.6	48.1	7.4
重複障害	73	47.9	5.5	0.0	1.4	15.1	0.0	21.9	8.2

4-6 外出する時に困ること

問22 外出する時に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出するときに困ることは、「困った時にどうすればいいのかが心配」が34.0%で最も高く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」が29.9%、「外出にお金がかかる」が25.9%となっています。



身体障害では、「公共交通機関が少ない（ない）」が32.9%で最も高く、次いで「外出にお金がかかる」が26.1%となっています。

知的障害では、「困った時にどうすればいいのかが心配」が50.8%で最も高く、次いで「公共交通機関が少ない（ない）」が23.6%となっています。

精神障害では、「公共交通機関が少ない（ない）」が45.7%で最も高く、次いで「外出にお金がかかる」が43.2%となっています。

重複障害では、「困った時にどうすればいいのかが心配」が45.2%で最も高く、次いで「電車やバスの乗り降りが困難」が23.3%となっています。

(%)	全 体	(公 共 交 通 機 関 が 少 な い)	電 車 や バ ス の 乗 り 降 り が 困 難	方 法 符 号 の 買 い 方 や 乗 換 の 困 難	介 助 者 を 確 保 で き な い	ア ド ル ト 建 物 が バ リ エ ー フリー で は な い	外 出 に お 金 が か か る	い つ た 時 に ど う す れ ば い い の か が 心 配	周 圍 の 目 が 気 に な る	そ の 他	無 回 答
全 体	679	29.9	11.3	11.9	6.8	8.4	25.9	34.0	19.0	8.7	20.3
身体障害	161	32.9	16.8	5.6	5.0	18.0	26.1	18.0	11.2	9.3	23.0
知的障害	199	23.6	10.1	19.6	11.1	2.0	19.1	50.8	20.1	7.5	17.6
精神障害	162	45.7	5.6	8.0	1.9	5.6	43.2	25.9	27.8	8.6	14.8
重複障害	73	21.9	23.3	17.8	12.3	12.3	17.8	45.2	20.5	9.6	19.2

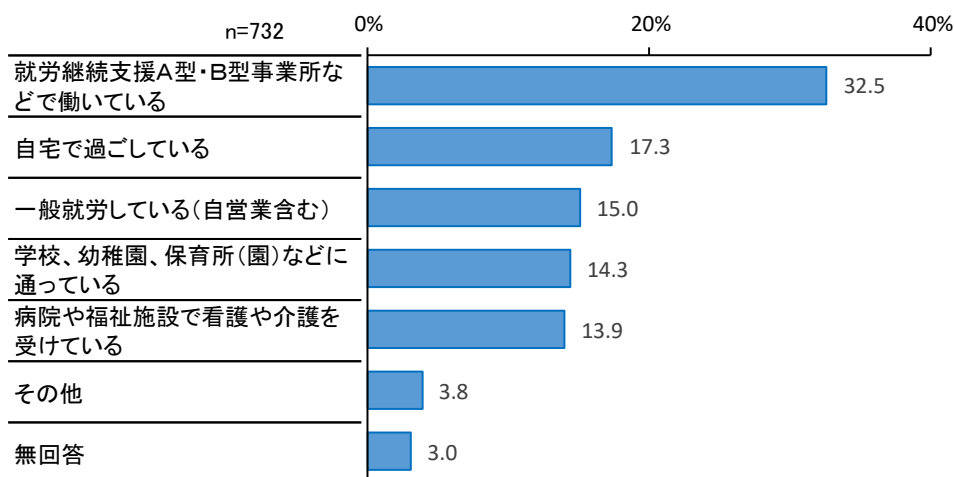
年齢別でみると、「外出にお金がかかる」は50～59歳（35.7%）で最も高くなっています。

(%)	全 体	(公 共 交 通 機 関 が 少 な い)	電 車 や バ ス の 乗 り 降 り が 困 難	方 法 符 号 の 買 い 方 や 乗 換 の 困 難	介 助 者 を 確 保 で き な い	ア ド ル ト 建 物 が バ リ エ ー フリー で は な い	外 出 に お 金 が か か る	い つ た 時 に ど う す れ ば い い の か が 心 配	周 圍 の 目 が 気 に な る	そ の 他	無 回 答
全 体	679	29.9	11.3	11.9	6.8	8.4	25.9	34.0	19.0	8.7	20.3
0～6歳	29	6.9	-	3.4	6.9	6.9	3.4	20.7	17.2	6.9	48.3
7～17歳	76	17.1	10.5	17.1	5.3	3.9	9.2	52.6	15.8	11.8	22.4
18～29歳	100	40.0	13.0	15.0	9.0	9.0	20.0	45.0	29.0	8.0	12.0
30～39歳	105	35.2	12.4	11.4	10.5	10.5	32.4	32.4	30.5	2.9	17.1
40～49歳	146	30.1	10.3	14.4	6.2	5.5	29.5	29.5	17.1	10.3	24.0
50～59歳	154	31.2	12.3	8.4	5.8	10.4	35.7	30.5	14.9	9.1	16.2
60歳以上	58	27.6	12.1	1.7	1.7	13.8	25.9	13.8	1.7	13.8	25.9

4-7 日中の過ごし方

問23 現在、あなたは日中を主にどのように過ごしていることが多いですか。
(○は1つだけ)

日中の過ごし方は、「就労継続支援A型・B型事業所などで働いている」が32.5%で最も高く、次いで「自宅で過ごしている」が17.3%、「一般就労している（自営業含む）」が15.0%となっています。



身体障害では、「一般就労している（自営業含む）」が35.9%で最も高くなっています。

知的障害、精神障害、重複障害では、「就労継続支援A型・B型事業所などで働いている」が最も高くなっています。

	全体	学校、幼稚園、保育所(園)に通っている (%)	一般就労している(自営業含む) (%)	就労継続支援A型・B型事業所などで働いている (%)	病院や福祉施設で看護や介護を受けている (%)	自宅で過ごしている (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	732	14.3	15.0	32.5	13.9	17.3	3.8	3.0
身体障害	181	5.0	35.9	7.7	15.5	32.6	1.7	1.7
知的障害	210	18.6	4.8	48.1	19.5	3.3	2.4	3.3
精神障害	170	1.8	15.9	43.5	3.5	25.9	5.9	3.5
重複障害	83	10.8	3.6	37.3	30.1	9.6	6.0	2.4

年齢別でみると、7～17歳では「学校、幼稚園、保育所（園）などに通っている」（97.5%）が9割強となっています。18～49歳の各年齢層では、「就労継続支援A型・B型事業所などで働いている」が4割以上となっています。60歳以上では「自宅で過ごしている」（34.8%）が最も高くなっています。

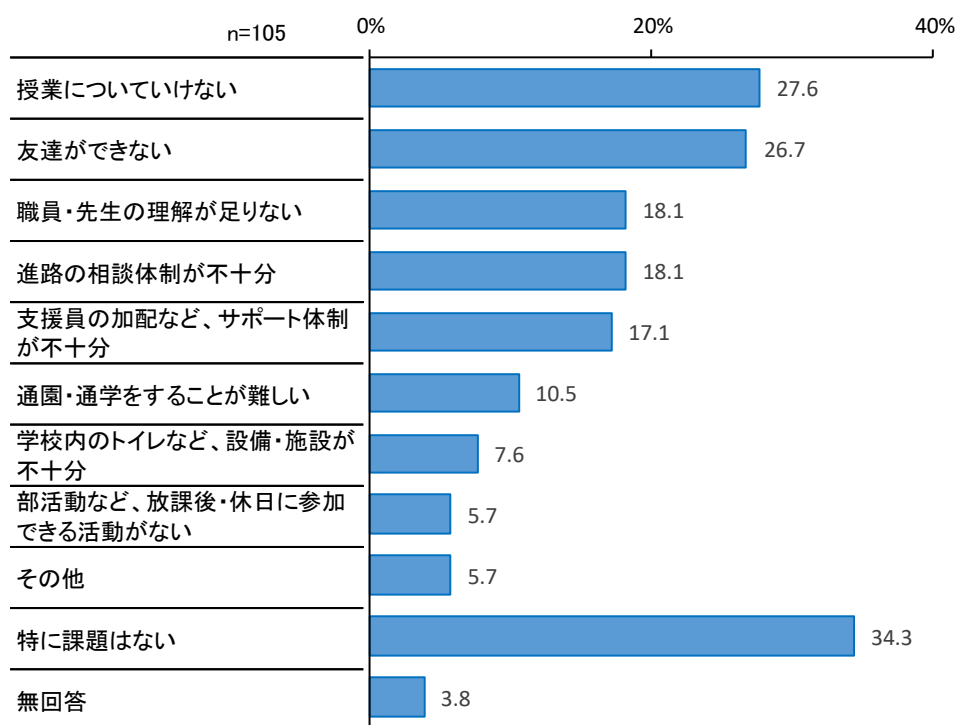
(%)	全 体	通 育 学 校 所 （ 園 ） な ど に 保 育 さ れ て い る	一 般 就 労 し て い る （ 自 営 業 含 む ）	ど 型 就 労 継 続 支 援 A 型 ・ B 型 事 業 所 な ど で 働 い て い る	て 看 病 院 や 福 祉 施 設 を 受 け て い る	る 自 宅 で 過 ご し て い る	そ の 他	無 回 答
全 体	732	14.3	15.0	32.5	13.9	17.3	3.8	3.0
0～6歳	29	75.9	-	-	-	13.8	10.3	-
7～17歳	81	97.5	1.2	-	-	1.2	-	-
18～29歳	106	1.9	17.0	42.5	19.8	9.4	6.6	2.8
30～39歳	113	-	14.2	47.8	13.3	17.7	4.4	2.7
40～49歳	152	-	15.8	43.4	20.4	14.5	2.6	3.3
50～59歳	169	-	20.7	32.5	13.0	24.9	3.6	5.3
60歳以上	69	-	21.7	17.4	18.8	34.8	4.3	2.9

4-8 学校生活などにおける課題

問24、問25は問23で、「1. 学校、幼稚園、保育所（園）などに通っている」と答えた方にお聞きします。

問24 あなたの学校生活などにおける課題として、どのようなことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

学校生活などにおける課題は、「授業についていけない」が27.6%で最も高く、次いで「友達ができない」が26.7%となっています。



知的障害では、「進路の相談体制が不十分」が23.1%となっています。

	全 体	が 通 園 ・ 通 学 を す る こ と が 難 し い	授 業 に つ い て い け な い	ポ ー ト 支 援 員 の 加 配 な ど、 サ	設 備 ・ 施 設 が 不 十 分	学 校 内 の ト イ レ な ど、	友 達 が で き な い	職 員 ・ 先 生 の 理 解 が 足 り な い	が 休 日 に 参 加 で き る 活 動 ・	部 活 動 な ど、 放 課 後	分 進 路 の 相 談 体 制 が 不 十	そ の 他	特 に 課 題 は な い	無 回 答
(%)														
全 体	105	10.5	27.6	17.1	7.6	26.7	18.1	5.7	18.1	5.7	34.3	3.8		
身体障害	9	11.1	33.3	-	11.1	22.2	-	-	22.2	11.1	22.2	11.1		
知的障害	39	10.3	17.9	12.8	10.3	25.6	7.7	10.3	23.1	5.1	35.9	5.1		
精神障害	3	-	33.3	-	-	66.7	-	-	66.7	-	33.3	-		
重複障害	9	11.1	11.1	-	-	22.2	22.2	-	11.1	11.1	33.3	11.1		

年齢別でみると、7～17歳では「友達ができない」が30.4%となっています。

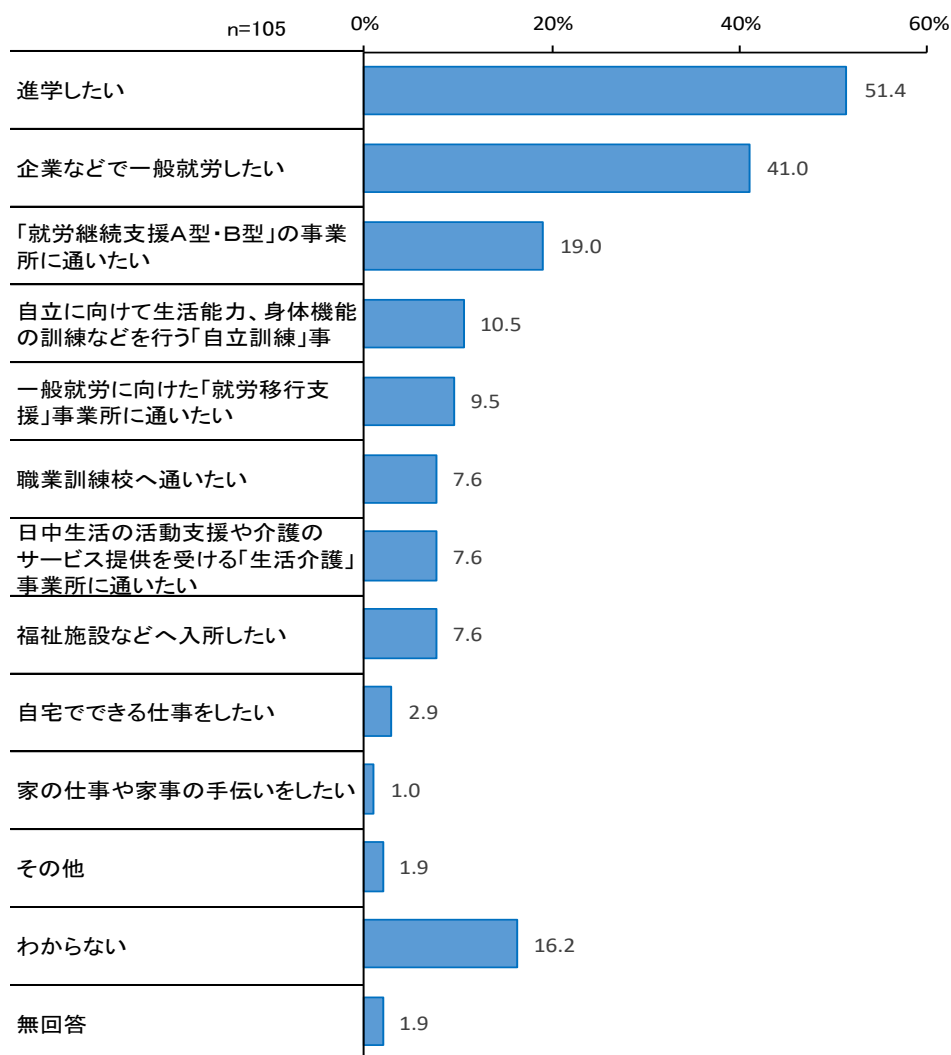
	全 体	が 通 園 ・ 通 学 を す る こ と が 難 し い	授 業 に つ い て い け な い	ポ ー ト 支 援 員 の 加 配 な ど、 サ	設 備 ・ 施 設 が 不 十 分	学 校 内 の ト イ レ な ど、	友 達 が で き な い	職 員 ・ 先 生 の 理 解 が 足 り な い	が 休 日 に 参 加 で き る 活 動 ・	部 活 動 な ど、 放 課 後	分 進 路 の 相 談 体 制 が 不 十	そ の 他	特 に 課 題 は な い	無 回 答
(%)														
全 体	105	10.5	27.6	17.1	7.6	26.7	18.1	5.7	18.1	5.7	34.3	3.8		
0～6歳	22	9.1	27.3	27.3	4.5	9.1	18.2	4.5	9.1	4.5	40.9	4.5		
7～17歳	79	10.1	27.8	15.2	8.9	30.4	19.0	6.3	21.5	5.1	32.9	3.8		
18～29歳	2	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-		
30～39歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
40～49歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
50～59歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
60歳以上	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

4-9 今後の進路

問24、問25は問23で、「1. 学校、幼稚園、保育所（園）などに通っている」と答えた方にお聞きします。

問25 将来の進路についてどのような希望がありますか。（〇は3つまで）

今後の進路は、「進学したい」が51.4%で最も高く、次いで「企業などで一般就労したい」が41.0%となっています。



知的障害では、「「就労継続支援A型・B型」の事業所に通いたい」が41.0%となっています。

(%)	全 体	進 学 し た い	職 業 訓 練 校 へ 通 い た い	企 業 な ど で 一 般 就 労 し た い	一 般 就 労 に 向 け た 「 就 労 移 行 支 援 」 事 業 所 に 通 い た い	「 就 労 継 続 支 援 A 型 ・ B 型 」 の 事 業 所 に 通 い た い	介 護 「 事 業 所 に 通 い た い 」	日 中 生 活 の 活 動 支 援 や 介 護 の サ ー ビ ス 提 供 を 受 け る 「 生 活 介 護 」	機 能 の 訓 練 な ど を 行 う 「 自 立 訓 練 」 事 業 所 に 通 い た い	自 立 に 向 け て 生 活 能 力 、 身 体
全 体	105	51.4	7.6	41.0	9.5	19.0	7.6	10.5	-	
身体障害	9	66.7	11.1	44.4	-	-	-	-	-	
知的障害	39	35.9	7.7	35.9	15.4	41.0	15.4	20.5	-	
精神障害	3	100.0	-	66.7	-	-	-	-	-	
重複障害	9	22.2	11.1	44.4	22.2	33.3	22.2	-	-	

(%)	全 体	自 宅 で で き る 仕 事 を し た い	家 の 仕 事 や 家 事 の 手 伝 い を し た い	福 祉 施 設 な ど へ 入 所 し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	105	2.9	1.0	7.6	1.9	16.2	1.9
身体障害	9	22.2	-	-	-	22.2	-
知的障害	39	-	-	15.4	2.6	7.7	2.6
精神障害	3	-	-	-	-	-	-
重複障害	9	-	11.1	22.2	-	22.2	-

年齢別でみると、7～17歳では「進学したい」が53.2%となっています。

(%)	全 体	進 学 し た い	職 業 訓 練 校 へ 通 い た い	企 業 な ど で 一 般 就 労 し た い	一 般 就 労 に 向 け た 「 支 援 」 事 業 所 に 通 い た い	「 就 労 継 続 支 援 A 型 ・ B 型 」 の 事 業 所 に 通 い た い	日 中 生 活 の 活 動 支 援 や 介 護 の 「 サ ー ビ ス 提 供 を 受 け る 」 「 生 活 の 介 護 」 事 業 所 に 通 い た い	自 立 に 向 け て 生 活 能 力 、 身 体 機 能 の 訓 練 な ど を 行 う 「 自 立 訓 練 」 事 業 所 に 通 い た い
全 体	105	51.4	7.6	41.0	9.5	19.0	7.6	10.5
0～6歳	22	45.5	4.5	31.8	-	4.5	-	4.5
7～17歳	79	53.2	6.3	43.0	11.4	22.8	8.9	12.7
18～29歳	2	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-
30～39歳	0	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	0	-	-	-	-	-	-	-
50～59歳	0	-	-	-	-	-	-	-
60歳以上	0	-	-	-	-	-	-	-

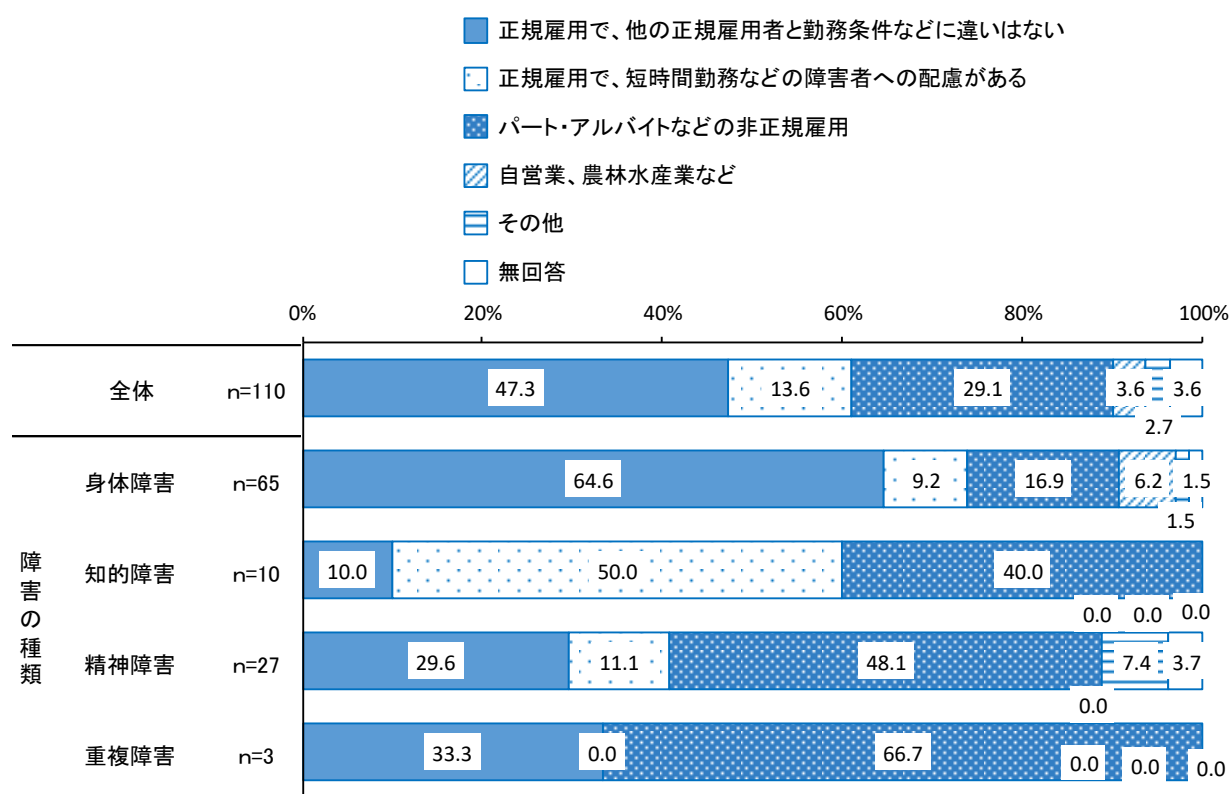
(%)	全 体	自 宅 で で き る 仕 事 を し た い	家 の 仕 事 や 家 事 の 手 伝 い を し た い	福 祉 施 設 な ど へ 入 所 し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	105	2.9	1.0	7.6	1.9	16.2	1.9
0～6歳	22	4.5	-	-	-	40.9	4.5
7～17歳	79	2.5	1.3	8.9	2.5	10.1	1.3
18～29歳	2	-	-	50.0	-	-	-
30～39歳	0	-	-	-	-	-	-
40～49歳	0	-	-	-	-	-	-
50～59歳	0	-	-	-	-	-	-
60歳以上	0	-	-	-	-	-	-

4-10 勤務形態

問26は、問23で「2. 一般就労している（自営業含む）」と答えた方にお聞きします。
 問26 どのような勤務形態で働いていますか。（〇は1つだけ）

勤務形態は、「正規雇用で、他の正規雇用者と勤務条件などに違いはない」が47.3%で最も高く、次いで「パート・アルバイトなどの非正規雇用」が29.1%となっています。

身体障害では、「正規雇用で、他の正規雇用者と勤務条件などに違いはない」が64.6%で最も高くなっています。

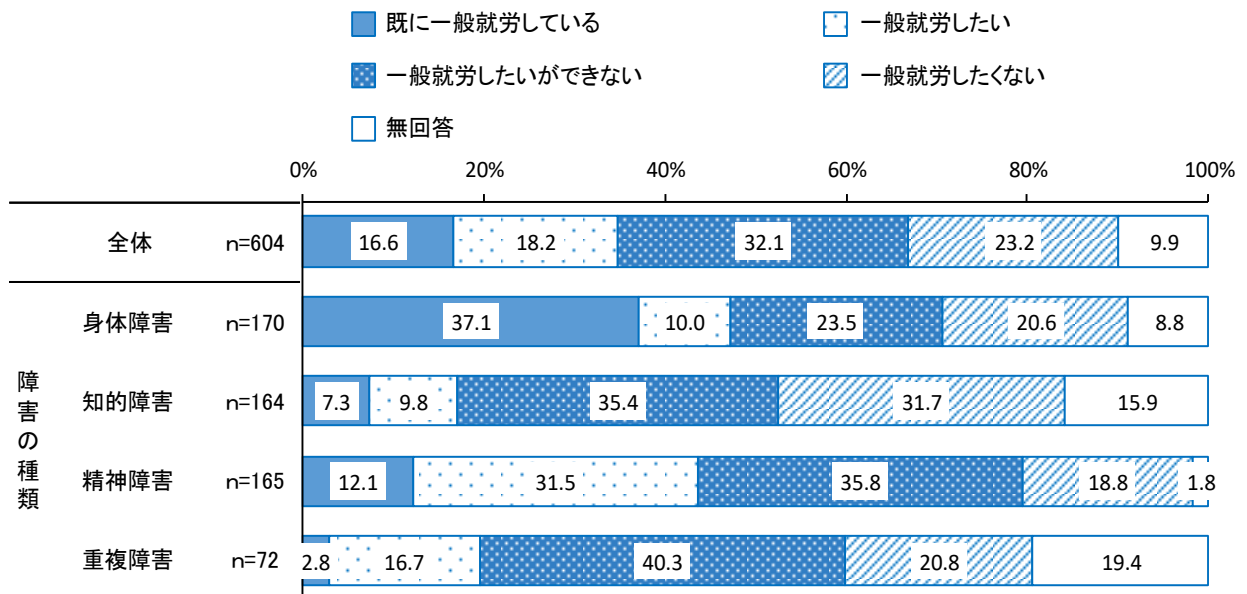


4-11 一般就労の意向

問27は、18～64歳の方にお聞きします。
 問27 あなたは今後、一般就労したいと希望しますか。（〇は1つだけ）

一般就労の意向は、「一般就労したいができない」が32.1%で最も高く、次いで「一般就労したくない」が23.2%となっています。

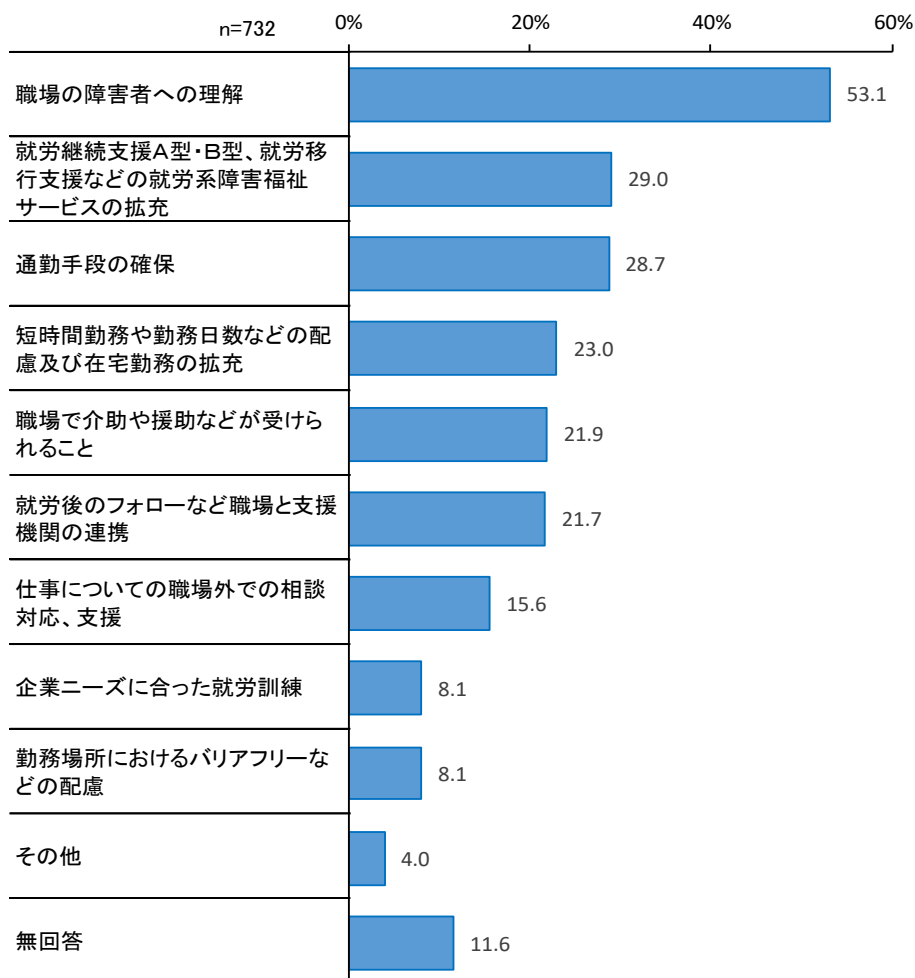
身体障害では、「すでに一般就労している」が37.1%で最も高くなっています。
 知的障害では、「一般就労したいができない」が35.4%で最も高くなっています。
 精神障害では、「一般就労したいができない」が35.8%で最も高くなっています。
 重複障害では、「一般就労したいができない」が40.3%で最も高くなっています。



4-12 障害者の就労支援に必要なこと

問28 あなたは障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

障害者の就労支援に必要なことは、「職場の障害者への理解」が53.1%で最も高く、次いで「就労継続支援A型・B型、就労移行支援などの就労系障害福祉サービスの拡充」が29.0%、「通勤手段の確保」が28.7%となっています。



身体障害では、「職場の障害者への理解」が50.8%で最も高く、次いで「交通手段の確保」が30.9%となっています。

知的障害では、「職場の障害者への理解」が48.1%で最も高く、次いで「就労継続支援A型・B型、就労移行支援などの就労系障害福祉サービスの拡大」が42.4%で高くなっています。

精神障害では、「職場の障害者への理解」が60.0%で最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮及び在宅勤務の拡充」が42.4%で高くなっています。

重複障害では、「職場の障害者への理解」が50.6%で最も高くなっています。

	全 体 (%)	通 勤 手 段 の 確 保	勤 務 場 所 に お け る バ リ ア ー の 配 慮	短 時 間 勤 務 や 在 宅 勤 務 の 日 数 な ど の 配 慮 及 び 在 宅 勤 務 の 拡 充	職 場 の 障 害 者 へ の 理 解	職 場 で 介 助 や 援 助 な ど が 受 け ら れ る こ と	就 労 後 の フ ォ ロ ー な ど 職 場 と 支 援 機 関 の 連 携	企 業 ニ ー ズ に 合 っ た 就 労 訓 練	仕 事 に つ い て の 職 場 外 で の 相 談 対 応 、 支 援	就 労 移 行 支 援 な ど の 就 労 系 障 害 就 労 サ ー ビ ス の 拡 充	そ の 他	無 回 答
全 体	732	28.7	8.1	23.0	53.1	21.9	21.7	8.1	15.6	29.0	4.0	11.6
身 体 障 害	181	30.9	19.3	28.7	50.8	18.8	13.3	6.1	11.0	13.8	5.5	13.3
知 的 障 害	210	25.7	2.9	6.7	48.1	32.9	23.3	7.1	13.3	42.4	1.9	14.3
精 神 障 害	170	32.9	2.9	42.4	60.0	12.4	26.5	7.6	22.4	34.7	3.5	3.5
重 複 障 害	83	27.7	14.5	16.9	50.6	24.1	21.7	8.4	10.8	28.9	6.0	12.0

4-13 情報収集の方法

問29 あなたは、スマートフォン・パソコンなどを使ってインターネット上（SNS含む）から情報を得ることができますか。（〇は1つだけ）

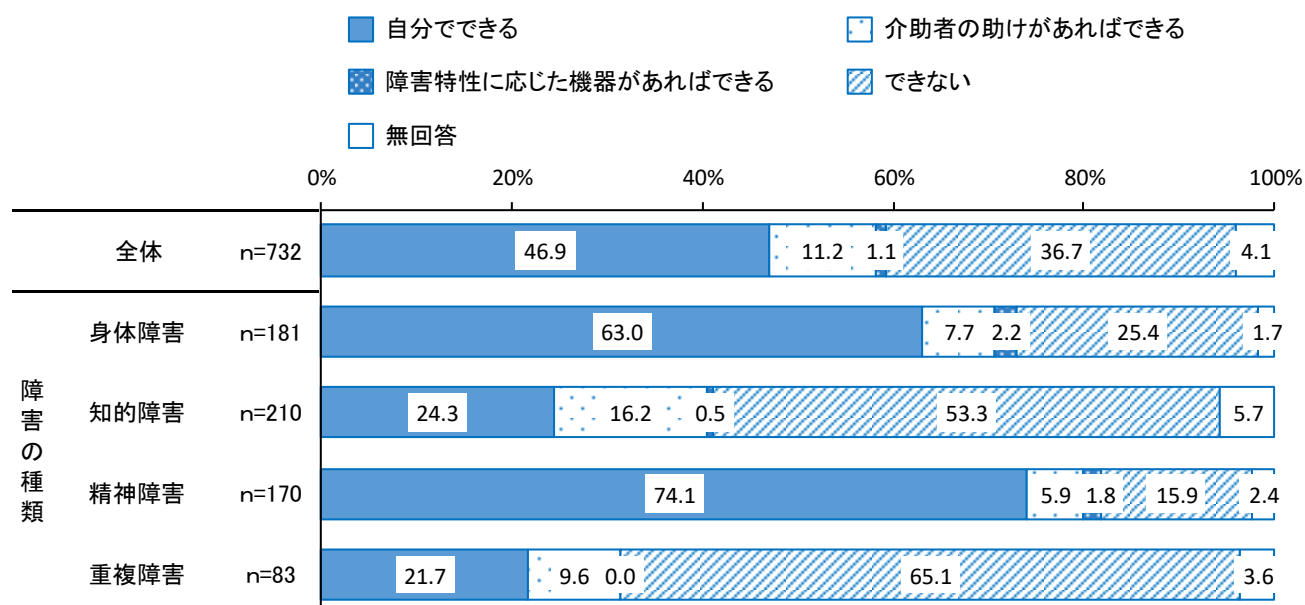
情報収集の方法は、「自分でできる」が46.9%で最も高く、次いで「できない」が36.7%となっています。

身体障害では、「自分でできる」が63.0%で最も高く、次いで「できない」が25.4%となっています。

知的障害では、「できない」が53.3%で最も高く、次いで「自分でできる」が24.3%となっています。

精神障害では、「自分でできる」が74.1%で最も高く、次いで「できない」が15.9%となっています。

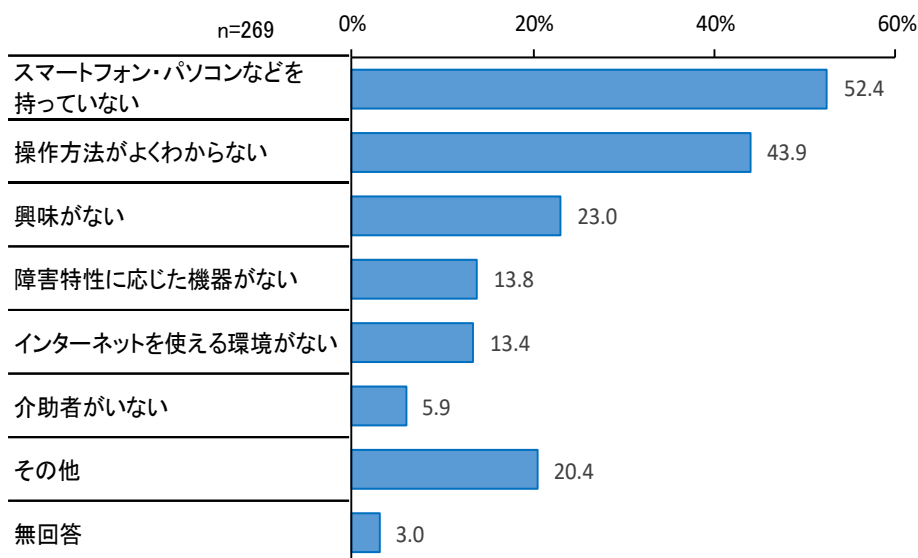
重複障害では、「できない」が65.1%で最も高く、次いで「自分でできる」が21.7%となっています。



4-14 情報を得られない理由

問30は、問29で「4. できない」と答えた方にお聞きします。
 問30 できない理由は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

情報を得られない理由は、「スマートフォン・パソコンなどを持っていない」が52.4%で最も高く、次いで「操作方法がよくわからない」が43.9%、「興味がない」が23.0%となっています。



身体障害では、「スマートフォン・パソコンなどを持っていない」が50.0%で最も高く、次いで「操作方法がよくわからない」が37.0%となっています。

知的障害では、「スマートフォン・パソコンなどを持っていない」が50.9%で最も高く、次いで「操作方法がよくわからない」が50.0%となっています。

重複障害では、「スマートフォン・パソコンなどを持っていない」が55.6%で最も高く、次いで「操作方法がよくわからない」が40.7%となっています。

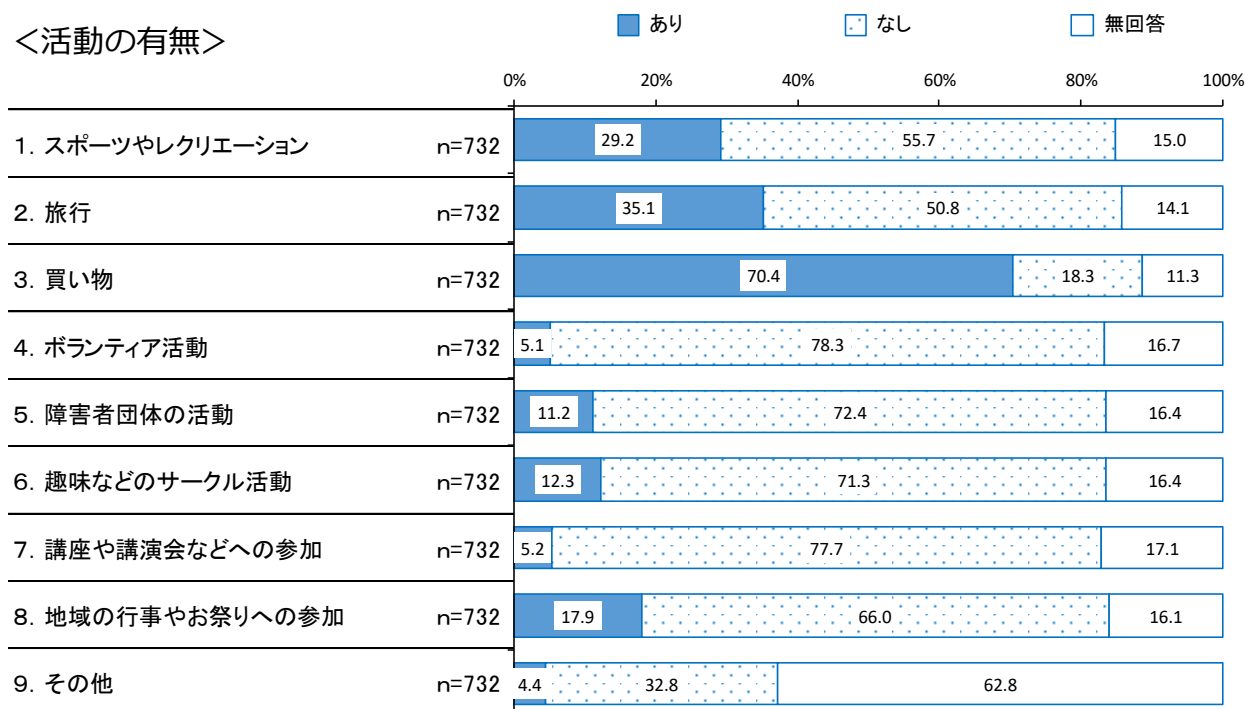
(%)	全 体	介 助 者 が い な い	障 害 特 性 に 応 じ た 機 器 が な い	操 作 方 法 が よ く わ か ら な い	ス マ ー ト フ ォ ン な ど を フ ォ ン ・ パ ソ ン な い	イ ン タ ー ネ ッ ト を 使 え る 環 境 が な い	興 味 が な い	そ の 他	無 回 答
全 体	269	5.9	13.8	43.9	52.4	13.4	23.0	20.4	3.0
身体障害	46	2.2	23.9	37.0	50.0	10.9	21.7	17.4	2.2
知的障害	112	9.8	15.2	50.0	50.9	14.3	29.5	21.4	3.6
精神障害	27	3.7	-	55.6	55.6	29.6	29.6	3.7	-
重複障害	54	5.6	14.8	40.7	55.6	13.0	18.5	27.8	1.9

4-15 余暇活動の有無と今後の希望

問31 あなたは、どのような余暇活動をしていますか。また、今後どのような余暇活動をしていきたいと思いませんか。（1から9のそれぞれについて、「活動の有無」と「今後の希望」の両方（それぞれ0は1つだけ）にお答えください）

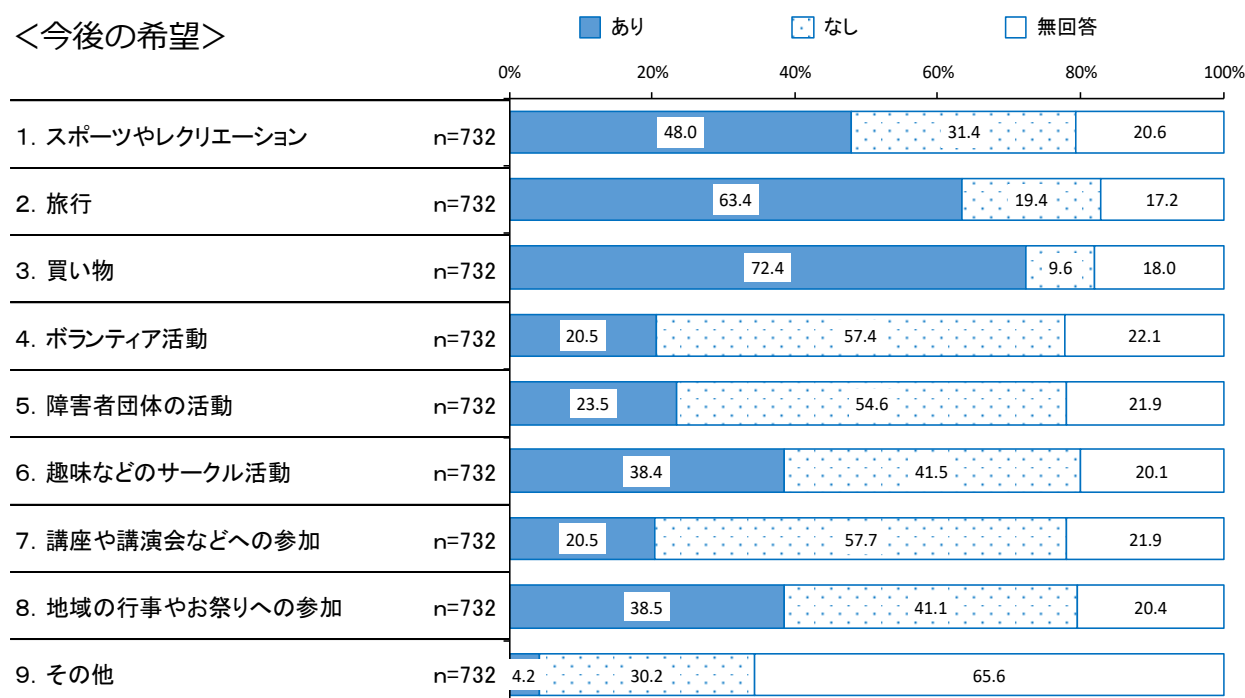
余暇活動の有無は、「3. 買い物」が「あり」（70.4%）で7割以上となっています。

<活動の有無>



余暇活動の今後の希望は、「3. 買い物」が「あり」（72.4%）で7割以上となっています。

<今後の希望>



4-16 余暇活動ができない理由

問32 あなたがしたい余暇活動ができない理由があれば、内容を簡単にお書きください。（自由回答）

No.	余暇活動ができない理由	件数
1	経済的ゆとりがない	27
2	コロナ禍なので機会が無い、控えている	21
3	障害が理由でできない	18
4	介助者がいないと外出できない	18
5	人と関わることに問題がある	9

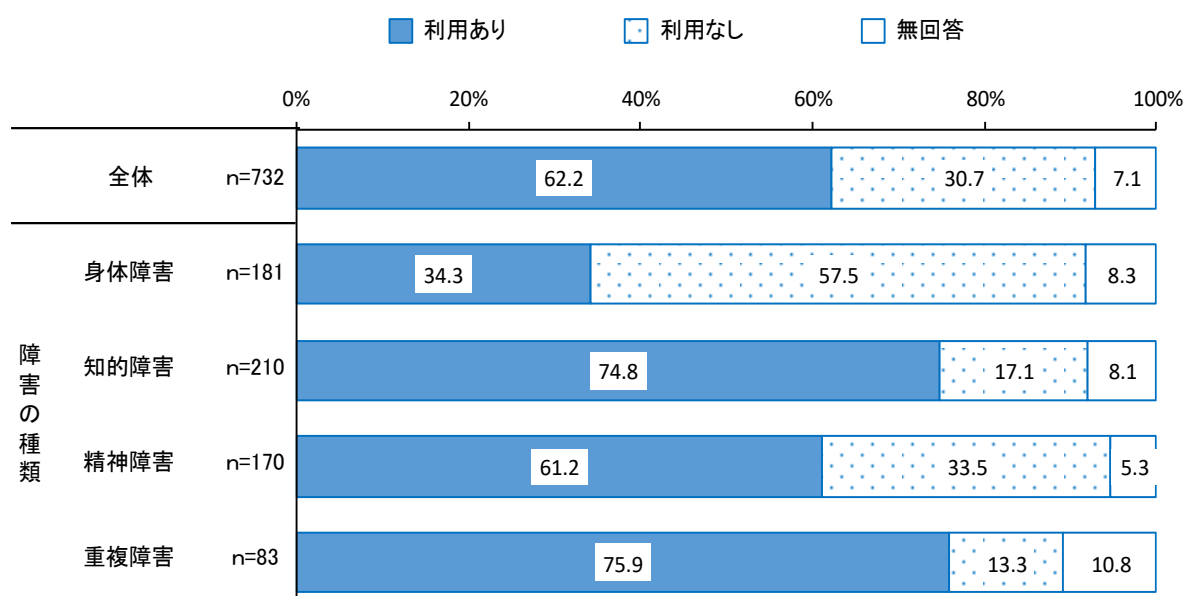
5 障害福祉サービスなどの利用について

5-1 障害福祉サービスなどの利用状況

問33 あなたは障害福祉サービスなどを利用していますか。（〇は1つだけ）

障害福祉サービスなどの利用状況は、「利用あり」が62.2%、「利用なし」が30.7%となっています。

障害福祉サービスなどの「利用あり」の割合は、身体障害では34.3%、知的障害では74.8%、精神障害では61.2%、重複障害では75.9%となっています。



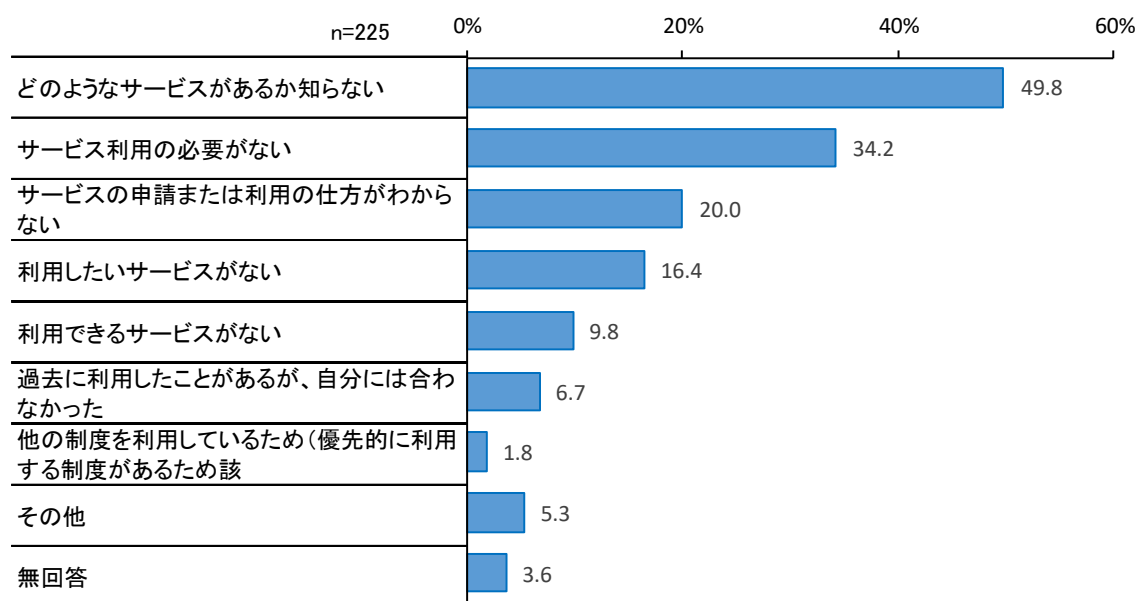
5-2 障害福祉サービスなどを利用していない理由

問34は、問33で「2. 利用なし」と答えた方にお聞きします。

問34 障害福祉サービスなどを利用していないのはなぜですか。

(あてはまものすべてに○)

障害福祉サービスなどを利用していない理由は、「どのようなサービスがあるか知らない」が49.8%で最も高く、次いで「サービス利用の必要がない」が34.2%、「サービスの申請または利用の仕方がわからない」が20.0%となっています。



身体障害では、「どのようなサービスがあるか知らない」が49.0%で最も高く、次いで「サービス利用の必要がない」が45.2%となっています。

知的障害では、「どのようなサービスがあるか知らない」が50.0%で最も高く、次いで「サービスの申請または利用の仕方がわからない」「サービス利用の必要がない」がそれぞれ27.8%となっています。

精神障害では、「どのようなサービスがあるか知らない」が54.4%で最も高く、次いで「サービスの申請または利用の仕方がわからない」が29.8%となっています。

	全 体	利 用 し た い サ ー ビ ス が な い	か ど の よ う な サ ー ビ ス が あ る	利 用 で き る サ ー ビ ス が な い	の サ ー ビ ス の 申 請 ま た は 利 用 の 仕 方 が わ か ら な い	サ ー ビ ス 利 用 の 必 要 が な い	が あ る た め の 制 度 を 利 用 し て い る た だ し 、 優 先 的 に 利 用 し な い 制 度 も あ る た め に 該 当 し な い ）	他 の 制 度 を 利 用 し て い る た だ し 、 過 去 に 利 用 し た こ と が あ る が 、 自 分 に は 合 わ な か つ た る	そ の 他	無 回 答
(%)										
全 体	225	16.4	49.8	9.8	20.0	34.2	1.8	6.7	5.3	3.6
身体障害	104	15.4	49.0	10.6	15.4	45.2	1.9	1.9	1.0	2.9
知的障害	36	13.9	50.0	8.3	27.8	27.8	2.8	13.9	2.8	5.6
精神障害	57	22.8	54.4	8.8	29.8	21.1	1.8	7.0	10.5	3.5
重複障害	11	18.2	63.6	18.2	9.1	9.1	-	27.3	9.1	9.1

5-3 障害支援区分認定の状況

問35、問36は問33で「1. 利用あり」と答えた方にお聞きします。
 問35 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。（〇は1つだけ）

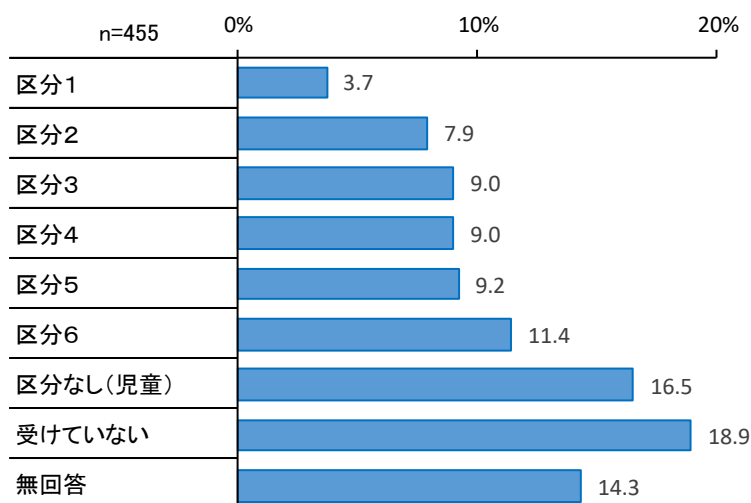
障害支援区分の認定状況は、「受けていない」が18.9%で最も高く、次いで「区分なし（児童）」が16.5%となっています。

身体障害では、「区分6」が25.8%で最も高くなっています。

知的障害では、「区分なし（児童）」が15.9%で最も高くなっています。

精神障害では、「受けていない」が38.5%で最も高くなっています。

重複障害では、「区分6」が31.7%で最も高くなっています。

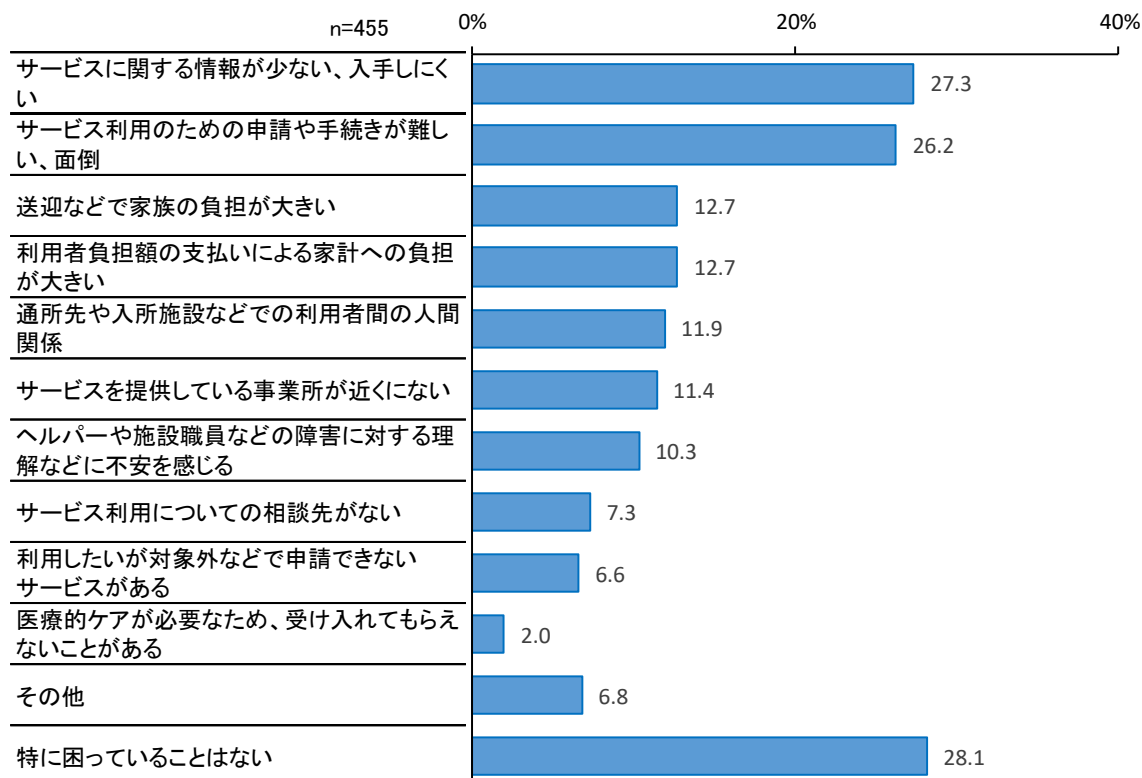


	全 体	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	区 分 な し (児 童)	受 け て い な い	無 回 答
(%)										
全 体	455	3.7	7.9	9.0	9.0	9.2	11.4	16.5	18.9	14.3
身体障害	62	6.5	6.5	6.5	9.7	6.5	25.8	3.2	19.4	16.1
知的障害	157	5.1	9.6	9.6	14.0	17.2	8.9	15.9	4.5	15.3
精神障害	104	3.8	11.5	17.3	4.8	-	-	2.9	38.5	21.2
重複障害	63	1.6	1.6	4.8	9.5	17.5	31.7	9.5	15.9	7.9

5-4 サービスの利用で困っていること

問36 サービスの利用で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

サービスの利用で困っていることは、「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」が27.3%で最も高く、次いで「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」が26.2%となっています。また、「特に困っていることはない」は28.1%となっています。



精神障害では、「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」が33.7%で最も高くなっています。

(%)	全 体	サー ビス に 関 する 情 報 が 少 ない、 入 手 し に く い	サー ビス 利 用 に つ い て の 相 談 先 が な い	サー ビス 利 用 の た め の 申 請 や 手 続 き が 難 し い、 面 倒	サー ビス を 提 供 し て い る 事 業 所 が 近 く に な い	申 請 し た い が 対 象 外 な ど で あ ら な い	受 け 入 れ て も ら え な い こ と が あ る	医 療 的 ケ ア が 必 要 な た め、 送 迎 な ど で 家 族 の 負 担 が 大 き い	利 用 者 負 担 額 の 支 払 い に よ る 家 計 へ の 負 担 が 大 き い
全 体	455	27.3	7.3	26.2	11.4	6.6	2.0	12.7	12.7
身体障害	62	24.2	11.3	24.2	12.9	4.8	3.2	3.2	11.3
知的障害	157	27.4	7.0	19.7	10.2	5.7	1.3	14.6	14.0
精神障害	104	30.8	9.6	33.7	11.5	7.7	1.0	9.6	12.5
重複障害	63	17.5	3.2	25.4	11.1	9.5	4.8	17.5	9.5

(%)	全 体	利 用 者 間 の 人 間 関 係 な ど で の 通 所 先 や 入 所 施 設 な ど の 不 安 を 感 じ る	障 害 に 対 す る 理 解 な ど の 不 安 を 感 じ る	ヘル パー や 施 設 職 員 な ど の 理 解 な ど の 不 安 を 感 じ る	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は な い	無 回 答
全 体	455	11.9	10.3	6.8	28.1	8.4	
身体障害	62	6.5	9.7	8.1	30.6	9.7	
知的障害	157	12.1	10.2	5.7	28.7	10.8	
精神障害	104	16.3	10.6	7.7	21.2	7.7	
重複障害	63	11.1	12.7	4.8	38.1	3.2	

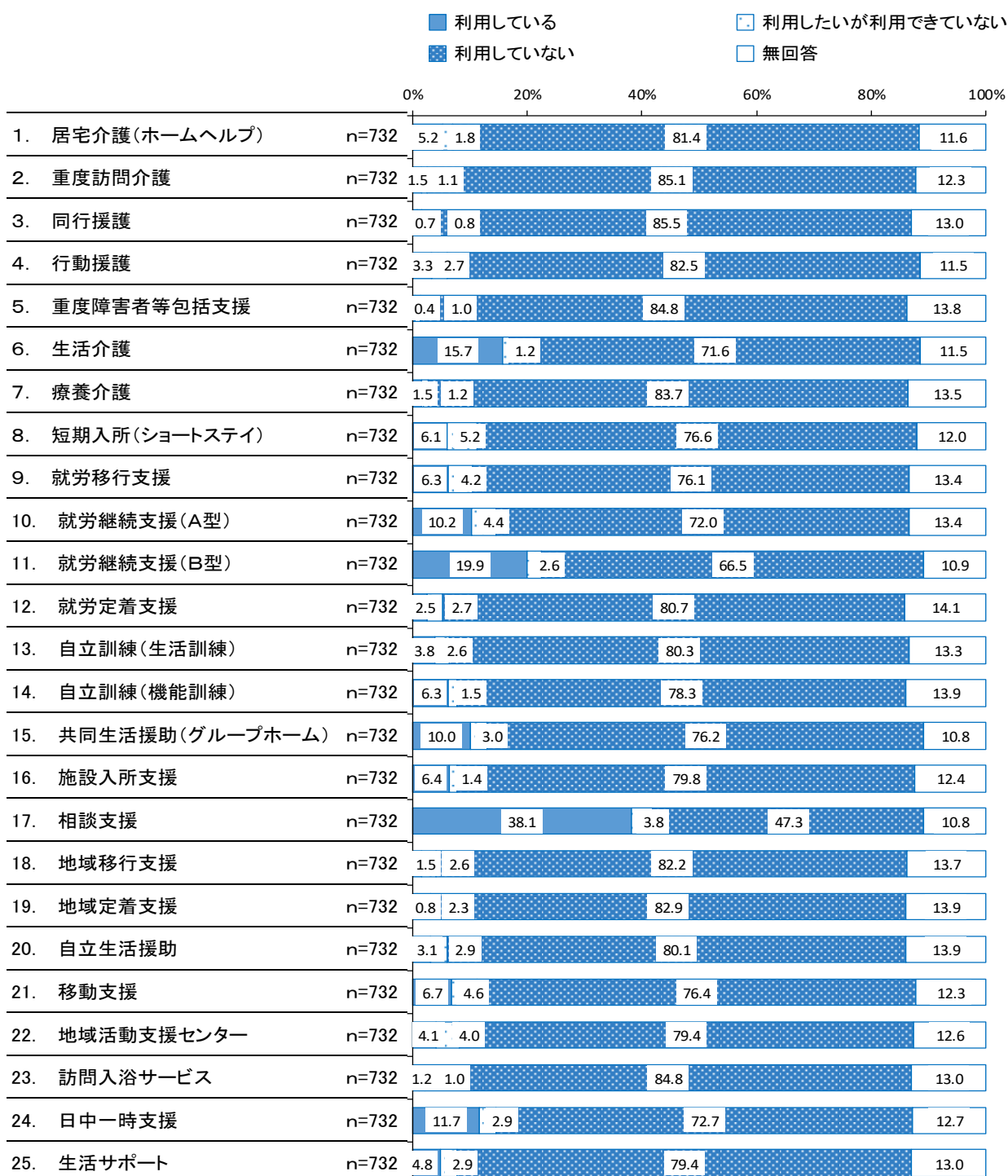
5-5 サービスの利用状況、利用意向

問37 現在、あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後3年間の間に利用したいと考えますか。（1から30のそれぞれについて、「現在の利用状況」（番号に○）と「今後の利用意向」（利用したい場合に○）の両方にお答えください）

【利用状況（全体）】

サービスの利用状況を見ると、「利用している」は、「17. 相談支援」が38.1%で最も高くなっています。

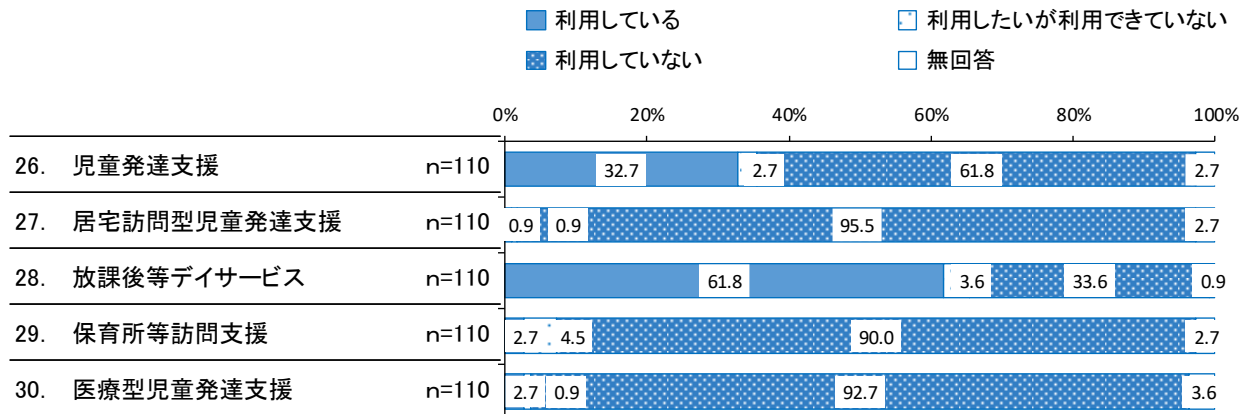
「利用したいが利用できていない」は、「8. 短期入所（ショートステイ）」が5.2%となっています。



【利用状況（18歳未満）】

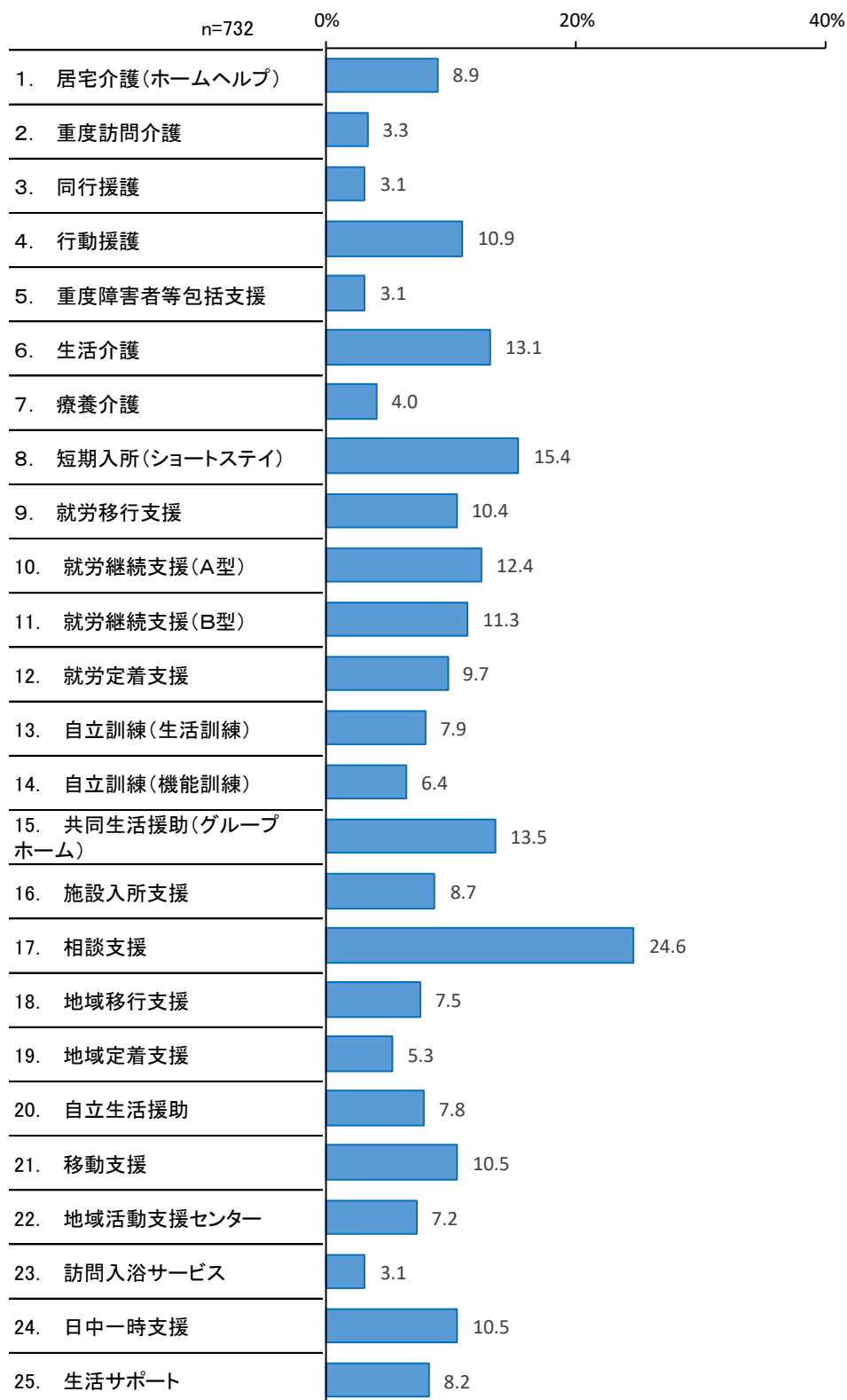
サービスの利用状況を見ると、「利用している」は、「28. 放課後等デイサービス」が61.8%で最も高くなっています。

「利用したいができない」は、「29. 保育所等訪問支援」が4.5%となっています。



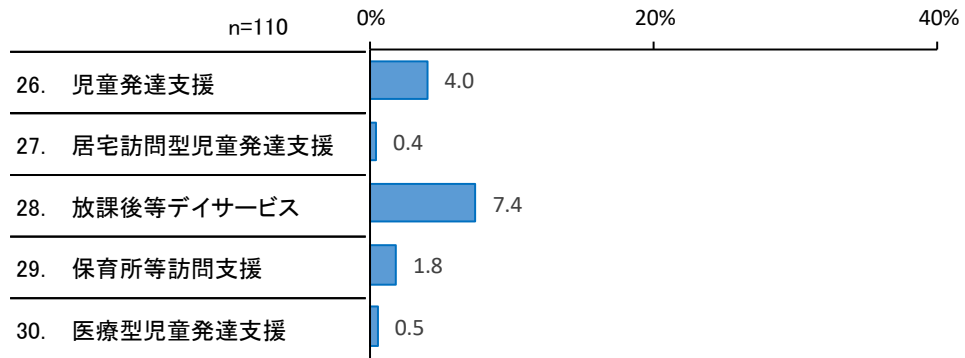
【利用意向（全体）】

利用意向は、「17. 相談支援」が24.6%で最も高く、次いで「8. 短期入所（ショートステイ）」が15.4%、「15. 共同生活援助（グループホーム）」が13.5%、「6. 生活介護」が13.1%となっています。



【利用意向（18歳未満）】

利用意向は、「28. 放課後等デイサービス」が7.4%で最も高くなっています。



5-6 利用したいが利用できていない理由

問38 問37の「現在の利用状況」の項目で、あなたが「2. 利用したいが利用できていない」と答えた理由について記入してください。（自由回答）

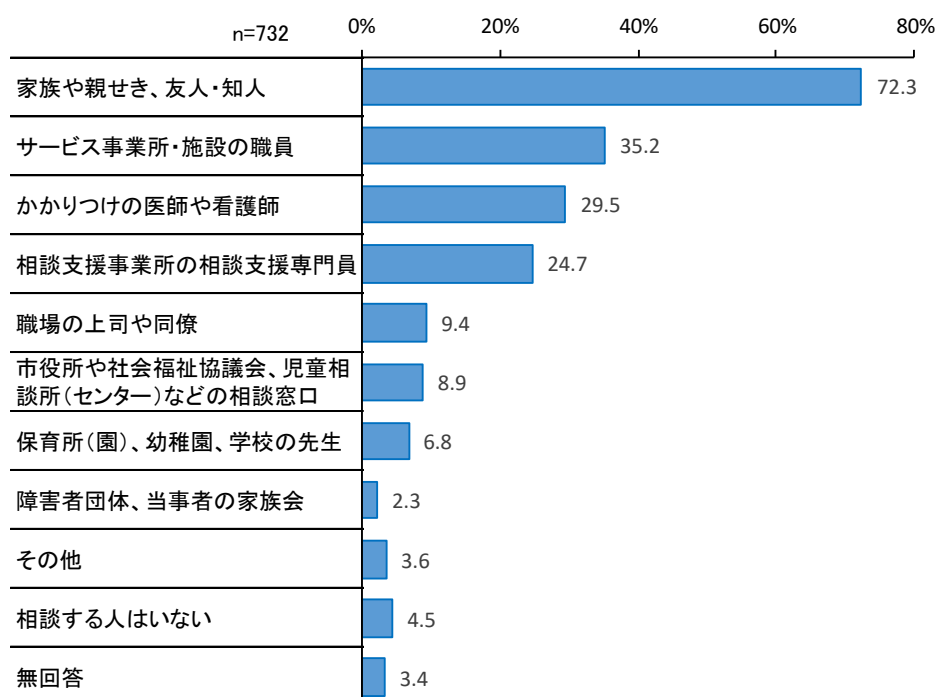
No.	利用したいが利用できていない理由	件数
1	利用サービス、利用の仕方を知らない	9
4	今は必要ない	5
3	近くにない	3
5	就労に耐えうる状態ではない	3
2	相談先が分からない	2

6 相談支援について

6-1 悩みや困ったことの相談相手

問39 あなたは普段、悩みや困ったことを誰に相談することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことの相談相手は、「家族や親せき、友人・知人」が72.3%で最も高く、次いで「サービス事業所・施設の職員」が35.2%、「かかりつけの医師や看護師」が29.5%、「相談支援事業所の相談支援専門員」が24.7%となっています。また、「相談する人はいない」は4.5%となっています。



身体障害では、「家族や親せき、友人・知人」が79.6%で最も高く、次いで「かかりつけの医師や看護師」が26.5%となっています。

知的障害では、「家族や親せき、友人・知人」が64.3%で最も高く、次いで「サービス事業所・施設の職員」が49.5%となっています。

精神障害では、「家族や親せき、友人・知人」が71.8%で最も高く、次いで「かかりつけの医師や看護師」が48.8%となっています。

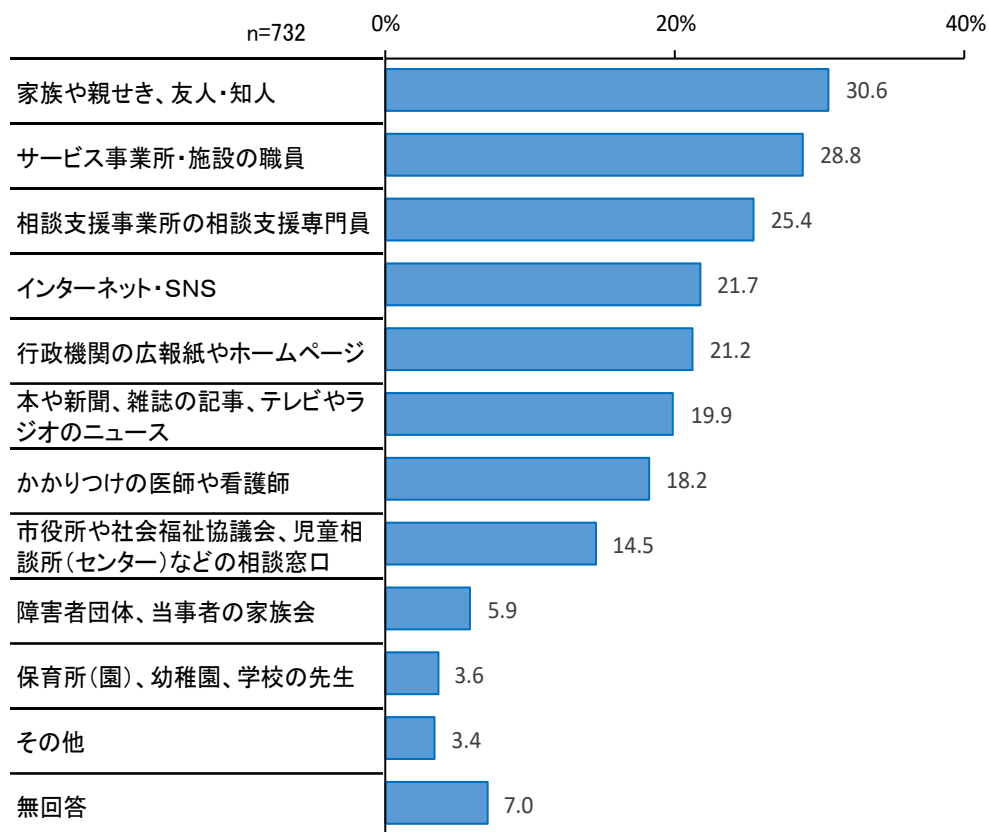
重複障害では、「家族や親せき、友人・知人」が67.5%で最も高く、次いで「サービス事業所・施設の職員」が47.0%となっています。

	全 体 (%)	知 家 人 族 や 親 せ き 、 友 人 ・	職 場 の 上 司 や 同 僚	の サ ー ビ ス 事 業 所 ・ 施 設	支 相 援 専 門 員 支 援 事 業 所 の 相 談	護 か り つ け の 医 師 や 看 護 師	園 保 育 所 (学 校 の 先 生 、 幼 稚	会 、 市 役 所 や 社 会 福 祉 協 議 会 、 児 童 相 談 所 (セ ン ター)などの 相 談 窓 口	家 障 害 者 団 体 、 当 事 者 の 家 族 会	そ の 他	相 談 す る 人 は い な い	無 回 答
全 体	732	72.3	9.4	35.2	24.7	29.5	6.8	8.9	2.3	3.6	4.5	3.4
身体障害	181	79.6	11.6	16.0	9.4	26.5	1.1	5.0	0.6	3.9	6.1	3.3
知的障害	210	64.3	4.8	49.5	30.5	20.0	9.5	8.6	2.9	4.3	3.3	5.7
精神障害	170	71.8	14.1	28.8	34.7	48.8	1.8	12.9	4.1	3.5	4.7	2.4
重複障害	83	67.5	8.4	47.0	20.5	21.7	3.6	6.0	2.4	2.4	6.0	1.2

6-2 障害や福祉のサービスなどに関する情報源

問40 あなたは障害のことや福祉のサービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

障害や福祉のサービスなどに関する情報源は、「家族や親せき、友人・知人」が30.6%で最も高く、次いで「サービス事業所・施設の職員」が28.8%、「相談支援事業所の相談支援専門員」が25.4%となっています。



身体障害では、「本や新聞、雑誌の記事・テレビやラジオのニュース」「家族や親せき、友人・知人」がそれぞれ29.3%と最も高く、次いで「インターネット・SNS」が28.7%となっています。

知的障害では、「サービス事業所の人や施設職員」が45.2%で最も高く、次いで「相談支援事業所の相談支援専門員」が33.3%となっています。

精神障害では、「かかりつけの医師や看護師」が30.6%で最も高く、次いで「インターネット・SNS」「相談支援事業所の相談支援専門員」がそれぞれ28.8%となっています。

重複障害では、「サービス事業所・施設の職員」が34.9%で最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が33.7%となっています。

(%)	全 体	ニ ユ ー ス	事 、 本 や 新 聞 、 雑 誌 の 記 事	ホ ー ム ペ ー ジ	行 政 機 関 の 広 報 紙 や	S イ ン タ ー ネ ッ ト ・ S N	知 家 族 や 親 せ き 、 友 人 ・	の サ ー ビ ス 事 業 所 ・ 施 設 の 職 員	支 相 談 支 援 事 業 所 の 相 談 支 援 専 門 員
全 体	732	19.9	21.2	21.7	30.6	28.8	25.4		
身体障害	181	29.3	28.2	28.7	29.3	12.2	10.5		
知的障害	210	11.4	15.2	10.0	30.0	45.2	33.3		
精神障害	170	22.9	25.9	28.8	28.2	22.9	28.8		
重複障害	83	18.1	15.7	10.8	33.7	34.9	27.7		

(%)	全 体	護 か か り つ け の 医 師 や 看 護 師	園 、 保 育 所 （ 園 ） 、 幼 稚 園 の 先 生	タ ー ゲ ッ ト （ 児 童 の 相 談 窓 口 ）	市 役 所 や 社 会 福 祉 協 議 会	家 族 会 、 障 害 者 団 体 、 当 事 者 の	そ の 他	無 回 答
全 体	732	18.2	3.6	14.5	5.9	3.4	7.0	
身体障害	181	21.0	0.6	10.5	2.8	3.9	7.2	
知的障害	210	9.0	4.3	14.8	11.4	2.4	10.0	
精神障害	170	30.6	2.4	19.4	3.5	2.9	5.3	
重複障害	83	10.8	3.6	13.3	7.2	3.6	6.0	

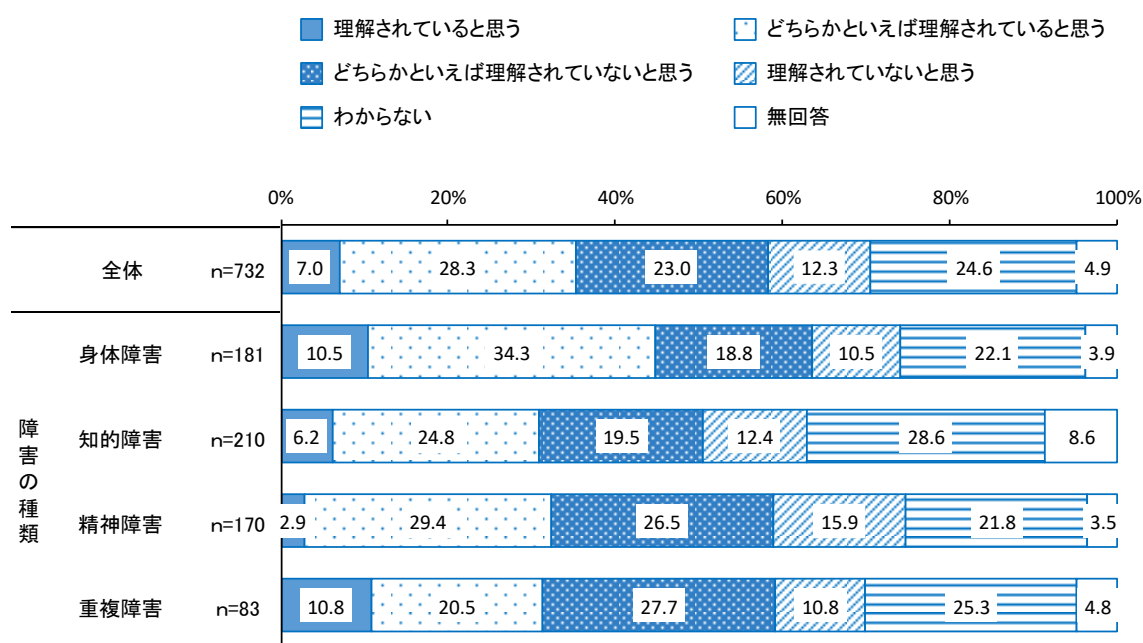
7 権利擁護について

7-1 障害がある人に対する社会の理解

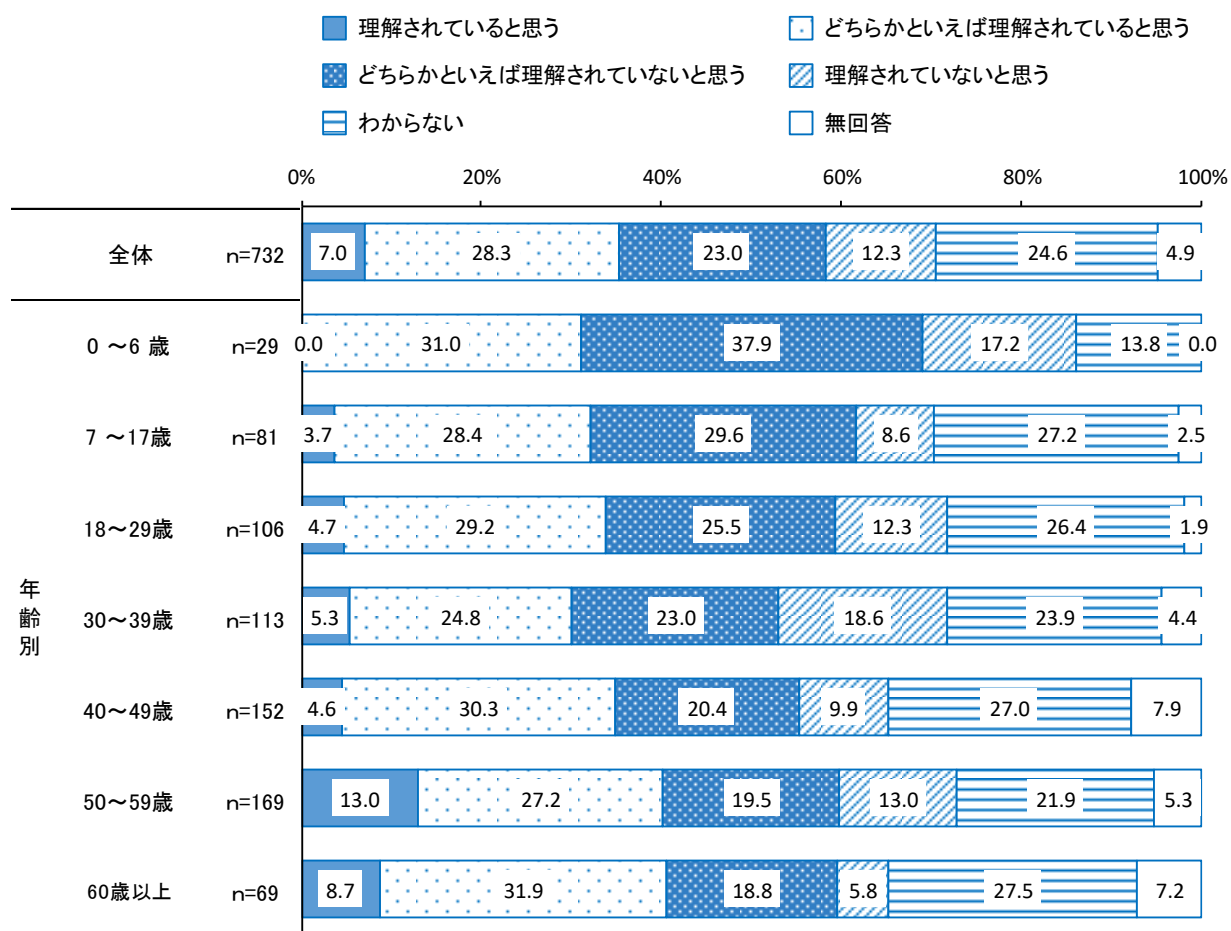
問41 あなたは日常生活の中で、障害のある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（〇は1つだけ）

障害がある人に対する社会の理解は、「理解されていると思う」が7.0%、「どちらかといえは理解されていると思う」が28.3%で、これらをあわせた『理解されている』は35.3%となっています。一方、「どちらかといえは理解されていないと思う」が23.0%、「理解されていないと思う」が12.3%で、これらを合わせた『理解されていない』は35.3%となっています。

『理解されている』の割合は、身体障害では44.8%、知的障害では31.0%、精神障害では32.3%、重複障害では31.3%となっています。



年齢別でみると、『理解されている』の割合は60歳以上が40.6%で最も高くなっています。



7-2 障害のある人に対する社会の理解がされていないと感じること

【問42は、問41で「3. どちらかといえば理解されていないと思う」「4. 理解されていないと思う」と答えた方にお聞きします。】

問42 障害のある人に対する社会の理解がされていないと感じることがありましたら、お書きください。（自由回答）

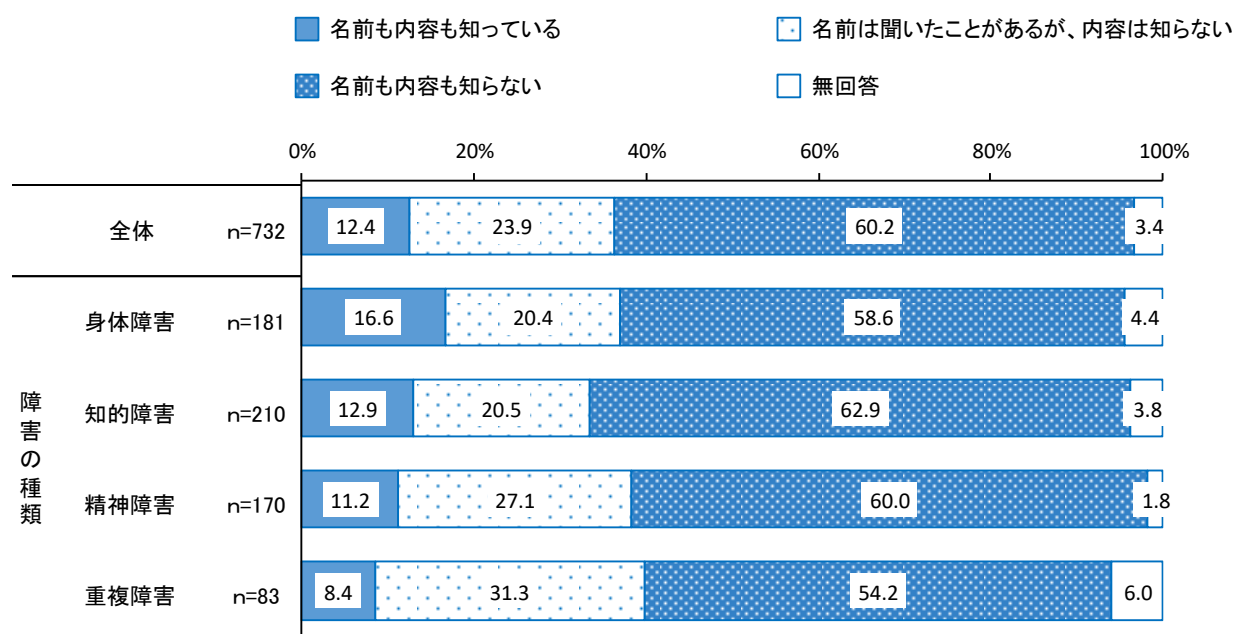
No.	障害のある人に対する社会の理解がされていないと感じること	件数
1	外見からわからない障害では見た目で判断され理解されない	12
2	好奇の目で見られる	7
3	当事者や身内に障害者がいる人でないと理解は難しい	5
4	差別、偏見、いじめ	5
5	障害を理由に採用されない、解雇される、就業先も少ない	4

7-3 障害者差別解消法の認知度

問43 障害者差別解消法について知っていますか。(〇は1つだけ)

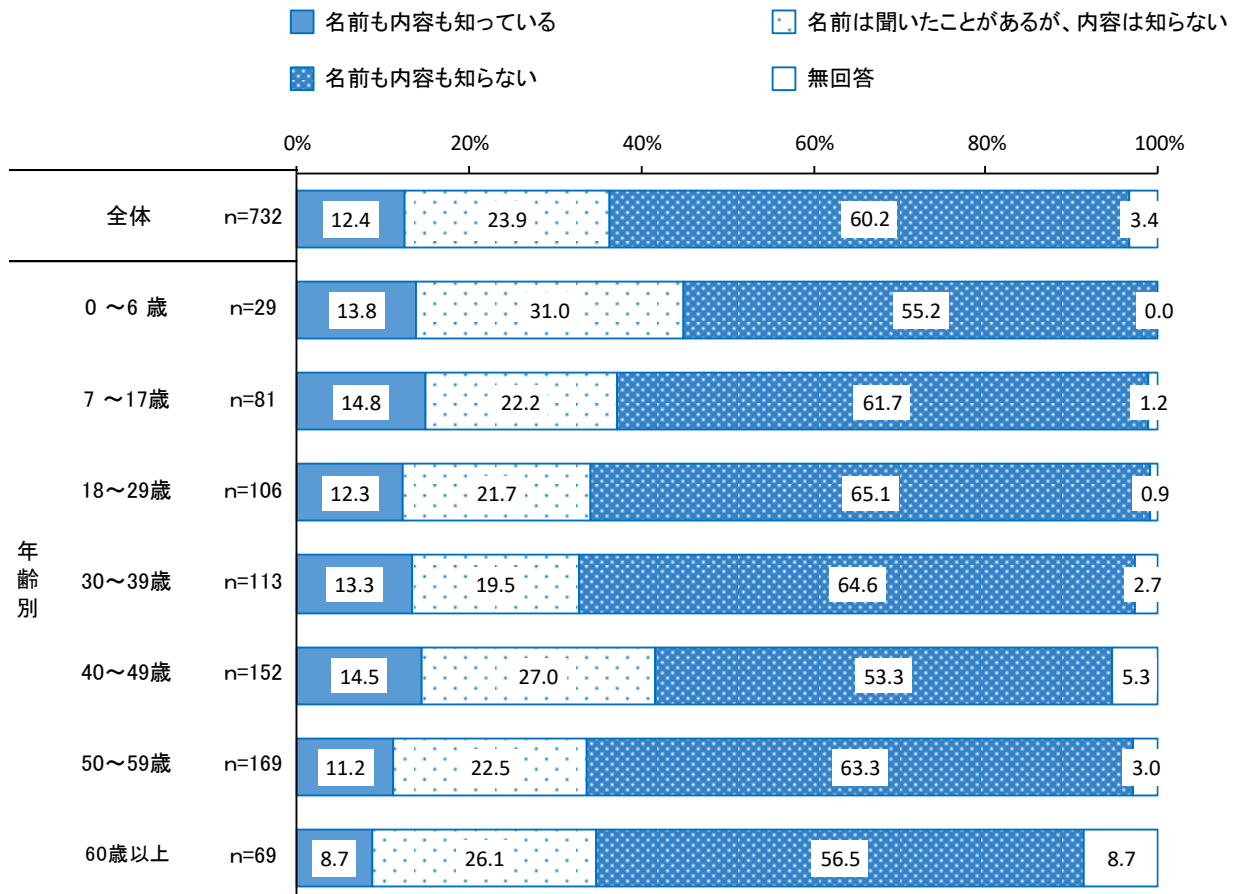
障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」が12.4%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が23.9%で、これらをあわせた認知度は36.3%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は60.2%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では37.0%、知的障害では33.4%、精神障害では38.3%、重複障害では39.7%となっています。



※障害者差別解消法は、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。障害者差別解消法では、「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮をしないこと」が、差別になります。

年齢別で見ると、認知度は40～49歳が41.5%となっています。一方、「名前も内容も知らない」の割合は18～29歳が65.1%となっています。

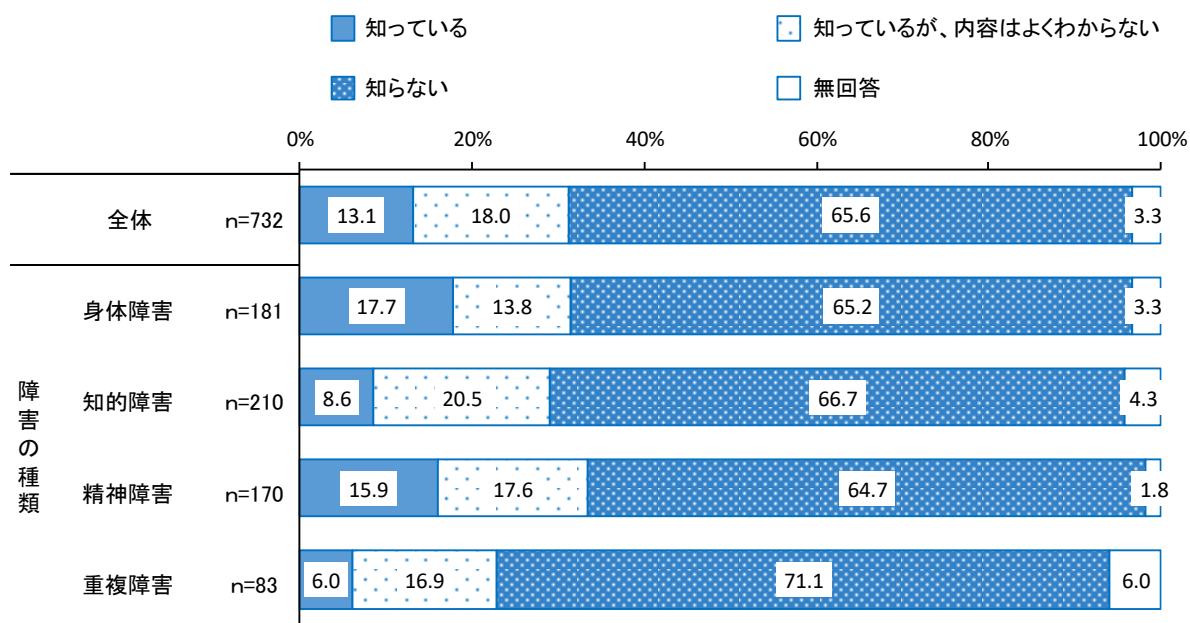


7-4 合理的配慮の認知度

問44 障害のある人に対する「合理的配慮」について、知っていますか。
(〇は1つだけ)

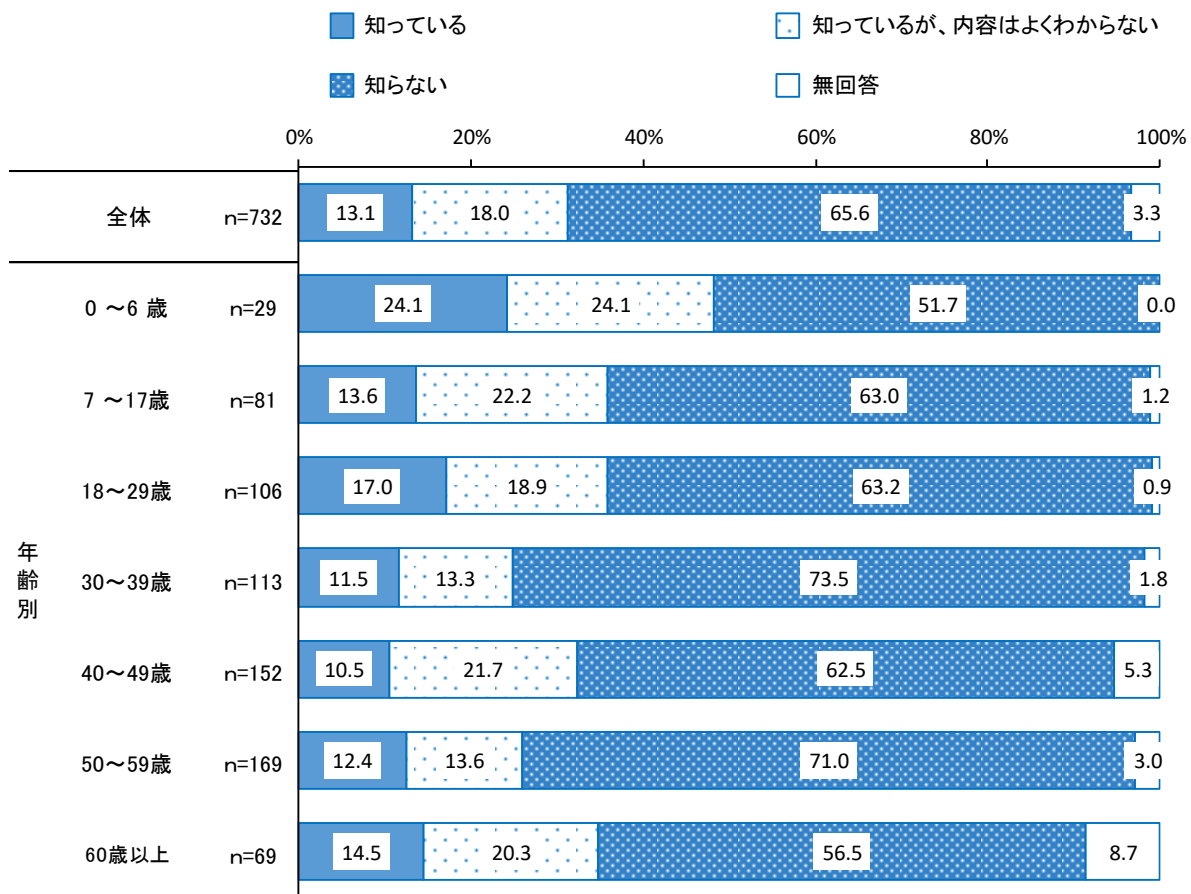
合理的配慮の認知度は、「知っている」が13.1%、「知っているが、内容はよくわからない」が18.0%で、これらをあわせた認知度は31.1%となっています。一方、「知らない」は65.6%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では31.5%、知的障害では29.1%、精神障害では33.5%、重複障害では22.9%となっています。



※合理的配慮は、障害のある人から、社会の中にある障壁を取り除くために何らかの対応を必要とするとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することが求められるものです。

年齢別で見ると、認知度は18～29歳が35.9%となっています。一方、「知らない」の割合は、30～39歳が73.5%となっています。

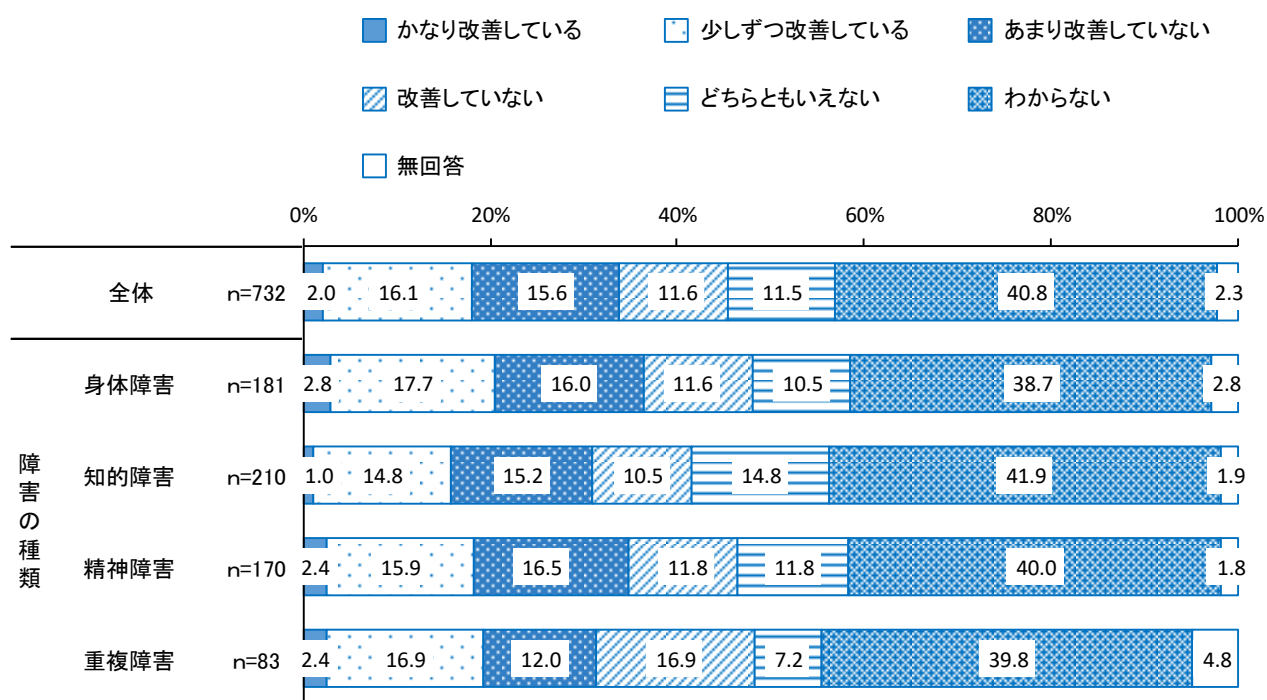


7-5 障害のある人に対する差別や偏見の改善

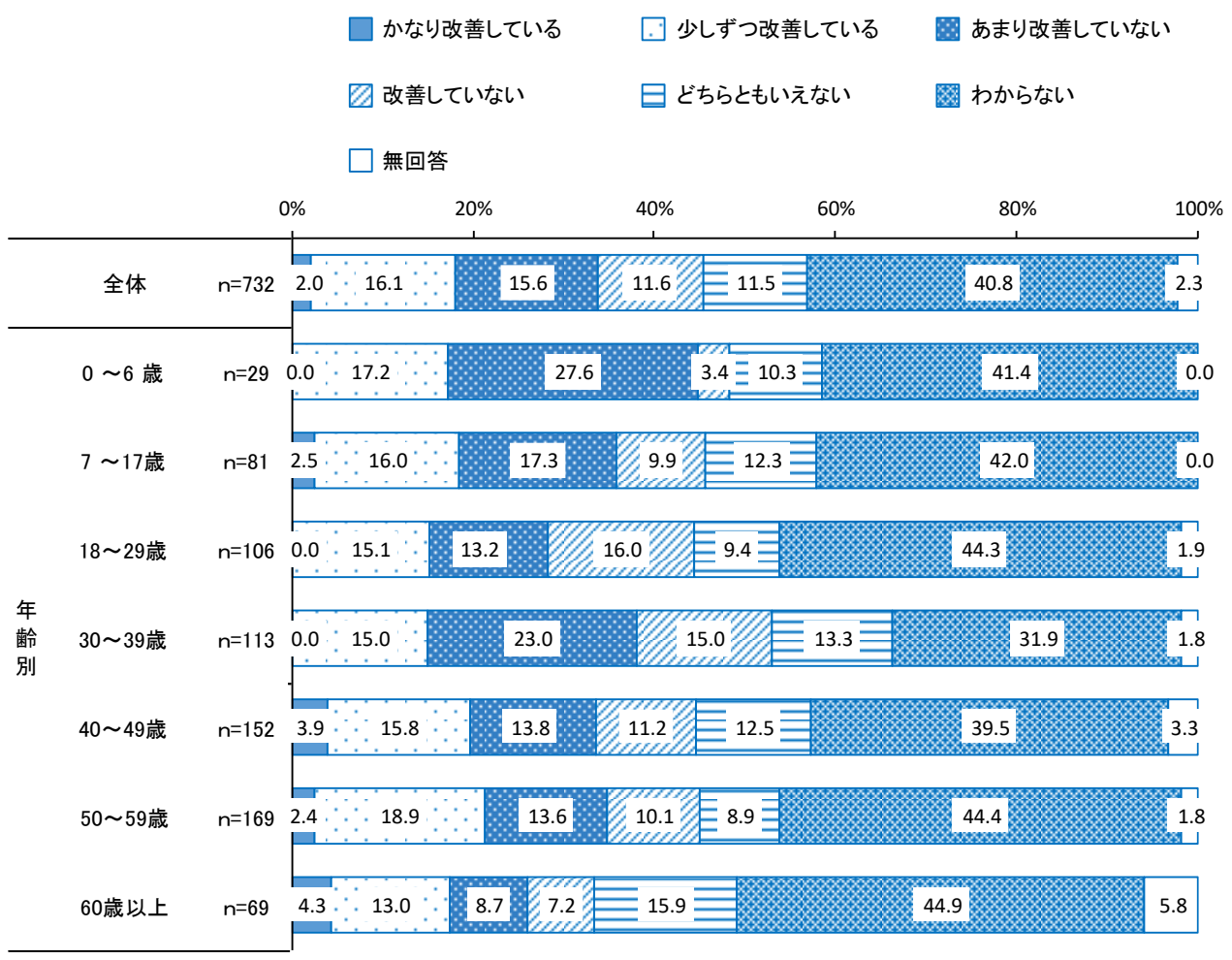
問45 あなたは、障害者差別解消法が施行された頃（約5年前）と比較して、障害のある人に対する差別や偏見は改善していると思いますか。（〇は1つだけ）

障害のある人に対する差別や偏見の改善は、「かなり改善している」が2.0%、「少しずつ改善している」が16.1%で、これらをあわせた『改善している』は18.1%となっています。一方、「あまり改善していない」が15.6%、「改善していない」が11.6%で、これらをあわせた『改善していない』は27.2%となっています。

『改善している』の割合は、身体障害では20.5%、知的障害では15.8%、精神障害では18.3%、重複障害では19.3%となっています。



年齢別でみると、『改善している』の割合は50～59歳が21.3%となっています。一方、『改善していない』の割合は30～39歳が38.0%となっています。

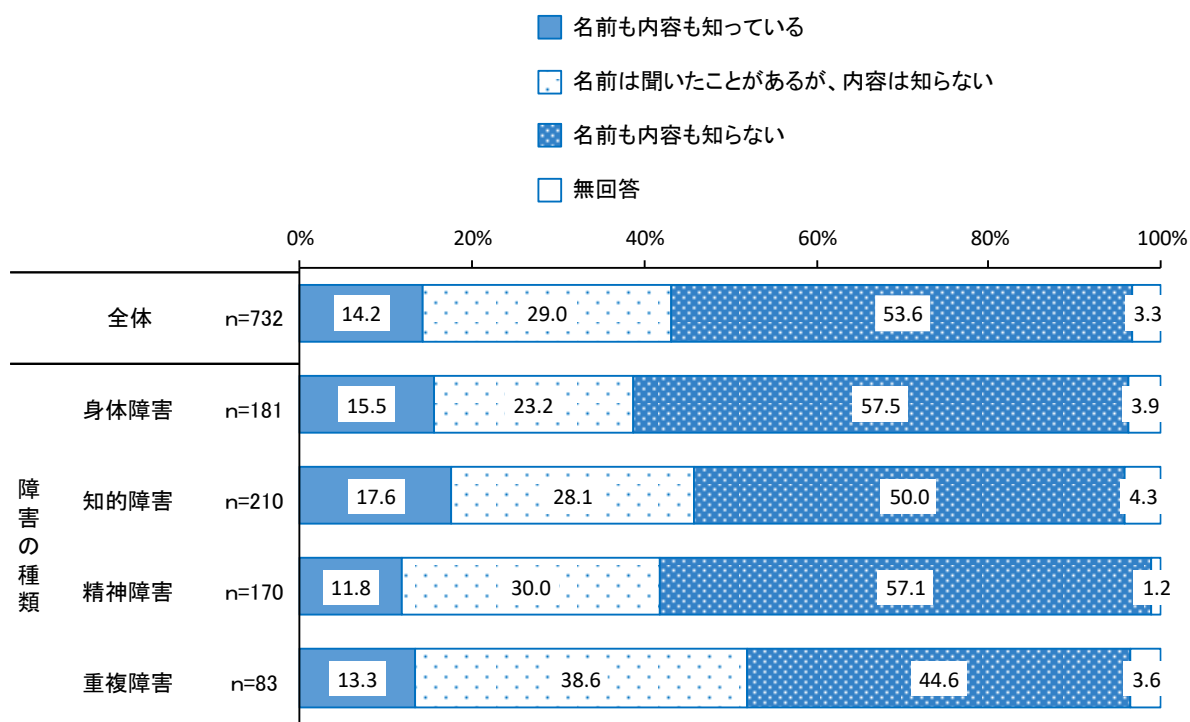


7-6 障害者虐待防止法の認知度

問46 障害者虐待防止法について知っていますか。(〇は1つだけ)

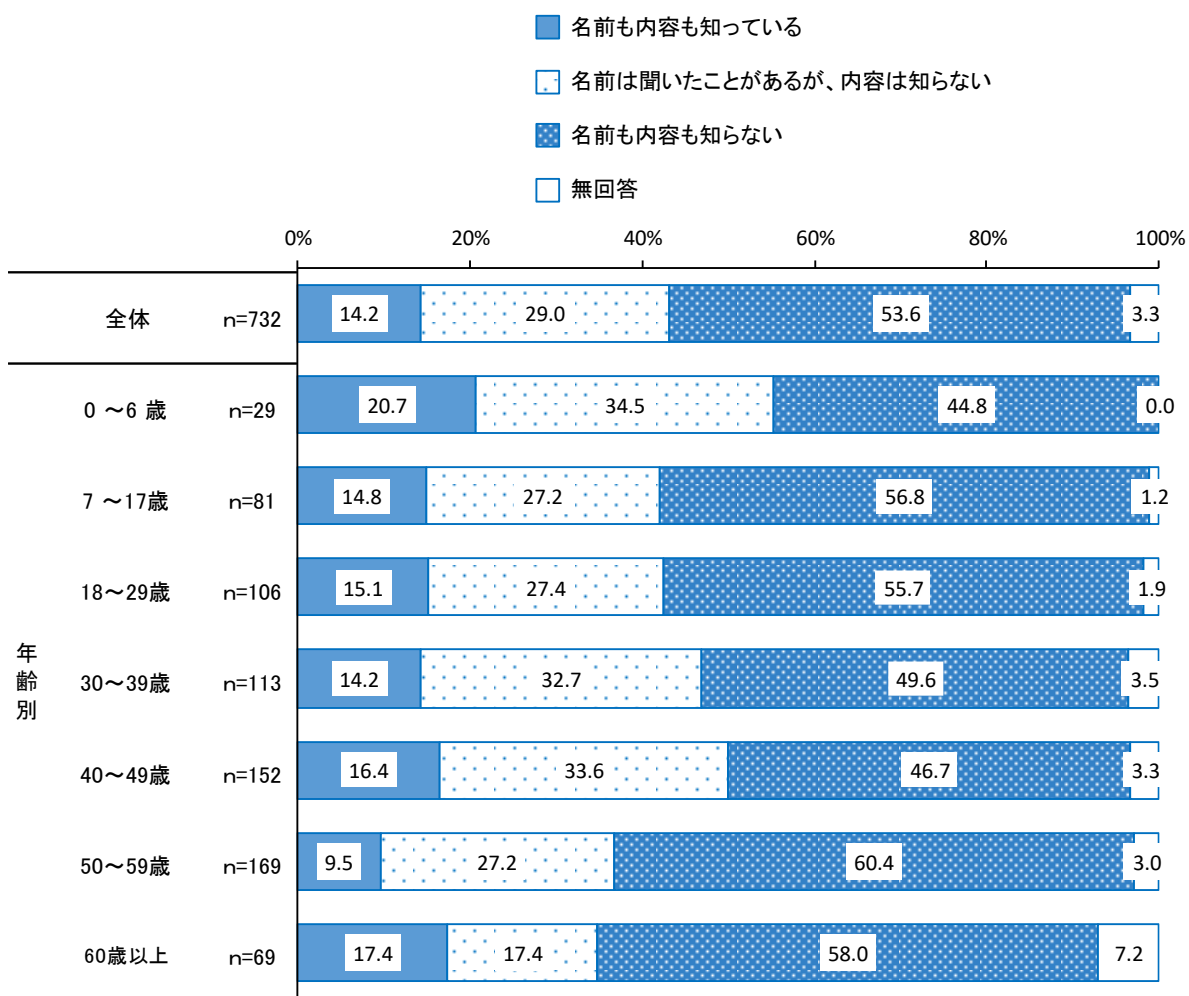
障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」が14.2%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.0%で、これらをあわせた認知度は43.2%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は53.6%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では38.7%、知的障害では45.7%、精神障害では41.8%、重複障害では51.9%となっています。



※障害者虐待防止法は、国や地方公共団体、障害者福祉施設従事者、使用者などに障害者虐待の防止などのための責務を課すとともに、障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者に対する通報義務を課しています。

年齢別で見ると、認知度は40～49歳が50.0%となっています。一方、「知らない」の割合は50～59歳が60.4%となっています。

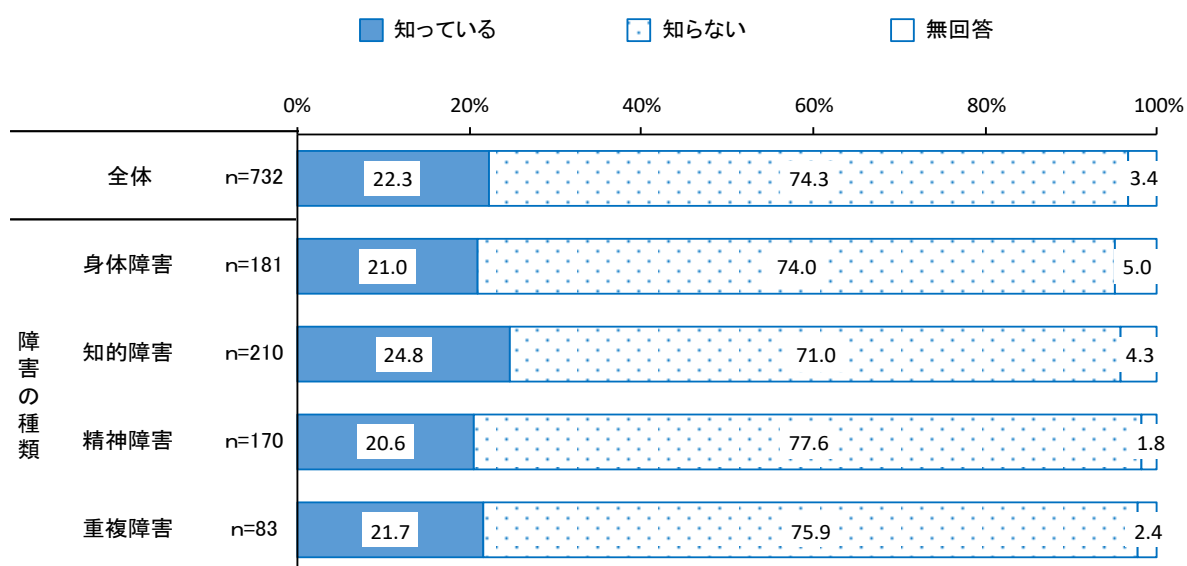


7-7 虐待を受けたと思われる場合の通報義務

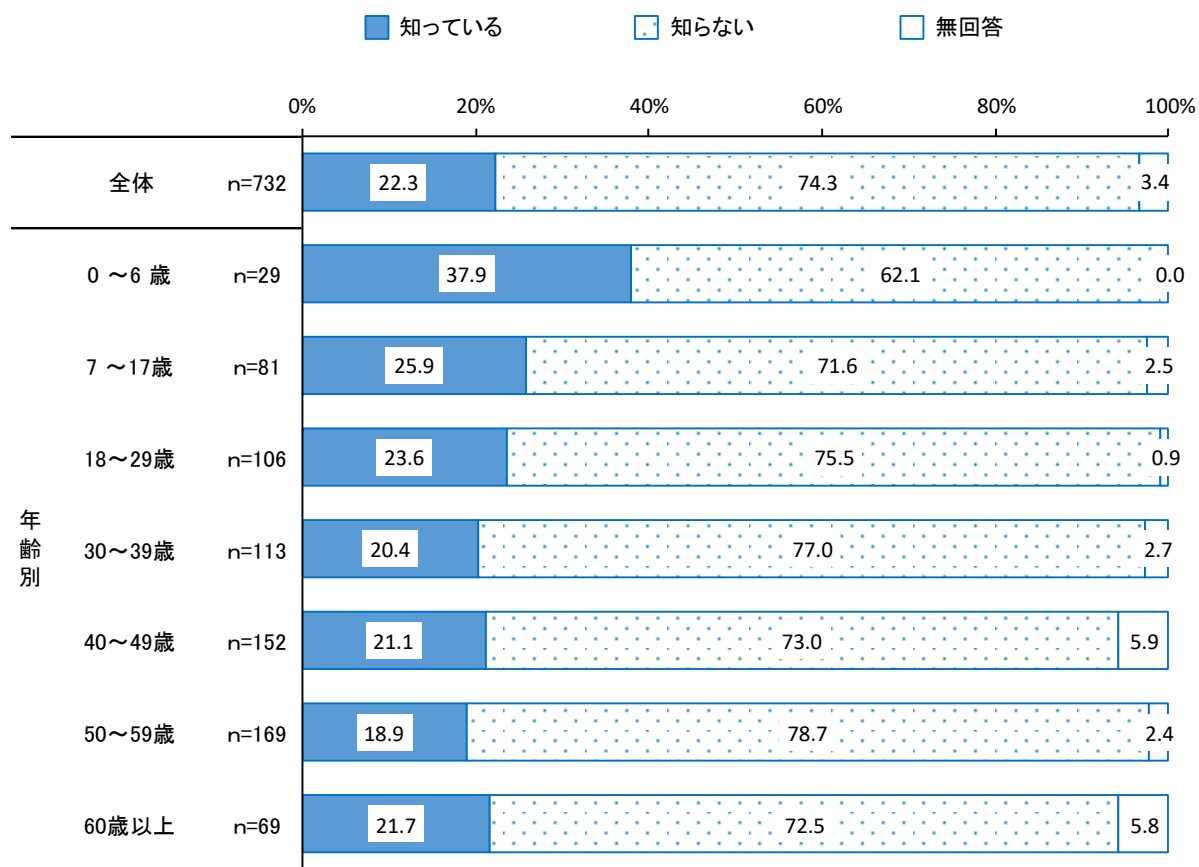
問47 虐待を受けたと思われる障害者を発見した場合には稲沢市へ通報する義務があることを知っていますか。（〇は1つだけ）

虐待を受けたと思われる場合の通報義務は、「知っている」が22.3%、「知らない」が74.3%となっています。

「知っている」の割合は、身体障害では21.0%、知的障害では24.8%、精神障害では20.6%、重複障害では21.7%となっています。



年齢別でみると、「知らない」の割合は50～59歳が78.7%となっています。

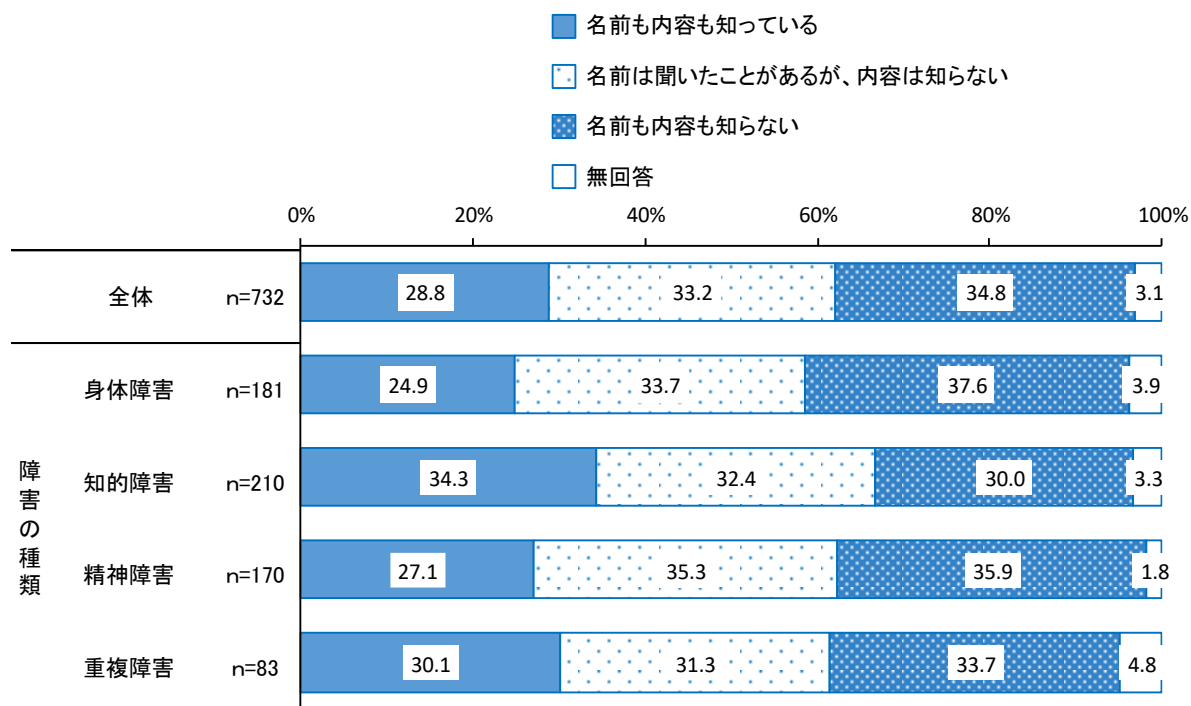


7-8 成年後見制度の認知度

問48 成年後見制度について知っていますか。(〇は1つだけ)

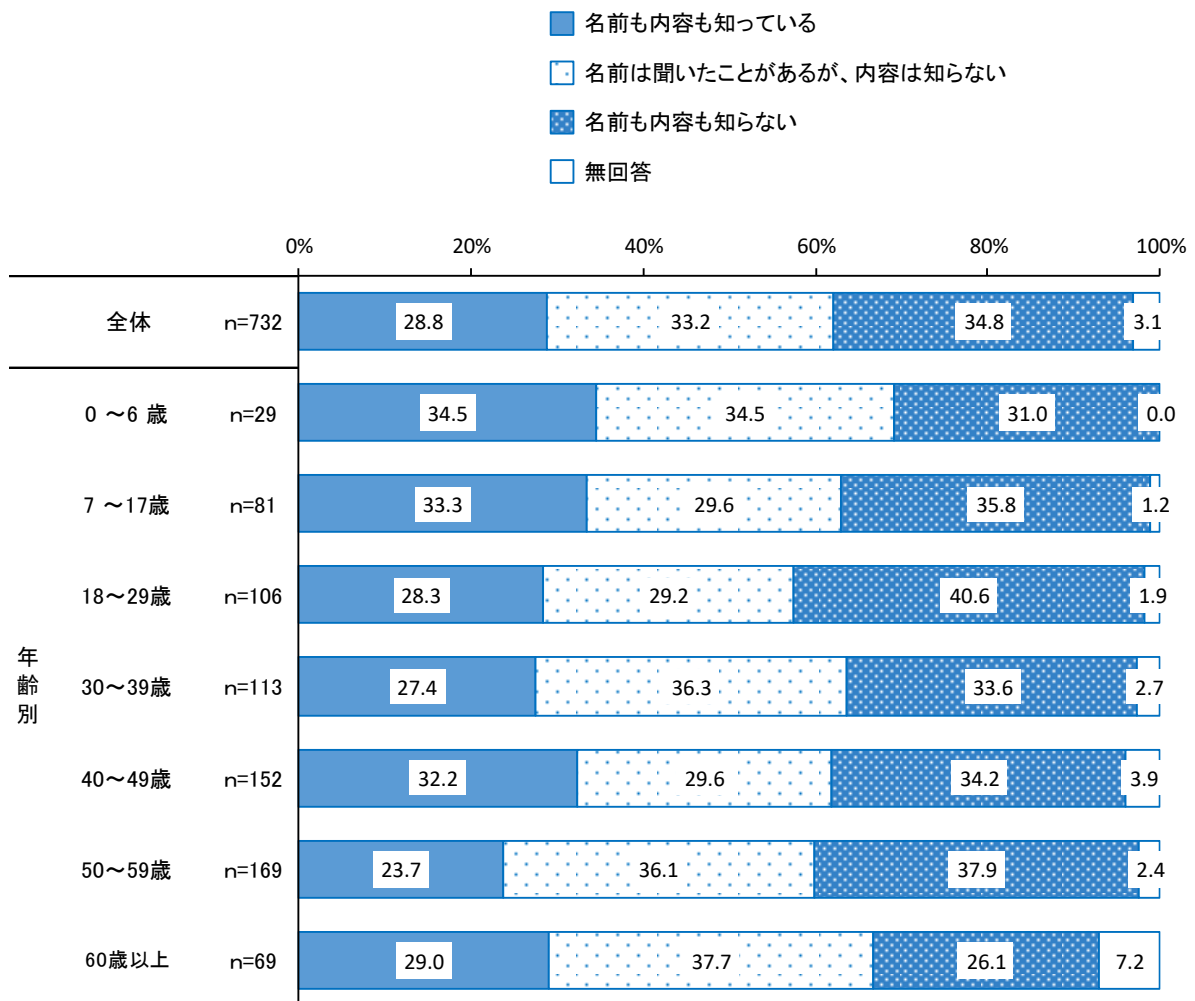
成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知っている」が28.8%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が33.2%で、これらをあわせた認知度は62.0%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は34.8%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では58.6%、知的障害では66.7%、精神障害では62.4%、重複障害では61.4%となっています。



※成年後見制度とは、認知症や知的障害・精神障害などにより判断能力が不十分になり、一人では契約や財産の管理などをすることが難しい方のために、家庭裁判所が判断能力の程度に応じて成年後見人などを選任する制度です。

年齢別で見ると、認知度は60歳以上が66.7%となっています。一方、「名前も内容も知らない」の割合は18～29歳が40.6%となっています。

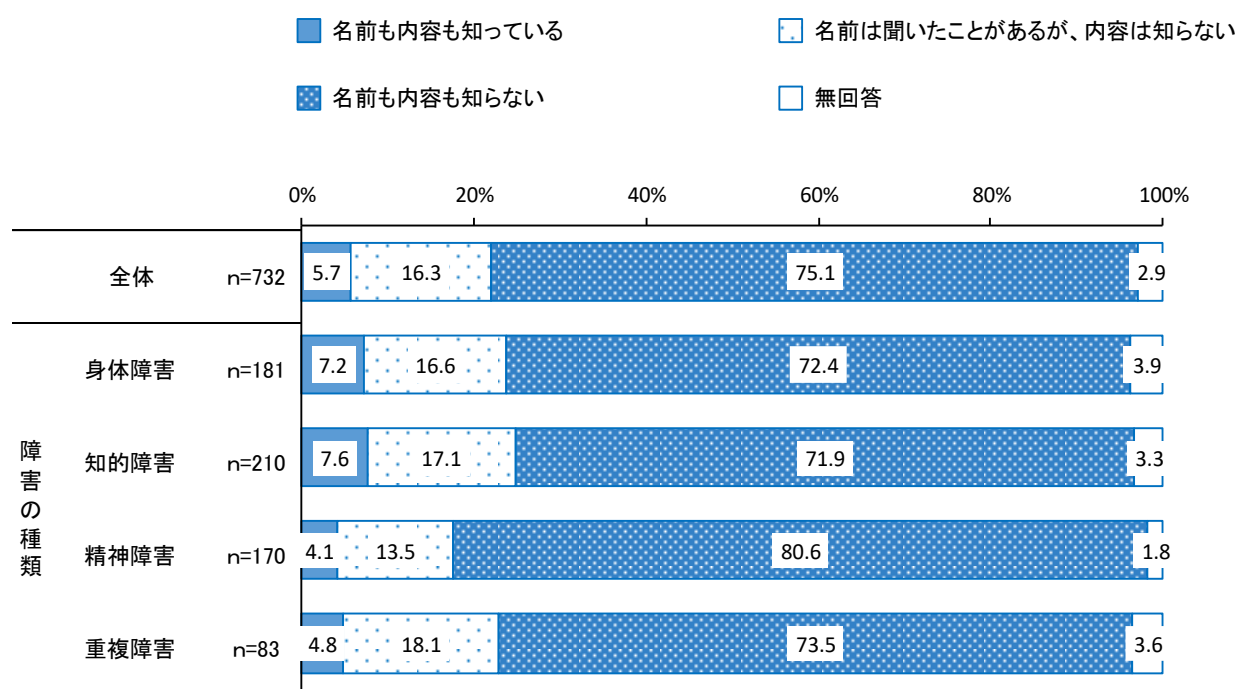


7-9 成年後見センターの認知度

問49 稲沢市が令和3年度に設置した「成年後見センター」を知っていますか。
(〇は1つだけ)

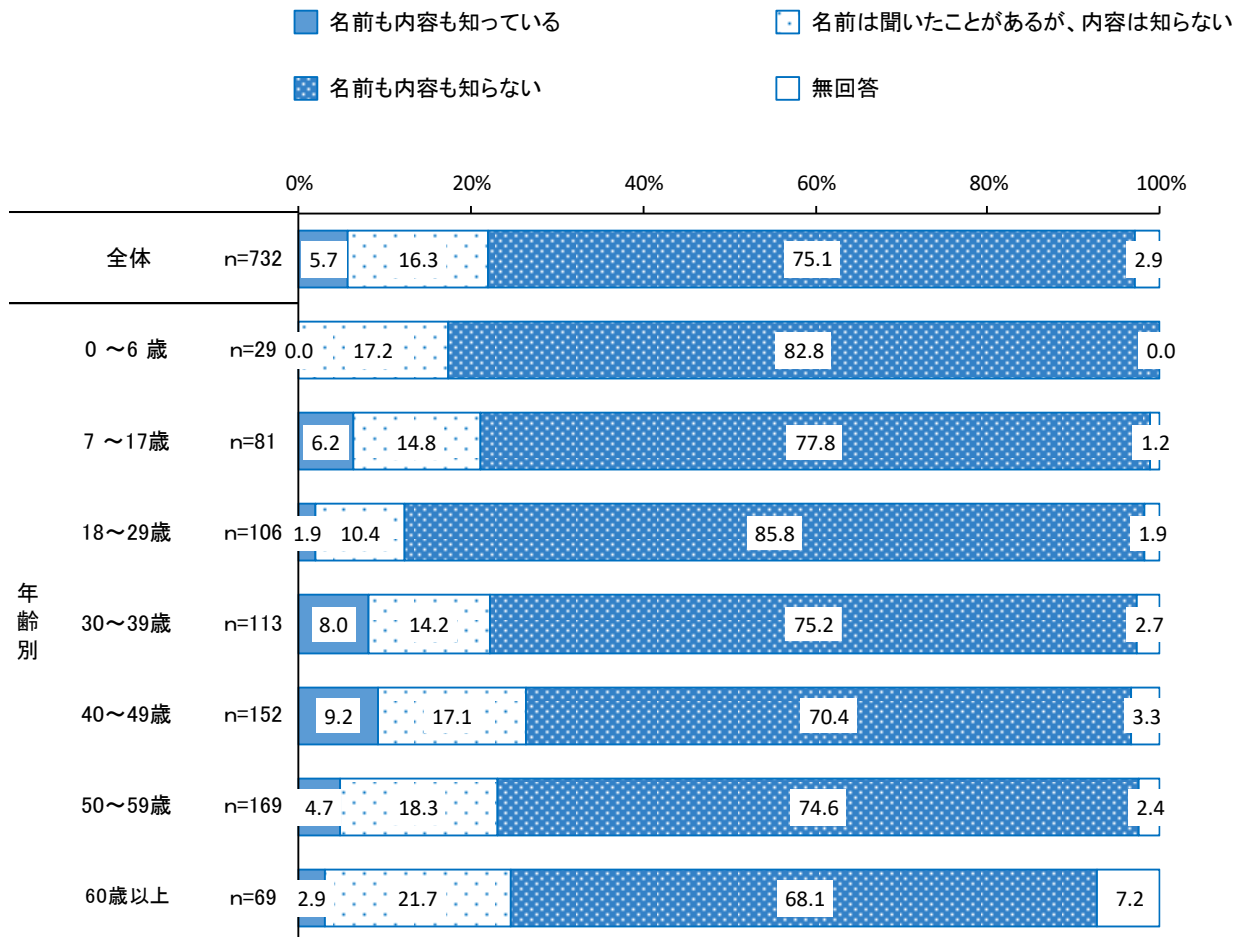
成年後見センターの認知度は、「名前も内容も知っている」が5.7%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が16.3%で、これらをあわせた認知度は22.0%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は75.1%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では23.8%、知的障害では24.7%、精神障害では17.6%、重複障害では22.9%となっています。



※成年後見センターでは、成年後見制度に関する相談窓口を設け、広報・啓発、定例会の開催、申し立て支援などの活動を行っています。

年齢別でみると、認知度は40～49歳が26.3%となっています。一方、「名前も内容も知らない」の割合は18～29歳が85.8%となっています。

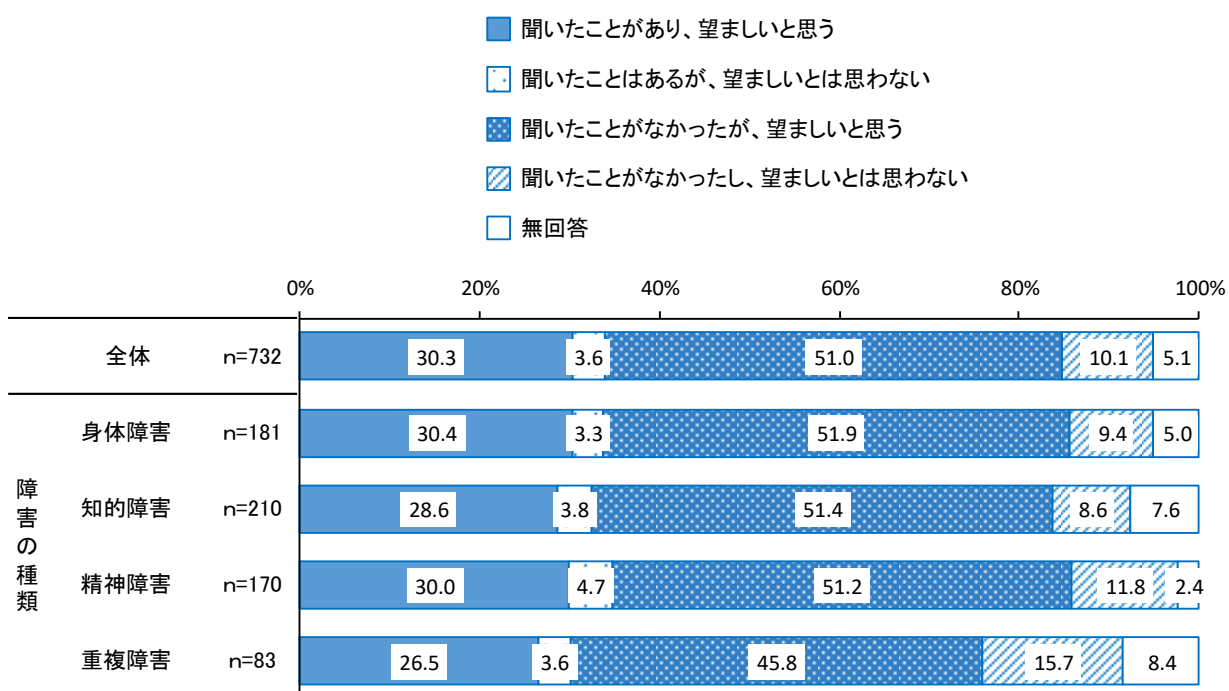


7-10 共生社会の認知度と共生社会のあり方

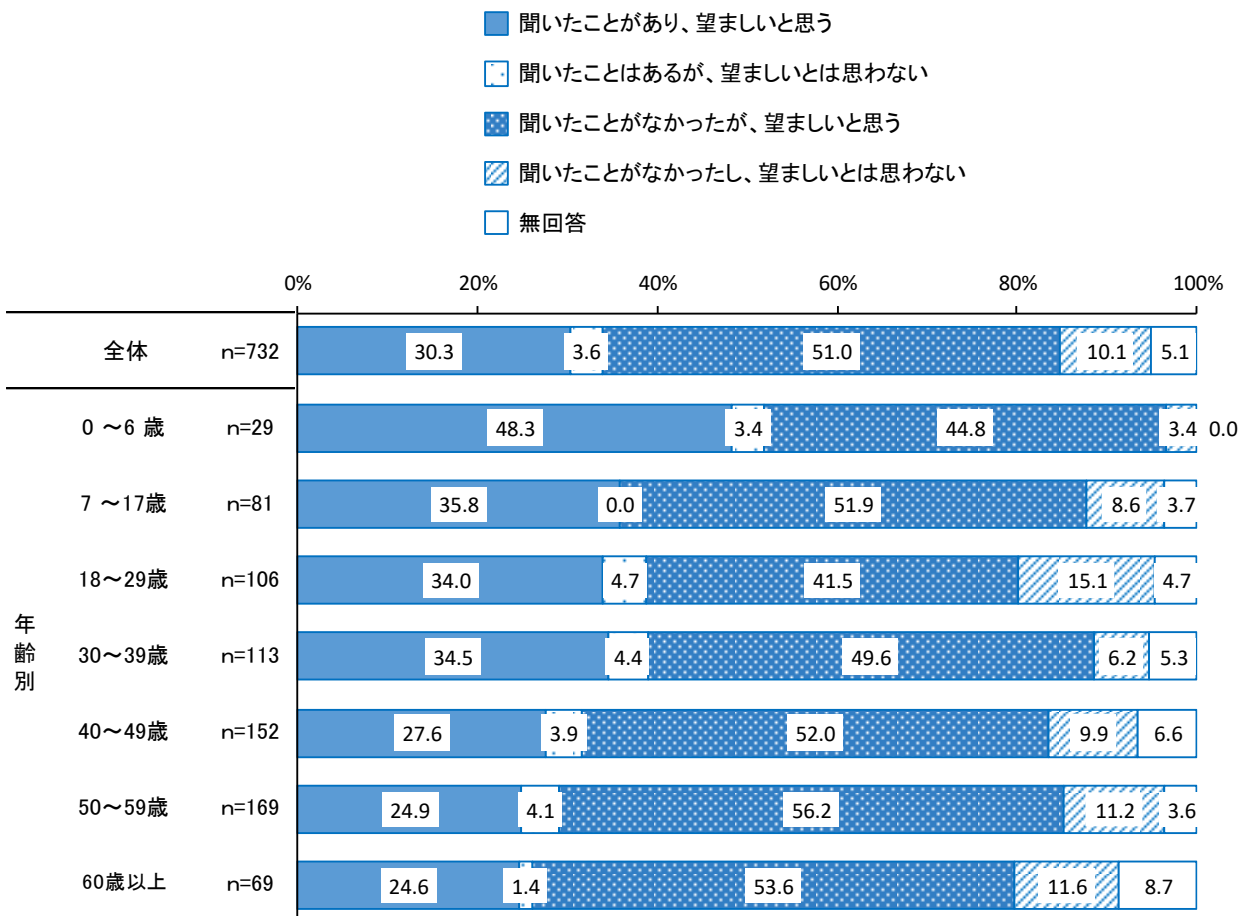
問50 障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う社会のことを「共生社会」といいます。あなたは、「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。
(○は1つだけ)

共生社会の認知度と共生社会のあり方は、「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」が51.0%で最も高く、次いで「聞いたことがあり、望ましいと思う」が30.3%、「聞いたことがなかったし、望ましいとは思わない」が10.1%となっています。

身体障害、知的障害、精神障害では「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」が5割以上となっています。



年齢別でみると、「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」は50～59歳が56.2%となっています。



8 災害時の避難などについて

8-1 災害時の一人での避難

問51 あなたは火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。（〇は1つだけ）

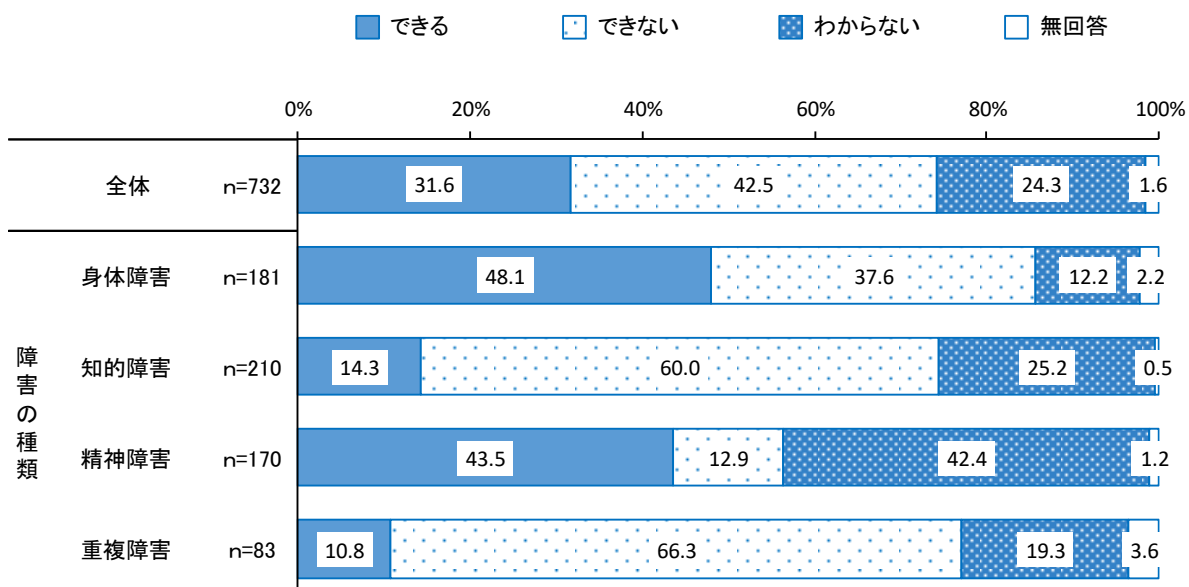
災害時の一人での避難は、「できる」が31.6%、「できない」が42.5%となっています。また、「わからない」は24.3%となっています。

身体障害では、「できる」が48.1%、「できない」が37.6%となっています。

知的障害では、「できない」が60.0%で最も高くなっています。一方、「できる」は14.3%となっています。

精神障害では、「できる」が43.5%で最も高く、次いで「わからない」が42.4%となっています。

重複障害では、「できない」が66.3%で最も高く、次いで「わからない」が19.3%となっています。

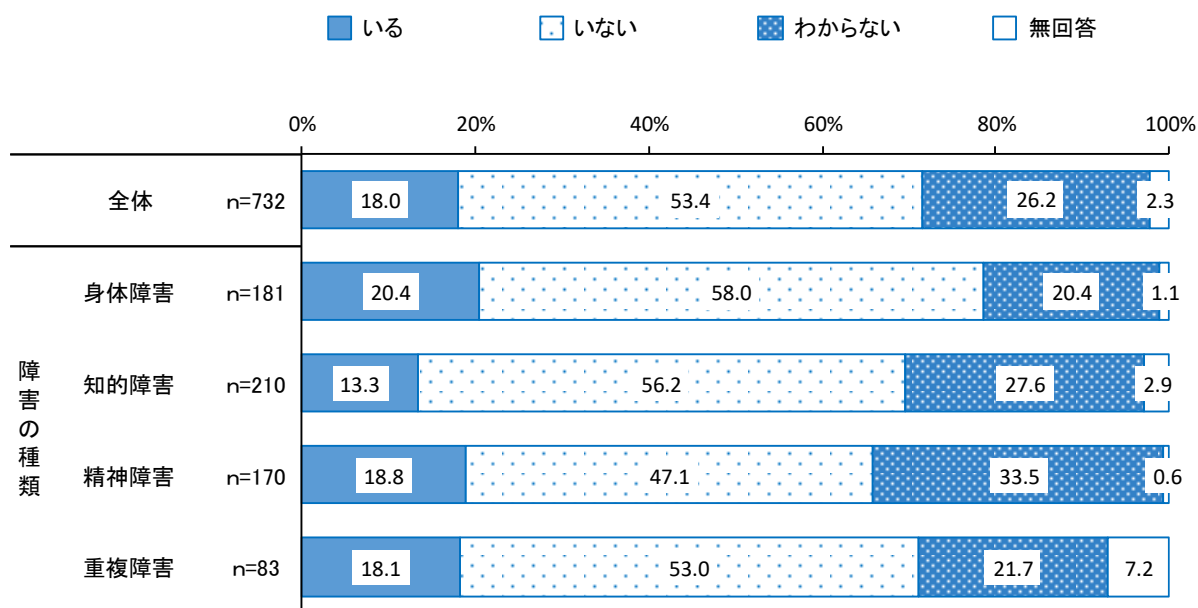


8-2 家族が不在の場合に助けてくれる人

問52 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、あなたを助けてくれる人はいますか。
(〇は1つだけ)

家族が不在の場合に助けてくれる人は、「いる」が18.0%、「いない」が53.4%となっています。また、「わからない」は26.2%となっています。

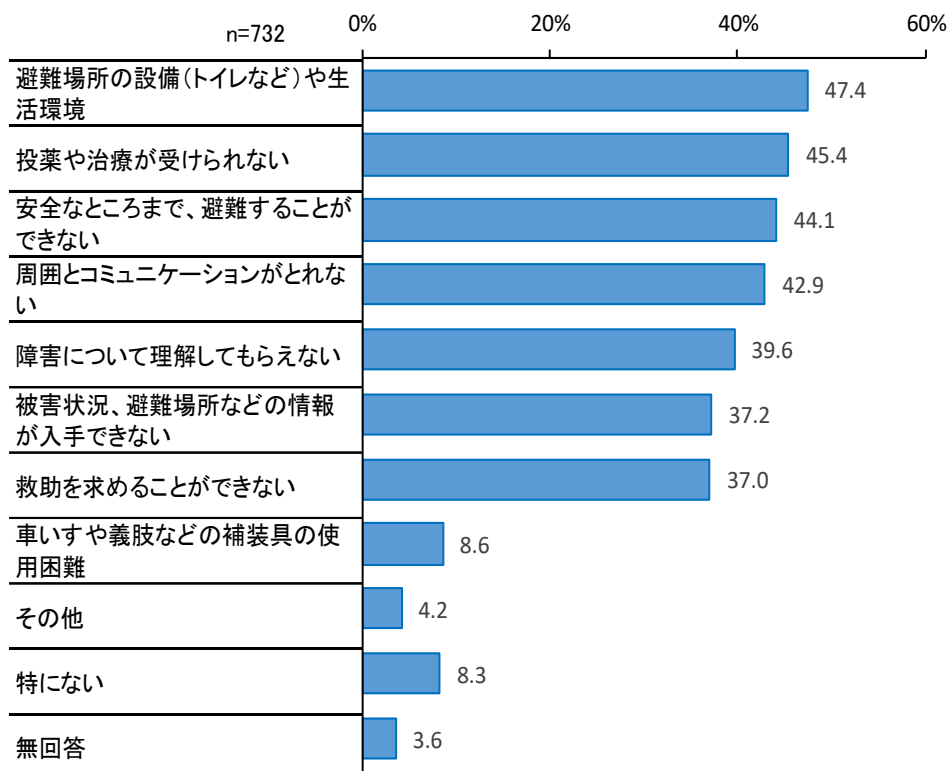
助けてくれる人が「いる」の割合は、身体障害では20.4%、知的障害では13.3%、精神障害では18.8%、重複障害では18.1%となっています。



8-3 災害時に困ること

問53 火事や地震などの災害時にどういったことに困ると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることは、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境」が47.4%で最も高く、次いで「投薬や治療が受けられない」が45.4%、「安全なところまで、避難することができない」が44.1%となっています。



身体障害では、「投薬や治療が受けられない」が49.2%で最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境」が40.3%、「安全なところまで、避難することができない」が38.7%となっています。

知的障害では、「周囲とコミュニケーションがとれない」が61.9%で最も高く、次いで「安全なところまで、避難することができない」が58.6%、「救助を求めることができない」が55.7%となっています。

精神障害では、「投薬や治療が受けられない」が64.1%で最も高く、次いで「障害について理解してもらえない」「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境」がそれぞれ48.2%となっています。

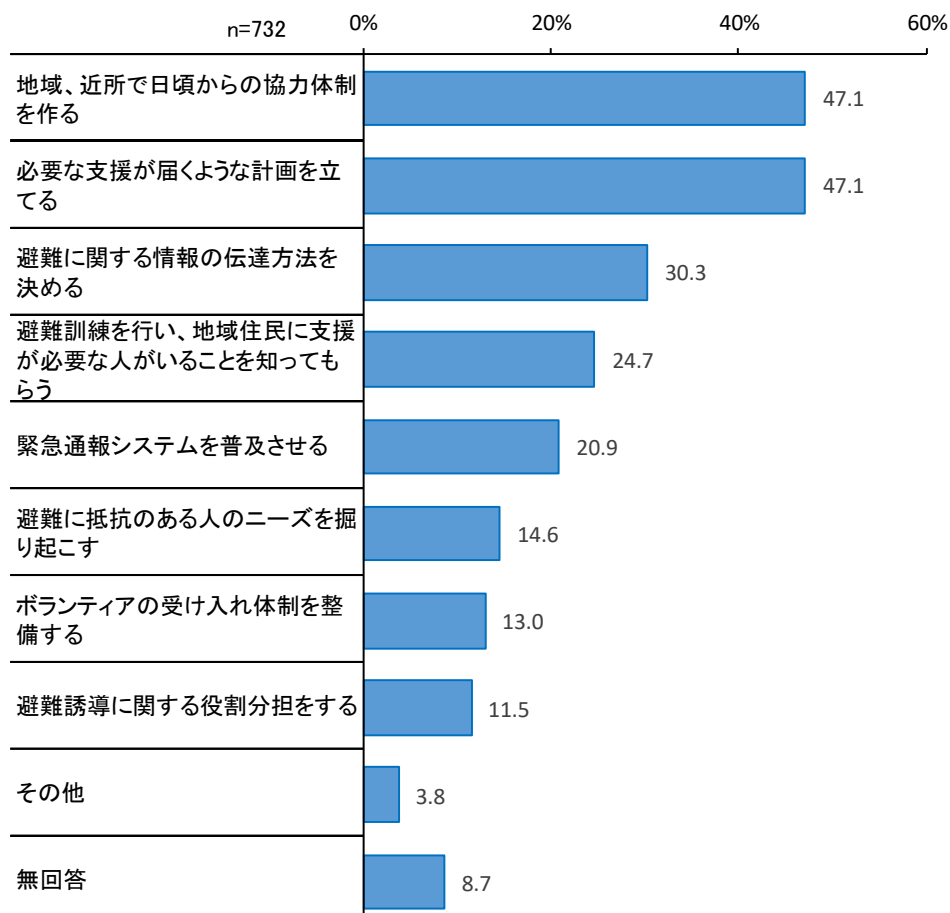
重複障害では、「安全なところまで、避難することができない」「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境」がそれぞれ59.0%で最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が56.6%となっています。

(%)	全 体	ない 投薬 や 治療 が 受け られ	車 い す や 義 肢 な ど の 補 装 具 の 使 用 困 難	救 助 を 求 め る こ と が で き な い	安 全 な と こ ろ ま で 、 避 難 す る こ と が で き な い	い ど の 情 況 が 入 手 で き な い	被 害 状 況 、 避 難 場 所 な ど の 情 報 が 入 手 で き な い	障 害 に つ い て 理 解 し て も ら え な い	周 圍 と コ ミュ ニ ケー ション が と れ な い	避 難 場 所 の 設 備 （ ト イ レ な ど ） や 生 活 環 境	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	732	45.4	8.6	37.0	44.1	37.2	39.6	42.9	47.4	4.2	8.3	3.6	
身体障害	181	49.2	18.8	27.1	38.7	27.1	23.8	21.0	40.3	3.9	11.0	2.2	
知的障害	210	34.3	1.4	55.7	58.6	46.2	47.1	61.9	50.5	5.2	4.8	6.2	
精神障害	170	64.1	1.8	21.8	24.7	30.6	48.2	37.1	48.2	2.9	8.8	1.8	
重複障害	83	42.2	25.3	54.2	59.0	43.4	47.0	56.6	59.0	7.2	3.6	4.8	

8-4 災害時や緊急時に障害のある人に必要な支援

問54 災害時や緊急時に、障害のある人に対する必要な取り組みは何だと思えますか。
(〇は3つまで)

災害時や緊急時に障害のある人に必要な支援は、「地域、近所で日頃からの協力体制を作る」「必要な支援が届くような計画を立てる」がそれぞれ47.1%と最も高く、次いで「避難に関する情報の伝達方法を定める」が30.3%となっています。



身体障害では、「必要な支援が届くような計画を立てる」が44.8%で最も高く、次いで「地域、近所で日頃からの協力体制を作る」が43.1%、「避難に関する情報の伝達方法を定める」が32.6%となっています。

知的障害では、「必要な支援が届くような計画を立てる」が48.6%で最も高く、次いで「地域、近所で日頃からの協力体制を作る」が48.1%、「避難に関する情報の伝達方法を定める」が30.0%となっています。

精神障害では、「必要な支援が届くような計画を立てる」が52.9%で最も高く、次いで「地域、近所で日頃からの協力体制を作る」が45.9%、「避難に関する情報の伝達方法を定める」が28.8%となっています。

重複障害では、「地域、近所で日頃からの協力体制を作る」が49.4%で最も高く、次いで「必要な支援が届くような計画を立てる」が42.2%、「緊急通報システムを普及させる」が24.1%となっています。

(%)	全 体	の 地 域 協 力 体 制 を 作 る 日 頃 か ら	達 避 難 に 関 する 情 報 の 伝 達	な 必 要 な 支 援 が 届 く よ う な 計 画 を 立 て る	分 避 難 を 誘 導 に 関 する 役 割	及 緊 急 通 報 シ ス テ ム を 普 及 さ せ る	が 住 民 に 支 援 を 行 う に 必 要 な 地 域	れ ボ ラン ティ ア の 受 け 入 れ	ニ 避 難 に 抵 抗 の 起 こ す	そ の 他	無 回 答
全 体	732	47.1	30.3	47.1	11.5	20.9	24.7	13.0	14.6	3.8	8.7
身 体 障 害	181	43.1	32.6	44.8	8.3	26.5	22.1	11.6	12.2	2.8	8.8
知 的 障 害	210	48.1	30.0	48.6	15.2	14.8	28.6	12.4	16.2	5.2	9.5
精 神 障 害	170	45.9	28.8	52.9	7.6	24.7	20.6	15.9	12.9	2.9	8.2
重 複 障 害	83	49.4	21.7	42.2	14.5	24.1	20.5	15.7	14.5	4.8	12.0

9 障害福祉全般について

9-1 障害者福祉施策の満足度と今後の重要度

問55 稲沢市の障害者福祉施策全般について、どのような取り組みが必要だと思えますか。次の1～9の項目について、(1)「(1)現在の満足度」をお答えください。(それぞれ〇は1つだけ) (2)「(2)今後の重要度」について、市の障害者福祉施策でどの分野を重要視すべきかをお答えください。(それぞれ〇は1つだけ)

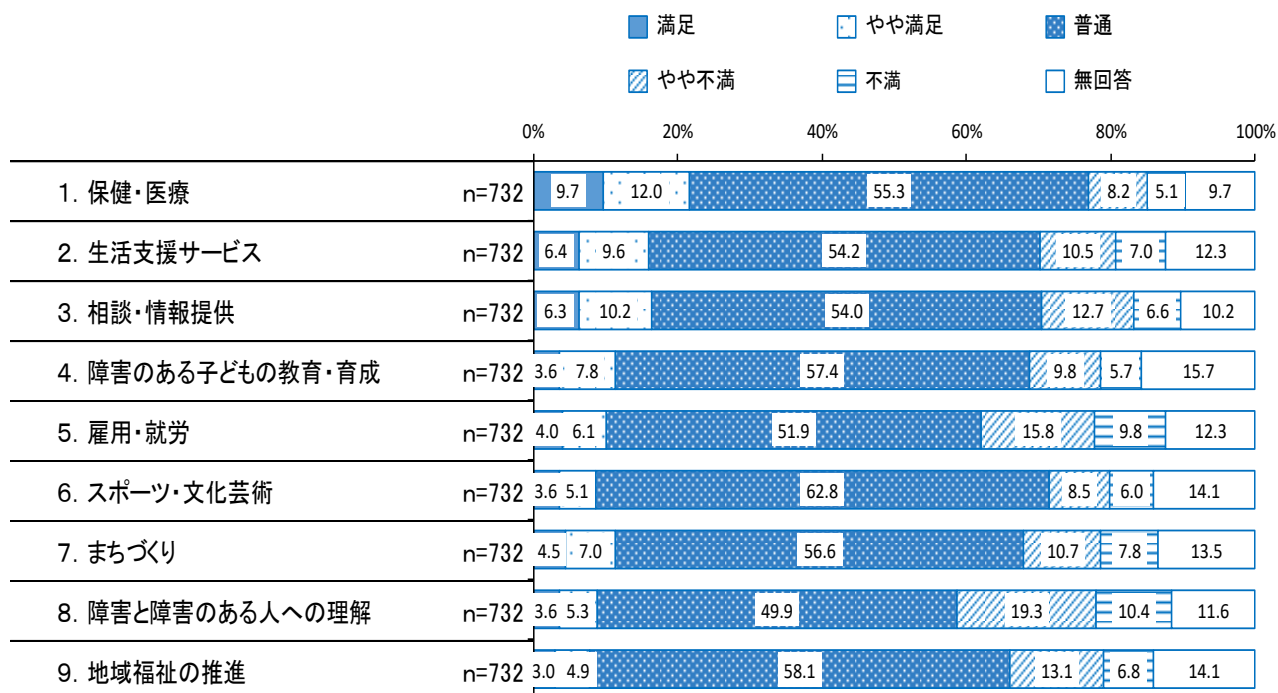
(1) 現在の満足度

現在の満足度をみると、『満足※1』は、「1. 保健・医療」が21.7%で最も高く、次いで「3. 相談・情報提供」が16.5%、「2. 生活支援サービス」が16.0となっています。

『不満※2』は、「8. 障害と障害のある人への理解」が29.7%、「5. 雇用・就労」が25.6%となっています。

※1 「満足」「やや満足」の計

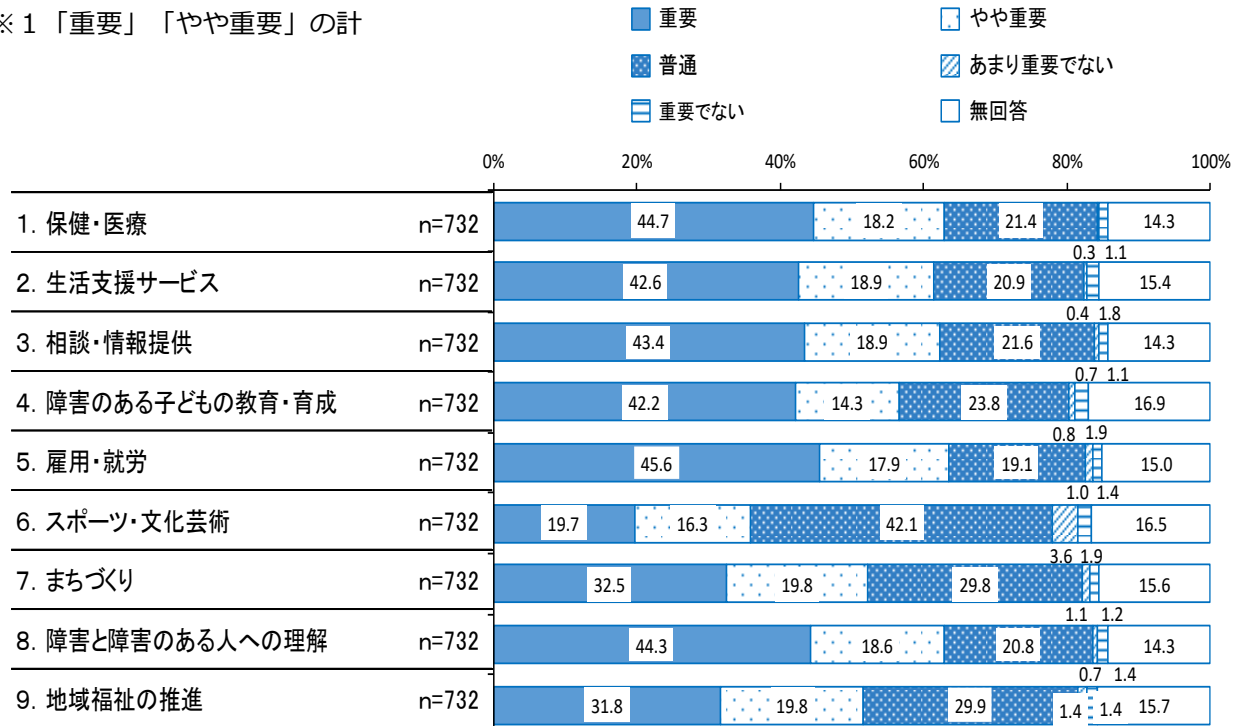
※2 「やや不満」「不満」の計



(2) 今後の重要度

今後の重要度をみると、『重要※1』は「5. 雇用・就労」が63.5%で最も高く、次いで「1. 保健・医療」「8. 障害と障害のある人への理解」がそれぞれ62.9%、「3. 相談・情報提供」が62.3%となっています。

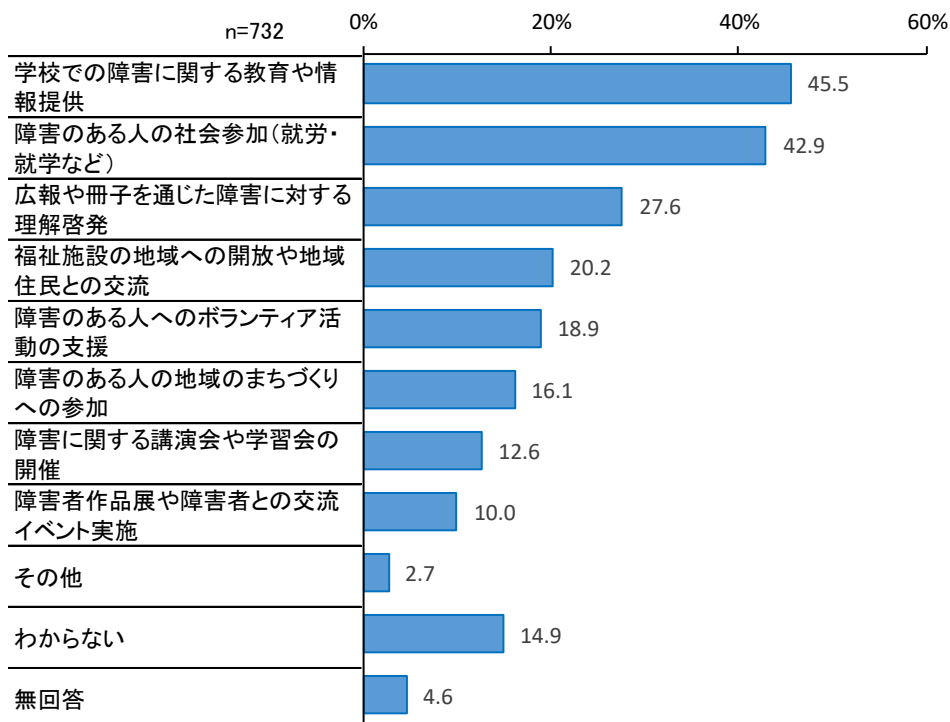
※1 「重要」「やや重要」の計



9-2 市民の理解を深めるために必要だと思うこと

問56 障害のある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

市民の理解を深めるために必要だと思うことは、「学校での障害に関する教育や情報提供」が45.5%で最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が42.9%、「広報や冊子を通じた障害に対する理解啓発」が27.6%となっています。



身体障害では、「学校での障害に関する教育や情報提供」が40.3%で最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が36.5%となっています。

知的障害では、「学校での障害に関する教育や情報提供」が43.3%最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が36.7%となっています。

精神障害では、「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が53.5%で最も高く、次いで「学校での障害に関する教育や情報提供」が48.2%となっています。

重複障害では、「学校での障害に関する教育や情報提供」が41.0%で最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が36.1%となっています。

(%)	全 体	害広 に報 対や 冊子 の理 解啓 した 障	ン障 害イ のあ る動 人の への 支 援	教 育校 や情 報提 供に 関 する	学 習会 に 関 する 講 演 会 や	と障 害の 交 流 作 品 展 や ト 障 害 実 施 者	加 障 害 （ 就 労 ・ 就 学 な ど ） 参	放 福 や 社 地 域 設 住 の 民 地 域 と の 交 流 開	ま 障 害 づ の あ る 人 の 参 地 域 の	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	732	27.6	18.9	45.5	12.6	10.0	42.9	20.2	16.1	2.7	14.9	4.6
身 体 障 害	181	33.1	18.8	40.3	8.3	8.3	36.5	11.0	14.4	3.3	16.6	6.6
知 的 障 害	210	19.0	19.5	43.3	11.0	13.3	36.7	28.6	16.2	1.9	18.1	5.7
精 神 障 害	170	32.9	20.0	48.2	18.8	8.2	53.5	15.9	14.7	3.5	10.0	2.4
重 複 障 害	83	27.7	20.5	41.0	9.6	8.4	36.1	28.9	19.3	-	20.5	4.8

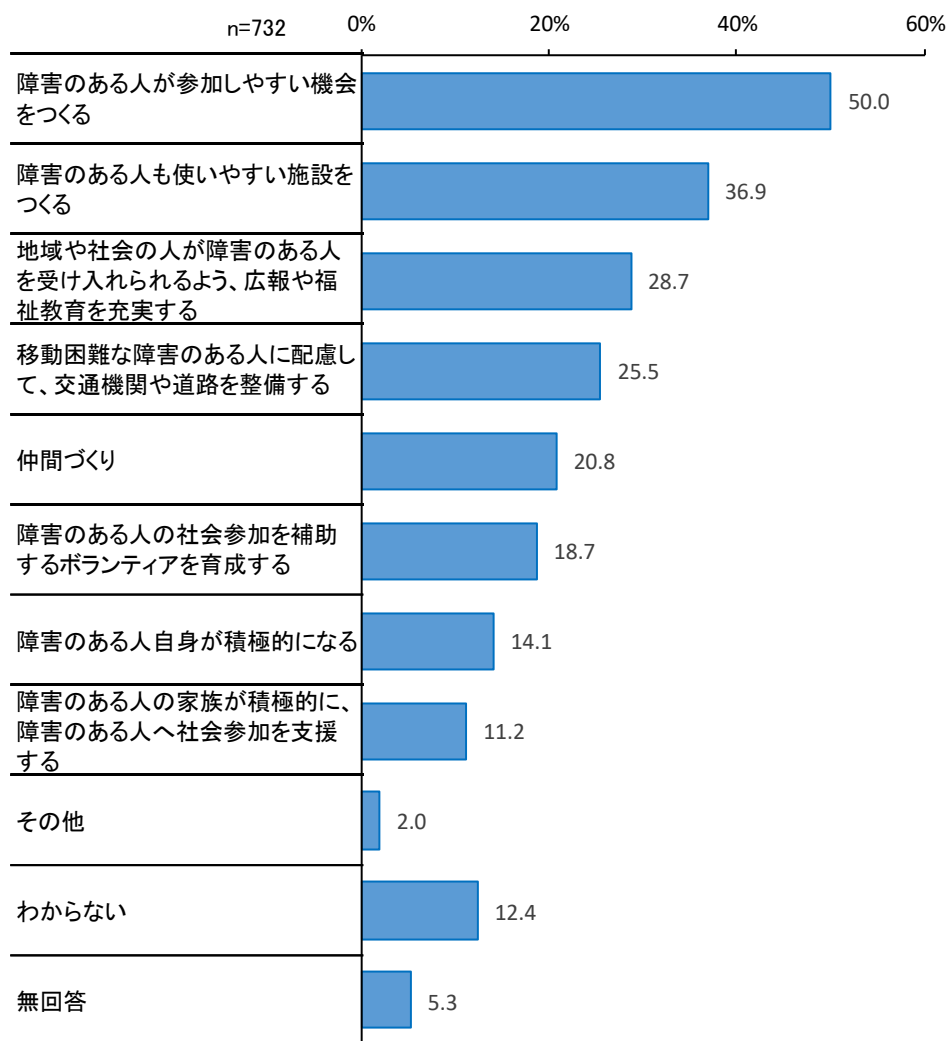
年齢別でみると、7～17歳では「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」(63.0%)が6割以上となっています。

(%)	全 体	害広 に報 対や 冊子 の理 解啓 した 障	ン障 害イ のあ る動 人の への 支 援	教 育校 や情 報提 供に 関 する	学 習会 に 関 する 講 演 会 や	と障 害の 交 流 作 品 展 や ト 障 害 実 施 者	加 障 害 （ 就 労 ・ 就 学 な ど ） 参	放 福 や 社 地 域 設 住 の 民 地 域 と の 交 流 開	ま 障 害 づ の あ る 人 の 参 地 域 の	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	732	27.6	18.9	45.5	12.6	10.0	42.9	20.2	16.1	2.7	14.9	4.6
0～6歳	29	27.6	20.7	82.8	17.2	10.3	51.7	24.1	20.7	3.4	6.9	-
7～17歳	81	19.8	9.9	70.4	18.5	9.9	63.0	18.5	17.3	6.2	11.1	1.2
18～29歳	106	27.4	22.6	50.9	16.0	17.9	44.3	22.6	14.2	1.9	13.2	1.9
30～39歳	113	26.5	20.4	50.4	13.3	6.2	41.6	25.7	15.9	2.7	8.0	4.4
40～49歳	152	29.6	19.1	38.8	10.5	9.2	41.4	18.4	14.5	3.9	17.1	5.3
50～59歳	169	29.6	20.1	31.4	11.2	11.8	37.9	16.6	21.3	1.8	19.5	5.3
60歳以上	69	34.8	17.4	36.2	5.8	2.9	31.9	17.4	5.8	-	20.3	10.1

9-3 障害のある人が地域社会に積極的に参加するために大切なこと

問57 あなたは障害のある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、特に大切なことは何だとお考えですか。（〇は3つまで）

障害のある人が地域社会に積極的に参加するために大切なことは、「障害のある人が参加しやすい機会をつくる」が50.0%で最も高く、次いで「障害のある人も使いやすい施設をつくる」が36.9%、「地域や社会の人が障害のある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する」が28.7%となっています。



重複障害では、「障害のある人が参加しやすい機会をつくる」（53.0%）の割合が高くなっています。

	全 体	機 障 害 の あ る 人 が 参 加 し や す い 機 会 を つ く る	設 障 害 の あ る 人 も 使 い や す い 施 を つ く る	備 慮 移 動 困 難 な 障 害 の あ る 人 に 配 慮 す る	報 人 地 域 や 社 会 の 人 が 障 害 の あ る 人 に 対 し て、 福 祉 教 育 を 充 実 す る	助 人 地 域 や 社 会 の 人 が 障 害 の あ る 人 に 対 し て、 ボ ラ ン テ ィ ア を 育 成 す る	を 支 援 す る	に 、 障 害 の あ る 人 の 家 族 が 積 極 的 に 参 加 す る	障 害 の あ る 人 自 身 が 積 極 的 に 参 加 す る	仲 間 づ く り	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
(%)													
全 体	732	50.0	36.9	25.5	28.7	18.7	11.2	14.1	20.8	2.0	12.4	5.3	
身体障害	181	47.5	41.4	33.7	23.2	16.0	10.5	18.8	19.9	2.8	9.4	5.5	
知的障害	210	48.6	32.4	16.7	34.8	21.0	13.3	7.1	19.5	0.5	16.2	7.6	
精神障害	170	48.8	35.3	25.3	25.3	16.5	11.8	22.4	23.5	2.9	12.4	3.5	
重複障害	83	53.0	36.1	30.1	27.7	25.3	4.8	8.4	13.3	1.2	14.5	6.0	

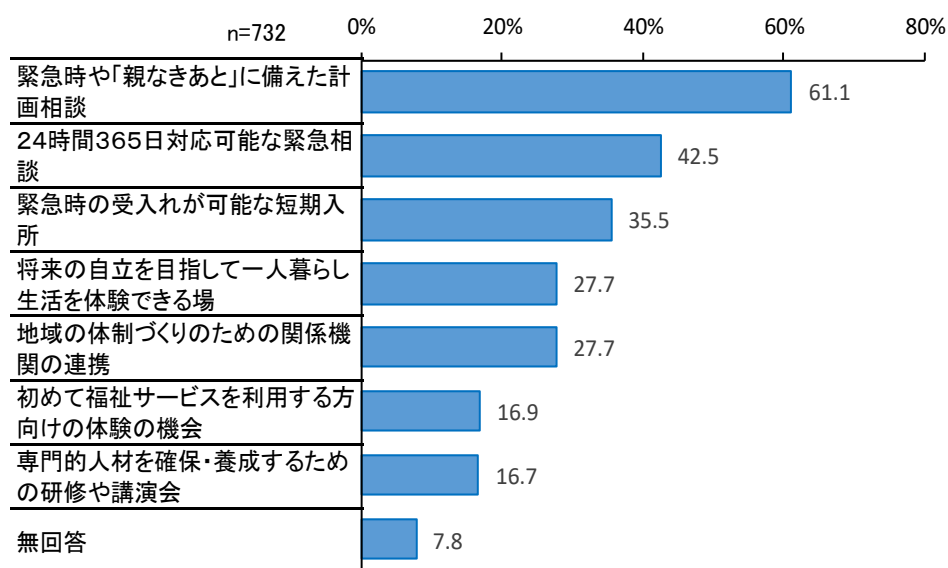
年齢別で見ると、7～17歳では「障害のある人が参加しやすい機会をつくる」（63.0%）が6割以上となっています。

	全 体	機 障 害 の あ る 人 が 参 加 し や す い 機 会 を つ く る	設 障 害 の あ る 人 も 使 い や す い 施 を つ く る	備 慮 移 動 困 難 な 障 害 の あ る 人 に 配 慮 す る	報 人 地 域 や 社 会 の 人 が 障 害 の あ る 人 に 対 し て、 福 祉 教 育 を 充 実 す る	助 人 地 域 や 社 会 の 人 が 障 害 の あ る 人 に 対 し て、 ボ ラ ン テ ィ ア を 育 成 す る	を 支 援 す る	に 、 障 害 の あ る 人 の 家 族 が 積 極 的 に 参 加 す る	障 害 の あ る 人 自 身 が 積 極 的 に 参 加 す る	仲 間 づ く り	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
(%)													
全 体	732	50.0	36.9	25.5	28.7	18.7	11.2	14.1	20.8	2.0	12.4	5.3	
0～6歳	29	58.6	51.7	20.7	44.8	20.7	13.8	-	27.6	6.9	-	3.4	
7～17歳	81	63.0	49.4	16.0	34.6	24.7	7.4	9.9	25.9	1.2	8.6	3.7	
18～29歳	106	52.8	34.9	26.4	29.2	15.1	11.3	16.0	24.5	3.8	15.1	1.9	
30～39歳	113	49.6	38.1	24.8	32.7	17.7	10.6	13.3	27.4	0.9	8.8	5.3	
40～49歳	152	48.0	33.6	24.3	25.7	16.4	10.5	16.4	19.1	2.0	15.1	6.6	
50～59歳	169	49.1	32.5	33.1	24.3	22.5	11.2	16.6	16.6	1.8	11.8	5.3	
60歳以上	69	36.2	39.1	27.5	23.2	13.0	11.6	14.5	11.6	1.4	17.4	10.1	

9-4 地域生活支援拠点事業の取り組みで必要なこと

問58 稲沢市では、障害のある人が住み慣れた地域で暮らし続けることができる体制を作るために「地域生活支援拠点事業」に取り組んでいます。この取り組みのうち、特に必要だと思うことはどれですか。（〇は3つまで）

地域生活支援拠点事業の取り組みで必要なことは、「緊急時や「親なきあと」に備えた計画相談」が61.1%で最も高く、次いで「24時間365日対応可能な緊急相談」が42.5%、「緊急時の受入れが可能な短期入所」が35.5%となっています。



知的障害では、「緊急時や「親なきあと」に備えた計画相談」（72.9%）、「緊急時の受入れが可能な短期入所」（46.7%）の割合が高くなっています。

	全 体	可 能 な 時 間 緊 急 相 談 5 日 対 応	と 緊 急 に 備 え た 親 な き あ と 計 画 相 談	な 緊 急 時 期 入 所 受 入 れ が 可 能	の 利 用 す る 福 方 サ ー ビ ス 験	初 め て 福 社 サ ー ビ ス 験	で 暮 ら し 活 を 指 し 験	将 来 の 自 立 を 指 し 験	演 成 す る た め の 研 修 や 講 義	め 地 域 の 係 体 制 関 づ の く 連 携 の た	無 回 答
(%)											
全 体	732	42.5	61.1	35.5	16.9	27.7	16.7	27.7	7.8		
身体障害	181	42.0	42.5	32.6	22.7	20.4	17.1	32.0	9.4		
知的障害	210	39.5	72.9	46.7	12.9	26.2	11.9	21.9	9.5		
精神障害	170	47.6	64.7	23.5	15.9	38.2	19.4	27.1	4.7		
重複障害	83	38.6	60.2	39.8	8.4	19.3	24.1	30.1	10.8		

年齢別でみると、7～17歳では「緊急時や「親なきあと」に備えた計画相談」（70.4%）が7割以上となっています。

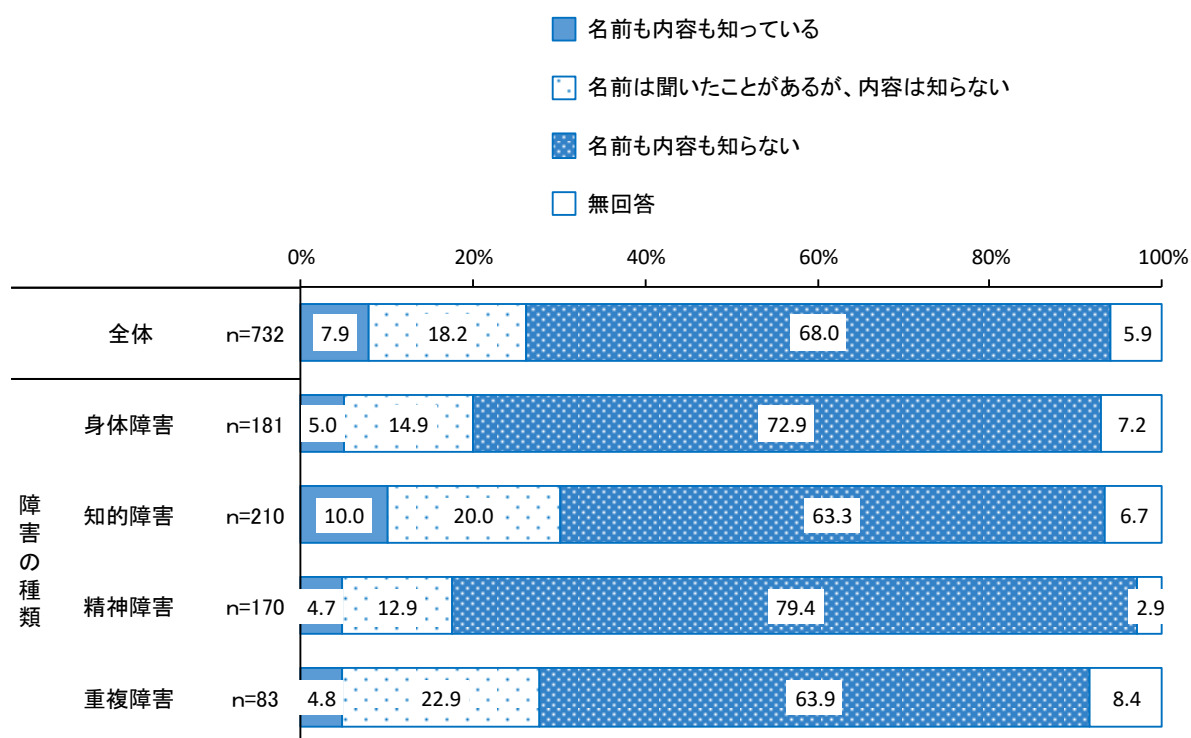
	全 体	可 能 な 時 間 緊 急 相 談 5 日 対 応	と 緊 急 に 備 え た 親 な き あ と 計 画 相 談	な 緊 急 時 期 入 所 受 入 れ が 可 能	の 利 用 す る 福 方 サ ー ビ ス 験	初 め て 福 社 サ ー ビ ス 験	で 暮 ら し 活 を 指 し 験	将 来 の 自 立 を 指 し 験	演 成 す る た め の 研 修 や 講 義	め 地 域 の 係 体 制 関 づ の く 連 携 の た	無 回 答
(%)											
全 体	732	42.5	61.1	35.5	16.9	27.7	16.7	27.7	7.8		
0～6歳	29	37.9	69.0	34.5	27.6	37.9	13.8	48.3	3.4		
7～17歳	81	33.3	70.4	45.7	16.0	34.6	27.2	28.4	4.9		
18～29歳	106	40.6	69.8	48.1	17.0	38.7	14.2	19.8	5.7		
30～39歳	113	38.1	68.1	43.4	15.0	28.3	15.9	26.5	6.2		
40～49歳	152	40.8	68.4	28.3	16.4	27.0	15.1	27.0	7.9		
50～59歳	169	50.9	49.1	29.0	16.6	21.3	18.3	30.2	10.1		
60歳以上	69	50.7	36.2	26.1	18.8	14.5	13.0	27.5	13.0		

9-5 児童発達支援センターの認知度

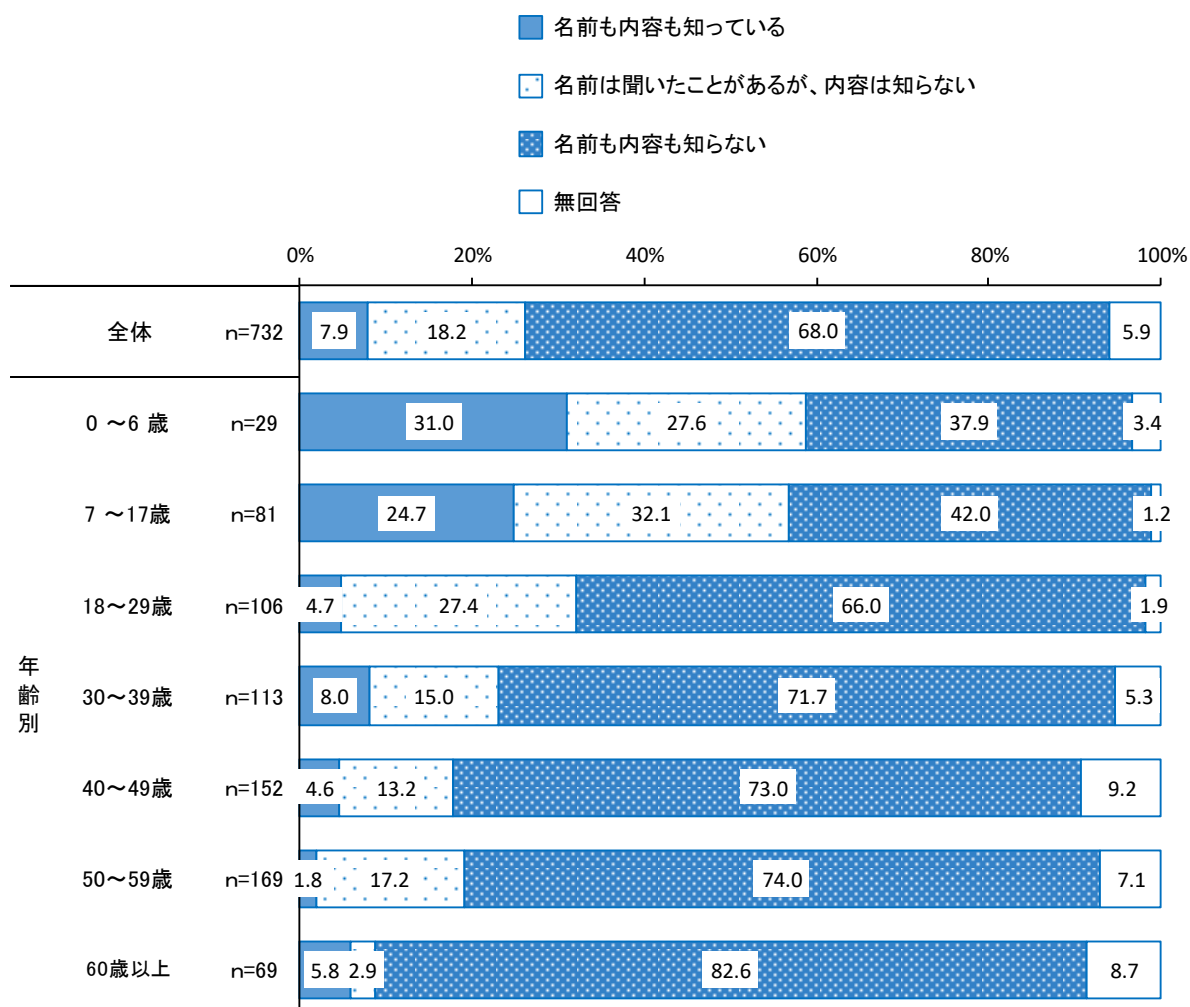
問59 稲沢市では、発達に支援が必要な児童に対し、専門的な知識・技術に基づく支援を行う児童福祉の中核機関として「児童発達支援センター」の設置に向けて取り組んでいます。この取り組みについて、知っていますか（〇は1つだけ）

児童発達支援センターの認知度は、「名前も内容も知っている」が7.9%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が18.2%で、これらをあわせた認知度は26.1%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は68.0%で最も高くなっています。

認知度は、身体障害では19.9%、知的障害では30.0%、精神障害では17.6%、重複障害では27.7%となっています。



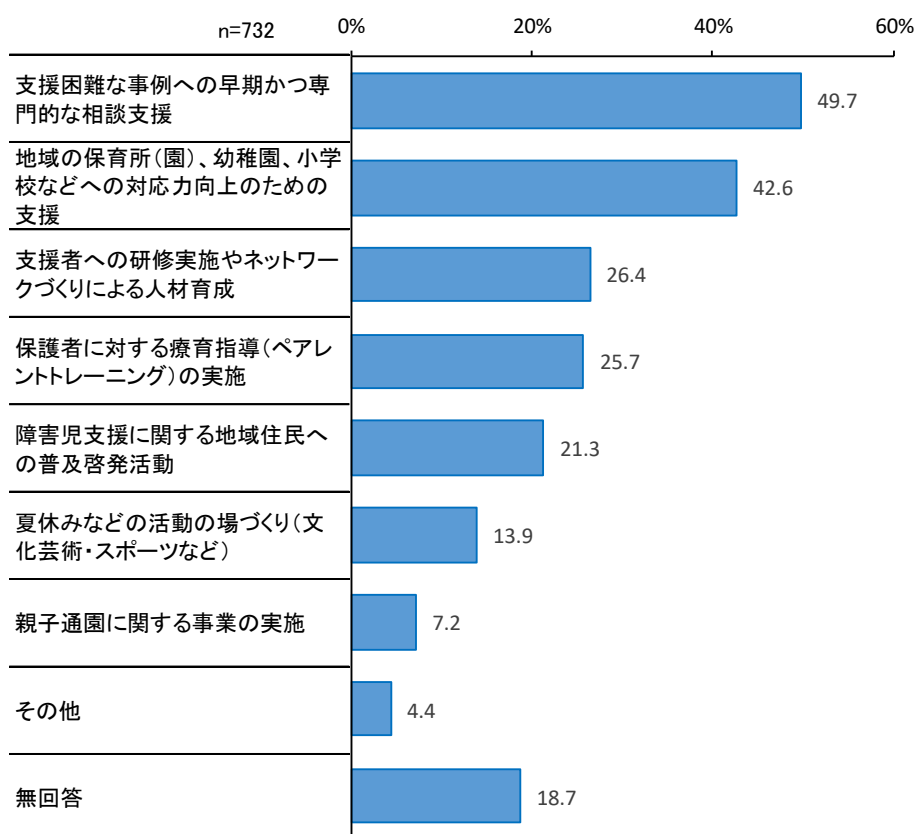
年齢別でみると、「名前も内容も知らない」は各年齢層が上がる割合も高くなっています。



9-6 児童発達支援センターの取り組みで必要だと思うこと

問60 「児童発達支援センター」に関する取り組みについて、あなたが必要だと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

児童発達センターの取り組みで必要だと思うことは、「支援困難な事例への早期かつ専門的な相談支援」が49.7%で最も高く、次いで「地域の保育所（園）、幼稚園、小学校などへの対応力向上のための支援」が42.6%、「支援者への研修実施やネットワークづくりによる人材育成」が26.4%となっています。



精神障害では、「支援困難な事例への早期かつ専門的な相談支援」（54.1%）が5割以上となっています。

(%)	全 体	か 支 援 困 難 な 事 例 へ の 支 援	応 力 向 上 の た め の 支 援	稚 園、 小 学 校 な ど へ の 支 援	地 域 の 保 育 所 （ 園 ） 、 対 幼	る 人 材 育 成	ネ ッ ト ワ ー ク の 研 修 実 施 に よ	支 援 者 へ の 研 修 実 施 に よ	住 民 へ の 普 及 啓 発 活 動	障 害 児 の 支 援 に 関 する 地 域	ツ く り （ 文 化 芸 術 ・ ス ポ ー ツ な ど ）	夏 休 み な ど の 活 動 の 場 づ くり （ 文 化 芸 術 ・ ス ポ ー ツ な ど ）	実 施	親 子 通 園 に 関 する 事 業 の	グ （ ） の 実 施	保 護 者 に 対 する 療 育 指 導	そ の 他	無 回 答
全 体	732	49.7	42.6	26.4	21.3	13.9	7.2	25.7	4.4	18.7								
身体障害	181	47.5	45.3	24.3	22.7	7.7	4.4	21.5	3.9	20.4								
知的障害	210	48.1	39.0	24.8	26.2	15.7	8.6	24.8	5.7	17.6								
精神障害	170	54.1	36.5	28.8	17.1	15.9	5.9	25.3	2.4	22.4								
重複障害	83	47.0	36.1	30.1	16.9	3.6	8.4	30.1	6.0	20.5								

年齢別でみると、7～17歳では「夏休みなどの活動の場づくり（文化芸術・スポーツなど）」（27.2%）の割合が高くなっています。

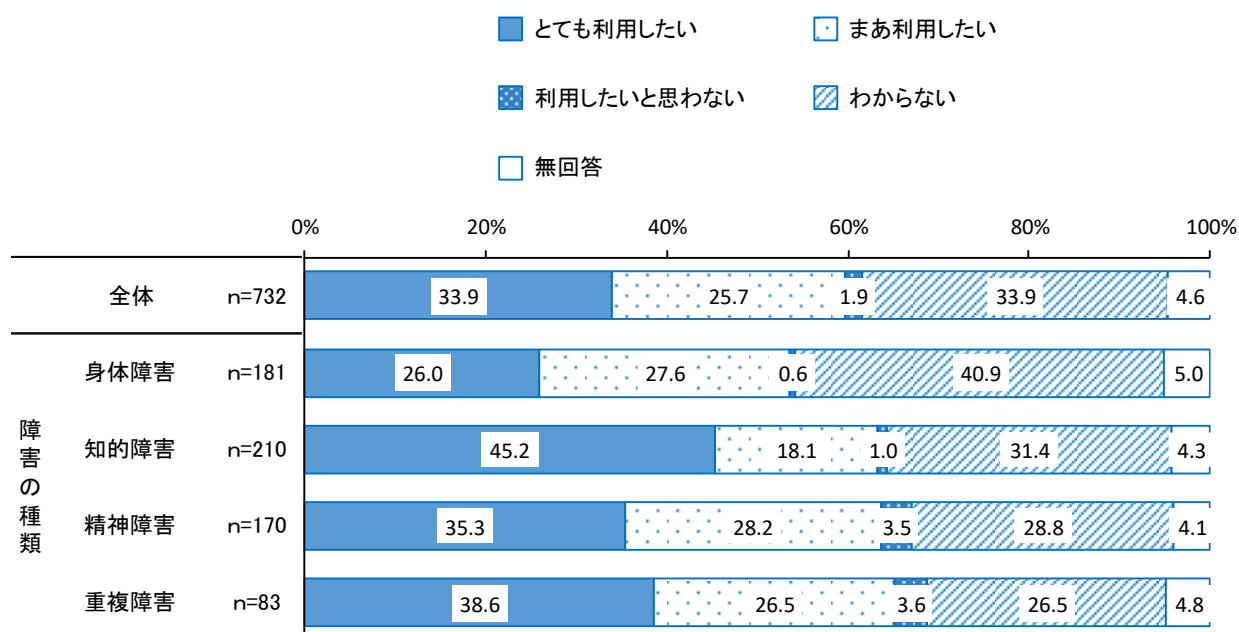
(%)	全 体	か 支 援 困 難 な 事 例 へ の 支 援	応 力 向 上 の た め の 支 援	稚 園、 小 学 校 な ど へ の 支 援	地 域 の 保 育 所 （ 園 ） 、 対 幼	る 人 材 育 成	ネ ッ ト ワ ー ク の 研 修 実 施 に よ	支 援 者 へ の 研 修 実 施 に よ	住 民 へ の 普 及 啓 発 活 動	障 害 児 の 支 援 に 関 する 地 域	ツ く り （ 文 化 芸 術 ・ ス ポ ー ツ な ど ）	夏 休 み な ど の 活 動 の 場 づ くり （ 文 化 芸 術 ・ ス ポ ー ツ な ど ）	実 施	親 子 通 園 に 関 する 事 業 の	グ （ ） の 実 施	保 護 者 に 対 する 療 育 指 導	そ の 他	無 回 答
全 体	732	49.7	42.6	26.4	21.3	13.9	7.2	25.7	4.4	18.7								
0～6歳	29	65.5	72.4	48.3	17.2	20.7	6.9	41.4	3.4	-								
7～17歳	81	44.4	74.1	30.9	22.2	27.2	12.3	37.0	2.5	7.4								
18～29歳	106	53.8	47.2	21.7	25.5	18.9	5.7	30.2	4.7	12.3								
30～39歳	113	56.6	39.8	26.5	19.5	14.2	6.2	31.0	3.5	13.3								
40～49歳	152	46.1	30.9	27.0	19.1	8.6	9.2	21.7	7.2	27.0								
50～59歳	169	49.7	38.5	24.3	21.3	10.1	6.5	17.2	3.6	23.7								
60歳以上	69	39.1	31.9	23.2	21.7	8.7	4.3	18.8	4.3	27.5								

9-7 共生型サービスの利用意向

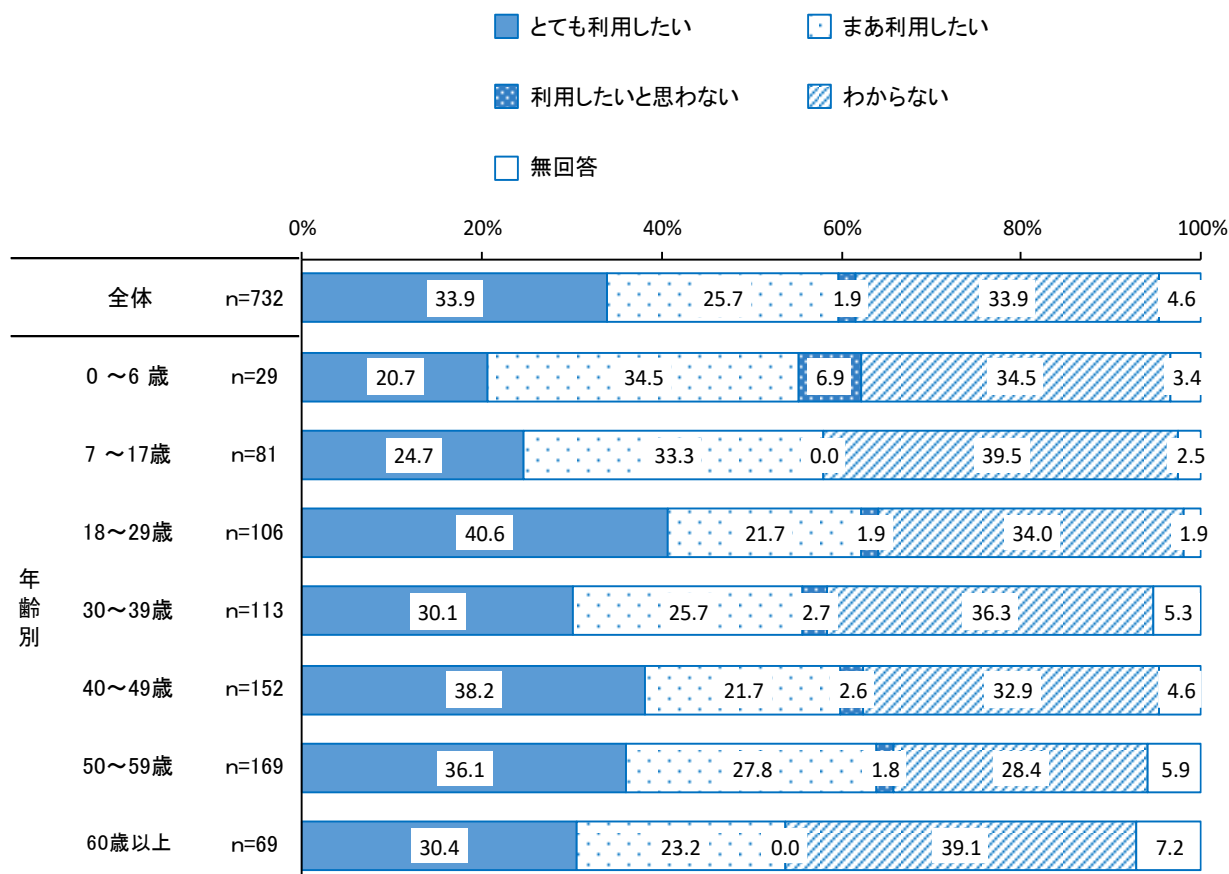
問61 あなたは、障害福祉のサービスと介護保険サービスを1つの事業所内で受けられる「共生型サービス」を今後利用したいと思いますか。（〇は1つだけ）

共生型サービスの利用意向は、「とても利用したい」が33.9%、「まあ利用したい」が25.7%で、これらをあわせた『利用したい』は59.6%となっています。一方、「利用したいと思わない」は1.9%となっています。また、「わからない」は33.9%となっています。

『利用したい』の割合は、身体障害では53.6%、知的障害では63.3%、精神障害では63.5%、重複障害では65.1%となっています。



年齢別で見ると、『利用したい』の割合は18～29歳（62.3%）、50～59歳（63.9%）で6割以上となっています。



【共生型サービスを利用したいと思わない理由】

No.	共生型サービスを利用したいと思わない理由	件数
1	障害と介護は必要な支援が違うから	4
2	人間関係が苦手	3
3	あまりにも年の差がはなれすぎていると合わないと思う。	1
4	健康でいたいから	1
5	現在入所している施設で十分な介護を受けている	1

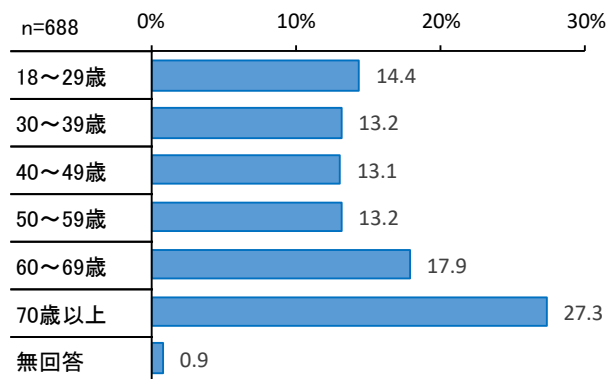
Ⅲ 調査の結果（一般）

1 あなた（宛名の方）のことについて

1-1 年齢

問1 あなたの年齢をお答えください。（数字で記入 令和4年4月1日現在）

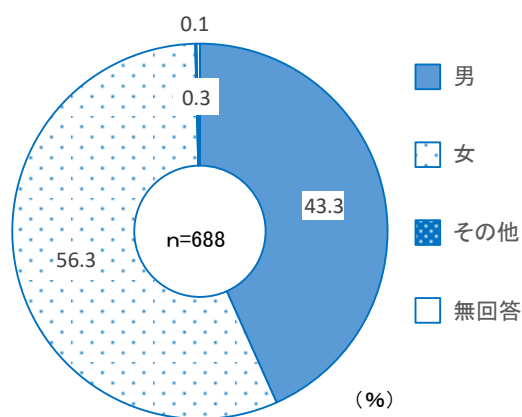
年齢は、「70歳以上」（27.3%）、「60～69歳」（17.9%）で高くなっています。



1-2 性別

問2 あなたの性別をお答えください。（〇は1つだけ）

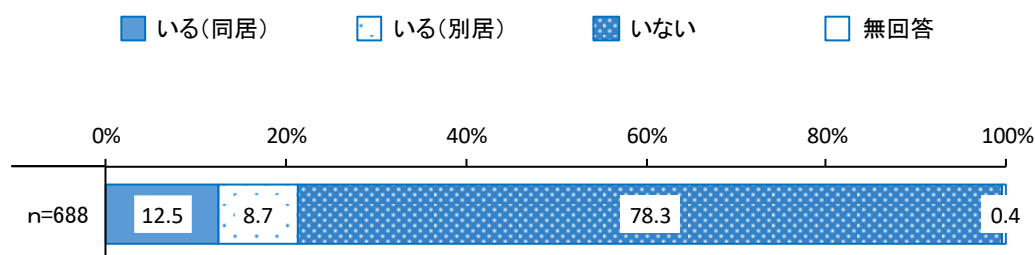
性別は、「男」が43.3%、「女」が56.3%となっています。



1-3 親族に障害のある人の有無

問3 あなたの家族・親族に障害のある人はいますか。(○は1つだけ)

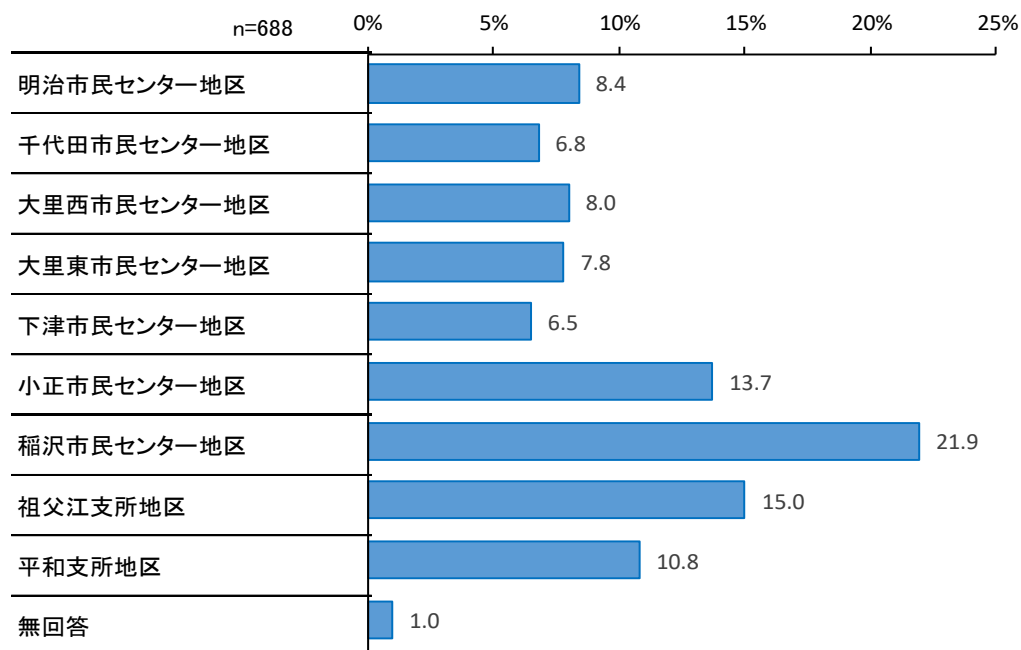
親族に障害のある人の有無は、「いる(同居)」が12.5%、「いる(別居)」が8.7%で、これらをあわせた『いる』は21.2%となっています。一方、「いない」は78.3%で最も高くなっています。



1-4 居住地区

問4 あなたの住まいの地区はどちらですか。(○は1つだけ)

居住地区は、「稲沢市民センター地区」が21.9%で最も高く、次いで「祖父江支所地区」が15.0%、「小正市民センター地区」が13.7%となっています。



年齢別で見ると、18～29歳では「稲沢市民センター地区」（35.4%）が3割以上となっています。

(%)	全 体	明 治 市 民 セ ン タ ー 地 区	千 代 田 市 民 セ ン タ ー 地 区	大 里 西 市 民 セ ン タ ー 地 区	大 里 東 市 民 セ ン タ ー 地 区	下 津 市 民 セ ン タ ー 地 区	小 正 市 民 セ ン タ ー 地 区	稲 沢 市 民 セ ン タ ー 地 区	祖 父 江 支 所 地 区	平 和 支 所 地 区	無 回 答
全 体	688	8.4	6.8	8.0	7.8	6.5	13.7	21.9	15.0	10.8	1.0
18～29歳	99	7.1	7.1	12.1	2.0	9.1	6.1	35.4	13.1	8.1	-
30～39歳	91	7.7	6.6	11.0	5.5	6.6	20.9	26.4	8.8	6.6	-
40～49歳	90	7.8	6.7	4.4	14.4	11.1	15.6	18.9	13.3	6.7	1.1
50～59歳	91	11.0	3.3	7.7	8.8	5.5	23.1	18.7	14.3	7.7	-
60～69歳	123	7.3	7.3	10.6	6.5	4.9	14.6	16.3	14.6	17.1	0.8
70歳以上	188	9.6	8.5	4.8	9.6	4.8	8.0	19.1	20.7	13.3	1.6

1-5 職業

問5 あなたの職業をお答えください。(〇は1つだけ)

職業は、「会社員、公務員など」が34.3%で最も高く、次いで「無職」が20.3%、「パート、アルバイトなど」が16.9%、「主婦・主夫など」が16.6%となっています。

年齢別でみると、18～29歳では「会社員、公務員など」が55.6%で最も高くなっています。

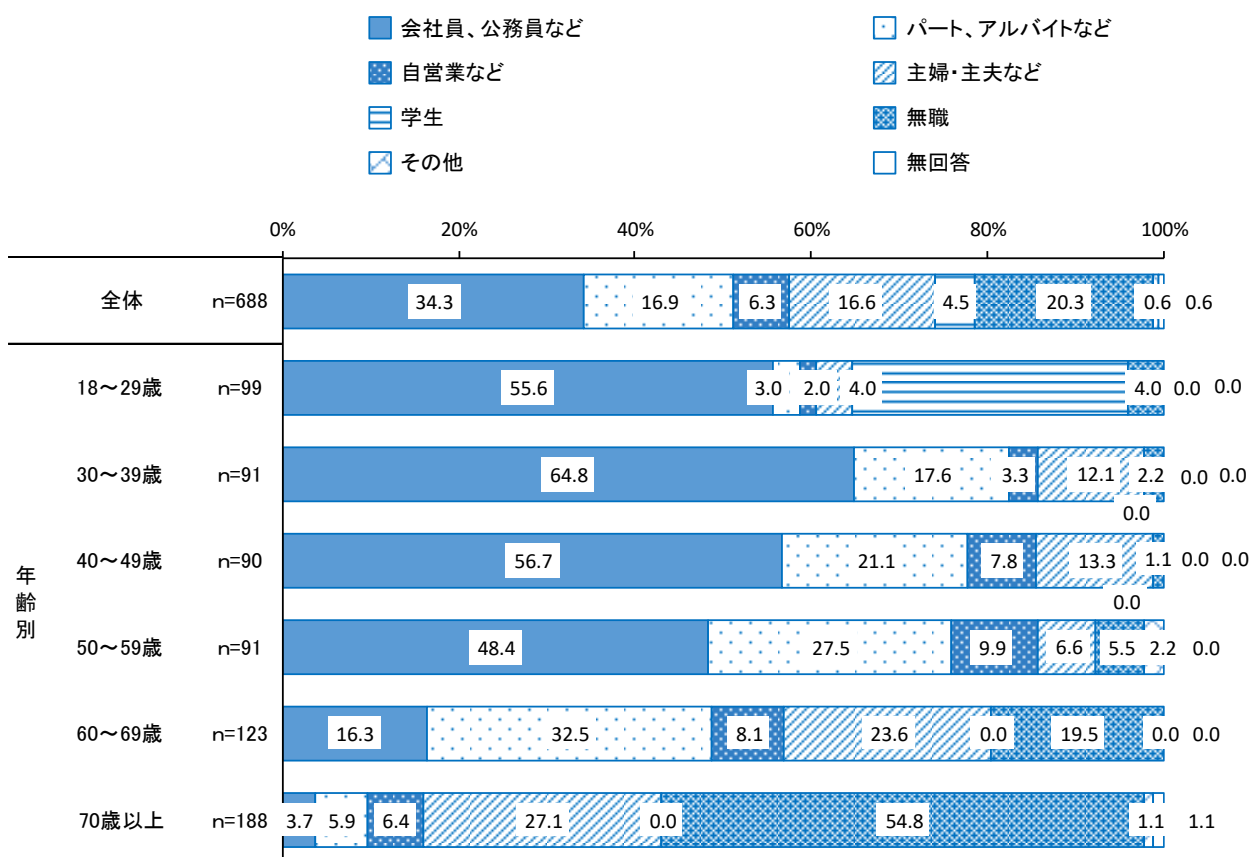
30～39歳では「会社員、公務員など」が64.8%で最も高くなっています。

40～49歳では「会社員、公務員など」が56.7%で最も高くなっています。

50～59歳では「会社員、公務員など」が48.4%で最も高くなっています。

60～69歳では「パート・アルバイトなど」が32.5%で最も高くなっています。

70歳以上では「無職」が54.8%で最も高くなっています。



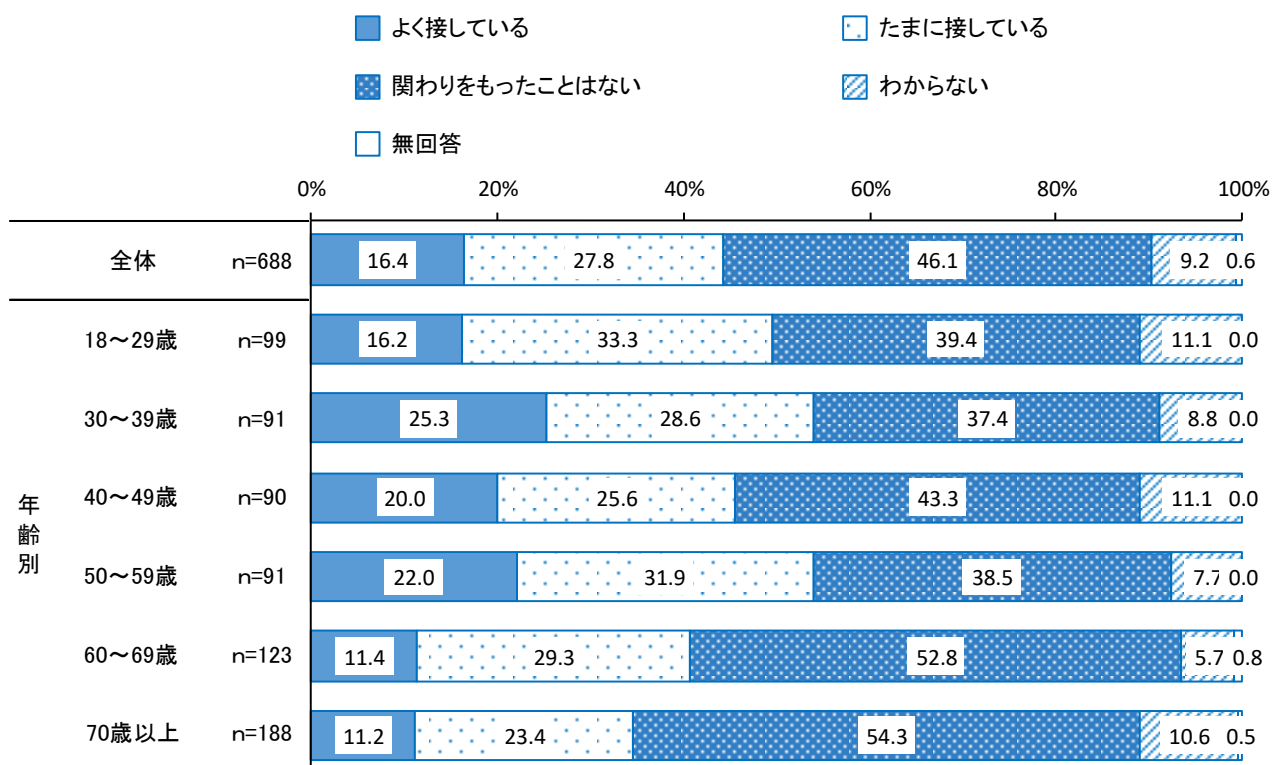
1-6 周囲で障害のある人と関わる機会

問6 あなたは家族・親族・地域・職場・学校・ボランティアなどで障害のある人との関わりがありますか。(〇は1つだけ)

周囲で障害のある人と関わる機会は、『接している※』が44.2%、「関わりをもったことがない」が46.1%となっています。

『接している』の割合は、18～29歳では49.5%、30～39歳では53.9%、40～49歳では45.6%、50～59歳では53.9%、60～69歳では40.7%、70歳以上は34.6%となっています。

※「よく接している」「たまに接している」の計



2 障害のある人に対する意識について

2-1 障害のある人や障害者福祉への関心度

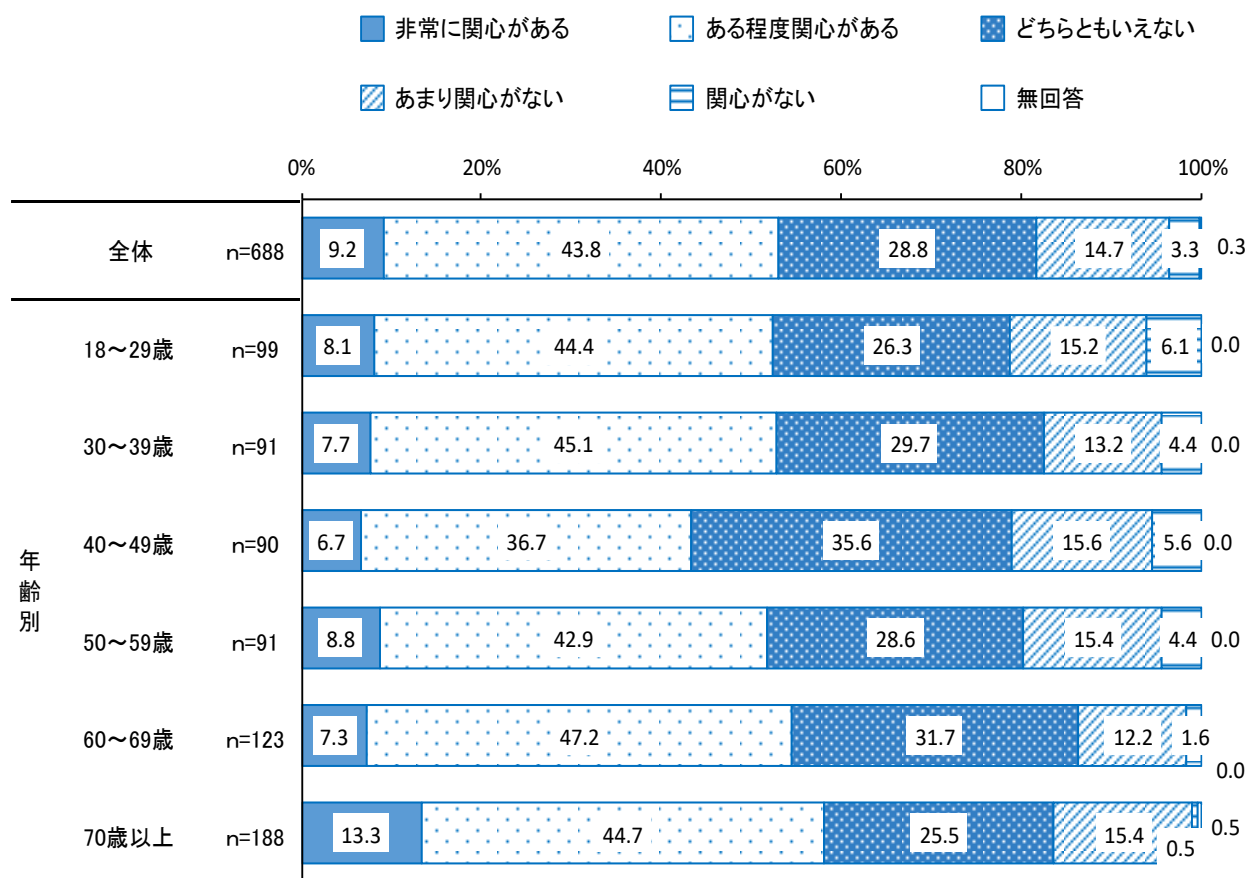
問7 あなたは、障害のある人たちのことや、障害者福祉について関心をお持ちですか。（〇は1つだけ）

障害のある人や障害者福祉への関心度は、『関心がある※1』が53.0%、『関心がない※2』が18.0%、「どちらともいえない」が28.8%となっています。

『関心がある』の割合は、18～29歳では52.5%、30～39歳では52.8%、40～49歳では43.4%、50～59歳では51.7%、60～69歳では54.5%、70歳以上は58.0%となっています。

※1 「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の計

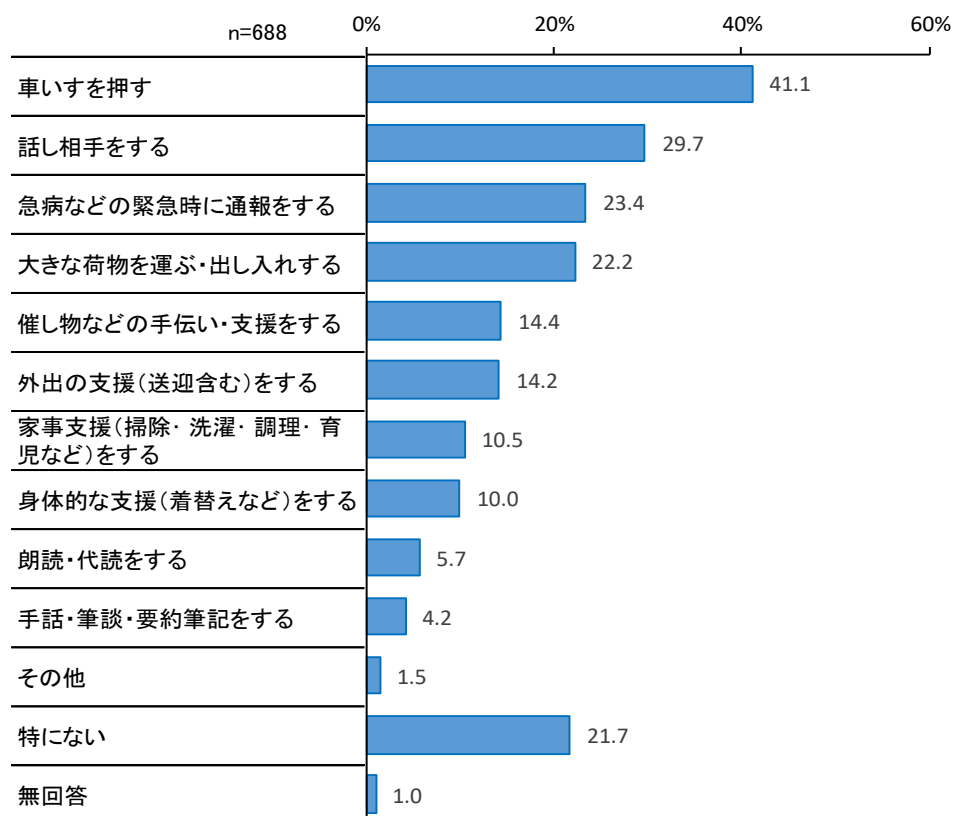
※2 「あまり関心がない」「関心がない」の計



2-2 障害のある人に対する支援

問8 あなたが日常生活の中で、障害のある人に対する支援としてできることはありますか。（〇は3つまで）

障害のある人に対する支援は、「車いすを押す」が41.1%で最も高く、次いで「話し相手をする」が29.7%、「急病などの緊急時に通報をする」が23.4%、「大きな荷物を運ぶ・出し入れする」が22.2%となっています。



年齢別でみると、「車いすを押す」は18～29歳（53.5%）、30～39歳（50.5%）で割合が高くなっています。

(%)	全 体	身 体 的 な 支 援 （ 着 替 え な ど） を す る	濯 ・ 調 理 ・ 育 児 な ど） を す る	家 事 支 援 （ 掃 除 ・ 洗 ）	外 出 の 支 援 （ 送 迎 含 む） を す る	急 病 な ど の 緊 急 時 に 通 報 を す る	車 い す を 押 す	大 き な 荷 物 を 運 ぶ ・ 出 し 入 れ す る	手 話 ・ 筆 談 ・ 要 約 筆 記 を す る
全 体	688	10.0	10.5	14.2	23.4	41.1	22.2	4.2	
18～29歳	99	10.1	10.1	13.1	15.2	53.5	36.4	6.1	
30～39歳	91	12.1	4.4	7.7	30.8	50.5	34.1	9.9	
40～49歳	90	7.8	11.1	13.3	23.3	41.1	32.2	6.7	
50～59歳	91	17.6	13.2	22.0	22.0	44.0	22.0	4.4	
60～69歳	123	9.8	16.3	14.6	25.2	43.9	16.3	0.0	
70歳以上	188	6.9	8.5	14.4	24.5	28.2	9.0	2.1	

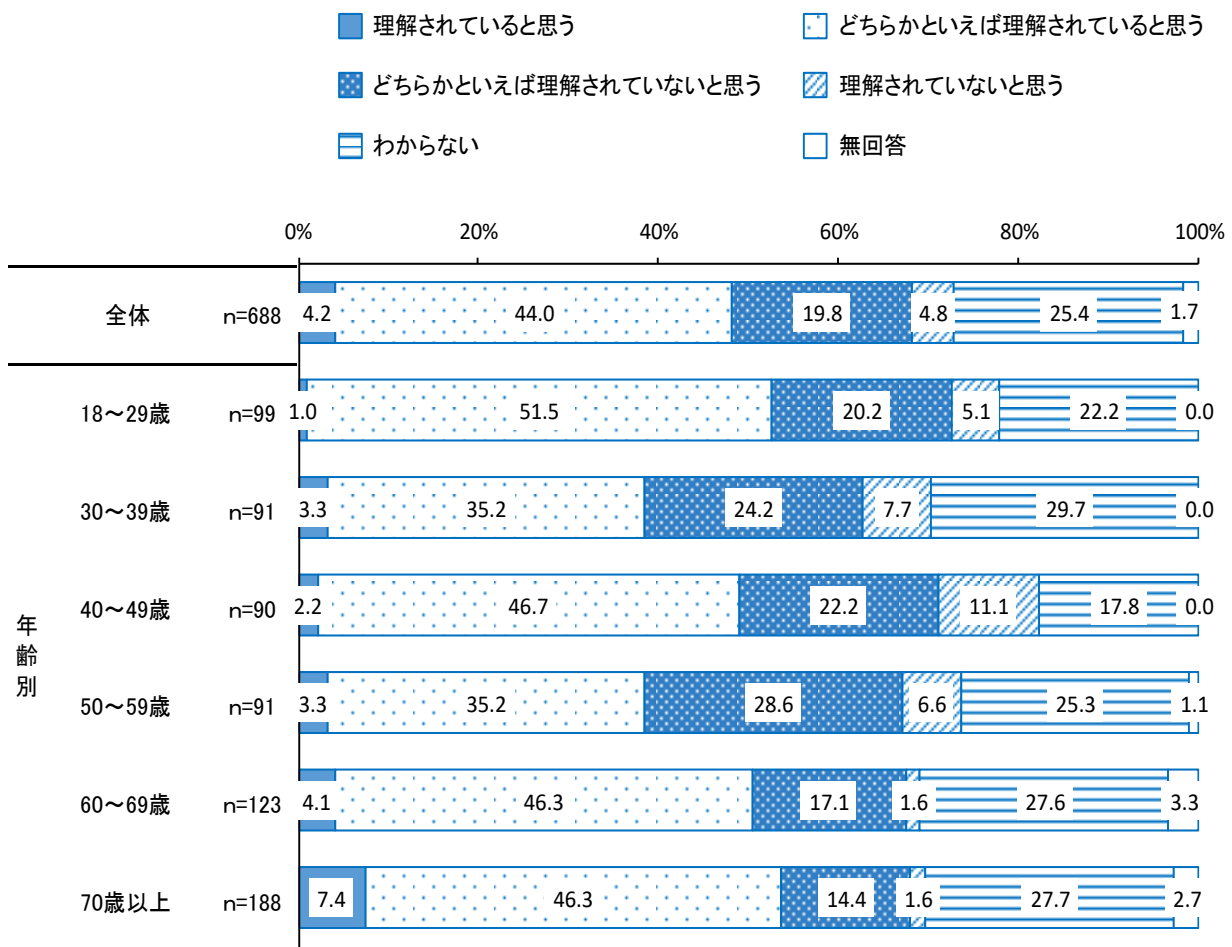
(%)	全 体	朗 読 ・ 代 読 を す る	話 し 相 手 を す る	支 援 し 物 な ど の 手 伝 い ・ 支 援 を す る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	688	5.7	29.7	14.4	1.5	21.7	1.0
18～29歳	99	6.1	30.3	16.2	1.0	18.2	-
30～39歳	91	5.5	33.0	8.8	-	20.9	-
40～49歳	90	8.9	27.8	12.2	2.2	21.1	-
50～59歳	91	5.5	28.6	18.7	1.1	17.6	1.1
60～69歳	123	6.5	23.6	15.4	2.4	21.1	-
70歳以上	188	3.7	33.0	14.9	1.6	25.5	2.7

2-3 障害のある人に対する社会の理解

問9 あなたは日常生活の中で、障害のある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（〇は1つだけ）

障害のある人に対する社会の理解は、「理解されていると思う」が4.2%、「どちらかといえば理解されていると思う」が44.0%で最も高く、これらをあわせた『理解されている』は48.2%となっています。一方、「どちらかといえば理解されていないと思う」が19.8%、「理解されていないと思う」が4.8%で、これらを合わせた『理解されていない』は24.6%となっています。

『理解されている』の割合は、18～29歳では52.5%、30～39歳では38.5%、40～49歳では48.9%、50～59歳では38.5%、60～69歳では50.4%、70歳以上は53.7%となっています。



2-4 障害のある人が社会から理解されていないと感じる理由

問9で「3. どちらかといえば理解されていないと思う」「4. 理解されていないと思う」と答えた方にお聞きします。

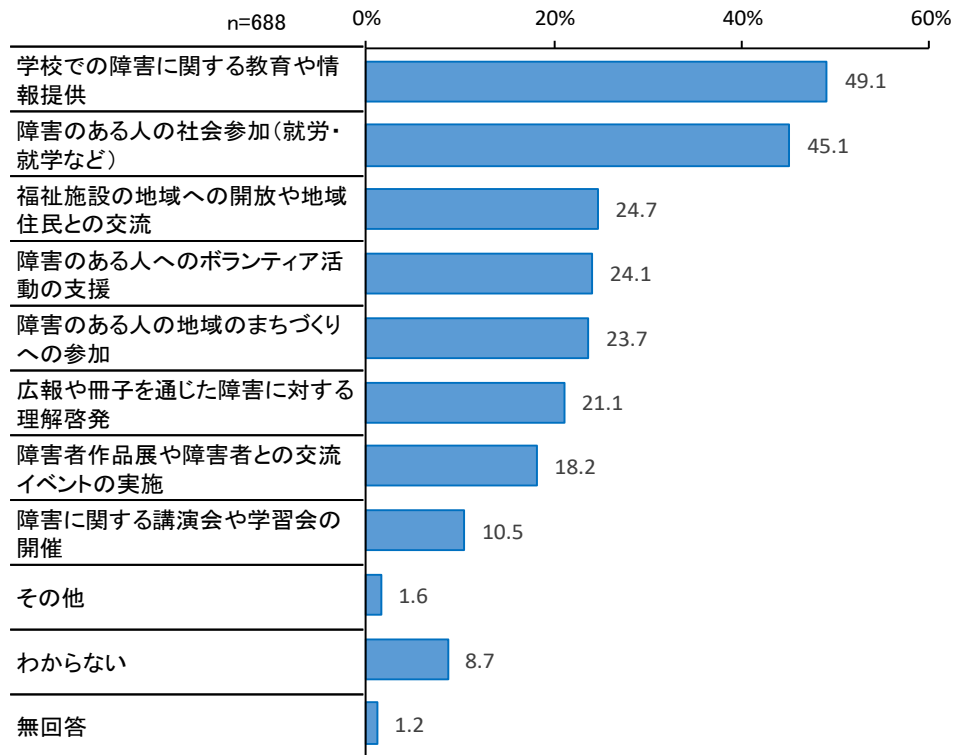
問10 障害者が理解されていないと感じることがありましたら、内容をお書きください。（自由回答）

No.	障害のある人が社会から理解されていないと感じる理由	件数
1	障害者が身近にいないため、接し方がわからない	16
2	公共施設等（エレベーター・駐車場・点字ブロック等が不便）の設備が整っていない	15
3	学校や就労先で周りの理解がない	9
4	障害のことについて知る機会が少ない	7
5	障害者であるかどうかわからないことがある	6

2-5 障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問11 あなたは、障害のある人に対する理解を深めるためには、どのようなことが必要とお考えですか。（〇は3つまで）

障害がある人への理解を深めるために必要なことは、「学校での障害に関する教育や情報提供」が49.1%で最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が45.1%、「福祉施設の地域への開放や地域住民との交流」が24.7%となっています。



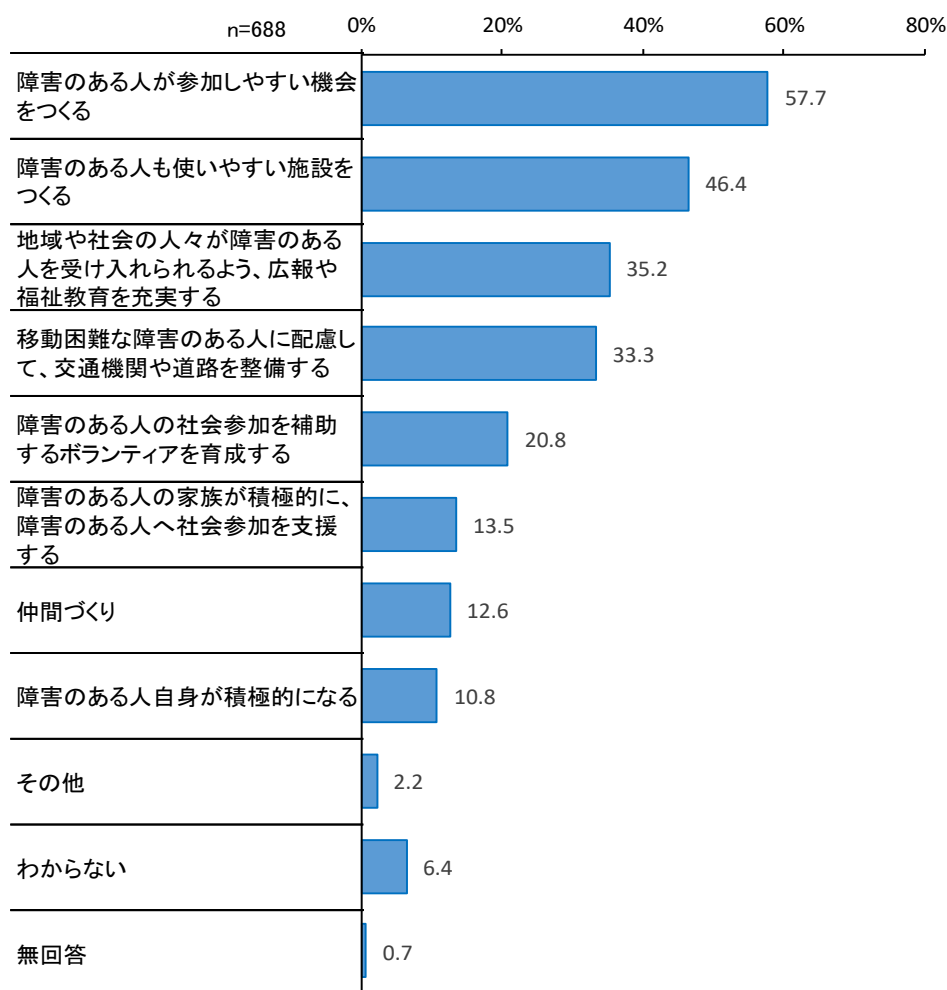
年齢別でみると、30～39歳では「学校での障害に関する教育や情報提供」（62.6%）が6割以上となっています。

	全体	広報や冊子を通じた障害啓発	障害のある人のボランティアの支援	学校や情報提供に関する	学習会に関する講演会や	障害者作品展や障害者との交流イベントの実施	障害のある人の社会参加（就労・就学など）	福祉施設の地域住民との交流	まちづくりや地域の参加	その他	わからない	無回答
(%)												
全体	688	21.1	24.1	49.1	10.5	18.2	45.1	24.7	23.7	1.6	8.7	1.2
18～29歳	99	16.2	24.2	57.6	16.2	22.2	44.4	24.2	21.2	1.0	5.1	-
30～39歳	91	18.7	22.0	62.6	6.6	11.0	60.4	18.7	28.6	2.2	5.5	-
40～49歳	90	8.9	22.2	57.8	4.4	22.2	55.6	26.7	30.0	3.3	7.8	-
50～59歳	91	20.9	19.8	54.9	15.4	15.4	57.1	33.0	22.0	-	3.3	1.1
60～69歳	123	24.4	26.8	43.1	11.4	17.1	38.2	20.3	24.4	1.6	10.6	2.4
70歳以上	188	29.3	26.1	35.6	8.5	20.2	31.9	26.1	19.7	1.6	13.3	2.1

2-6 障害のある人が地域社会に参加するために大切なこと

問12 あなたは障害のある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、特に大切なことは何だとお考えですか。（〇は3つまで）

障害のある人が地域社会に参加するために大切なことは、障害のある人が参加しやすい機会をつくる」が57.7%で最も高く、次いで「障害のある人も使いやすい施設をつくる」が46.4%、「地域や社会の人々が障害のある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実させる」が35.2%となっています。



年齢別でみると、「障害のある人も使いやすい施設をつくる」は18～29歳（54.5%）、30～39歳（57.1%）、50～59歳（59.3%）で5割以上となっています。また、「障害のある人の社会参加を補助するボランティアを育成する」は50～59歳（30.8%）で割合が高くなっています。

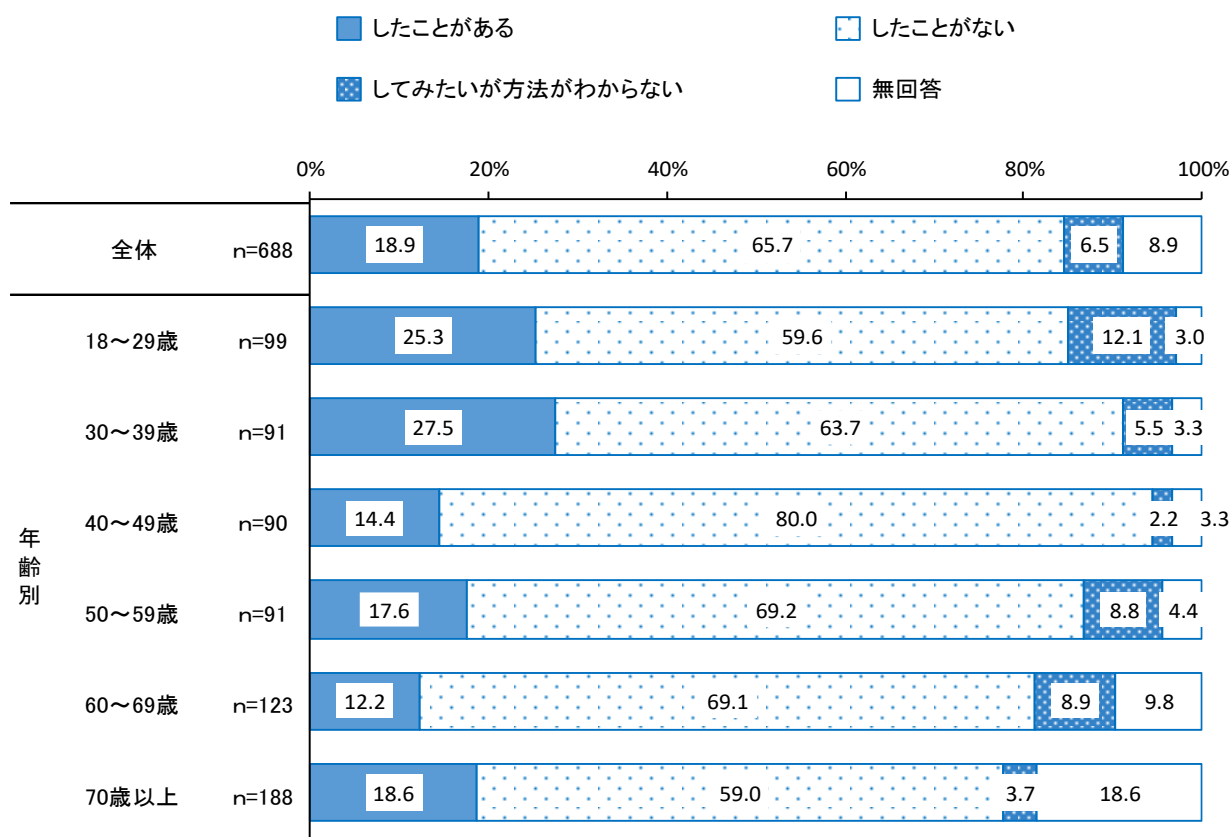
(%)	全 体	障 害 の あ る 人 も 使 い や す い 機 会 を つ く る 人 が 参 加 し や す	障 害 の あ る 人 も 使 い や す い 施 設 を つ く る	配 慮 し て 交 通 機 関 や 道 路 を 整 備 す る	移 動 困 難 な 障 害 の あ る 人 に 対 し て 充 実 す る	あ る 人 や 福 祉 教 育 を 充 実 す る	地 域 や 社 会 の 人 々 が 障 害 の あ る 人 に 対 し て 充 実 す る	補 助 す る ボ ラ ン テ ィ ア を 育 成 す る	障 害 の あ る 人 の 家 族 が 社 会 参 加 を 支 援 す る	障 害 の あ る 人 自 身 が 積 極 的 に な る	仲 間 づ く り	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	688	57.7	46.4	33.3	35.2	20.8	13.5	10.8	12.6	2.2	6.4	0.7		
18～29歳	99	63.6	54.5	31.3	31.3	28.3	7.1	10.1	16.2	1.0	5.1	-		
30～39歳	91	57.1	57.1	46.2	36.3	13.2	6.6	7.7	11.0	2.2	5.5	-		
40～49歳	90	57.8	47.8	34.4	32.2	15.6	8.9	14.4	17.8	5.6	5.6	-		
50～59歳	91	56.0	59.3	41.8	39.6	30.8	12.1	3.3	8.8	4.4	1.1	1.1		
60～69歳	123	59.3	41.5	32.5	35.8	21.1	18.7	9.8	9.8	0.8	5.7	1.6		
70歳以上	188	54.3	33.5	24.5	35.6	16.5	19.1	15.4	12.8	1.1	11.2	1.1		

2-7 障害のある人に関わるボランティア活動への参加状況

問13 あなたは障害のある人に関わるボランティア活動をしたことがありますか。
(○は1つだけ)

障害のある人に関わるボランティア活動への参加状況は、「したことがある」が18.9%、「してみたいが方法がわからない」が6.5%となっています。一方、「したことがない」は65.7%で最も高くなっています。

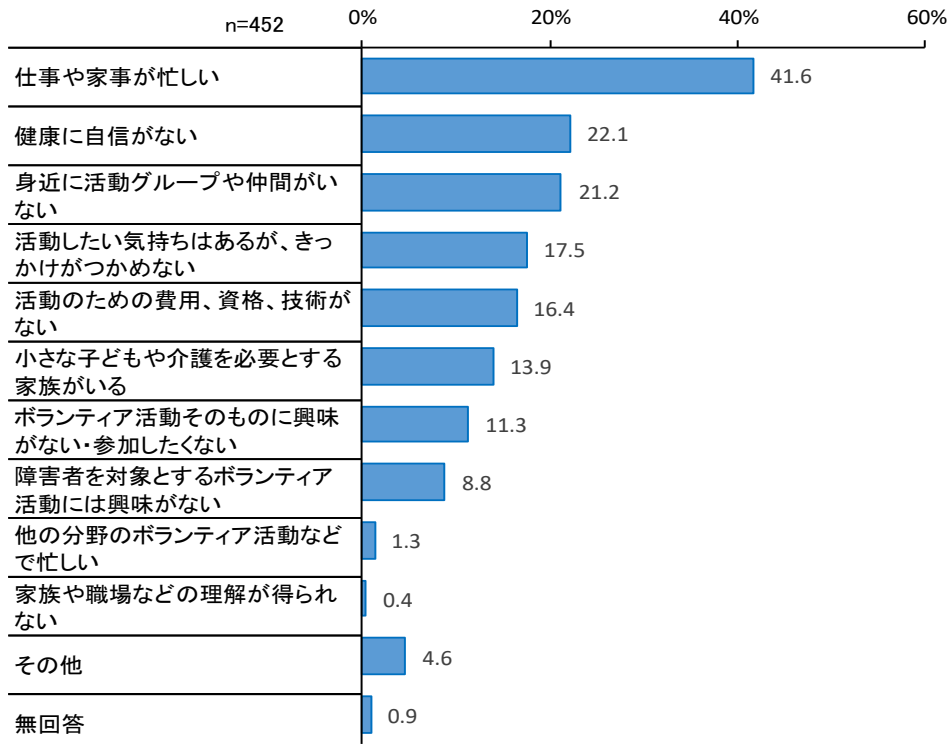
「したことがある」の割合は、18～29歳では25.3%、30～39歳では27.5%、40～49歳では14.4%、50～59歳では17.6%、60～69歳では12.2%、70歳以上は18.6%となっています。



2-8 障害のある人に関わるボランティア活動に参加しない理由

問13で「2. したことがない」と答えた方にお聞きします。
 問14 その主な理由は何ですか。（あてはまるすべてのものに○）

障害のある人に関わるボランティア活動に参加しない理由は、「仕事や家事が忙しい」が41.6%で最も高く、次いで「健康に自信がない」が22.1%、「身近に活動グループや仲間がいない」が21.2%となっています。



年齢別で見ると、70歳以上では「健康に自信がない」が48.6%で最も高くなっています。

	全体 (%)	仕事や家事が忙しい	他の分野などで忙しい	小さな子どもや介護を必要とする家族がいる	健康に自信がない	めるが、活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない	仲間がいない	身近に活動グループや仲間がいない	格、活動のための費用、資格、技術がない	が得られない	味がない	障害者を対象とする活動には興味がない	加したくない	もしたくない	ボランティア活動に興味がない	その他	無回答
全体	452	41.6	1.3	13.9	22.1	17.5	21.2	16.4	0.4	8.8	11.3	4.6	0.9				
18～29歳	59	47.5	-	6.8	3.4	15.3	22.0	15.3	-	15.3	22.0	3.4	-				
30～39歳	58	53.4	-	24.1	10.3	17.2	24.1	10.3	-	15.5	19.0	3.4	-				
40～49歳	72	48.6	1.4	19.4	4.2	16.7	25.0	13.9	-	8.3	13.9	5.6	1.4				
50～59歳	63	63.5	4.8	9.5	17.5	12.7	22.2	12.7	-	9.5	9.5	9.5	-				
60～69歳	85	32.9	2.4	17.6	25.9	22.4	18.8	30.6	2.4	9.4	5.9	2.4	-				
70歳以上	111	21.6	-	9.0	48.6	18.9	18.9	13.5	-	1.8	5.4	4.5	1.8				

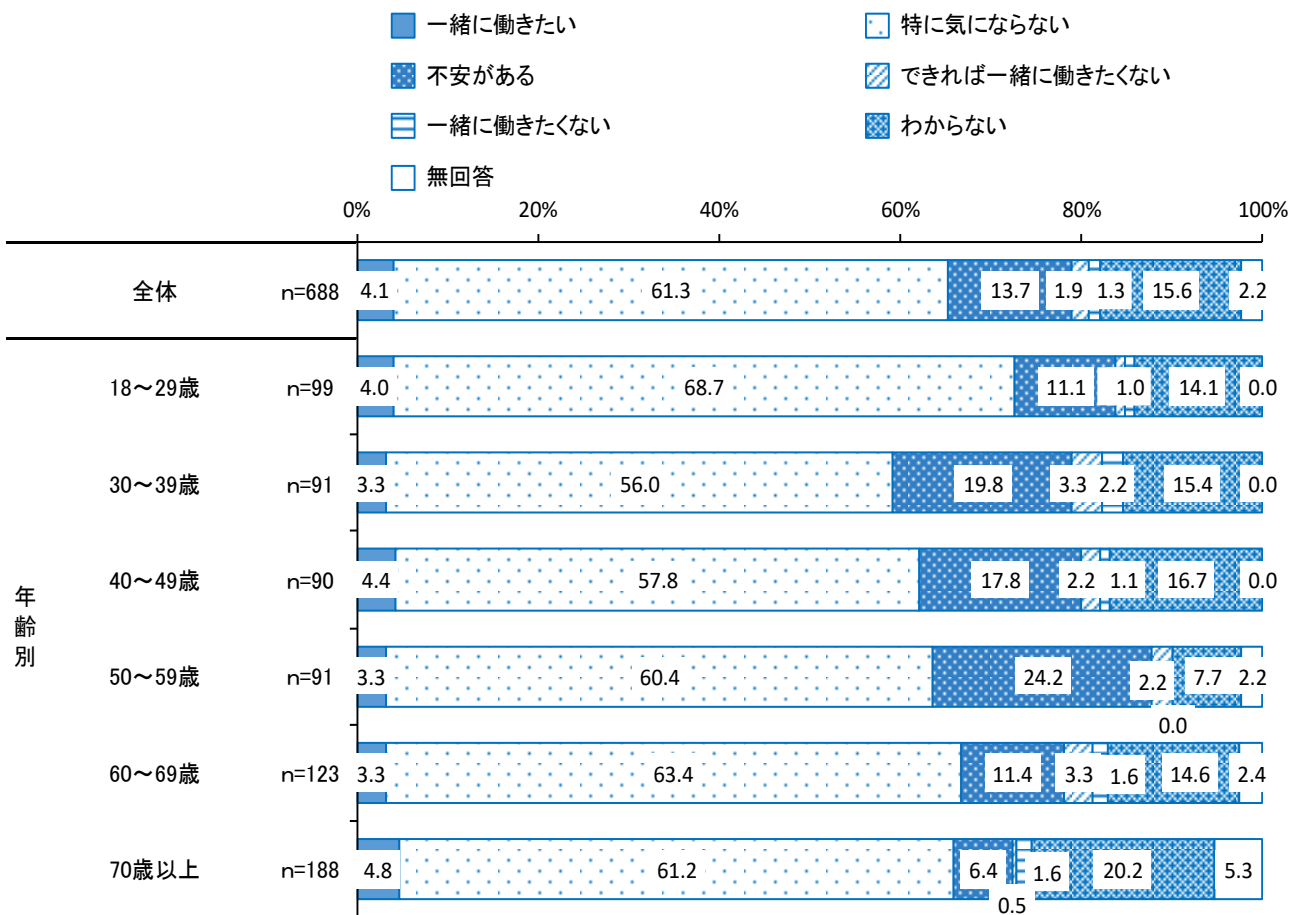
3 就労について

3-1 障害のある人と働くこと

問15 あなたは、障害のある人と一緒に働くことについてどう思われますか。
(○は1つだけ)

障害のある人と働くことは、「特に気にならない」が61.3%、「わからない」が15.6%、「不安がある」が13.7%となっています。

「特に気にならない」の割合は、18～29歳では68.7%、30～39歳では56.0%、40～49歳では57.8%、50～59歳では60.4%、60～69歳では63.4%、70歳以上では61.2%となっています。



3-2 障害のある人と働くことに不安を感じる理由

問15で「3. 不安がある」「4. できれば一緒に働きたくない」「5. 一緒に働きたくない」と答えた方にお聞きします。

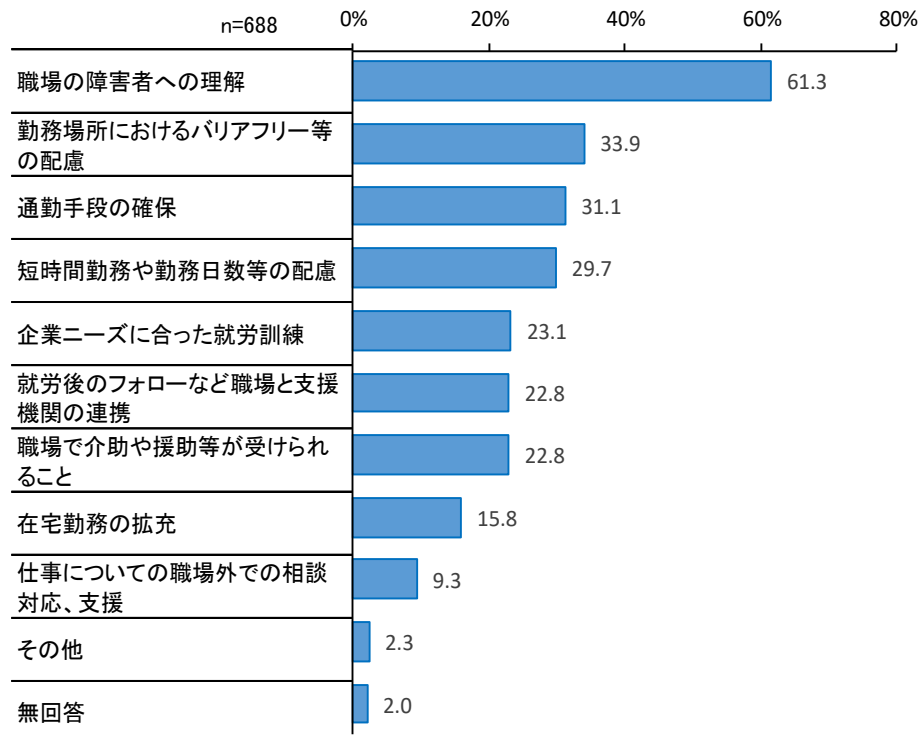
問16 障害のある人と一緒に働くのには不安がある、または働きたくないと考える理由を簡単にお書きください。（自由回答）

No.	障害のある人と働くことに不安を感じる理由	件数
1	症状の対応に不安がある	19
2	仕事に影響が出るから	18
3	接し方等がわからない	14
4	自分のことで精一杯・ストレスになる	9
5	会社の障害者雇用の受け入れ体制が整っていない	5

3-3 障害のある人の就労促進のために必要な支援

問17 あなたは障害のある人の就労を促進するために、どのような支援が最も必要であると思いますか。（〇は3つまで）

障害のある人の就労促進のために必要な支援は、「職場の障害者への理解」が61.3%で最も高く、次いで「勤務場所におけるバリアフリー等の配慮」が33.9%、「通勤手段の確保」が31.1%となっています。



年齢別で見ると、30～39歳では「職場の障害者への理解」（71.4%）の割合が高くなっています。

	全体	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者への理解	職場で介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答
(%)												
全体	688	31.1	33.9	29.7	15.8	61.3	22.8	22.8	23.1	9.3	2.3	2.0
18～29歳	99	30.3	34.3	27.3	25.3	60.6	29.3	27.3	21.2	9.1	1.0	-
30～39歳	91	33.0	42.9	24.2	13.2	71.4	23.1	33.0	23.1	6.6	3.3	-
40～49歳	90	25.6	38.9	28.9	20.0	55.6	22.2	18.9	28.9	7.8	5.6	1.1
50～59歳	91	27.5	35.2	34.1	11.0	69.2	16.5	29.7	25.3	8.8	2.2	-
60～69歳	123	31.7	31.7	34.1	15.4	59.3	23.6	18.7	23.6	10.6	-	-
70歳以上	188	33.5	27.7	29.3	13.3	57.4	22.3	17.0	20.2	10.6	2.7	6.4

4 権利擁護について

4-1 共生社会の認知度と共生社会のあり方

問18 障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う社会のことを「共生社会」といいます。あなたは、「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。
(〇は1つだけ)

共生社会の認知度と共生社会のあり方は、「聞いたことがあり、望ましいと思う」が47.2%で最も高く、次いで「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」が46.2%となっています。

年齢別でみると、18～29歳では「聞いたことがあり、望ましいと思う」が55.6%で最も高くなっています。

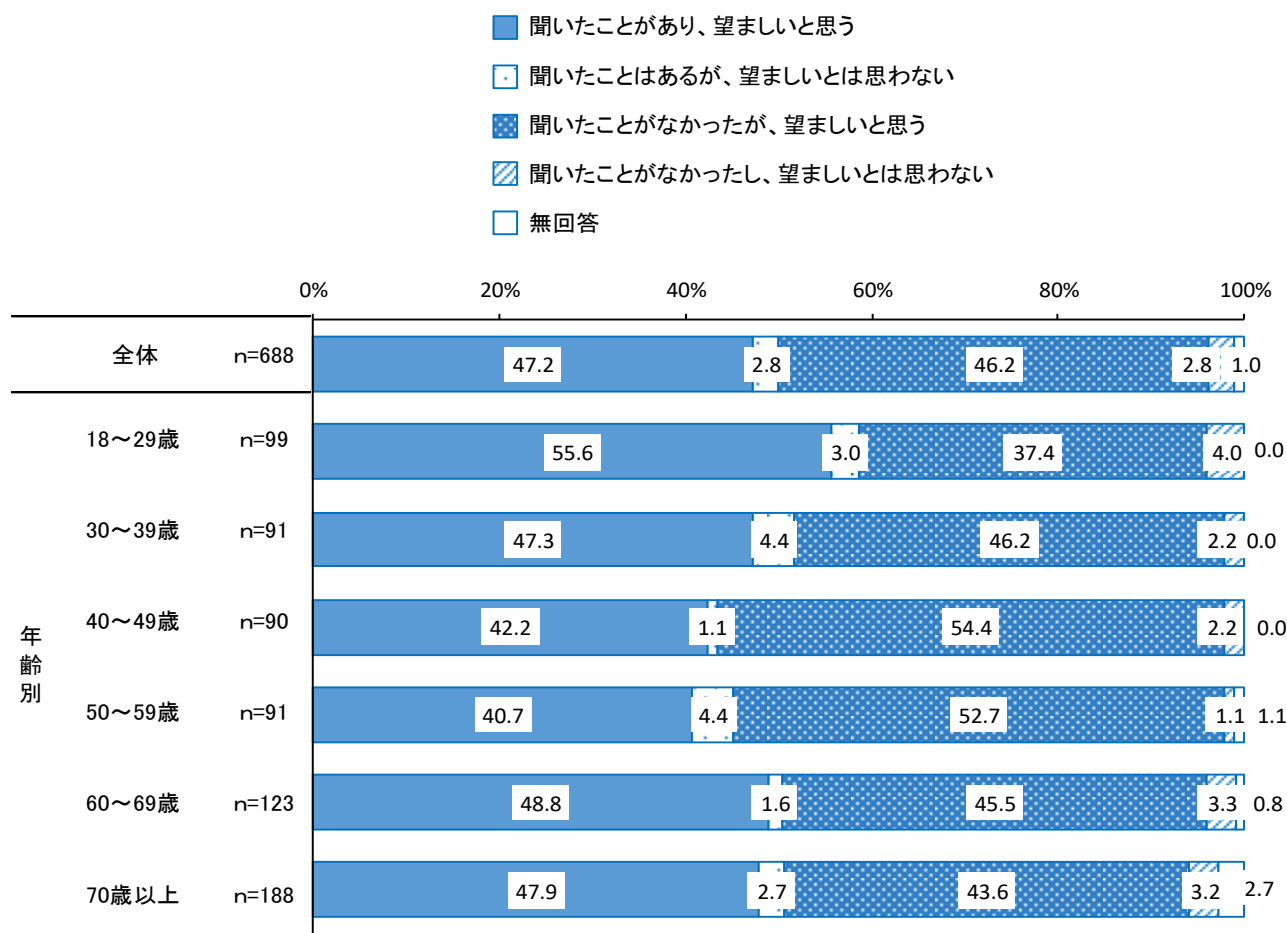
30～39歳では「聞いたことがあり、望ましいと思う」が47.3%で最も高くなっています。

40～49歳では「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」が54.4%で最も高くなっています。

50～59歳では「聞いたことがなかったが、望ましいと思う」が52.7%で最も高くなっています。

60～69歳では「聞いたことがあり、望ましいと思う」が48.8%で最も高くなっています。

70歳以上では「聞いたことがあり、望ましいと思う」が47.9%で最も高くなっています。

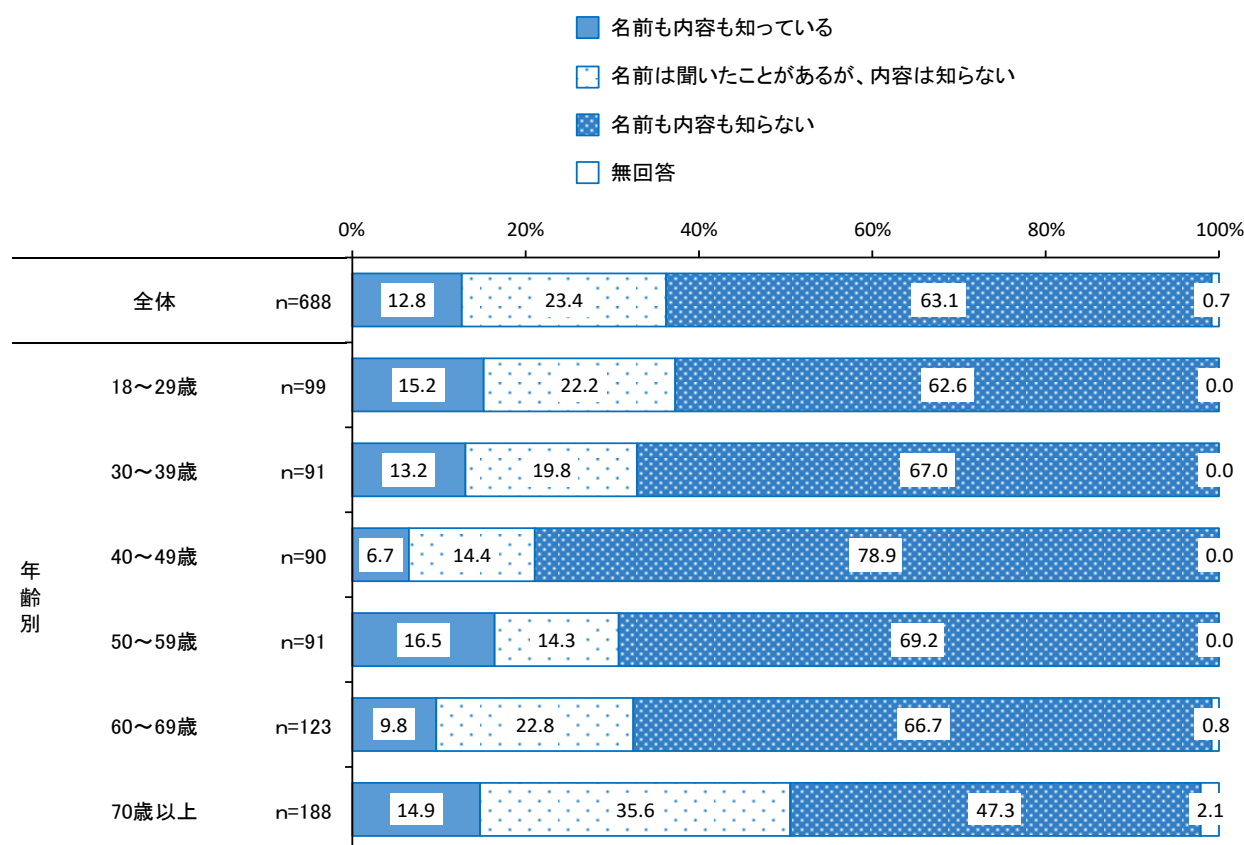


4-2 障害者差別解消法の認知度

問19 障害者差別解消法について知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」が12.8%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が23.4%で、これらをあわせた認知度は36.2%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は63.1%で最も高くなっています。

認知度は、18～29歳では37.4%、30～39歳では33.0%、40～49歳では21.1%、50～59歳では30.8%、60～69歳では32.6%、70歳以上では50.5%となっています。



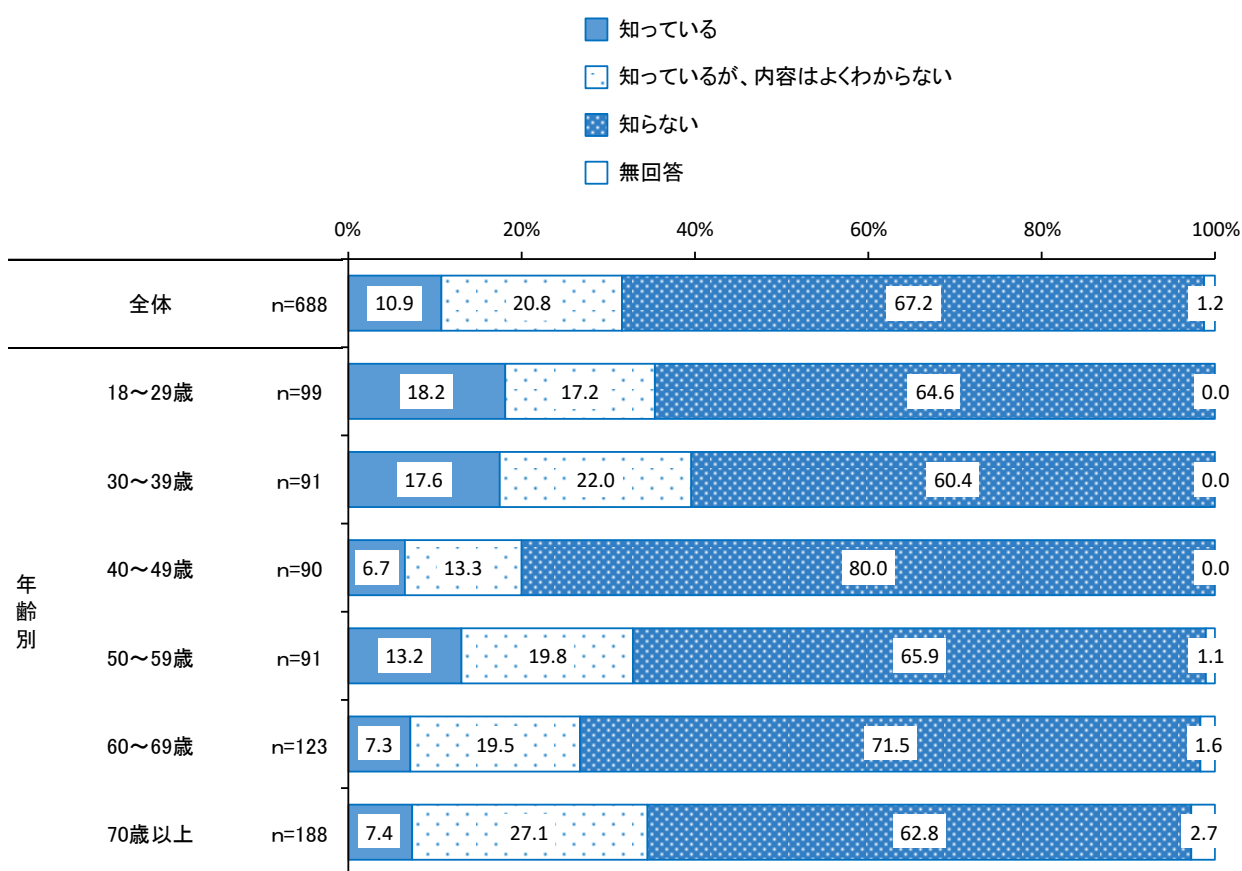
※障害者差別解消法は、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。障害者差別解消法では、「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮をしないこと」が、差別になります。

4-3 合理的配慮の認知度

問20 障害のある人に対する「合理的配慮」について、知っていますか。
(○は1つだけ)

合理的配慮の認知度は、「知っている」が10.9%、「知っているが、内容はよくわからない」が20.8%で、これらをあわせた認知度は31.7%となっています。一方、「知らない」は67.2%で最も高くなっています。

認知度は、18～29歳では35.4%、30～39歳では39.6%、40～49歳では20.0%、50～59歳では33.0%、60～69歳では26.8%、70歳以上では34.5%となっています。



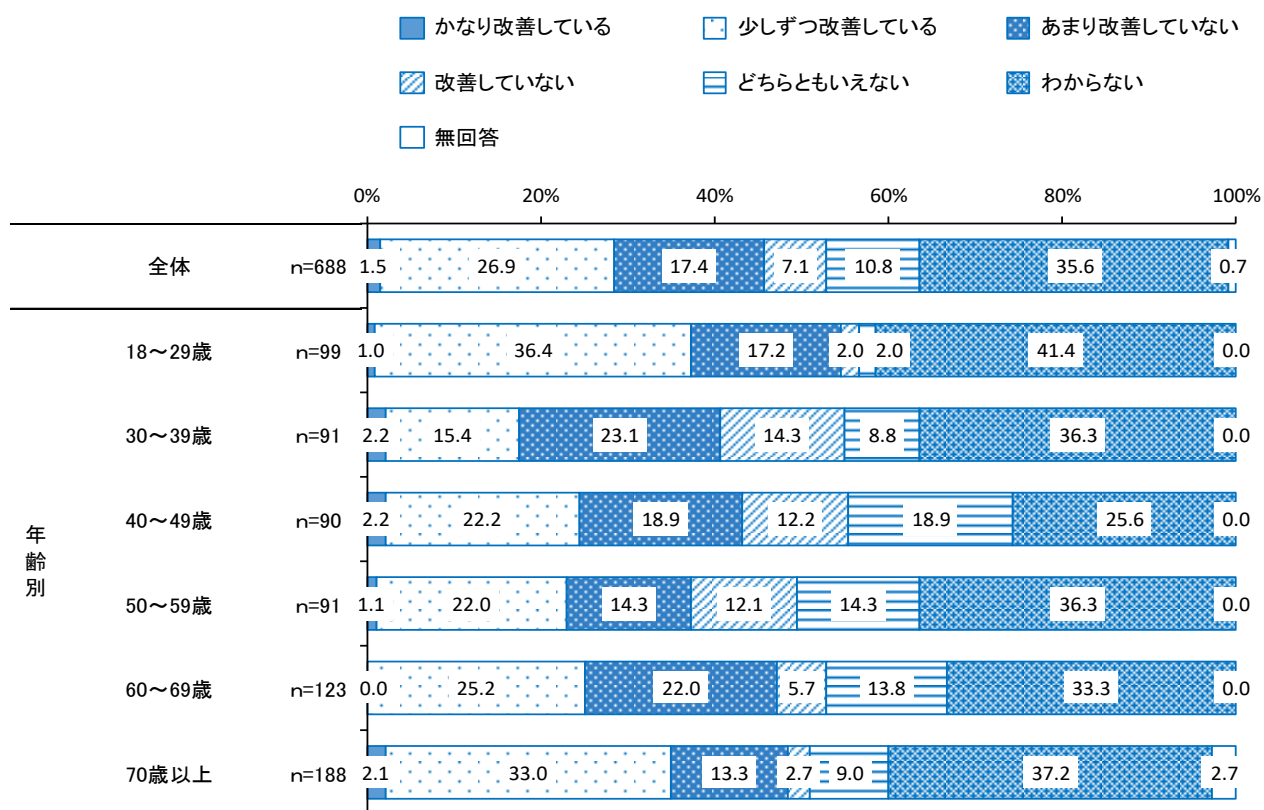
※合理的配慮は、障害のある人から、社会の中にある障壁を取り除くために何らかの対応を必要とするとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することが求められるものです。

4-4 障害のある人に対する差別や偏見の改善

問21 あなたは、障害者差別解消法が施行された頃（約5年前）と比較して、障害のある人に対する差別や偏見は改善していると思いますか。（〇は1つだけ）

障害のある人に対する差別や偏見の改善は、「かなり改善している」が1.5%、「少しずつ改善している」が26.9%で、これらをあわせた『改善している』は28.4%となっています。一方、「あまり改善していない」が17.4%、「改善していない」が7.1%で、これらをあわせた『改善していない』は24.5%となっています。

『改善している』の割合は、18～29歳では37.4%、30～39歳では17.6%、40～49歳では24.4%、50～59歳では23.1%、60～69歳では25.2%、70歳以上では35.1%となっています。

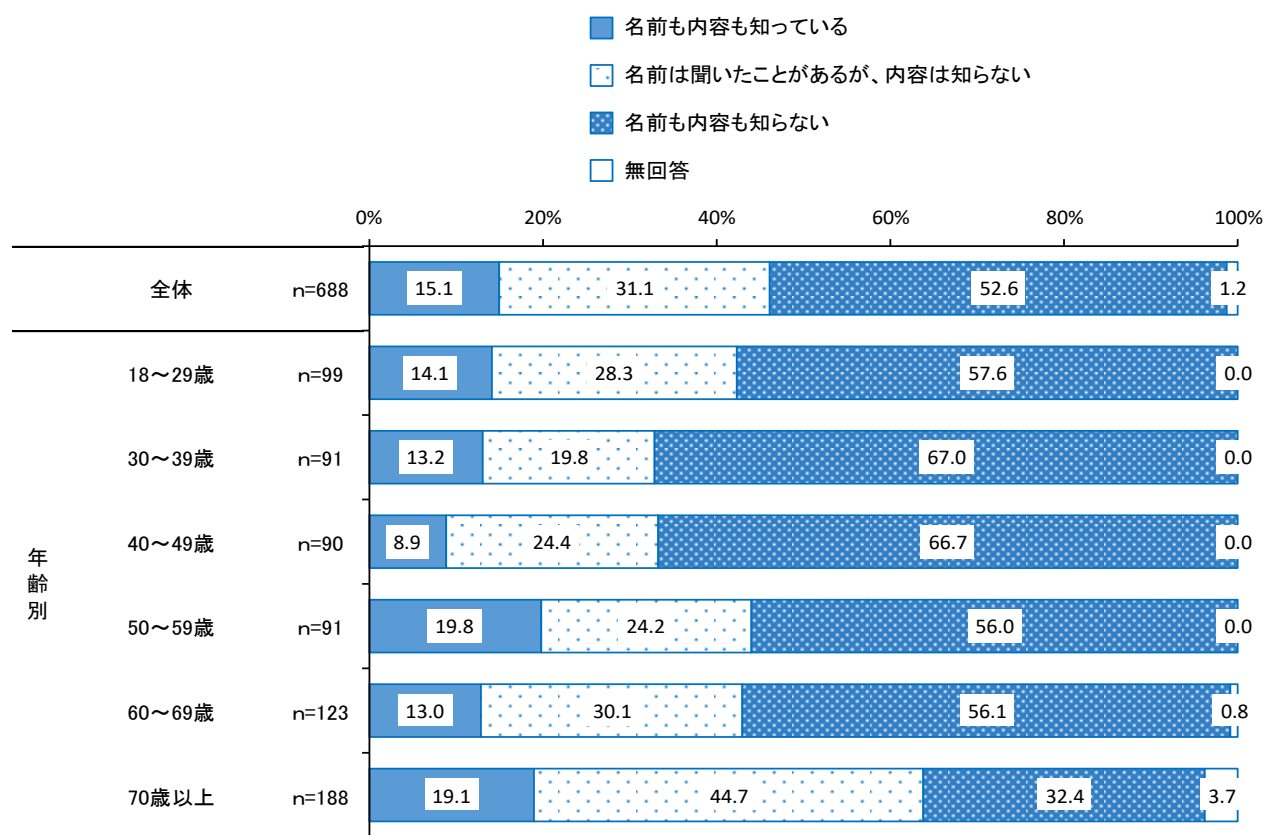


4-5 障害者虐待防止法の認知度

問22 障害者虐待防止法について知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」が15.1%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が31.1%で、これらをあわせた認知度は46.2%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は52.6%で最も高くなっています。

認知度は、18～29歳では42.4%、30～39歳では33.0%、40～49歳では33.3%、50～59歳では44.0%、60～69歳では43.1%、70歳以上では63.8%となっています。



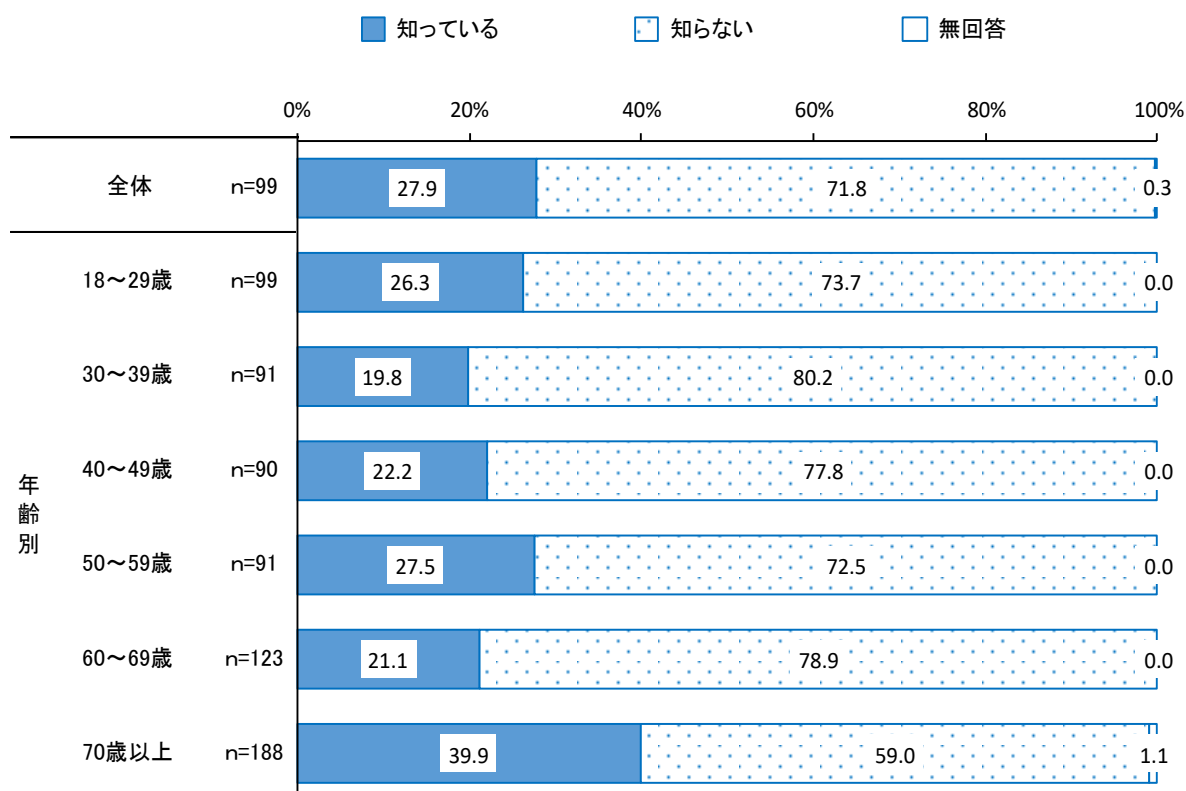
※障害者虐待防止法は、国や地方公共団体、障害者福祉施設従事者、使用者などに障害者虐待の防止などのための責務を課すとともに、障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者に対する通報義務を課しています。

4-6 虐待を受けたと思われる場合の通報義務

問23 虐待を受けたと思われる障害者を発見した場合には稲沢市へ通報する義務があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

虐待を受けたと思われる場合の通報義務は、「知っている」が27.9%、「知らない」が71.8%となっています。

「知っている」の割合は、18～29歳では26.3%、30～39歳では19.8%、40～49歳では22.2%、50～59歳では27.5%、60～69歳では21.1%、70歳以上では39.9%となっています。

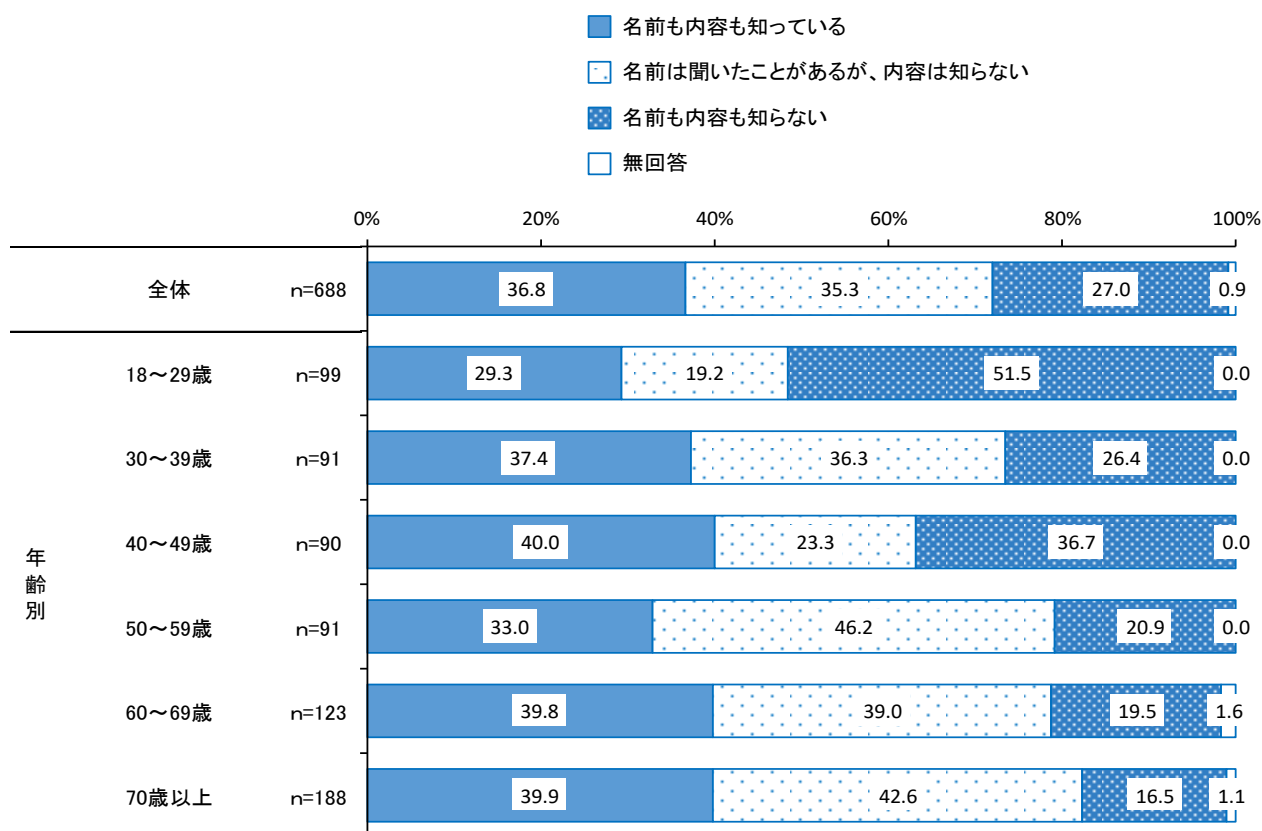


4-7 成年後見制度の認知度

問24 成年後見制度について、知っていますか。(〇は1つだけ)

成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知っている」が36.8%で最も高く、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が35.3%で、これらをあわせた認知度は72.1%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は27.0%となっています。

認知度は、18～29歳では48.5%、30～39歳では73.7%、40～49歳では63.3%、50～59歳では79.2%、60～69歳では78.8%、70歳以上では82.5%となっています。



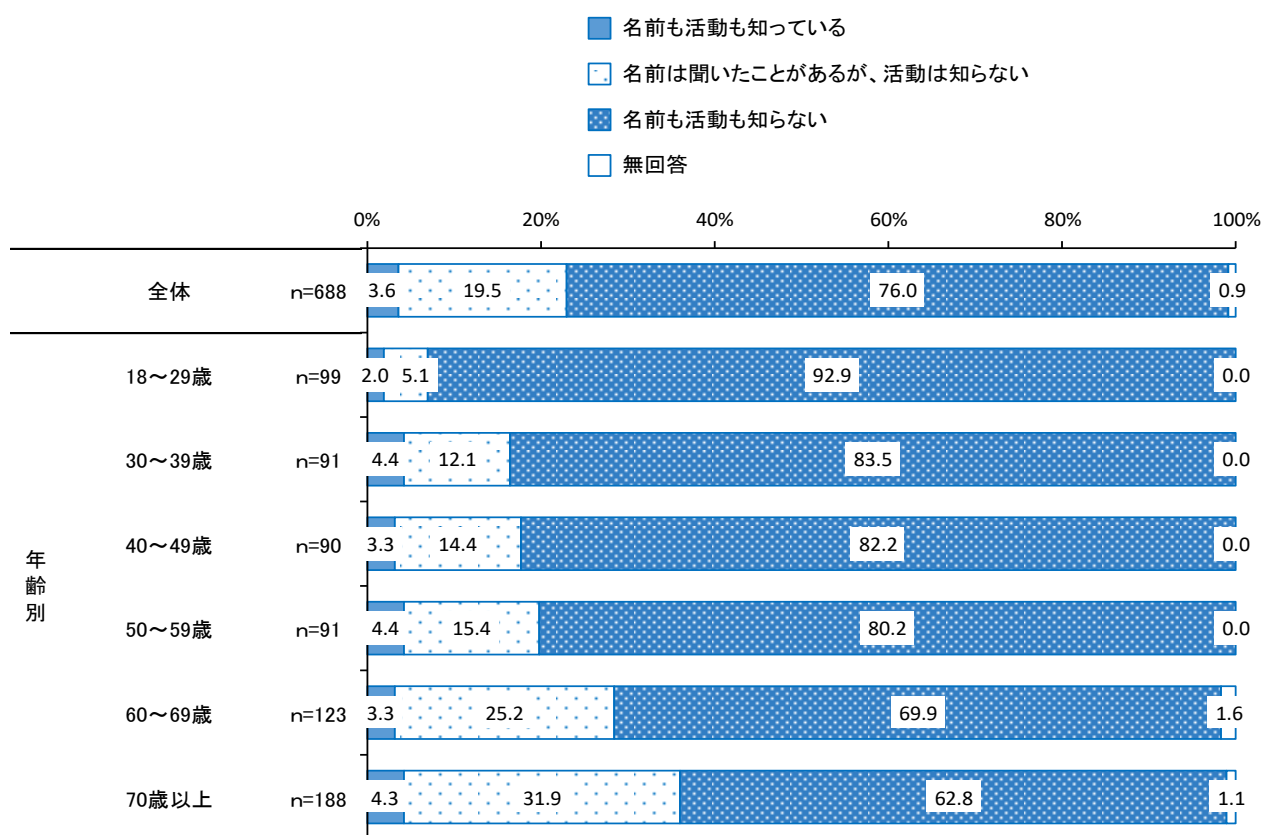
※成年後見制度とは、認知症や知的障害・精神障害などにより判断能力が不十分になり、一人では契約や財産の管理などを行うことが難しい方のために、家庭裁判所が判断能力の程度に応じて成年後見人などを選任する制度です。

4-8 成年後見センターの認知度

問25 稲沢市が令和3年度に設置した「成年後見センター」を知っていますか。
(○は1つだけ)

成年後見センターの認知度は、「名前も活動も知っている」が3.6%、「名前は聞いたことがあるが、活動は知らない」が19.5%で、これらをあわせた認知度は23.1%となっています。一方、「名前も活動も知らない」は76.0%で最も高くなっています。

認知度は、18～29歳では7.1%、30～39歳では16.5%、40～49歳では17.7%、50～59歳では19.8%、60～69歳では28.5%、70歳以上では36.2%となっています。



※成年後見センターでは、成年後見制度に関する相談窓口を設け、広報・啓発、定例会の開催、申し立て支援などの活動を行っています。

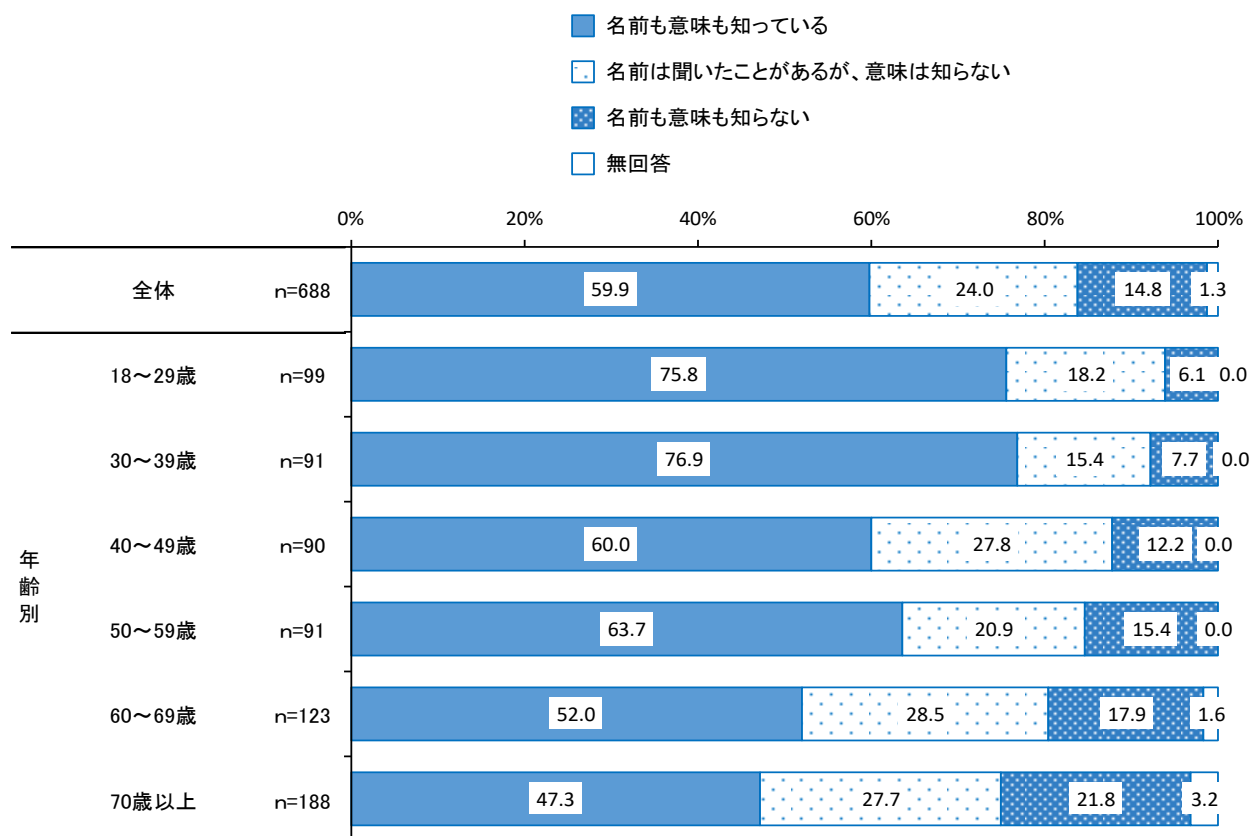
5 広報・啓発について

5-1 ヘルプマークの認知度

問26 あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。（〇は1つだけ）

ヘルプマークの認知度は、「名前も意味も知っている」が59.9%で最も高く、「名前は聞いたことがあるが、意味は知らない」が24.0%で、これらをあわせた認知度は83.9%となっています。一方、「名前も意味も知らない」は14.8%となっています。

認知度は、18～29歳では94.0%、30～39歳では92.3%、40～49歳では87.8%、50～59歳では84.6%、60～69歳では80.5%、70歳以上では75.0%となっています。

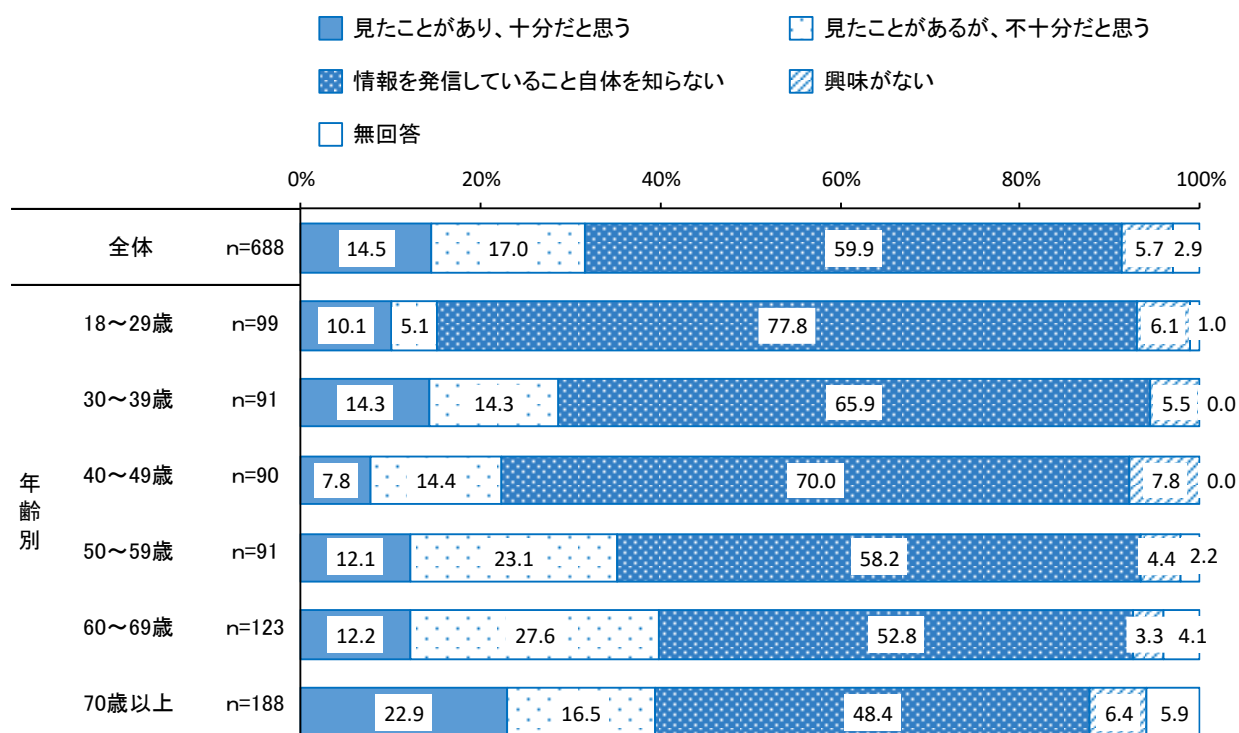


5-2 広報などで障害に関する情報の発信について思うこと

問27 稲沢市が広報「いなざわ」や公式ホームページなどで、障害に関する情報を発信していることについてどう思いますか。（〇は1つだけ）

広報などで障害に関する情報を発信について思うことは、「情報を発信していること自体を知らない」が59.9%で最も高く、次いで「見たことがあるが、不十分だと思う」が17.0%、「見たことがあり、十分だと思う」が14.5%となっています。

年齢別でみると、「情報を発信していること自体を知らない」は18～29歳（77.8%）、40～49歳（70.0%）で割合が高くなっています。

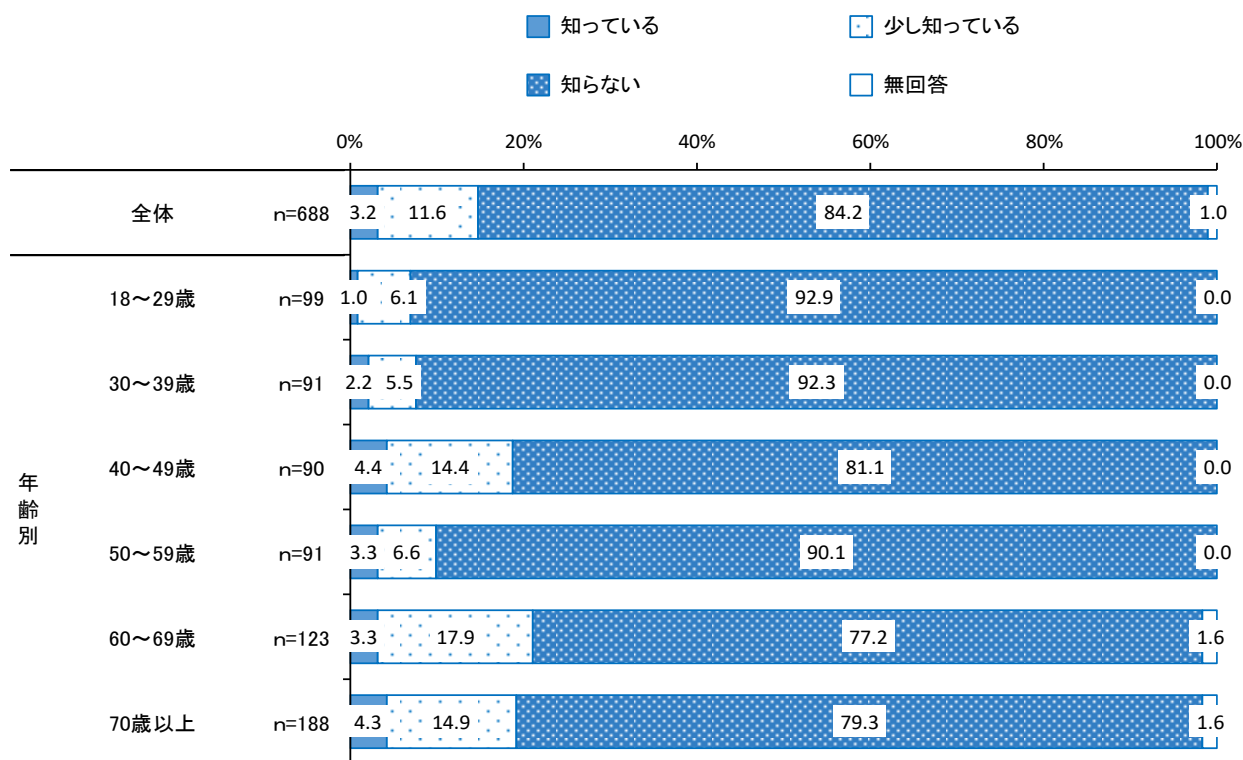


5-3 稲沢市手話言語条例の認知度

問28 稲沢市は、平成31年1月に「稲沢市手話言語条例」を施行し、手話フェスティバルの開催、夏休み親子手話教室の開催、YouTubeでの手話を学べる動画の公開など、手話言語に関する施策を推進しています。稲沢市のこれらの取り組みについて知っていますか？（○は1つだけ）

稲沢市手話言語条例の認知度は、「知っている」が3.2%、「少し知っている」が11.6%で、これらをあわせた『知っている』は14.8%となっています。一方、「知らない」は84.2%で最も高くなっています。

『知っている』の割合は、18～29歳では7.1%、30～39歳では7.7%、40～49歳では18.8%、50～59歳では9.9%、60～69歳では21.2%、70歳以上では19.2%となっています。



6 地域生活について

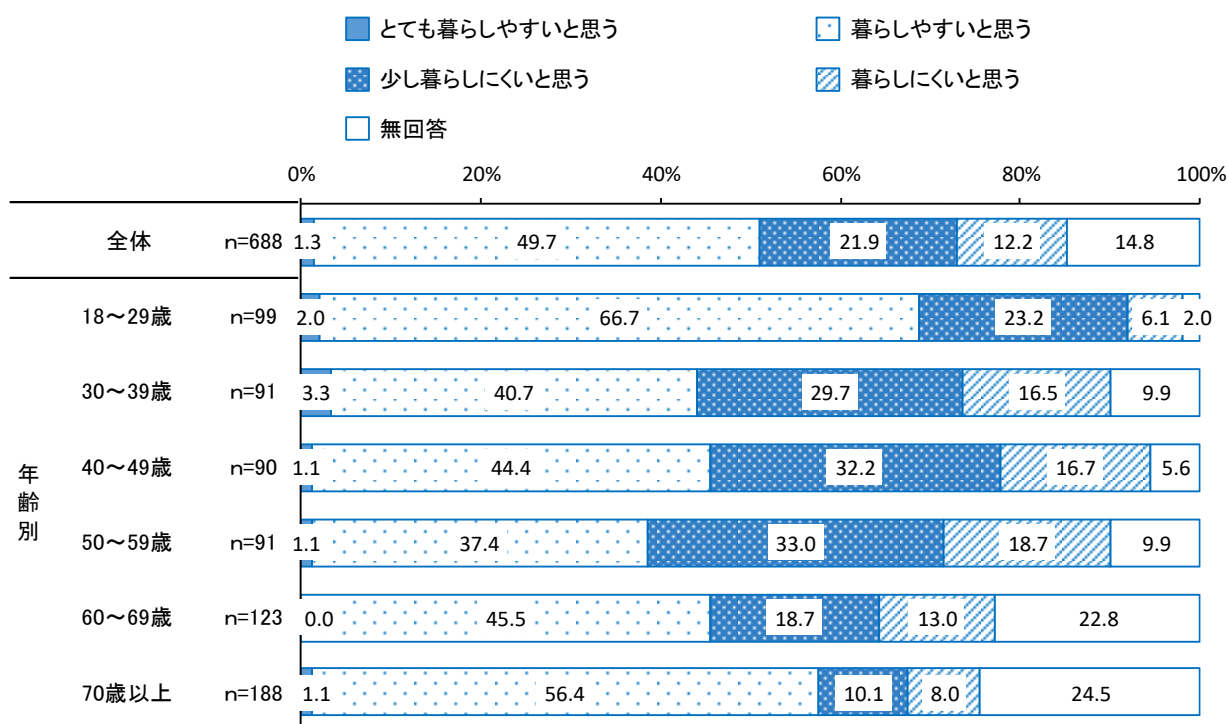
6-1 稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさ

問29 あなたは、障害のある人にとって稲沢市は暮らしやすいと思いますか、暮らしにくいと思いますか。（〇は1つだけ）

稲沢市における障害者にとっての暮らしやすさは、「とても暮らしやすいと思う」が1.3%、「暮らしやすいと思う」が49.7%で最も高く、これらをあわせた『暮らしやすい』は51.0%となっています。一方、『暮らしにくい※』は34.1%となっています。

『暮らしやすい』の割合は、18～29歳では68.7%、30～39歳では44.0%、40～49歳では45.5%、50～59歳では38.5%、60～69歳では45.5%、70歳以上では57.5%となっています。

※「少し暮らしにくいと思う」「暮らしにくいと思う」の計



【暮らしにくいと思う理由】

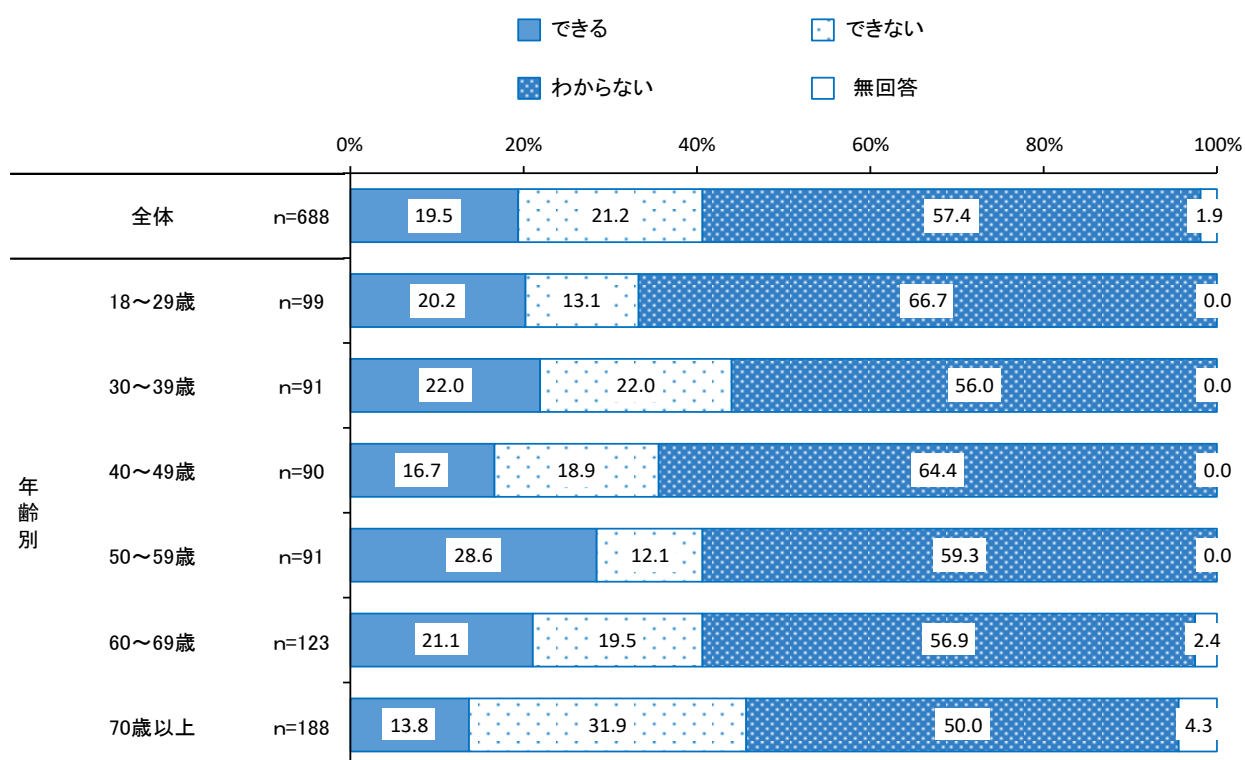
No.	暮らしにくいと思う理由	件数
1	公共交通機関が少ないから不便	43
2	公共施設や道路などの整備がされていない	40
3	行政支援がないから（関わる機会がない等）	21
4	健常者でも住みにくいと感ずる	9
5	障害者の気持ちが理解できない	7

6-2 災害時に障害のある人への支援について

問30 あなたは、災害時に障害のある人への支援を行うことができますか。
(○は1つだけ)

災害時に障害のある人への支援については、「できる」が19.5%、「できない」が21.2%、「わからない」が57.4%で最も高くなっています。

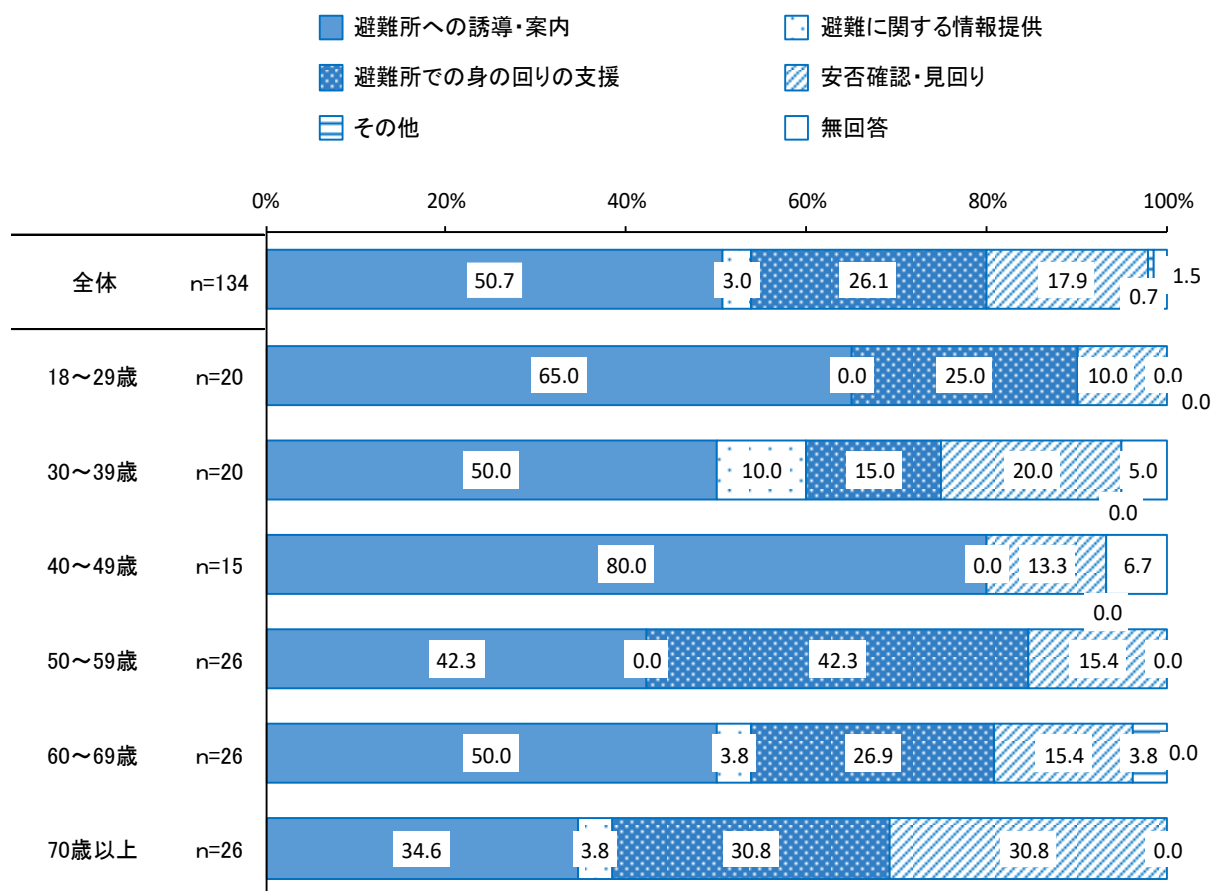
「できる」の割合は、18～29歳では20.2%、30～39歳では22.0%、40～49歳では16.7%、50～59歳では28.6%、60～69歳では21.1%、70歳以上では13.8%となっています。



6-3 災害時に障害のある人にできる支援

問30で「1. できる」と答えた方にお聞きします。
 問31 どのような支援ができますか。（〇は1つだけ）

災害時に障害のある人にできる支援は、「避難所への誘導・案内」が50.7%で最も高く、次いで「避難所での身の回りの支援」が26.1%、「安否確認・見回り」が17.9%となっています。

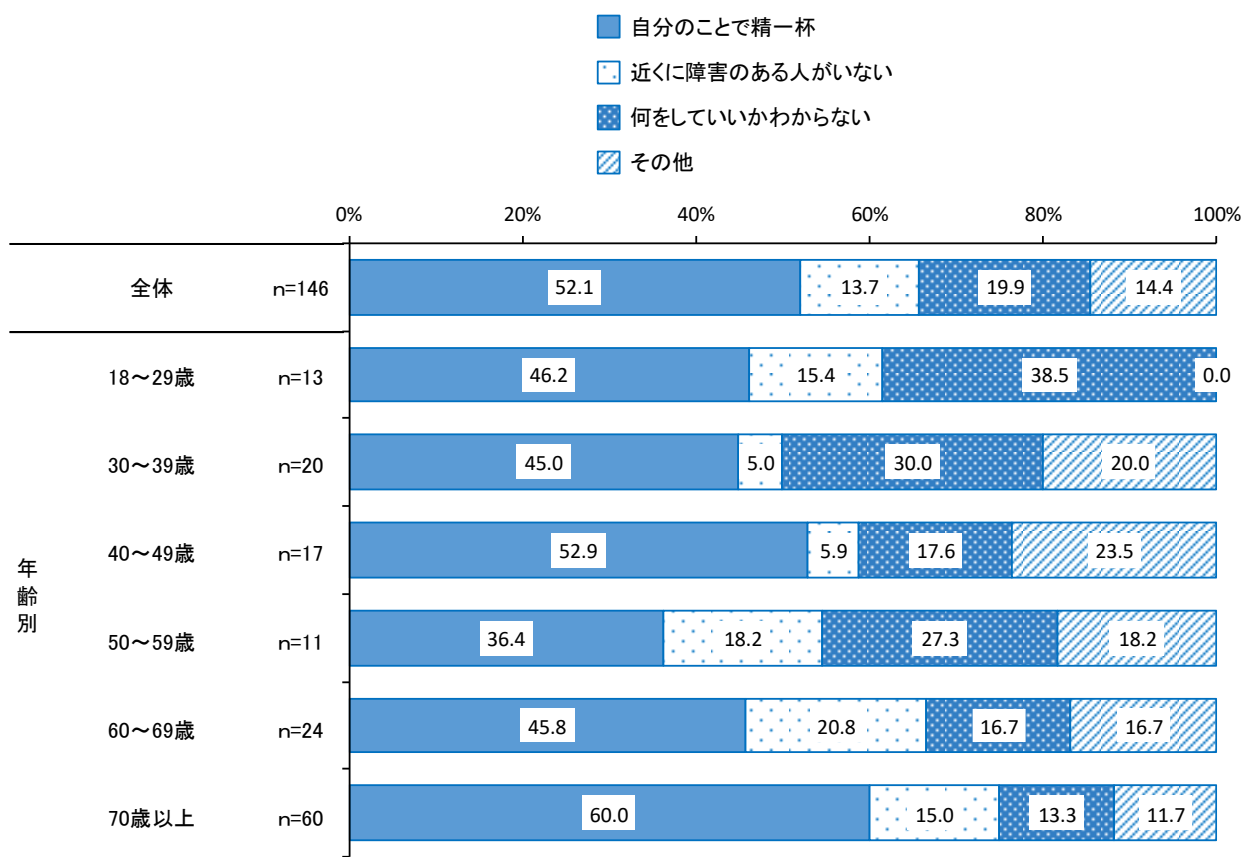


6-4 災害時に障害のある人に支援できない理由

問30で「2. できない」と答えた方にお聞きします。
 問32 その理由は何ですか。（〇は1つだけ）

災害時に障害のある人に支援できない理由は、「自分のことで精一杯」が52.1%で最も高く、次いで「何をしたいかわからない」が19.9%、「近くに障害のある人がいない」が13.7%となっています。

年齢別でみると、70歳以上では「自分のことで精一杯」（60.0%）が6割を占めています。

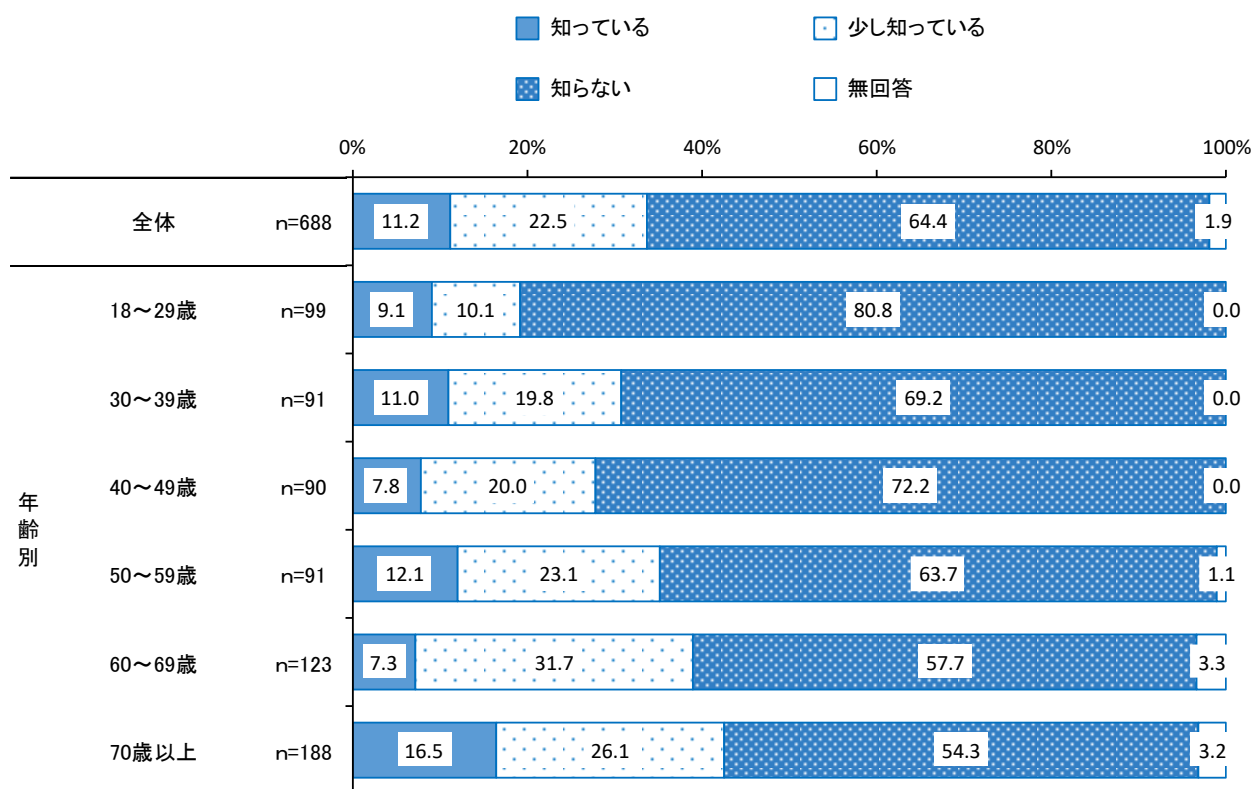


6-5 障害福祉に関する相談先の認知度

問33 あなたは、障害福祉に関する相談先を知っていますか。（〇は1つだけ）

障害福祉に関する相談先の認知度は、「知っている」が11.2%、「少し知っている」が22.5%で、これらをあわせた『知っている』は33.7%となっています。一方、「知らない」は64.4%で最も高くなっています。

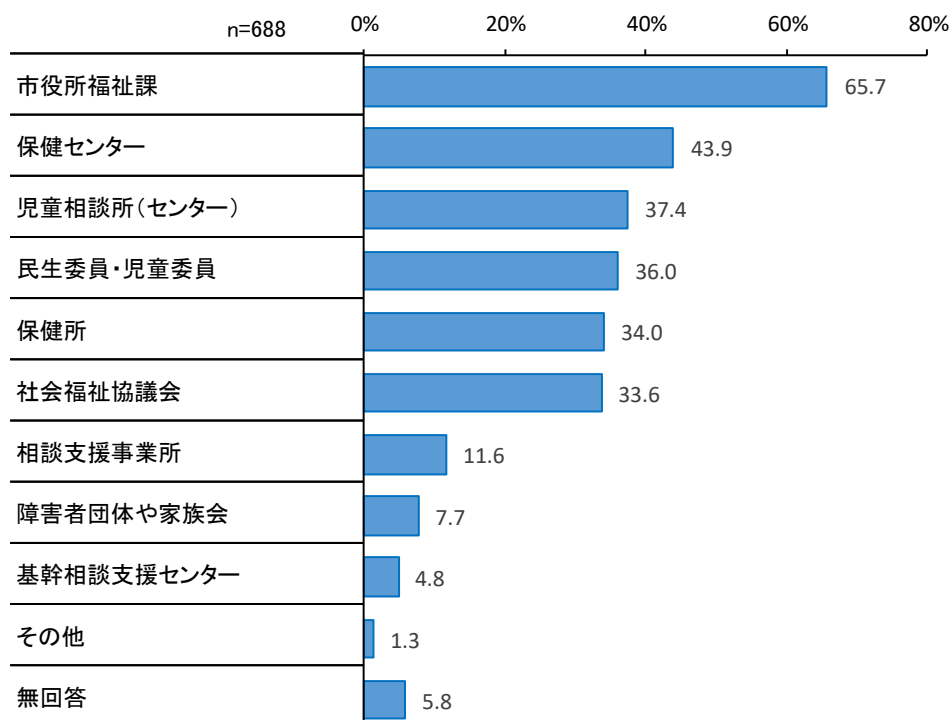
『知っている』の割合は、18～29歳では19.2%、30～39歳では30.8%、40～49歳では27.8%、50～59歳では35.2%、60～69歳では39.0%、70歳以上では42.6%となっています。



6-6 障害福祉の相談先

問34 障害福祉に関する主な相談先について、次のうち知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

障害福祉の相談先は、「市役所福祉課」が65.7%で最も高く、次いで「保健センター」が43.9%、「児童相談所（センター）」が37.4%となっています。



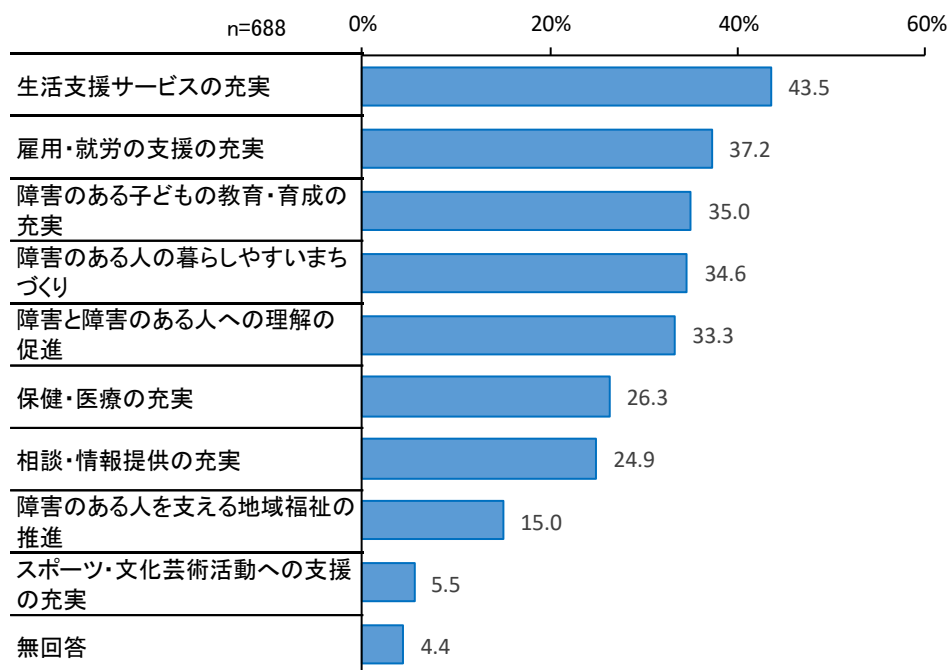
年齢別で見ると、18～29歳では「保健所」(52.5%)が5割以上となっています。

	全 体	相 談 支 援 事 業 所	基 幹 相 談 支 援 セ ン タ ー	児 童 相 談 所 (セ ン タ ー)	保 健 セ ン タ ー	保 健 所	障 害 者 団 体 や 家 族 会	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	社 会 福 祉 協 議 会	市 役 所 福 祉 課	そ の 他	無 回 答
(%)												
全 体	688	11.6	4.8	37.4	43.9	34.0	7.7	36.0	33.6	65.7	1.3	5.8
18～29歳	99	17.2	4.0	42.4	50.5	52.5	9.1	9.1	19.2	47.5	3.0	5.1
30～39歳	91	13.2	5.5	47.3	56.0	39.6	6.6	19.8	24.2	63.7	0.0	3.3
40～49歳	90	11.1	5.6	42.2	47.8	28.9	8.9	25.6	25.6	55.6	3.3	6.7
50～59歳	91	11.0	7.7	45.1	44.0	29.7	11.0	33.0	46.2	69.2	1.1	3.3
60～69歳	123	9.8	4.1	29.3	35.0	26.8	4.9	48.0	40.7	76.4	0.8	4.1
70歳以上	188	10.1	3.7	29.3	38.8	30.3	7.4	56.9	39.4	72.9	0.5	8.5

6-7 障害のある人に対して特に充実してほしい施策

問35 あなたが今後、特に充実すべきだと考える障害のある人への施策は何ですか。
1～9の中からお答えください。（〇は3つまで）

障害のある人に対して特に充実してほしい施策は、「生活支援サービスの充実」が43.5%で最も高く、次いで「雇用・就労の支援の充実」が37.2%、「障害のある子どもの教育・育成の充実」が35.0%となっています。



年齢別で見ると、18～29歳では「障害と障害のある人への理解の促進」（47.5%）、30～39歳では「雇用・就労の支援の充実」「障害のある子どもの教育・育成の充実」（49.5%）、40～49歳では「障害のある子どもの教育・育成の充実」（56.7%）でそれぞれ割合が高くなっています。

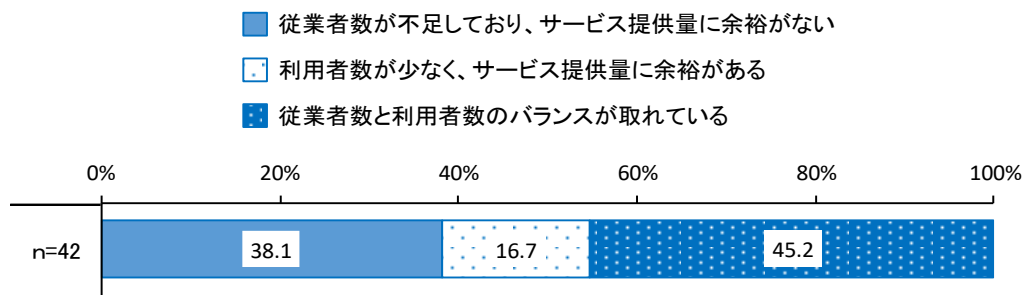
	全体	保健・医療の充実	生活支援サービスの充実	相談・情報提供の充実	障害のある子どもの教育・育成の充実	雇用・就労の支援の充実	スポーツ・文化芸術活動への支援の充実	障害のある人の暮らしやすいまちづくり	障害と障害のある人への理解の促進	障害のある人を支える地域福祉の推進	無回答
(%)											
全体	688	26.3	43.5	24.9	35.0	37.2	5.5	34.6	33.3	15.0	4.4
18～29歳	99	33.3	38.4	21.2	29.3	36.4	4.0	33.3	47.5	14.1	1.0
30～39歳	91	18.7	42.9	19.8	49.5	49.5	1.1	45.1	38.5	5.5	1.1
40～49歳	90	20.0	34.4	22.2	56.7	35.6	5.6	34.4	37.8	14.4	2.2
50～59歳	91	20.9	47.3	34.1	35.2	44.0	2.2	35.2	37.4	16.5	3.3
60～69歳	123	24.4	44.7	34.1	24.4	36.6	7.3	34.1	26.8	14.6	4.1
70歳以上	188	32.4	47.3	20.7	27.1	30.3	8.5	31.4	23.9	19.1	9.0

IV 調査の結果（事業所）

1-1 従業員と利用者の受け入れ状況

問1 現在、従業員の配置と利用者の受け入れのバランスはどのような状況ですか。
(○は1つだけ)

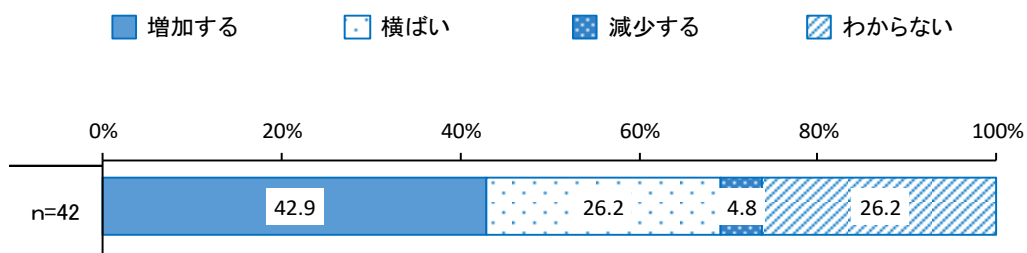
従業員と利用者の受け入れ状況は、「従業員数と利用者数のバランスが取れている」が45.2%で最も高く、次いで「従業員数が不足しており、サービス提供量に余裕がない」が38.1%、「利用者数が少なく、サービス提供量に余裕がある」が16.7%となっています。



1-2 今後のサービス利用希望者数の見込み

問2 今後、貴事業者の事業所でサービス利用を希望する方の人数はどのように変化すると見込んでいますか。(○は1つだけ)

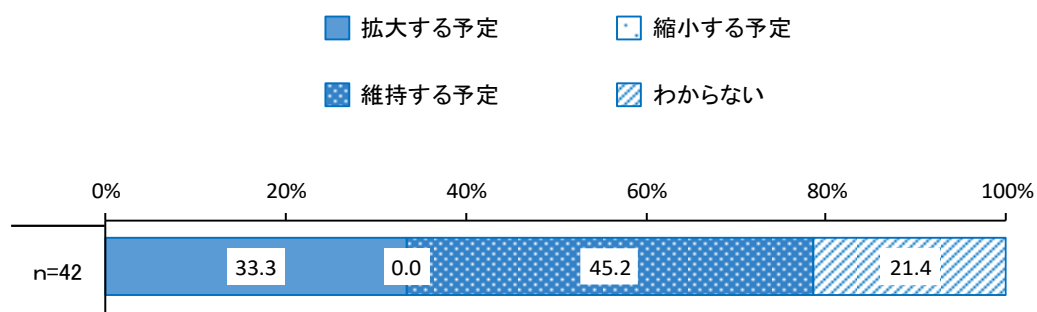
今後のサービス利用希望者数の見込みは、「増加する」が42.9%で最も高く、次いで「横ばい」「わからない」がそれぞれ26.2%、「減少する」が4.8%となっています。



1-3 今後の事業展開

問3 今後の事業展開については、どのようにお考えですか。（〇は1つだけ）

今後の事業展開は、「維持する予定」が45.2%で最も高く、次いで「拡大する予定」が33.3%、「わからない」が21.4%となっています。



1-4 拡大または縮小する予定の事業について

<問3-2は、問3で「1 拡大する予定」または「2 縮小する予定」を選んだ方のみ回答してください。>
 問3-2 拡大または縮小する予定の事業について、具体的に記入してください。
 （自由記述。複数ある場合は複数記入）

【サービス種別】

No.	サービス種別	件数
1	行動支援	2
2	児童発達支援	2
3	放課後等デイサービス	2
4	グループホームの定員数を増やす	2
5	相談員を増やす	1
6	受け入れの拡充	1
7	多機能型事業の支援サービスの内容を変更したい	1
8	就労継続支援（A型）	1
9	グループホーム	1
10	生活看護	1
11	就労系	1
12	介護タクシー	1

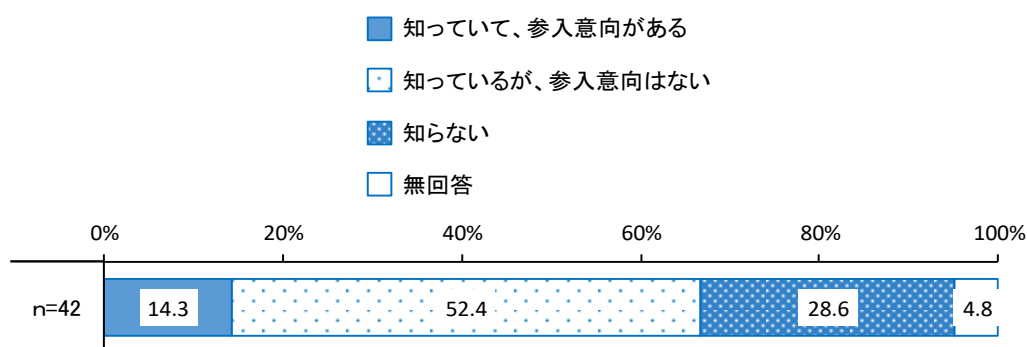
【開始予定年月】

No.	開始予定年月	件数
1	令和4年11月1日	1
2	令和5年以降	2
3	令和5年1月	2
4	令和5年1月～3月	1
5	令和5年3月頃	1
6	令和5年4月以降	2
7	令和5年10月頃	1
8	未定	3

1-5 共生型サービスの認知度と参入意向

問4 共生型サービスを知っていますか。また、参入意向はありますか。
(○は1つだけ)

共生型サービスの認知度と参入意向は、「知っているが、参入意向はない」が52.4%で最も高く、「知っていて、参入意向がある」が14.3%となっています。一方、「知らない」は28.6%となっています。



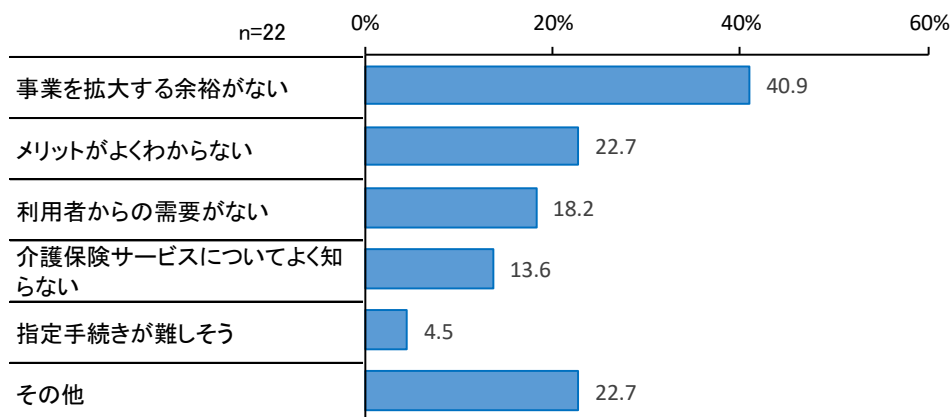
※共生型サービスとは、障害福祉サービス事業所が介護保険サービスを提供しやすくすることを目的とした指定手続きの特例として平成30年に設けられた制度です。同一事業所において、介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を提供することで、障害のある人が65歳以上になっても、同一の慣れた事業所を継続して利用できるようになるなど、様々なメリットがあります。

1-6 共生型サービスへの参入意向がない理由

<問4-2は、問4で「2 知っているが、参入意向はない」を選んだ方のみ回答してください。>

問4-2 参入意向がない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

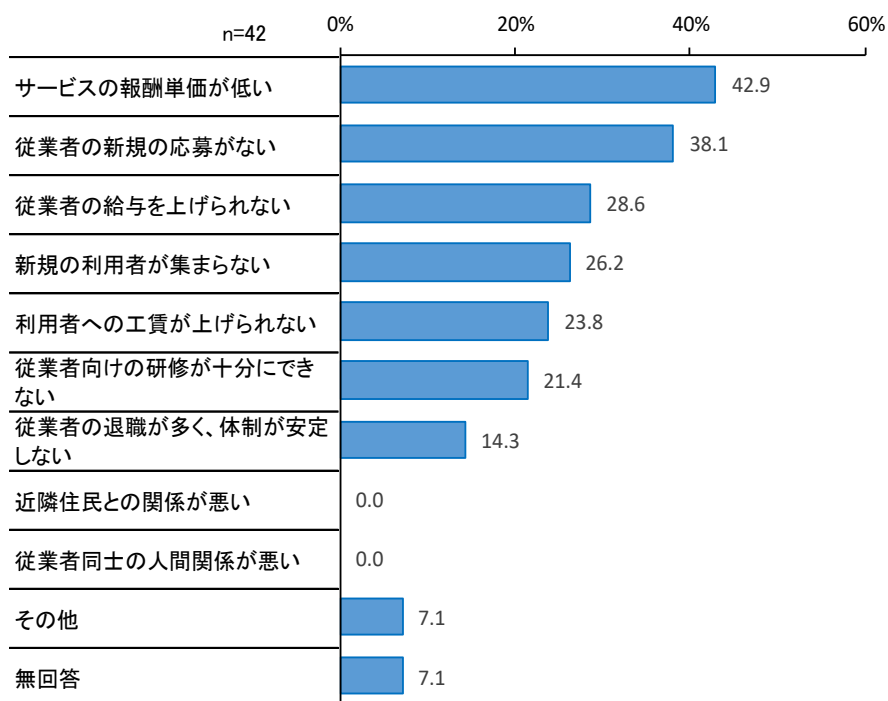
共生型サービスへの参入意向がない理由は、「事業を拡大する余裕がない」が40.9%で最も高く、次いで「メリットがよくわからない」が22.7%、「利用者からの需要がない」が18.2%となっています。



1-7 経営課題

問5 経営において、課題と考えていることは次のうちどれですか。（〇は3つまで）

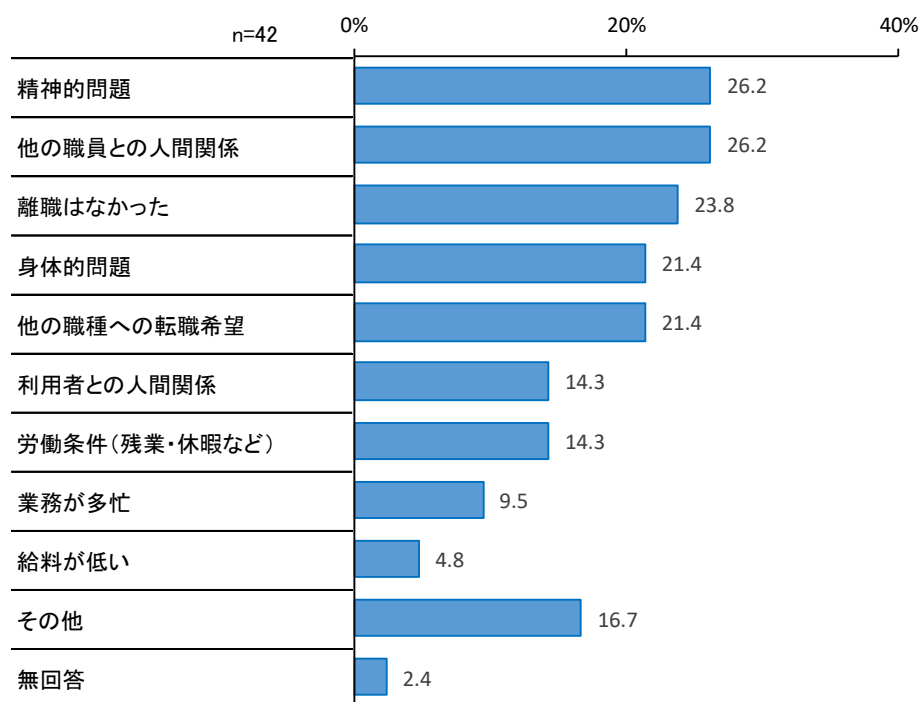
経営課題は、「サービスの報酬単価が低い」が42.9%で最も高く、次いで「従業員の新規の応募がない」が38.1%、「従業員の給与を上げられない」が28.6%となっています。



1-8 直近1年間であった従業員の離職理由

問6 直近1年間で従業員の離職があった場合、その主な理由は次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

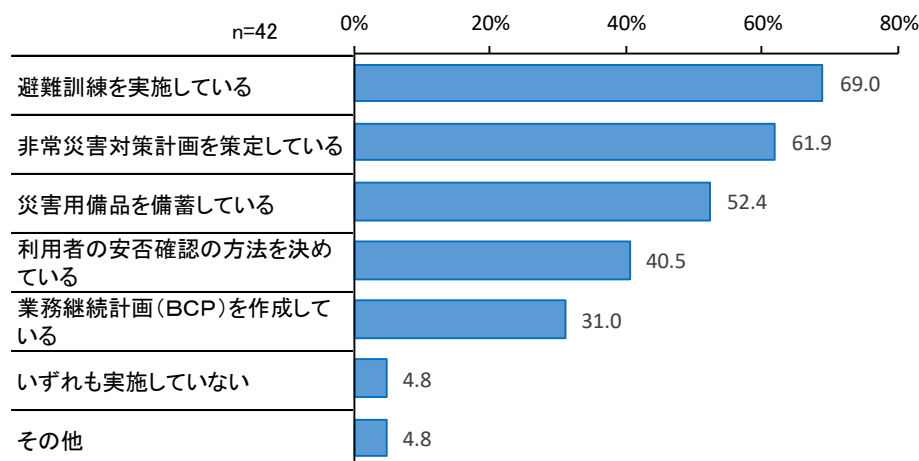
直近1年間であった従業員の離職理由は、「精神的問題」「他の職員との人間関係」がそれぞれ26.2%で最も高く、次いで「離職はなかった」が23.8%、「身体的問題」「他の職種への転職希望」がそれぞれ21.4%となっています。



1-9 非常災害対策の実施状況

問7 非常災害対策を検討していますか。(あてはまるものすべてに○)

非常災害対策の実施状況は、「避難訓練を実施している」が69.0%で最も高く、次いで「非常災害対策計画を策定している」が61.9%、「災害用備品を備蓄している」が52.4%となっています。



1-10 虐待防止に関する取り組み

問8 虐待防止に関する取り組みについて、どんなことを行っていますか。

1 虐待防止委員会の開催について（自由記述）

【回数】

虐待防止委員会の開催回数は、「1回」が42.9%、「2回」が23.8%となっています。

全 体 (%)	1 回	2 回	3 回	4 回	6 回	1 0 回	1 2 回	無 回 答
42	42.9	23.8	2.4	4.8	2.4	2.4	2.4	19.0

【内容】

No.	虐待防止委員会の内容	件数
1	会議や委員会を開催する (管理者の会議にて各店舗の状況を確認、研修計画について協議、身体拘束適正化のための指針検討、事例検討、虐待防止計画の策定、進捗状況の確認等)	23
2	研修や勉強会を実施する (虐待防止について確認、各事業所の研修実施等)	5
3	チェックリストを活用する	3
4	実施予定	2
5	未実施	2

2 虐待防止に関する研修について（自由記述）

【回数】

虐待防止に関する研修回数は、「2回」が45.2%、「1回」が38.1%となっています。

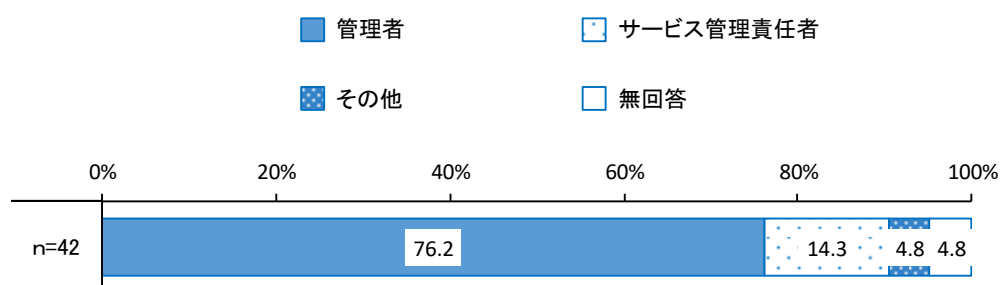
全 体 (%)	1 回	2 回	無 回 答
42	38.1	45.2	16.7

【内容】

No.	虐待防止に関する研修内容	件数
1	研修や勉強会を実施する （接遇に関する講習、アンガーマネジメント研修、虐待防止・権利擁護について等）	18
2	会議や委員会を開催する （障害者虐待の基礎的な理解、虐待防止のための取り組みについて、虐待の早期発見、発生時の対応等）	13
3	チェックリストを活用する	2
4	実施予定	1
5	未実施	1

3 虐待防止に関する担当者の役職について（○は1つだけ）

虐待防止に関する担当者の役職は、「管理者」が76.2%で最も高く、次いで「サービス管理責任者」が14.3%となっています。



1-11 身体拘束適正化に関する取り組み

問9 身体拘束適正化に関する取り組みについて、どんなことを行っていますか。

1 身体拘束適正化委員会の開催について（自由記述）

【回数】

身体拘束適正化委員会の開催回数は「1回」が42.9%、「2回」が14.3%となっています。

全 体 (%)	1 回	2 回	3 回	4 回	6 回	1 0 回	1 2 回	無 回 答
42	42.9	14.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	31.0

【内容】

No.	身体拘束適正化委員会の内容	件数
1	会議や委員会を開催する （研修や方針等のとりまとめ、報告書・ヒヤリハットのひな型を決定、各事業所より情報共有等）	17
2	研修や勉強会を実施する （各事業所での研修の実施と確認、ヒヤリハット事例による対応の確認等）	2
3	未実施	2
4	虐待防止の取り組みと同時に、身体拘束適正化についても行う	1
5	制止する場合は3名以上で行う、その後、すみやかに保護者に連絡する	1

2 身体拘束適正化に関する研修について（自由記述）

【回数】

身体拘束適正化に関する研修回数は、「1回」が42.9%、「2回」が26.2%となっています。

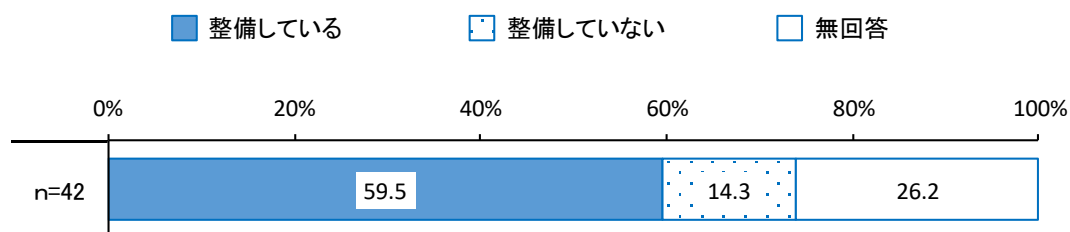
全 体 (%)	1 回	2 回	3 回	無 回 答
42	42.9	26.2	2.4	28.6

【内容】

No.	身体拘束適正化に関する研修内容	件数
1	研修や勉強会を実施する （事例等による講習、社内・外部研修、身体拘束の基本的な理解、身体拘束を防ぐための取り組みについて等）	14
2	会議や委員会を開催する （身体拘束に関する説明と同意、個別支援計画への記載について虐待事例に関するワーク、障害者虐待の防止と対応の手引きについて、指針と規定の周知・読み合わせ等）	5
3	実施予定	3
4	その他	2

3 身体拘束等の適正化のための指針の整備（○は1つだけ）

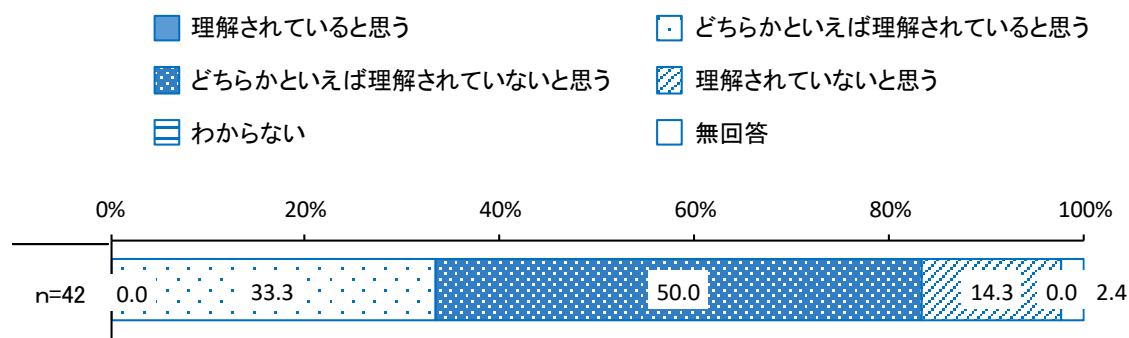
身体拘束等の適正化のための指針の整備は、「整備している」が59.5%、「整備していない」が14.3%となっています。



1-12 障害のある人に対する社会の理解

問10 障害のある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（〇は1つだけ）

障害があることに対する社会の理解は、「理解されていると思う」が0.0%、「どちらかといえば理解されていると思う」が33.3%で、これらをあわせた『理解されている』は33.3%となっています。一方、「どちらかといえば理解されていないと思う」が50.0%、「理解されていないと思う」が14.3%で、これらを合わせた『理解されていない』は64.3%となっています。



1-13 障害のある人が社会から理解されていないと感じること

<問10-2は、問10で「3 どちらかといえば理解されていないと思う」または「4 理解されていないと思う」を選んだ方のみ回答してください。>

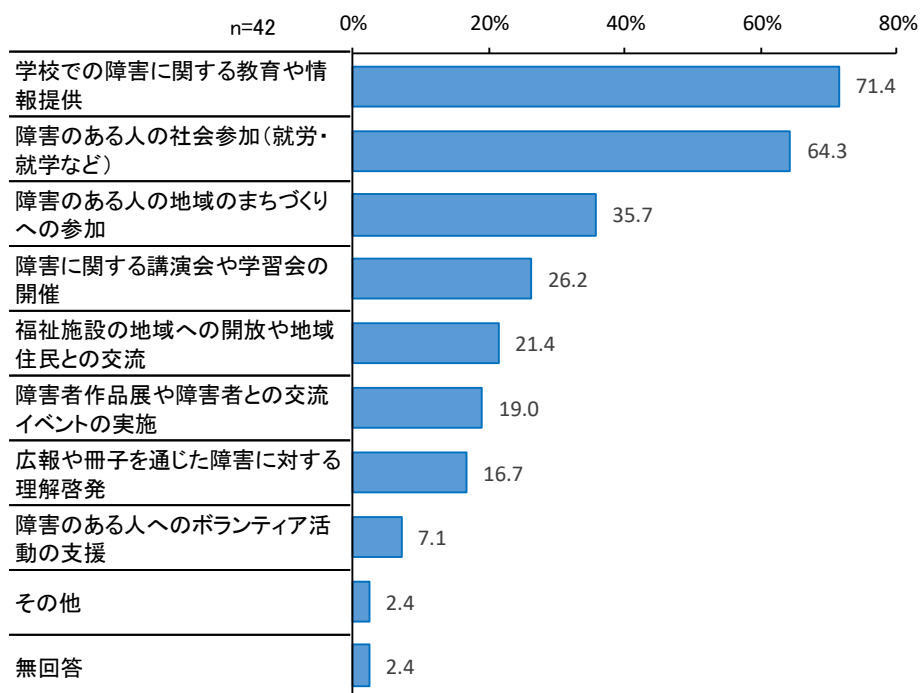
問10-2 障害のある人が理解されていないと感じることがありましたら、内容を具体的に記入してください。（自由記述）

No.	障害のある人が社会から理解されないと感じること	件数
1	差別や偏見によって外出先や受診等に影響がある	7
2	症状に対する理解がないため、対応に不安がある	3
3	障害者かどうか分からない	3
4	公共の場において障害者に対する理解や関心がない（障害者用マークや白い杖を使用するなど）	3
5	その他	3

1-14 障害のある人に対する社会の理解を深めるために必要なこと

問11 障害のある人に対する社会の理解を深めるためには、どのようなことが必要とお考えですか。（〇は3つまで）

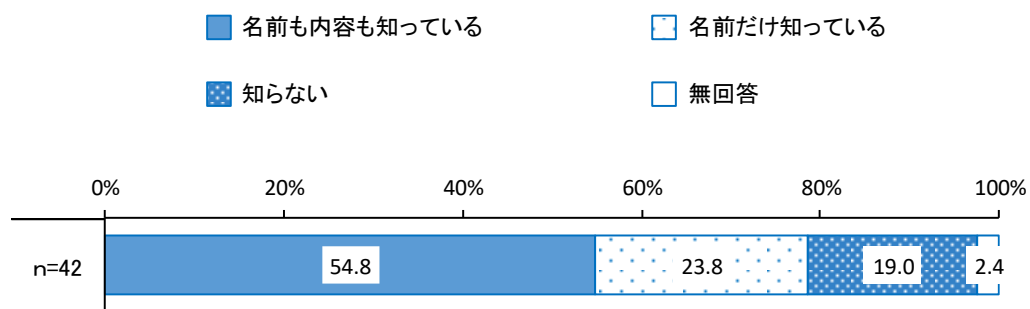
障害のある人に対する社会の理解を深めるために必要なことは、学校での障害に関する教育や情報提供」が71.4%で最も高く、次いで「障害のある人の社会参加（就労・就学など）」が64.3%、「障害のある人の地域のまちづくりへの参加」が35.7%となっています。



1-15 稲沢市地域生活支援拠点事業の認知度

問12 稲沢市地域生活支援拠点事業を知っていますか。(〇は1つだけ)

稲沢市地域生活支援拠点事業の認知度は、「名前も内容も知っている」が54.8%で最も高く、「名前だけ知っている」が23.8%で、これらをあわせた認知度は78.6%となっています。一方、「知らない」は19.0%となっています。

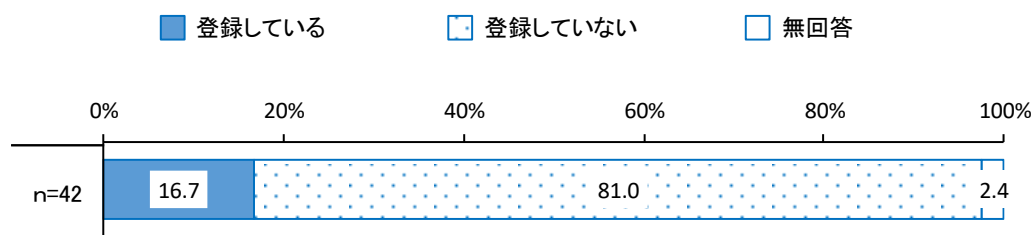


※障害のある人が地域で安心して暮らし続けられるよう、ご本人・ご家族の高齢化や災害等の不測の事態に備えるとともに、入所施設や医療機関から地域での暮らしへの移行を進めるため、①相談、②緊急時の受け入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくりの5つの機能を、地域の複数の機関が分担して担う体制を整備する事業です。

1-16 稲沢市地域生活支援拠点事業所の登録状況

問13 稲沢市地域生活支援拠点事業所に登録していますか。なお、複数の事業所があり、どれか1つでも登録がある場合には、1を選んでください。(○は1つだけ)

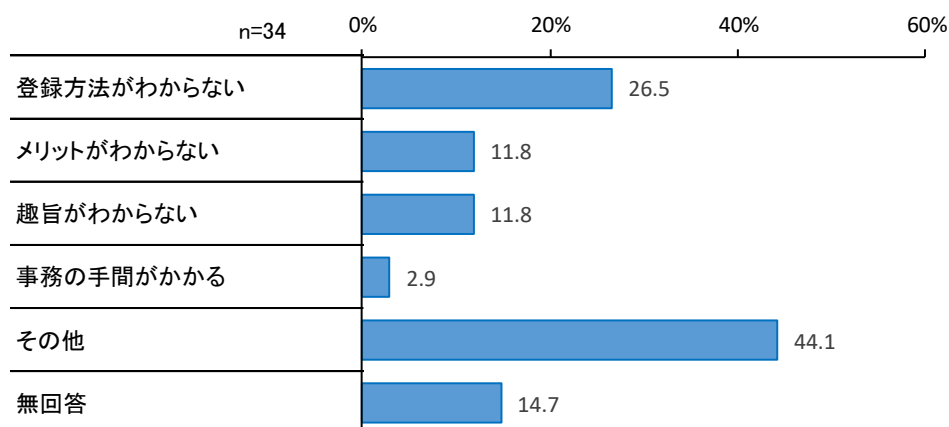
稲沢市地域生活支援拠点事業所の登録状況は、「登録している」が16.7%、「登録していない」が81.0%となっています。



1-17 稲沢市地域生活支援拠点事業所に登録していない理由

<問13-2は、問13で「2 登録していない」を選んだ方のみ回答してください。
 問13-2 稲沢市地域生活支援拠点事業所に登録していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

稲沢市地域生活支援拠点事業所に登録していない理由は、「登録方法がわからない」が26.5%、「メリットがわからない」「趣旨がわからない」がそれぞれ11.8%となっています。



1-18 緊急時の利用希望の件数と断った件数

問14 令和3年1月～12月の間に、緊急時の利用希望は何件ありましたか。また、それを断ったケースは何件ありましたか。なお、ここでいう緊急時とは、介護者の傷病、事故などのやむを得ない理由により、障害のある人が居宅で生活することができない場合に、当日又は翌日に支援が必要なときをいうものとします。
(数値を記入)

【1 利用希望】

全 体 (%)	1 件	2 件	3 件	無 回 答
42	2.4	4.8	7.1	85.7

【2 断ったケース】

全 体 (%)	1 件	2 件	無 回 答
42	7.1	2.4	90.5

1-19 緊急時の利用を断った理由

＜問14-2は問14で、断ったケースが0件以外の方のみ回答してください。
問14-2 断った理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

全 体 (%)	定 員 が た い つ ぱ い	足 職 し 員 の い 人 員 が め 不	し 害 い へ め た の 者 の 対 応 が 動 難	難 け し ア い へ た の 者 の 対 應 的	そ の 他
4	25.0	75.0	0.0	25.0	25.0

1-20 緊急時の対応における課題

問15 緊急時の対応において、課題と考えていることがあれば具体的に記入してください。（自由記述）

No.	課題	件数
1	職員の確保（対応する職員や支援員がいない等）	5
2	受け入れ体制が整っていない	4
3	親族や関係機関等と連絡がとれない	3
4	当事者の健康状態の確認	2
5	緊急対応後の職員や支援員へのフォロー体制の整備	1

1-21 体験利用の希望件数と断った件数

問16 令和3年1月～12月の間に、体験利用の希望は何件ありましたか。また、それを断ったケースは何件ありましたか。なお、ここでいう体験利用とは、その後の正式な利用を前提としないものも含むこととします。（数値を記入）

1 体験利用

【回数】

体験利用の回数は「2件」が16.7%、「3件」が11.9%となっています。

全 体 (%)	1 件	2 件	3 件	6 件	1 0 件	1 2 件	1 5 件	2 0 件	4 0 件	無 回 答	
	42	7.1	16.7	11.9	4.8	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	47.6

2 断ったケース

【回数】

全 体 (%)	1 件	2 件	3 件	5 件	無 回 答	
	42	4.8	2.4	2.4	2.4	88.1

1-22 体験利用を断った理由

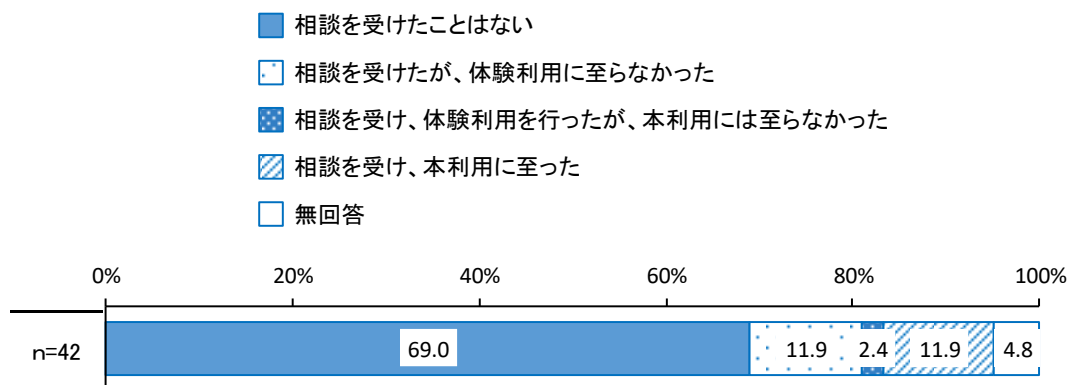
＜問16-2は問16で、断ったケースが0件以外の方のみ回答してください。
問16-2 断った理由は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

全 体 (%)	定 員 が た い つ ば い	職 員 の 人 員 が 不 足	対 象 者 の 行 動 障 害 に 対 し た め	対 象 者 の 医 療 的 な 難 し さ	そ の 他
5	40.0	0.0	80.0	0.0	20.0

1-23 地域移行の体験利用についての相談

問17 精神科病院からの退院または障害者支援施設からの退所に伴う地域移行のための体験利用について、相談を受けたことはありますか。また、その後体験利用、本利用に至りましたか。（○は1つだけ）

地域移行の体験利用についての相談は、「相談を受けたことはない」が69.0%で最も高く、次いで「相談を受けたが、体験利用に至らなかった」「相談を受け、本利用に至った」がそれぞれ11.9%となっています。



1-24 体験利用の対応における課題

問18 体験利用への対応において、課題と考えていることがあれば具体的に記入してください。（自由記述）

No.	課題	件数
1	症状の対応に不安がある	2
2	短期で利用体験できるようにする	2
3	受け入れ体制が整っていない	1
4	趣味や嗜好など本人の長所の発見	1
5	新型コロナウイルス感染拡大状況の中においては、病院の面談ができない	1

1-25 従業員に対する研修内容

問19 従業員に対する研修として、どのようなことを行っていますか。

1 回数について（数値を記入）

従業員に対する研修の回数は「12回」が19.0%、「1回」が11.9%となっています。

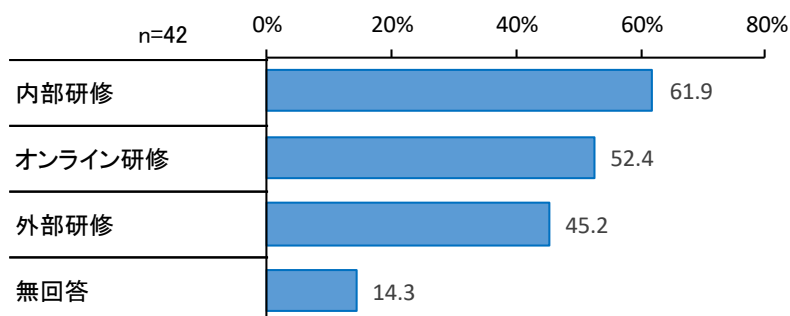
全 体 (%)	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	8 回	1 0 回	1 2 回	1 4 回	2 0 回	無 回 答
42	5	3	3	3	4	3	1	2	8	1	1	8
100.0	11.9	7.1	7.1	7.1	9.5	7.1	2.4	4.8	19.0	2.4	2.4	19.0

2 内容（自由記述）

No.	研修の内容	件数
1	研修や勉強会を実施する （接遇や介助に関するもの、感染症、知的障害に関するもの、リスクマネジメント、サービス管理責任者、相談初任者研修、愛知県 PSW 協会研修等）	22
2	会議や委員会を開催する（グループ会議で事例検討等）	2
3	虐待、拘束、福祉サービスについて、衛生、感染症	1
4	障害や制度の理解について、支援方法	1
5	倫理、災害対策、医療安全、感染対策、虐待・身体拘束、情報伝達	1

3 研修の内容（あてはまるものすべてに○）

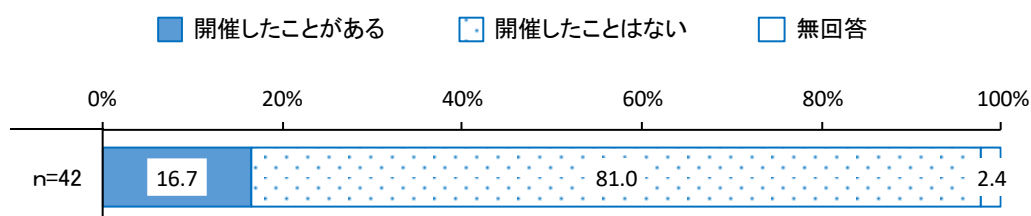
従業者への研修内容は、「内部研修」が61.9%で最も高く、次いで「オンライン研修」が52.4%、「外部研修」が45.2%となっています。



1-26 他の事業所や一般市民の参加が可能な研修の開催状況

問20 外部の方（他の事業所の方や一般市民など）の参加が可能な研修を開催したことはありますか。（○は1つだけ）

他の事業所や一般市民の参加が可能な研修の開催状況は、「開催したことがある」が16.7%、「開催したことはない」が81.0%となっています。



1-27 他の事業所や一般市民が参加した研修の内容

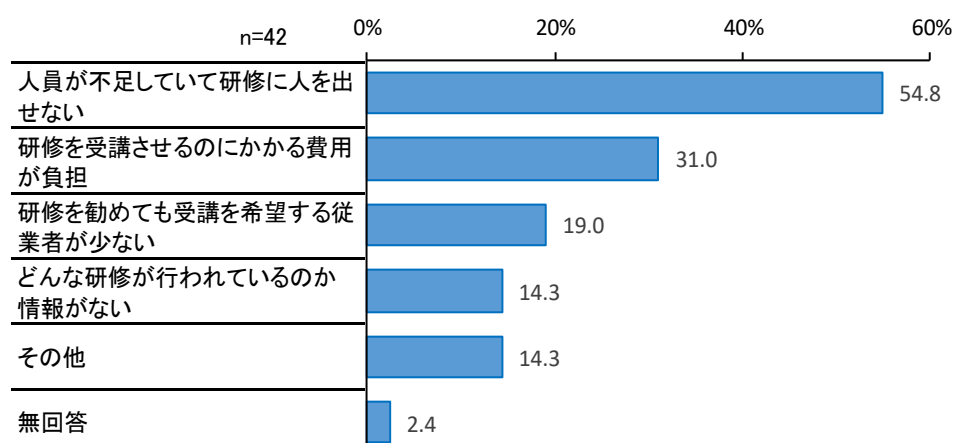
<問20-2は、問20で「1 開催したことがある」を選択した方のみ回答して下さい。>
 問20-2 どのような研修を開催したか、具体的に記入してください。
 (〇は1つだけ)

No.	研修内容	件数
1	他事業者のサービス提供方法や社会とのつながり方などを参考に数年に1回研修を行っている。	1
2	訪問看護の方の声かけで福祉事業者が集まり意見交換を行う	1
3	コロナ前、一宮保健所所長やカウンセラーなどを講師として、毎年開催	1
4	民生委員への研修	1
5	ビジネスマナー、営業スキル	1
6	感染症予防対策、オムツのあて方	1

1-28 専門的人材の確保・養成における課題

問21 専門的人材の確保・養成について、課題と考えていることは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに〇)

専門的人材の確保・養成における課題は、「人員が不足していて研修に人を出せない」が54.8%で最も高く、次いで「研修を受講させるのにかかる費用が負担」が31.0%、「研修を勧めても受講を希望する従業員が少ない」が19.0%となっています。



1-29 研修の受講や資格取得を評価する仕組み

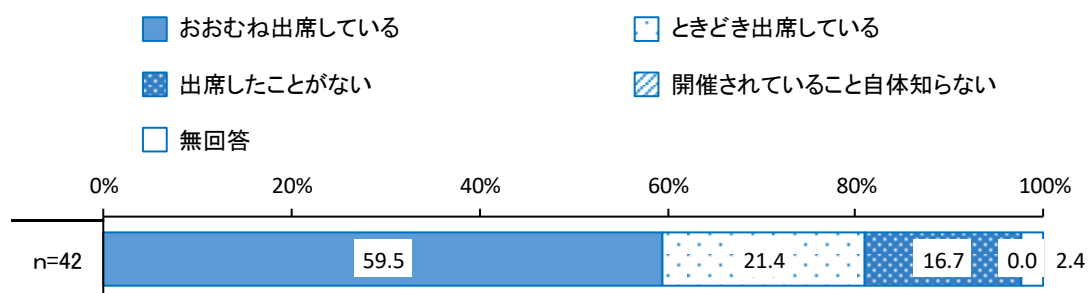
問22 従業者が研修を受講したり、資格を取得したりした場合に、そのことを評価する仕組みはありますか。（自由記述）

No.	仕組み	件数
1	手当支給や資格取得による給与加算	15
2	人事評価による給与加算	3
3	現状の勤務に必要な場合は時給 UP で対応	1
4	今年度中に評価制度導入予定	1
5	法人として制度化されている	1

1-30 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会への出席状況

問23 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会に出席していますか。
（○は1つだけ）

稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会への出席状況は、「おおむね出席している」が59.5%で最も高く、「ときどき出席している」が21.4%で、これらをあわせた『出席している』は80.9%となっています。一方、「出席したことがない」は16.7%となっています。

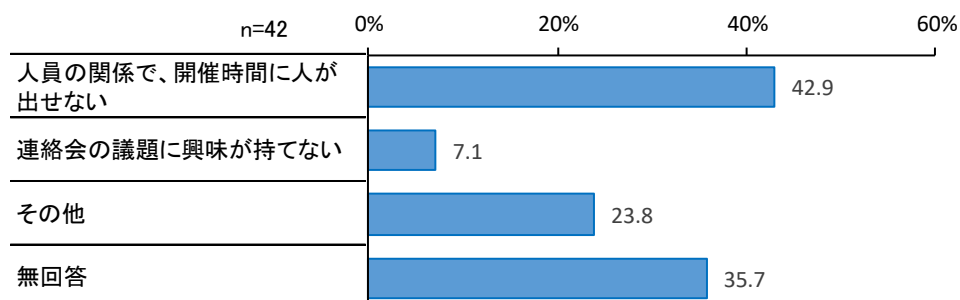


※事業所連絡会は6種類（就労系事業所連絡会、相談支援事業所連絡会、居宅介護、事業所連絡会、居住系事業所連絡会、日中系事業所連絡会、通所系事業所連絡会）あり、どの事業所も、いずれかの連絡会に所属していただいています。

1-31 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会の課題

問24 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会について、課題と考えていることは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会の課題は、「人員の関係で、開催時間に人が出せない」が42.9%となっています。



1-32 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会での取り組み

問25 稲沢市地域自立支援協議会の事業所連絡会について、取り上げてほしいテーマや改善してほしい事項があれば具体的に記入してください。（自由記述）

1 取り上げてほしいテーマ

テーマ
障害のある人の性について
事業所の情報提供について
強度行動障害に対する研修
虐待防止や身体拘束に関する研修、意思決定支援法等
利用可能日数について
障害福祉サービスの制度の留意事項や事業所の近況報告
身寄りのない方への支援
障害福祉サービスの課題や地域のニーズを知りたい
強度行動障害について、インクルーシブについて（教育、社会）
保育園・幼稚園・小中学校の障害児の受け入れの現状・受け入れ基準について
改定等でトピックになった事項を取り上げる

2 改善してほしい事項

事項
オンライン会議の実施
いろいろな事業所を見る・知る機会を増やしてほしい
議題の提案ができるようにしたい
行政的な連絡事項とスタッフの研修を分けて開催してほしい

1-33 障害福祉の向上のために取り組んでほしいこと

問26 その他、障害福祉の向上のために、行政や地域に対するご意見等があれば、具体的に記入してください。（自由記述）

【行政】

No.	行政	件数
1	当事者がサービスを使えないため、助成金などの対応をとる	3
2	事業所を把握するための情報提供（マップ作成等）	2
3	行政に対する励ましや感謝	2
4	介護・福祉に対する予算の拡大	1
5	学校教育の指導	1

【地域】

No.	地域	件数
1	健常者と障害者の交流の場をつくる	1
2	事業所の利用者がコロナに感染した際の対応	1
3	地域社会やボランティアによる援助の強化	1
4	行政に対する励ましや感謝	1
5	その他	1